置の如きは早くも當局の快諾を得。北海道特設館は實現不可能と見做されたりしも其の後同地田口源太郎氏より、

特設館につき可成り異論もあつた樣であつたが、結局國費とすべきか、地方費とすべきかにつき協議を重ねた結果、國費によることゝなり、其の經費は大凡壹萬五千圓と決定し、尚餘り小なる計畫なりとて壹萬圓の增額が主張されたが、明年度は各地の催しがあるので容れられなかつが、岡山縣は特に各縣に比し頗る產業其他の盛大なる縣として他府縣に比し、之れでも可なり多額の經費を見積つてゐるのである。

との來信に次ぎ、昭和二年十二月二十二日北海道廳より北海道館特設の旨入電、なほ東京、神奈川、其他近畿、北陸、東海地方十三縣に出張出品勸誘の衝に當りたる豐島囑託の談に、

岡山市は中國の中心地であるのと消費都市であるといふので概して各府縣よりの出品については有利なる立場にあるため、殆んど參加することは確實であるが、小間數の決定は縣會終了後でないと決定せない。併し靜岡縣の如きは經費壹萬壹千圓を要求して七十小間の申込をなすことに案が成つてゐる外、多きは百五十小間から少くも、二十小間位で十小間以下は殆んどないと言つてもよい程で、現在の樣子でゆけば出品申込については大成功である。

（昭和二年十一月二十五日歸來談）

次いで大阪方面の出品勸誘に當りたる松島勸業課長の歸來談の一節に大阪府市並に會議所聯合て大阪出品協會を組織し、商業會議所に事務所を設け、市內五千の當業者から出品があるなど、大々的に出品勸誘が行はれてゐる。

在阪縣人會では十四日總會を開き協議することになつてゐる。當博覽會期中岡山市と縣人會と密接なる機會をつくるため、當市に縣人會を設くる準備である。

特設館、廣告塔はもとより日本生命、中山太陽堂、ライオン齒磨福助足袋、大阪商船、三笠屋百貨店、日本毛織物、ユニオンビール等一流の大會社商店も參加して、それ〴〵特設館を設置する契約をなした。中には正門に大噴水を設置するなど、大阪方面の前景氣は旺んである。

（昭和二年十二月二十日歸來談）

斯かる情勢の下に着々進捗せるが、之れより先十一月三日臺灣總督府より「臺灣館八十坪に決定御了承ヲ乞フ」との來電に次ぎ、十一月七日南滿鐵道株式會社より「貴地方ト滿蒙トハ極メテ密接ノ關係有之候ニ付、弊社ハ此ノ好機會ニ關東廳ト共同シテ滿蒙館ヲ特設シ、滿蒙事情ヲ紹介致スコトニ相成候」との通知あると共に同月十四日滿鐵小川技師及び關東廳高岩技師來岡打合すところありたるが、十二月二十七日朝鮮總督府大森會計課長、內務局藤川建築課囑託も亦來岡、實地調査を遂ぐるに至りたり。朝鮮特設館についての豫定談に、

朝鮮館は朝鮮式の宮殿造りに擬し、總體は丹青の爛熳彩色にして屋根は入母屋造りで陳列場五十四坪、賣店二十八坪、接待喫茶室二十四坪、其の他十六坪余の豫定である云々。

第五節　運賃割引

出品貨物並に出品人及び出品關係者に對し、汽車汽船の運賃を低減して利便を圖ることは、本會の消長に關する重要事項なるを以て鐵道省及び私設中國鐵道。三蟠鐵道、西大寺鐵道の諸會社に向つて夫々出願したり。

勸博第一二三號

昭和二年六月十七日

大日本勸業博覽會長岡山市長窪谷逸次郎

鐵道大臣小川平吉殿

出品人及關係役員並出品運賃割引願

本會ハ本市主催ノ下ニ昭和三年三月二十日ヨリ全年五月十八日迄勸業博覽會ヲ開催致度候、就テハ出品人關係役員並出品物及ビ博覽會用品ニ對シ左記ニ依リ割引方御許可相成度別紙會則並豫算書相添ヘ此段奉願候也

記

出品人及關係役員

一、割引方法及割引率

所定ノ割引證引換ニ二三等運賃往復二割引

二、割引區間

鐵道省線及私設鐵道連帶驛又ハ（連帶汽船）岡山相互間南滿洲鐵道及朝鮮鐵道岡山相互間臺灣鐵道連帶汽船岡山相互間

三、割引期間

御許可ノ日ヨリ昭和三年六月二十日迄

四、通用期間

乘車券發賣ノ日ヨリ昭和三年七月三十日迄

出品物

一、割引方法及割引率

所定ノ荷票貼付ノ貨物ニ對シ運賃二割引

二、割引區間

鐵道省線及私設鐵道連帶驛又ハ（連帶汽船）岡山相互間、南滿洲鐵道及朝鮮鐵道岡山相互間、臺灣鐵道連帶汽船岡山相互間、

三、割引期間

御許可ノ日ヨリ六月二十日迄

四、割引證票及荷票使用者

大日本勸業博覽會（會則豫算書省略）

鐵運乙第五九六七號

昭和二年十二月二十三日

鐵道省運輸局長　筧　正太郎

岡山市長　窪谷逸次郎殿

回　答

貴市主催大日本勸業博覽會出品人、關係役員及出品物ニ對シ運賃割引方勸博一二三號ヲ以テ御申出ノ趣了承右ハ左記各項ニヨリ御取扱可申上候間左樣御承知相成度尙割引證及荷票ハ別紙樣式（省略）ニ依リ調製シ配付臺帳ニ記入ノ上夫々御配付相成度

追テ割引證及荷票出來ノ上ハ見本トシテ數葉當局宛御送付相成度、

記

出品人及關係役員

一、割引方法及割引率

所定ノ割引證引換ニ二三等普通運賃ノ二割引ヲ以テ往復乘車券ヲ發賣ス、但シ十二年未滿ノ小兒ニ對シテハ發賣セズ、

二、割引區間

鐵道省線各驛及連帶鐵道線、軌道線各驛ヨリ岡山驛行（北日本汽船青森室蘭間航路、大阪商船大連航路、東武鐵道東武本線北千住龜戸間經由ヲ含ム）

三、割引期間

昭和三年二月一日ヨリ昭和三年五月十八日迄

四、通用期間

乘車券發賣ノ日ヨリ昭和三年六月三十日迄

出品物

一、割引方法及割引率

所定ノ荷票貼付ノ貨物ニ對シ運賃二割低減ス

二、發著區間、割引區間、

鐵道省線各驛及連帶鐵道、軌道線各驛ト岡山驛トノ相互間

三、割引期間

搬入昭和三年二月一日ヨリ昭和三年三月十九日迄

搬出昭和三年五月十九日ヨリ昭和三年六月三十日迄

四、扱種別

連帶運輸ニ係ルモノハ特別、小口扱ヲ除ク

追テ即賣品及博覽會用品ハ割引ノ取扱難致候間即賣品及用品ニ對シ割引證及荷票ヲ使用セシメザル樣御注意相成度、尙萬一即賣品及用品ニ對シ割引證又ハ荷票ヲ使用シタル者有之候場合ハ出品人、關係役員及出品物全部ニ對スル割引ヲ取消シ普通運賃ト割引運賃トノ差額ヲ貴市ヨリ收受可致候間左樣御了知相成度、

中國鐵道及び三蟠鐵道は昭和三年一月六日、西大寺鐵道は翌七日、就れも承認方通知られたるに因り、直ちに出品貨物、出品人及び關係役員に對する割引票を作製して夫々關係方面に配付するところありたり、割引證の制式は左の如し。

一　割引率　二割

二　發著區間　鐵道省線各驛ト岡山驛及連帶鐵道線各驛ヨリ岡山驛行

三　割引期間　搬入　自昭和三年二月一日　至昭和三年三月十九日

搬出　自昭和三年五月十九日　至昭和三年六月三十日

三蟠　軌道　岡山驛トノ相互間　西大寺行

西大寺　鐵道省線各驛ヨリ岡山驛及連帶鐵道線各驛ヨリ後樂園驛行

後樂園　岡山驛行

國清寺　鐵道省線各驛ヨリ岡山驛及連帶鐵道線各驛ヨリ後樂園驛行

第　號

旅客運賃割引證

乘車船區間	自　驛 至岡山驛　往復
住所 氏名 年齡	當　年
乘車船等 割引率	等二割

岡山市

注意

一　本証ハ岡山市主催大日本勸業博覽會出品人及關係役員ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號及使用者ノ姓名ヲ記入シテ交付スルモノトス

二　本証ニ依リ割引セラルヘキ區間・期間及ビ乘車券通用期間左ノ如シ但シ往復乘車券ニ限ル

割引區間　鐵道省線各驛及連帶鐵道・軌道線各驛ヨリ岡山驛行（北日本汽船青森室蘭間航路、大阪商船大連航路、東武鐵道東武本線北千住龜戸間經由ヲ含ム）中國鐵道各驛ヨリ岡山驛行、西大寺鐵道各驛ヨリ後樂園驛行、三蟠鐵道各驛ヨリ國清寺驛行

割引期間　自昭和三年二月一日　至昭和三年五月十八日

乘車券發賣ノ日ヨリ昭和三年六月三十日迄通用期間

三　本証ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スル事ヲ得ザルモノトス

四　本証ニ依リ購求シタル割引乘車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スル事ヲ得ザルモノトス

昭和三年二月六日鐵道省運輸局長に對し「曩ニ許可ノ旅客運賃割引ノ區間中臺灣航路ノ分並ニ荷物割引區間中大連航路ノ文字ナキ爲メ差支アリ、大阪商船ニ割引ノ旨御通知ヲ乞フ、其旨返待ツ」と打電したるに對し、「全部包含ノ旨」返電ありたり。

鐵道證票配付數

配付先	出品人關係役員割引證	鐵道荷物割引證	合　計
岡山縣	五、一五〇枚	四、九三〇枚	五六、四三一枚
兵庫縣	二、九三	一、三五	二、八、二七
廣島縣	四、七七〇	一、一〇〇	一四、九七〇
愛媛縣	七、三二〇	〇五〇	七、五六〇
鳥取縣	六、三〇〇	一五〇	六、五〇
大阪府	五、九四七	、五一〇	六、五六七
山口縣	五、七九	一、三〇	五、九八九
島根縣	五、一一〇	、五〇〇	五、六一〇
德島縣	四、八三〇	、〇〇	四、八四〇
香川縣	四、三七	、一〇〇	四、四七
福岡縣	一、七一〇	、八一〇	二、五二〇
朝鮮	一、二一〇	、〇五〇	一、二六〇
愛知縣	一、一五〇	、三〇〇	一、四五〇
高知縣	三、七八〇	一、一五〇	三、九三〇
山形縣	、九三〇	、三五〇	一、四八〇
北海道廳	、九二〇	一、〇〇〇	一、九二〇
東京府	、八九〇	七二一	一、六五一
靜岡縣	、八二〇	、三〇〇	一、一〇〇
三重縣	、七五〇	、〇六〇	、九〇〇
岐阜縣	、六六〇	、〇六〇	、七一〇
臺灣	、六四〇	、〇六〇	、七〇〇
大分縣	、六二〇	、〇五〇	、六七〇
神奈川縣	、六一〇	、一〇〇	、七一〇
京都府	、五六五	、九〇〇	一、四六五
群馬縣	、五二〇	、〇五〇	、七〇〇
埼玉縣	、五〇〇	、三〇〇	、八〇〇
富山縣	、五〇〇	、一五〇	、六五〇
鹿兒島縣	、四五〇	、三〇〇	、七五〇
滋賀縣	、四五〇	、三〇〇	、七五〇
福島縣	、四一〇	、〇五〇	、四六〇
石川縣	、四〇〇	、一〇〇	、五〇〇
佐賀縣	、四〇〇	、一〇〇	、五〇〇
關東洲	、三六〇	、一〇〇	、四六〇
長崎縣	、三六〇	、一〇〇	、四六〇
新潟縣	、三五〇	、一九〇	、五四〇
栃木縣	、三五〇	、〇六〇	、四一〇
山梨縣	、三五〇	、〇五〇	、四〇〇
青森縣	、三五〇	、一〇〇	、四五〇
茨城縣	、三〇〇	、〇一〇	、三一〇
宮崎縣	、三〇〇	、〇〇〇	、三〇〇
熊本縣	、三〇〇	、一五〇	、四五〇
岩手縣	、三〇〇	、一五〇	、四五〇
和歌山縣	、四五〇	、一〇〇	、五五〇
奈良縣	、二六〇	、〇〇五	、二六五
福井縣	、四〇〇	、一五〇	、五五〇
秋田縣	、二五〇	—	、二五〇
千葉縣	、二一〇	、〇一〇	、二三〇
長野縣	、一五〇	、〇一〇	、一六〇
沖繩縣	、〇五〇	、〇五〇	、一〇〇
合　計	一四六、九二一	一六、三三	一六三、三三

第六節　小間配置

本博覽會に對する內外の協贊は翕然として其の出品申込數に表現さるゝに至りぬ。昭和二年末に於ける出品申込數は既に陳列戸棚五百七七小間、陳列台百十一小間、土間百五十一坪二合五勺、飲食店百

三十七坪七合五勺、特設館四百六十一坪三合の多きに達したるが、昭和三年に入るや、更に殺到し一月十日現在の申込數を以てするも既定收容力一千百八十四小間を超過するの盛況を來したるに、搗て、加へて出品物搬入の期日たる三月十日迄には、未だ多くの日子を剩せるのみならず出品者は、各自出品物の販路を全國に擴張せんとの競爭的意氣込瀰漫せることゝて、出品數も亦豫想に難きものあり。一面岡山縣にては昭和三年一月十六日岡山縣告示第三十六號を以て大日本博覽會出品に關し小間借入れ希望者は、一月末日迄に同業組合其の他町村に於て取纏め、縣當局へ申込むべく布達され、其の豫約申込も亦既に豫想を超過せる狀態なるにより、本會は出品者の希望を尊重し、且つ本會自體の面目を保持せんがために、急遽別館の增築を敢行するに至れり。

斯かる狀態なるに出品物の種類及び出品方面の範圍頗る廣汎なるを以て出品申込期の絕對的劃一統制は期し難く、陳列小間の配置配當に齟齬らざる手數と煩瑣とを要したり、出品搬入期に於て漸く決定したる府縣別出品小間配當は左のごとし。

各府縣出品小間數調

第一會場

府縣名	出品 本館 陳列戸棚	本館 陳列土間	發明機械電氣館 陳列戸棚	發明機械電氣館 陳列土間	農水產館 陳列戸棚	農水產館 陳列土間	林鑛館 陳列戸棚	林鑛館 陳列土間	別館 陳列戸棚	別館 陳列土間	合計 陳列台	合計 土間
京都府	六七・五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪府	三五・〇	二五・五	三五・〇	—	—	—	—	—	—	—	八三・〇	二五・五
兵庫縣	六六・五	四・五	二・〇	—	—	—	—	—	四・〇	—	七・〇	四・五
廣島縣	六・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
島根縣	一九・〇	三・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥取縣	八・〇	七・〇	七・〇	—	—	—	—	—	—	—	一四・〇	七・〇
長崎縣	五・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
沖繩縣	八・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
熊本縣	四・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山口縣	一四・〇	三・〇	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	二・〇	—

府縣名	本館 陳列戸棚	本館 陳列土間	發明機械電氣館 陳列戸棚	發明機械電氣館 陳列土間	農水產館 陳列戸棚	農水產館 陳列土間	林鑛館 陳列戸棚	林鑛館 陳列土間	別館 陳列戸棚	別館 陳列土間	合計 陳列台	合計 土間
鹿兒島縣	二四・〇	六・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山形縣	八・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩手縣	五・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島縣	二・〇	一・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
青森縣	八・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛縣	三一・五	一・五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
德島縣	一五・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
高知縣	七・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福井縣	一〇・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香川縣	一〇・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富山縣	一〇・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
靜岡縣	七・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京府	二九・〇	一五・〇	三・〇	—	—	—	—	—	—	—	四・〇	—
埼玉縣	三一・五	一五・五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
栃木縣	二五・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和歌山縣	三・〇	三・五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
茨城縣	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
滋賀縣	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三重縣	一〇・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨縣	三・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岐阜縣	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川縣	三・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟縣	六・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬縣	四一・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛知縣	四〇・〇	九・〇	八・五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山縣	四五・〇	八一・〇	七一・五	—	—	—	—	—	—	—	三〇・〇	—
佐賀縣	三・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉縣	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡縣	五七・〇	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

石川縣	一五・〇	五・〇	—	—	—	—	—	—	—
大分縣	八・〇	—	—	—	—	—	—	—	—
長野縣	—	一・〇	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	一〇・五	—	一八・〇	一〇〇・〇	—	—	—	三・五
合計	二〇一・〇	一四五・〇	一四〇・〇	一四・〇	一〇〇・〇	一〇・〇	三一・〇	四〇・五	二・〇

石川縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大分縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長野縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	一・〇	一・〇	六・五	一九九・五	五一・五	四三・五	一〇五・五	三九六・八	四七・五

備考　其他ハ岡山縣内及他府縣ノ個人出品ニ係ルモノ也

第二會場

館名	出品陳列戸棚	小間數陳列台	土間
美術館	一四八・〇	三・〇	—
教育館	八六・〇	一・〇	一・五
參考館	四・〇	四・〇	三三・〇
合計	三八・〇	五一・〇	三三・五

第三會場

館名	出品陳列戸棚	小間數陳列台	土間
中央館	一九・〇	七・〇	六六・〇
社會館	四・〇	一六・〇	五一・〇
衛生館	三六・〇	三八・〇	六一・〇
合計	九五・〇	六一・〇	一八・〇

會覽博業勸本日大催主市山岡

圖略置配間小館各場會

館氣電燃瓦明發

館產水農　館鑛林

館　別

館生衛　館央中　館會社

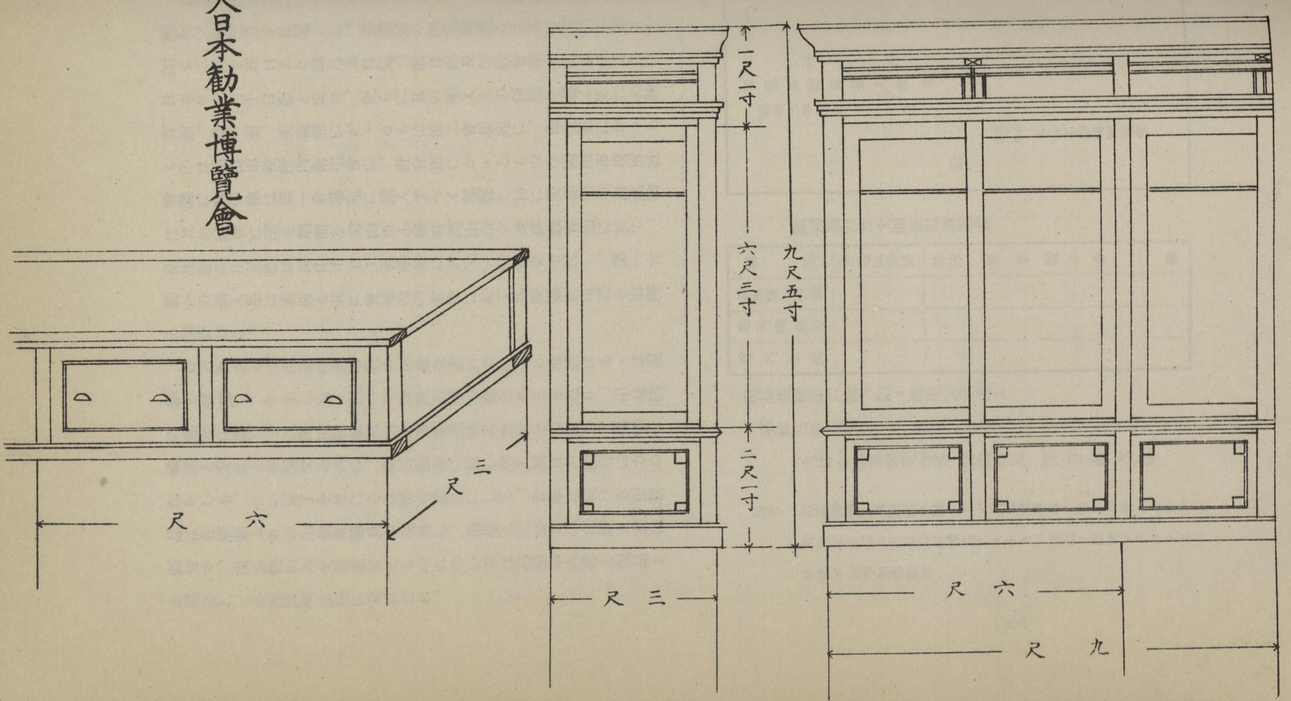
館考參　館術美

館育教

館　本

陳列箱及陳列台圖

岡山市主催大日本勸業博覽會



第七節　出品物搬入

博覽會出品規程第七條に示すがごとく、一般出品物の搬入期日は昭和三年三月十日迄とし、美術館の出品物搬入は其の規程に示すが如く二月十五日より同月末日迄、教育館及び社會館の出品は三月一日より同月十日迄と定め、更らに其の搬入上の煩瑣を避くるため教育館、參考館、美術館にかゝるもは第二會場宛に、衞生館にかゝるものは岡山市役所内衞生會に、社會館にかゝるものは岡山市役所社會課に其の他は第一會場宛に搬入すべく部署し特に美術館の出品物は其の陳列に至る期間を岡山市小橋町岡山市立通俗教育館に於て、衞生館の出品物は岡山市立工藝學校に於て一時保管を托し、第一會場への搬入品は着荷と共に會場内の倉庫にて各府縣別に之を取纏め保管せり。

各方面よりの出品物が多數の運送業者の手により取扱はるゝは混雜と遺漏とを生じ易く從つて蹉跌澁滯の虞れあるを慮り、出品物の運送に關しては岡山驛前岡山合同運送株式會社を承認し、運搬の敏速と安全とを期する共に、各出品者に對し搬入期日の勵行に力めたりしも、その完了を見たるは開會前日にして、倉庫に於ける保管品は各府縣よりの出張事務員に交付し、出品人又は其の代理人共出頭せず、出品物のみを送置せるものについては出品申込書と現品とを照合し、各部陳列主任に交付せり。

現品受入書

記

一一一

以上　点

右現品到着受入候也

昭和三年三月　日

殿

岡山市主催　大日本勸業博覽會

陳列棚台及土間使用承認書

場所	出品區番號	等級	所要數	金額
館内陳列戸棚				
館内陳列台				
館内土間				

出品規程第六條ニ依リ使用方承認ス

昭和三年三月　日

大日本勸業博覽會長　岡山市長　窪谷逸次郎

備考　出品物搬入及陳列ニ關シテハ出品部係員ノ指示ヲ受ケラルベシ
所定期日迄ニ出品區料拂込ナキトキハ出品ヲ拒絶セラルヘキニ付豫メ御承知相成度

出品明細書

| | | |

灯を吊し、「東京府出品」と竪長に掲げられたる大看板、富士の秀麗に摸したる靜岡縣が純白の飾り付け、燦爛たる櫻花にて飾りたる德島縣、青海波模樣にて琵琶湖を表はしたる滋賀縣、鵜飼模樣を配したる岐阜縣、名城金の鯱鉾を配したる愛知縣、大廟を表象したる三重縣、日光の神橋に因みたる栃木縣、所澤飛行機場に因みたる埼玉縣の如く、各府縣とりゞ〳〵に其の地方色を表象したる裝飾多きに對し、個人出品の裝飾も亦凝りたるもの尠からず。本館入口に於ける株式會社天滿屋が、百花妍を競ひたる芝生に洋裝せる少年、小女がシーツーに乘りて自動回轉せるもの、或は書齋に靜坐せる婦人及び令孃の和裝、高原呉服店の純日本式家屋内に於ける盛裝せる人形等いづれも時代の流行品を蒐めたるが如き、其の他斬新なる裝飾はいたくも人目を惹きたり。

なほ特設館の裝飾も遜色なく、滿蒙館は南滿洲鐵道株式會社に於て、出品物を蒐集し整然一絲亂れず陳列裝飾に南滿特殊の意匠を凝したる外、陳列臺の背景には滿蒙に於ける情景を網羅したる寫眞を掲げ、通俗的に滿蒙の紹介に力め、北海道館は陳列部門を水產、農產、牧畜、農酪等に區劃し、各部門の背景に繪畫もて現狀を描出したるものを掲げ、陳列品との調和を保ち、臺灣館、朝鮮館いづれも其の地方の特色を發揮したる陳列品と裝飾とは、觀衆に對し特種の刺戟と印象とを與えたり。

第九節　道府縣市事務所

昭和二年十月に開催したる各府縣市勸業主任官會議に於て、本會に賛同出品を豫約せる道府縣市に於て會場附近に事務所設置の希望あらば豫め申込まれたき旨述べたるが、出品物陳列期に入るや、希望申込者相踵ぎたり。

右事務所は何れも其價格の低廉懇切と、博覽會場との交通至便とを主眼とし、本會斡旋の下に、夫れ〳〵設置するところあり、事務所々在地及び出張係員は左の如し。

事務所々在地　　各道府縣市出張詰員

岡山市北方一〇四〇　北海道殖產局商工課
技師　對島高麗夫
屬　鈴木義雄
仝　寺島良吉
技手　大内忠治
仝　伊藤冬一
仝　奥田清一
仝　今野吉之助
仝　久慈治經
仝　水澤猛
仝　湯山輝雄
仝　宮島與作
屬兼商工主事補　朽木尚孝
賣店出張員　佐々木主計

岡山驛前中筋松井旅館　東京市役所商工課
商工主事　秋山千四二
府商工課　佐藤喜右衛門
市商工課　野村芳雄
仝　高橋鐵雄

岡山市下市町青松館　神奈川縣廳商工課
屬　片山鐵三郎
横濱市書記　藤村英俊

岡山驛前福本屋旅館　埼玉縣商品陳列所
所長　飯島太二
仝商工主事補　白倉龍平
淺川光平
埼玉縣同業組合聯合會　齋藤武治
須賀普一

岡山驛前山長旅館　群馬縣官房主事　堀康夫
屬　富樫彦曹
仝　高木一郎
仝平山豐隆
仝藤生林十郎
仝荻原貞雄
邑樂織物同業組合　遠藤憲太郎

岡山市下市町青松館　栃木縣工業試驗場
技師　江島五三郎
仝　小野元一
栃木縣商品陳列所長商工主事　小林清市
雨宮五六
縣　冬樹
足利織物同業組合　小原元正
仝　菊池其一
佐野織物同業組合　落合順一
青森縣農林主事補　小笠原武一
屬　白濱正三

岡山市北方一四四八　山形縣廳商工課屬　久永久
仝　牧田龍尾
山形市役所主事　中田彦作

岡山市北方一四四〇　靜岡縣廳商工技師　廐生治一
屬　小長井重作
仝　青柳秀夫
仝　佐藤繁一

技手　日內地　德太郎
商工主事補　森　都　喜　彥
岡山市下出石町一〇五　名古屋市產業部勸業課
市書記　武　內　治　資
仝　原　鋌　二
仝　青　木　一　雄
仝　高　木　保　太　部
仝　瀨　尾　昇　平
仝　水　野　菊　一
山梨縣甲府市役所市書記　駒　井　隆　吉
仝　市出品協會　木　造　正　樹
岡山市柳川筋仁科旅館　岐阜市役所實業協會
仝　市書記　岩　佐　東　一
雨傘製造業者　宮　崎　富　三　郎
岡山驛前電車通吉屋旅館　福井縣廳商工課
屬　永　井　茂
商品陳列所長　根　尾　謙　兒
商工主事補　前　川　柳　吉
仝　白　崎　太左衛門
金澤市役所勸業課市主事　長　耕
市會議員　加　賀　谷　源　吉

仝　伊　藤　祐　俊
仝　池　田　純　正
陶器製造人　松　本　一　郎
岡山市上石井高瀨旅館　新瀉縣商品陳列所出品協會
山　田　清　三　郎
博覽會第一會場前新はつね旅館　富山縣商品陳列所
野　崎　芳　太　郎
藤　野　久　平
富山縣工業會　安　川　慶　一
仝出品協會委員　平　松　龜　三　郎
富山市役所市書記　中　村　信　太　郎
仝　安　川　滋　安
岡山市上石井花屋旅館　大阪市役所產業部
市書記　田　中　實
仝　橋　本　健　吉
仝　川　端　慶　一
優良品協會主事　末　網　文　生
岡山驛前電車通横丁はつね旅館　京都市役所
市書記　盧　見　要　人
北　村　岩　太　郎
杉　本　芳　太　郎

岡山政次郎
黑　田　哲　夫
北　村　彥　二
岡山市北方大和町　兵庫縣廳商工課　水　島　敏　男
仝　藤　田　金　次　郎
神戶市商工課　金　光　清　一
兵庫縣商工水產課農林技手　山　形　久　太　郎
農林技手　矢　板　關　一
神戶市役所商工課市書記　西　作　市
仝　谷　山　常　三　郎
仝　山　中　太　郎
姬路出品協會　河　島　安　次　郎
理事　樫　木　忠　太　郎
岡山市北方北富　滋賀縣商品陳列所技師　深　澤　和　美
仝　陳列所長　森　井　利　喜
島　村　晴　一
出品協會幹事　中　田　岩　松
仝　中　村　松　次　郎
仝　伊　夫　貴　眞　三　郎
滋賀縣屬　白　波　瀨
仝　小　暮　國　次
仝　清　水　信　善
岡山驛前吉屋旅館　三重縣宇治山田市役所勸業課
市書記　田　畑　松　次　郎
三重縣津市役所勸業課市書記　久　岡　觀
和歌山縣商品陳列所商工主事補　和　田　實
廣島縣廳商工課屬　脇　謹　爾
仝　川　上　秀　寬
仝　木　村　藤　八
仝　山　本　謙　二
仝　堤　源
仝　畑　中　宗　男
西　脇　寬　次
主事補　永　海　清　太　郎
廣島縣商品陳列所技手　山　根　三　二　郎
主事補　向　原　良　一
增　田　健　夫
技手　水　田　盛　穗
鳥取縣廳商工課屬　高　田　三　郎
仝　佐々木　顯　二
仝　藤　野　久　平

米子市役所市書記　篠村富德
岡山市上石井高瀨旅館　山口縣廳商工水產課
屬　櫻井政資
仝　梅田正
仝　松原清
仝　有吉福一
下關市書記　一柳俊信
岡山市北方大和町　島根縣商品陳列所長　小玉常之助
技手　梨谷了祐
仝　天野宗次郎
岡山驛前中筋橫丁大西屋旅館　德島縣商品陳列所長
大西　甚右衛門
阪東信夫
永田次平
德島市役所技手　近藤博文
岡山驛前中筋橫丁大西屋旅館　香川縣廳商工課
屬　富永良廣
仝　笠原陸太郎
仝　中西眞一
岡山市上石井電車通橫丁はつね旅館　愛媛縣廳
屬　井上定恒

商工主事補　河田勝太郎
松山市書記　砂川正雄
岡山市北方師團通入口　今田旅館　高知縣廳商工課
屬　吉岡政馬
仝　土居猛
高知市書記　飯田重次
岡山市北方農事試驗場前　福岡縣廳商工課
技師　藤本鐵男
仝　井上政次郎
福岡市役所書記　吉村清
福岡縣屬　毛利淳一郎
出品協會　今泉政吉
岡山驛前高塚ホテル　大分縣出品協會　山田春吉
仝　越智喜七
仝　山田周三
岡山市西中山下西田旅館　熊本縣廳商工課
技手　村田勇
仝　田中吉雄
熊本市役所勸業課長主事　田邊章
仝　主事補　稻葉壽太郎
出品協會理事　迫惟精

鹿兒島縣商品陳列所長　谷崎正人
人見忠鍋
鹿兒島市書記兼技手　迫金太郎
岡山驛前松井旅館　沖繩縣廳商工課農林主事
淺沼嘉重
主事補　安慶名宣長
岡山市北方勸業博覽會第一會場正門前
朝鮮總督府殖產局商工課
屬　武內謙二
仝　川村均
技手　清水正治
仝　桐山孫一
仝　金東明
仝　大森武夫
仝　藤川重弘
物產協會　神原芳次郎
仝　原藏吉
岡山市北方一四〇三　臺北州內務部勸業課長地方理事官
鶴友彥
臺灣總督府商品陳列館　石原良富
仝　須田萬藏
屬　福村峰次
物產協會理事　桑原直
殖產局　下民夫
池部俊長
田邊一郎
平井政吉
岡山市北方大和町　南洋廳殖產局商工課
技手　山下兼吉
岡山市二番町元廣瀨醫院跡　南滿洲鐵道株式會社商工課
砂原滋二
千葉縣廳地方技師　卷淵與之助
八幡製鐵所　八名正己
奧隆富
久我熊太郎
福島縣若松市物產陳列館　青本志滿六
水戶市書記　郡司良

第八章　會場選定

第一節　會場決定

博覽會開設の使命は、沈滯せる産業の振興を企圖する一面に於て岡山市の發展を策し、經濟方面の發達に資せむとするものなれば、其の會場の位置も市の中心地帶に接近せる、最も便利なる場所に選定せむとは総べてのもの、一致せる意嚮にして、如かも岡山市を紹介すべくあらゆる催物をも併催せむとすれば、尠くとも三万坪以上の敷地を要すべし。

會場敷地の選定は博覽會開設上第一の必要條件なるを以て、經費豫算の編成に先ち大正十五年七月、既に左の數ヶ所を候補地として詮衡せり。

一、東山公園及附近一帶
一、宇野線大元驛附近
一、門田東山第二中學校裏
一、古京町後樂園東裏（國富）
一、北方練兵場
一、鹿田大學病院裏
一、舊鹿田驛跡一帶
一、上伊福倉敷紡績工場敷地

之れが選定に當り交通の至便、土地の廣狹等について考慮を要せざるべからざるが、一部に於ては一時市の繰入金を以て一定の土地を買收し、博覽會終了後適當の時機に於て、一般に拂下げ新興市街を建設せむとの計劃もあり、こゝに於てか選定上の根本問題として、

(1)、土地を購入して博覽會終了後地區整理を行ひ、住宅地又は商工業地となすべきや否や、

(2)、博覽會期中のみ一時借入地として使用すべきや否や、

(3)、博覽會の建築物は將來何か利用すべきや否や、

との三項について詮衡するの必要を生じたるが、第一項たる市の繰入金を以て一定の地域を買收し、閉會後之れを都市計畫課に移管して整地を行ひ、住宅地又は商工業地として一般に拂下げ、繰入金を償却せんとの理想を實現せんには、買收費約四拾餘萬圓を要すべく這は現在の財政關係に制肘されて實現至難と見做され、第三項たる建築物の利用について、之れを社會的事業に充當せんとの意見も擡頭したるが、之れ亦財源に制肘されて實現すべくもあらず。結局第二項により適當なる土地の一時借入れを選ぶの外なし。

斯くて選定方針に基き交通の利便、經費の僅少、面積の適當とを眼目として物色するに至りしが、一時借入地として最も有利視されたる練兵場說に對し、岡山市の中心と餘りに遠隔なり、寧ろ後樂園東裏畑地約三萬坪を借入れ、天下の名園たる後樂園と連絡を保たしめば、市内各商店との關係も圓滑なるのみならず、奥市グランドを以て運動場に充つるを可とせんとの說あるも、同地は洪水の場合氾濫の虞あり。

或は來觀者をして岡山市内を廻覽せしむる点より第一會場を練兵場に、第二會場を東山に選定せんとの主張あるに對し、大元驛方面には所要土地の買收提供を力說するものあり、斯かる狀態の下に關係地方民の爭奪氣勢は漸く濃厚にして遂に昭和二年一月二十七日岡南方面有志者は筧谷岡山市長に對し、會場敷地として舊鹿田驛跡地の採擇方を陳情するに至れり。その理由として

一、舊鹿田驛跡の一万二千坪は市有地にして既に整地濟なり、
二、その附近の土地總計約四万五千坪あり、而して博覽會場として所要面積を無償提供に應ず、此等の土地は小山氏一統の所有地なるを以て提供に容易なるのみならず、宇野廢線地の土砂を以て整理せんか廢線地は直ちに道線となり一擧兩得なり
三、殊に博覽會場に決定せんか、電氣軌道柳川線を會場まで延長するの約あり、一般觀覽者に便するのみならず一面電車敷設促進を策するものなり、
四、都市計畫によれば鹿田驛跡は公園に充つる方針なりと、博覽會終了後は自然的に公園に成るべし、

次いで二月旭東期成同盟會にては第一會場候補地として後樂園東裏を擧げて陳情し、他方面も亦具體的方策を執るに至れり。

陳情書

地方經濟界ハ累年不況ヲ迎リ、近時一層深刻ヲ極メ、商工業者ノ窮狀實ニ名狀スベカラザルモノアリ、此時ニ際シ本市ニ於テハ之レガ救濟策トシテ明年陽春ノ候、相當ノ規模ヲ以テ勸業博覽會ヲ開催セラルヽノ儀決定セルコトハ最モ適切ノ施設ニシテ、吾人ノ大ニ歡迎スル處ナリ。而シテ現今敷地選定ニ對シ各方面ヨリ種々ノ希望アルモノヽ如ク仄聞セリト雖、凡ソ本會開催ノ主旨タルヤ各一致スル處ニシテ要スルニ地方生產品ノ改良ヲ圖リ販路擴張ニ資スルト同時ニ、岡山市ノ實情ヲ他府縣ニ紹介スルヲ以テ主ナル目的タル事今更多言ヲ要セザル處ナリ、故ニ叙上ノ目的達成ヲ期スル上ニ博覽會敷地トシテハ、外來人ヲシテ岡山驛ヨリ市ノ中央ヲ通過セシムベク而モ交通機關共ニ完備セル地点ヲ選バザルベカラザルコト勿論ニシテ、今本市ノ地形ヲ通觀スルトキ後樂園裏ヲ最モ適當ナリト信ズ。或ハ練兵場若クハ舊鹿田驛方面云々ト論議セルモ、該方面ハ何レモ敷地トシテノ要件ニ大ナル欠陷アルコトハ吾人ノ均シク認ムル處ナリ。希クハ當局ニ於カセラレテハ、前述ノ實情御洞察ノ上、今後多少ノ經費ヲ要スト雖、市民大多數ノ福利ヲ增進セシムベキ、最モ適當ナル後樂園東裏ヲ敷地トシテ、御決定相成速カニ開催準備ノ御進行アランコトヲ、

右連書ノ上陳情仕候也

昭和二年二月　日

岡山市會議長國富友次郎殿

岡山市小橋町　難波　貫一　外五名
仝　東中島町　瀬野　隆　外七名
仝　西中島町　尾原　喜八　外五名
仝　門田屋敷　中田　彌平　外九名
仝　橋本町　佐藤清太郎　外一名
仝　網濱　杉本虎太郎　外六名
仝　花畑　吉塚濱太郎　外四名
仝　大黒町　吉田　邦夫
仝　下片上町　岡本喜平治　外一名
仝　上片上町　岡崎俊太郎
仝　古京町　赤木與三郎　外五名
仝　森下町　森安孝次郎　外四名
仝　國富　森安豊次郎　外二名
仝　國清寺東町　若松千代藏　外一名
仝　門田德吉町　早川　可也　外四名
仝　門田中町　山口市太郎　外一名
仝　内山下　柏野敬次郎　外三名
仝　内山下元町　草薙　信　外五名
仝　上之町　高原　柾吉　外四名
仝　内山下相生町太田　政人　外三名
仝　西大寺町　金田周太郎　外三名
仝　内山下水ノ手岡田　松助
仝　紙屋町　穗崎八郎兵衛
仝　中之町　伊藤佐太郎
仝　榮町　上原　治郎
仝　下之町　岡崎　松吉
仝　可眞町　岡田五三郎

陳情書

當市ニ於テ本春御開催ノ勸業博覽會々場敷地御撰定ノ件ニツイテハ、市會ニ於テモ最モ愼重ナル態度ヲ持シ、全員委員トナリ御詮衡相成候由ニ拜承致居候間恰適ノ位置ニ御決定相成候事ト存候得共、最モ望マシキ條件タル市ノ中央部ニ其ノ敷地ヲ採擇スルコトハ不可能ノコトニツキ、勢ヒ會場ヲ數ケ所ニ擇ビ例ヘバ目下候補地トシテ御調査相成居候、鹿田候補地ヲ第一會場ニ、旭東候補地ヲ第二會場ニ又練兵場候補地ヲ第一會場ニ、旭東候補地ヲ第二會場ニ豫定シ、二者中其一ヲ撰ビ觀覽者ヲシテ市ノ中央ヲ通過セシムルコトハ、本市ヲ他府縣ニ紹介スル好良法ト存候茲ニ於テ右二案中ニツキ比較スル時前者鹿田候補地ハ數名ノ民有地ニシテ、隨ツテ小作人關係モ可有之借地料、整理費等巨額ヲ要スルコト、存候、コノ点ニ於テ後者ハ交通上又整地費等モ僅少ニシテ且ツ第一要件タル敷地ノ自由ニ擇バルヽノ利益アリ、故ニ練兵場ヲ採用サルヽコトハ市全般ヨリ觀ルモ善シ正鵠ヲ得タルモノニシテ、決シテ地方的偏見ニコレナキコトヲ確信致居候、コノ意味ニ於テ第一會場ヲ練兵場ニ、第二會場ヲ旭東候補地ニ決定サレンコトヲ切願ノ至リニ有之候、左記町總代連署ヲ以テ陳情書差出置候條可然御詮議相成度候也

昭和二年三月八日

岡山市長窪谷逸次郎殿

岡山市津島　總代　上林長四郎
岡山市北方　總代　織田榮五郎
岡山市北方町一丁目總代　谷田　正
岡山市七番町總代　渾大防終吉
岡山市難波町總代　久西才治郎
岡山市南方西町總代　岩藤　忍
岡山市中井　總代　山田新治
岡山市北方四軒町　總代　野上虎次郎
岡山市奉還町　總代　杉山壽太
仝　安井瀧三
岡山市巖井町富　總代　皿井與一郎
岡山市暖町　總代　坪田若松
岡山市巖井東暖　總代　浦上利久治
岡山市上伊福師團總代　田賀彦兵衛
岡山市上伊福今町　總代　井上彌吉
岡山市萬町　總代　阿部幾三
仝　淺野兼治
岡山市上石井一丁目總代　川人林三郎
岡山市岩田町　總代　三村千太郎
岡山市富田町　總代　矢木周輔
仝　沼本喜太郎
仝　丸野勸策
仝　中田三郎

昭和二年三月十四日

岡南市民代表者

岡山市長窪谷逸次郎殿

夙聞スル所ニ依レバ我岡山市ニ於テハ、明年春期ヲトシ勸業博覽會ヲ開催セラルヽ由、就テハ右會場ノ位置ヲ我等代表者ノ熱烈ニ希望スル岡南舊鹿田驛跡方面ニ御選定セラレンコトヲ、偏ニ賢明ナル窪谷市長殿ニ懇願シ、茲ニ岡南市民全般一致團結シテ、代表者ノ連署ヲ以テ陳情書ヲ呈ス、希クハ我等一同ノ熱誠ナル願意ヲ許容相成度候也

岡山醫科大學　田中文男　外七名
岡山市內田西春日町　有岡杢太郎　外七十三名
岡山大學病院前岡町　藤原義男　外三十七名

陳情書

昭和二年三月十五日岡南有志者より、岡山市土木課に提出したるもの也、

想フニ我岡山市ハ將來ニ於テ地勢上、市西南部ノ廣茫タル御野平野ニ向テ發展シ以テ、岡山以西ノ小都市ト相提携シ商業ニ將又工業ニ大ニ其盛大ナル發達ヲ遂ゲザルベカラザルハ明ナリ。サレバ市ノ他方面ニ比シ岡南近年ノ發達ハ明ニ之ヲ示シツヽアリ、市當局各位ニ於テモ意ヲ茲ニ致サレアルハ、我岡南市民一般ノ大ニ欣喜ニ堪ヘザル所ナリ、從テ博覽會々場ノ位置ニ關シテモ、當然市ノ迅速ナル發達ニ資スルニ足ルベキ、舊鹿田驛跡方面ニ決定セラレンコトハ我岡南市民ノ特ニ熱望セル所ナリ。抑々此地域タルヤ位置地勢面積交通等共ニ他方面ニ比シ、遙ニ優越ノ形勢ニ在リテ概ネ市ノ希望ニ副フベキ内容ヲ具備シ、其ノ準備工事ハ多少ノ經費ヲ要スベキモ閉會後ニ於ケル土地ノ利用ニヨリ、市ノ經濟上ノ利益甚大ナルコトハ茲ニ贅言ヲ要セズ、又電車ノ開通モ都市計畫ニ連續シ完成ノ迅速ヲ加ヘ、市ノ交通ヲ有利ニ導キ、從テ市ノ發展ヲ迅速ナラシムル所以タリ。且市ノ計畫ノ一部タル當方面公園地ノ形成ニ於テモ、或ハ教育ノ施設地トシ又ハ工業地域ノ設備ニ於テモ一層ノ有利便益ヲ見ルベク、尚ホ第二會場トシテ東山方面ニ一部ノ會場ヲ設置セラルヽニ至レバ、相互ノ交通ハ岡北ノ地ノ鐵道線路ヲ横ギルニ比スレバ大ニ安全ナリ、加之或ハ醫科大學ノ參觀ヲ許サルヽニ至レバ、他ノ方面ニ比シ、觀覽者ニ於テハ一層ノ便利ナルヲ信ズ、其他巨細ノ便益ハ枚擧ニ遑アラザルモ既ニ精細ナル御調査濟ナルベケレバ之ヲ省略シテ述ベズ、以上各條項ヲ綜合スレバ我岡南方面ハ市ノ他ノ方面ニ比シ便利ト有益ナル点ニ於テ、敷段ノ優秀地タルハ明ニシテ、我岡山市將來ノ發展ト市ノ經濟ヲ有利ニ導カンニハ必ズヤ、當岡南方面ニ博覽會々場ヲ設置セラルヽノ至當ナルハ十目ノ視ル所ニシテ茲ニ賢明ナル貴台ニ對シ敢テ贅言ヲ要セザル所ナリト雖モ、同時ニ我寂寥タル岡南ヲシテ迅速ナル發展ヲ熱望スルノ餘リ、蕪辭ヲ羅列シテ切ニ懇願スルニ到リタル所ナリ、希クハ御洞察セラレンコトヲ、

かくの如く會場に絡まる運動激甚なると、各候補地何れも一長一短相錯綜して、其の決定は頗る凝視の中心に陷りたるを以て、當局に於ては愼重調査を進むると共に、窪谷市長は二月一日非公式に會場選定方を市會に協りたるも未決定に終りたるにより、遂に三月三日敷地協議市會を開催し、當局より調査の顚末を發表したり。

一、練兵場＝整地排水施設費として壹萬二千圓を要す。

一、上伊福倉敷紡績敷地＝使用料六千參百圓、整地費壹萬四千參百圓を要す。

一、舊鹿田驛附近＝整地費（地方有志負擔）地揚代貳萬五千圓、排水施設費貳萬五千圓を要す。

一、後樂園裏手＝道路改修費四萬五千圓、整地費貳萬圓、土地使用料貳萬七千圓を要す。

一、第二岡山中學校裏＝土地狹少にして問題にならず。

協議の結果大體に於て第二會場敷地として東山を選定すべく一致したるも、第一會場を舊鹿田驛附近に選ぶか、練兵場に選ぶかゞ問題の焦点となり、解決せざりしかば、更に三月九日市會議協議會を開催し、滿場一致を以て其の選定を市長に一任するに至れり。

茲に於てか當局は彼此比較研究の結果、第一會場敷地として練兵場を選定し、三月十六日此旨岡山市會議員に通知し、併せて其の選定理由を聲明せり。

通　知

拜啓本月九日市會協議會の節市長に御一任相成り候、當市主催に係る博覽會敷地は、比較研究の結果、練兵場を選定致候間御承知の上、御厚配に與り度不取敢御通知旁得貴意候　敬具

昭和二年三月十六日　　窪谷逸次郎

各市會議員殿

勸業博覽會々場を練兵場に決定したる理由につきての聲明

第一舊鹿田驛跡は經費の点に於て困難

(イ)博覽會豫算中一般會計よりの繰入金は、昭和二年度三年度を通じて拾貳萬圓に過ぎず、其の他は入場料、出品小間料等の收入を主なるものとして補助金、寄附金等比較的不確實なる收入なるが故に、支出に亘つては節約を旨とし欠損の生ぜざる事に留意せねばならず、故に敷地費に多大の費用を投ずる時には、博覽會場の建築物貧弱となることを免れず。會場の貧弱は人氣を失する元となるが故に成功を期する上に於て憂慮すべき事である。況んや會場を二ケ所に設くる事が既に經費を要すること多大なる上に、尚敷地に多額の費用を役することは一層會場をして貧弱ならしめ、事實上不利益を招來する虞なり。

(ロ)敷地費に於て練兵場なれば整地費壹萬貳千百六拾圓を要するのみなるも、舊鹿田なる時は埋立費整地費を合して四萬參千貳百圓を要し、其の差は參萬千四拾圓の增加を要す（尚内埋立費貳萬千余圓を計上せるは八寸と見てゞあつて、もし從前の計畫せる通り一尺乃至二尺五寸とすれば倍額以上を要し、且つ土の不足を生ずるに至る）、舊鹿田驛附近は理立費、敷地費に於て多額の經費を要するのみならず、農作物の保證金五千圓を要求せらるゝが故に、一層多額の經費を要することゝなる。（保證金五千圓は約壹萬五千坪と見積り一反百圓の保證は不廉なるのみならず市民寄附金に依る保證金ありとせば一層高價なるものとなり他は市に於て土地を使用する場合に於て惡例を殘すことゝもなると思ふ）、之れに反し練兵場を使用する時は敷地費に於て多額の節約をなし得るのみならず、借行社の建物及倉庫を使用し得るの見込あるがために迎賓館、事務所及物置の一部費用を節約し得べく合計金五萬圓以上の經費を節約し得べし。

第二舊鹿田驛附近は敷地として實行に困難

(イ)練兵場の如く既に埋立してあつて何時にても使用すべき廣漠の場所に比し、狹隘なる他人の地を特に埋立使用するは、不利不便なるのみならず。地主は無條件にして土地を承諾するが如きも、其の實無條件にあらずして第一他人の土地を多額の費用を投じて埋立ねばならず。第二地元に對しては豫算金額に於て特に埋立つ請負をなさしめねばならず。第三小作人に對しては農作物の保證として五千圓を支拂ねばならぬ。第四地主辻清太郎氏に對し所有建物前市道を現狀以上に擴張して保存せざるべからず。以上の內第一、三、四の條件たる多額の費用を要し、不利なる事は既に述べたる如くなるも、假に之を忍び得るものとするも、第二の條件たる市が地主に對し特に豫算金額で埋立工事を請負はしむる隨意契約をなさしめる事は、本市請負規程の許さゞる事にして地主の要求は手續上不可能の事と思ふ。

(ロ)地主中池田男爵家の如きは當主未成年者にして、未だ後見人を有せざるが故に法律行爲の當事者として市と地主との關係地主と小作人との關係を合法に解釋することは困難なるが故に、任意圓滿に事實上實行し得れば格別なるも、もしこれ等の間に一旦紛議を生じたる以上は遂に支障を生じ全體の執行を不可能ならしむる原因となる。市は合法にあらざる手續によりこれを實行するは危きによるものにして、之れを避くるを當然とす。

(ハ)其の他の地主及小作は大概承諾せるも、何れも無條件にあらずして、相當條件を有するが故に、此間紛議を生ずる場合は自然本工事に影響を及ぼし、其の事件解決する迄は工事に着手すること困難。

(ニ)以前この地方有志の提唱されたる如く、各地元に於て埋立の上無償にて之を提出するものなれば、其の仕末は地方有志者にあるも、近時要望せらるゝが如き土地埋立其の他の費用を負擔することゝせば、其の責任は總て市に存ずるが故に、たとへ埋立たる土砂を原形に復せざるも返還の際は、各所有者に對し元の形通り反別に應じて返還せざるべからざる結果、一々土地臺帳面による反別のみならず、實測反別をも元の境界な區別せざるべからざるが故に、埋立の以前及博覽會終了後に於て、これ等の調査及整理のために多大の手數を要し且つ困難。

第三舊鹿田は敷地狹隘にして、且つ地形よろしからず、從つて建物の配置宜敷を得難し、

(イ)敷地坪數は貳萬五千余坪にして、三万坪以上を便宜とする点よりして、面積狹隘、

(ロ)其の他地形不正三角形をなし、面積適當に建築使用し得ず、本館を百間に亘り建設する時に面積の大部分を抛擲し其の餘地に乏しく他の特設館の多くは裏手にして不便なる位置に建設せざるべからざる事となる。其の他運動遊戲等を要する用地にも乏

し、

第四其の他該敷地內には近年新成せる大元驛に通ずる八間道路が貫通せるにより、工事着手より原形に復する迄、長日月間これを廢道としなければならぬ不便あり。且つ埋立費も貳萬千餘圓の範圍に於て平均八寸の地上に過ぎざるが故に、該通路が埋立地より更に高く道路を切下げて平均さすの外なく、ために新設道路を切下げ變形することにより、交通上經濟上共に不利益となる。

第五博覽會開設に伴ひ、後日に殘るべき事務の附隨せざるに於ては意義なし。この意味に於て鹿田驛附近埋立は有意義なるとの意見を有せるものありと聞くも、市が財政に餘裕を存じ、大規模の埋立工事にても計畫實行し其の記念として博覽會を開設するが如きは、其の理由なしとせざるも、たま〳〵博覽會敷地を使用するため、狹隘なる他人の土地に費用を投じて埋立工事を施し、短時日使用の後直ちにこれを返還するに於て、只市費により個人所有の田畑又は宅地を作りたりと云ふの外。大したる意義あるものとみなす能はざるべし。舊鹿田驛跡市有地の如きは何時にても整地をなし、適當に之を利用し得べし。只現にこれが利用方法を決定せざるに止るものにして博覽會敷地としてこれを利用せざれば將來發展の餘地なきものと云ふを得ざるなり。故に市有地以外の土地埋立短時日使用の上無償にて返償することは、外に適當の敷地存在せざれば已むを得ざるも、しからざれば經濟上不利益なりと思考す。

其六交通上の比較

交通上に於ては練兵場と舊鹿田驛とは何れも岡山驛より十三町餘りにして、距離に於て大差なく、又一つは北方に偏在し、他は南方に偏在し其の得失に於て亦大差ないと思ふ。たゞ練兵場に於ては萬町の鐵道踏切りを通過せざるべからざる不便なり。これに比して舊鹿田驛は此不便なきも該鐵道踏切も同所に陸橋の設けあり、又萬町に通ずる交通路あり、且つ中國鐵道は練兵場會場附近鐵道線路附近に假停車場を設置する筈なるにより、これ等に依つて幾分交通を緩和すべく、この一事を以て練兵場は會場の資格を缺除するものと見る事を得ざるべしと思ふ。今や博覽會開設の時期は漸次切迫し、對岸高松市の如きは着々進行しつゝありと聞くの時、今後埋立工事及其の準備等のため、尙時期を費する事は遂に、大切の時期を失するに至るを保し難く、憂慮して止まざるなり。故に多少の不便はありと云へども埋立等を要せずして廣潤の地域を、安價に使用する事を得べき練兵場を採るが、得策なりと信ず。

陳　情　書

明春開催ノ勸業博覽會敷地ニ就テハ、曩ニ後樂園裏ヲ最モ適當ト認メ陳情致置候處、經費其他ノ關係上第一會場ニ練兵場ヲ採用相

成候事ハ誠ニ吾人ノ遺憾トスル處ナリ。而シテ第二會場ニ御決定ノ東山一帶ハ幽雅ヲ極メ而モ交通ニ便ニ來觀者ニ對シ本市紹介ノ趣旨ヨリ見ルモ優越ノ地タルコト論ナク、就テハ相當ノ設備計畫ヲ樹立ノコトヽハ存候ヘ共本會開設ノ機會ニ特ニ永久的ノ建設物ヲ設置セラレ常設的使用ニ充當シ、商工業發展ノ一助ニ資セラレンコトヲ、

右陳情仕候也

昭和二年三月十八日

博覽會場設置旭東期成同盟會

會長　吉田邦夫

岡山市長窪谷逸次郎殿

かゝる徑路の下に會場選定問題も漸く解決したるが、偶々市全體の繁榮策としての會場分散主義の高唱となり、遂に三月十九日。市會に會場增設意見の上程を見るに至りぬ。

意見書

一、岡山市主催ニ係ル大日本勸業博覽會々場增設ニ關スル件

理由

既ニ議案トシテ提示セラレタル大日本勸業博覽會ノ會場ハ第一會場ニ岡山練兵場ヲ以テシ第二會場トシテ東山附近ニ當テラレ、之ガ總經費七拾萬圓ヲ計上セラレタル所、前記二會場ニ止ムル時ハ該博覽會ニ由ツテ受クル市民ノ福利ハ或一方ニ偏スルノ傾キ無キヲ保セズ、

依テ經費ノ許ス範圍内ニ於テ之ヲ增額シ、岡南方面發展ノ爲メ第三會場トシテ舊鹿田驛跡地ニ增設セラレンコトヲ望ム、

右市制第四十六條ニ依リ意見書提出候也

昭和二年三月十九日

岡山市會議長　國富友次郎

岡山市長窪谷逸次郎殿

右岡山市會々議規則第七條ニ依リ建議候也

提出者

岡山市會議員　岡田五三郎

仝　高須大憲

仝　梶谷福一

仝　前田半十郎

仝　山田音次郎

仝　原貫一郎

贊成者

岡山市議會員　齋藤吉平

仝　川口魁

仝　松島榮造

仝　山崎定太郎

仝　横山昊太

岡山市會議員　霜山健一

仝　龜山政三

仝　片山良一

仝　牧野靜吉

仝　足利義見

仝　柳澤熊吉

仝　角道有太郎

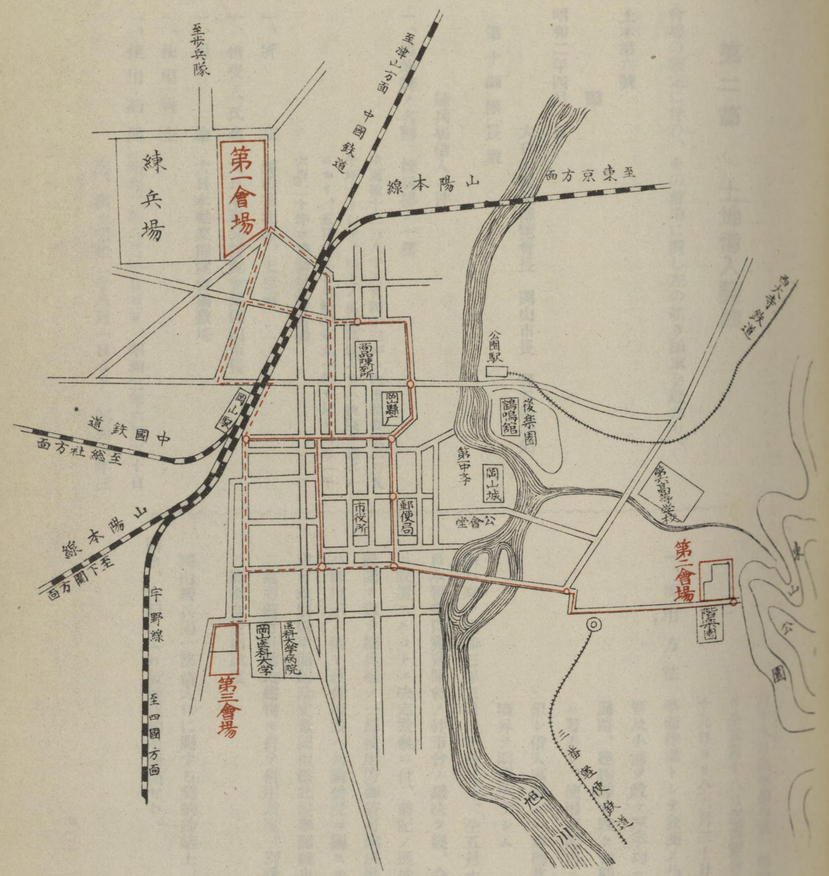
仝　赤木與三郎

仝　森安豐次郎

本意見書に對する提出理由として、市會議員岡田五三郎氏は、

提出者の一人として簡單に提出理由を申上げます、博覽會々場敷地問題に就ては市民諸君に於かれまして、當局並に市會議員より以上の熱心と御努力下されて居る事に對しては私は深甚なる感謝を致します。而して岡南有志諸君に於かせられましても熱烈に東奔西走せられて居つたのでありますが、當局の原案として提示された所を見て、其の期待は裏切られた事は吾人と共に誠に痛嘆至極の至りであります。併しながら飜つて岡商の狀態を考察致しますと云ふと、其の發展著しくして今や將に電鐵の延長も見んとして居り、各種事業も隨所に起つて居るに拘はず、市の施設に至つては百年一日の如く何等惠まれたるものもなく、道路計畫の如き市制始つて四十年未だそれらしいものもないので御座います故に、岡南市民諸君が熱烈に博覽會々場施設に、日夜寢んご寢食を忘れ寧日なく闘はれたのであります、而も不幸選定に漏れて居るのでありますが、此の趣旨書にも書いてある通り、第一會場を練兵場とし第二會場を東山とする時、岡山市民の福利は或は一方に偏するものと思ふのであります、此の故に當局に於かせられましては吾々の意のある所を酌量せられ、此の好適地を利用し第一第二會場の規模豫算を傷けざる範圍に於て、第三會場を設置せられんことを希ひ、多數の贊成を得て意見書を提出致しますものであります（下略）

と、說明畢るや、滿場異議なく讀會省略確定、遂に三ケ會場として分離するに至りしも、之れを岡山市として大觀せんか、第一會場たる練兵場は西北に、第二會場たる東山公園は東南に、第三會場たる舊鹿田驛跡は西南に、天下の名園後樂園は東北に位置し、市の四隅を占めたるを以て觀覽者は必ず、再三市内を通過せざるべからず、之れ市を紹介するには最もふさはしき會場配置と謂ふべし。


至兵隊
練兵場
第一會場
至東京方面
山陽本線
中國鐵道
至廣島方面
公園駅
後楽園
第甲字
岡山城
公會堂
第二會場
第三會場
中國鐵道
至總社方面
山陽本線
至廣島方面
宇野線
至四國方面

會場配置圖

第二節　土地借入契約

會場の確定に伴ひ、その敷地に關し左の如き顚末を經たり。

土木第六號

願

昭和二年四月一日

大日本勸業博覽會長　岡山市長　窪谷逸次郎

第十師團長殿

練兵場借入ノ件

一、目的物ノ名稱　練兵場ノ一部

總面積十三万八千八百四十三坪ノ内出願面積三万五千坪ナリシガ、如上ノ出願區域ニテハ狹隘ヲ感ズルニヨリ、五月廿五日付勸博第九一號ヲ以テ四万一千六百二十坪ニ擴張借入方出願

一、所　在　岡山市北方、上伊福

一、借受人氏名　大日本勸業博覽會長岡山市長

一、用　途　大日本勸業博覽會場敷地

一、使用料金

一、使用期間　昭和二年八月一日ヨリ、昭和三年六月三十日迄、但シ昭和二年八月一日ヨリ、昭和三年三月十九日迄準備作業、昭和三年三月二十日ヨリ仝五月十八日迄博覽會開會、昭和三年五月十九日ヨリ仝六月三十日迄復舊作業、

一、使用方法　準備作業トシテ表面ノ凸凹ヲ均ラレ、排水土管及小溝ヲ設ケ厚平均一寸通山土ヲ敷込庭園通路、建物等ヲ設ケ會期滿了ノ上ハ直ニ取拂ニ着手シ、使用期間内ニ原形ニ復シ返却ス、但シ借入區域ニハ本柵其他相當ノ方法ヲ以テ境界ヲ明瞭ナラシム

右ハ來ル昭和三年三月二十日ヨリ、仝五月十八日迄岡山市主催大日本勸業博覽會開會ノ件市會ノ議決ヲ經、仝會場ヲ練兵場ノ一部ニ設置スルコトニ決定致候ニ付、前記ノ通使用致度候條特別ノ御詮議ヲ以テ練兵場ノ一部使用方御許可相成度、尤モ使用料金ノ義ハ御指示ニ依リ納付可致ハ勿論借受ニ關スル條件ハ御指示ノ通遵守可致別紙平面圖及丈量圖相添此段奉願候也（圖面省略）

追而偕行社敷地建物モ併テ借用致度、別途偕行社ニ出頭可致候間御含置相成度

岡山練兵場一部借入れに關する契約締結上、八月四日市參事會を開き、左記により貸借契約を締結せり。

勸博第一八四號

昭和二年八月六日　　岡山市長　窪谷逸次郎

第十師團經理部留守主計正淺野龜次郎殿

岡山練兵場借入契約ニ關スル件

兼テ御承諾相受居候岡山市主催大日本勸業博覽會敷地トシテ岡山練兵場ノ一部借入ノ件、市參事會ニ於テ可決致候ニ付契約締結致度、別紙契約書貳通送付致候間、御捺印ノ上一通ハ御手許ニ保留相成、一通ハ直ニ御返送相成度候也（契約書ハ別記）

十經留營第二八九號

岡山練兵場一部貸付契約書送付ノ件

昭和二年八月八日　　第十師團經理部留守部

岡山市役所御中

首標契約書一部別冊及送付候也

追テ一部ハ當部ノ領置シ置キタルニ付申添候

契　約　書

岡山練兵場ノ一部ヲ岡山市主催大日本勸業博覽會々場敷地トシテ使用ニ關シ第十師團經理部留守主計正淺野龜次郎（以下甲ト稱ス）ハ岡山市長窪谷逸次郎（以下乙ト稱ス）ト左ノ條款ヲ契約ス、

第一條　使用地域ハ別紙圖面ノ位置ニ於テ四万一千六百二十坪トス、（圖面省略）

第二條　使用期間ハ準備作業及跡復舊ヲ含ミ昭和二年十二月一日ヨリ昭和三年五月三十一日迄トシ博覽會開會期ハ三月二十日ヨリ五月十八日迄トス、

第三條　前條使用期間内ト雖、博覽會開會期以外ノ時期ニ於テハ陸軍ノ使用ニ供スルコトアルモノトス、

第四條　使用料金ハ無料トス、

第五條　土地ノ變形、加工、工作物ノ設備ニ就テハ豫メ設計圖書ヲ甲ニ提示シ其承認ヲ受クルモノトス、

第六條　土地及定着物ノ復舊方法ハ一切甲ノ指示ニ依ルモノトス、

第七條　前條ノ復舊及殘材ノ場外搬出ハ使用期限滿了前ニ完結シ、甲若クハ甲ノ指名スル官吏ノ檢査ヲ受クルモノトス、若シ期限内ニ完了セザルカ又ハ其見込ナシト甲ニ於テ認定スルトキハ、甲ハ乙ノ費用ヲ以テ復舊ヲ實施スルモ一切異議ヲ申述ベザルモノトス、

第八條　使用地域西側ニハ内部ヲ通視シ得ザル如ク乙ニ於テ設備スルモノトス、

第九條　音樂興業的施設等ニシテ軍隊ノ演練教育ニ支障影響ヲ及ボスモノハ使用地域内ノ東部ニ於テ行フモノトス、

第十條　使用地域外練兵場ニ於テハ興業的施設及賣店類ノ開設其ノ他營利行爲ヲ爲サシメザル樣乙ニ於テ取締ルモノトス、

第十一條　使用地域ニ施工ノ爲地域外練兵場ノ排水ヲ不良ナラシメザル樣、乙ニ於テ相當ノ設備ヲナスモノトス、

右各條確守ノ證トシテ本書二通ヲ作成シ双方署名捺印ノ上各一通ヲ領置ス、

昭和二年七月二十日

第十師團經理部留守主計正　淺野龜次郎

岡山市長　窪谷逸次郎

練兵場貸借契約締結されたるにより、博覽會開催中特に岡山衞戍地所屬軍人並に關係者に對し優待すべく、八月六日第十師團留守經理部主計正に宛左の如く通知せり。

記

一、岡山衞戍地各部隊長並ニ經理部出張所主任及技手へ對シ、博覽會開催中通用ノ優待券ヲ贈呈ス、

二、同上部隊ノ準士官以上ノ將校全部ニ對シ一回限ノ優待券ヲ拾枚宛贈呈ス、

三、同上下士以下ノ兵卒並ニ軍屬全部ニ對シ軍人優待券ヲ五枚宛贈呈ス、

但徽章ナキモノニ對シテハ所屬部隊長ヨリ証明書ヲ携帶セシメラレ度、

四、同上備員ニ對シ一回限リノ優待券三枚宛ヲ贈呈ス（但以下同文）

五、現役軍人ニシテ軍服着用ノモノニ對シテハ演藝館ノ入場料ヲ半減トスベク幹旋ス、

但演藝館ノ經營ハ博覽會協賛會ノ事業ニ屬スルヲ以テ、同會館設立後ニ於テ交涉ヲ要ス、

第三會場敷地は市有地なるが、第二會場敷地借入に關する顚末を左に叙せん。

勸博第二〇五號

昭和二年八月二十二日

大日本勸業博覽會長　岡山市長　窪谷逸次郎

岡山電氣軌道株式會社々長殿

博覽會場敷地借入ノ件

一、位置、岡山市門田字愛宕下第八十五番ノ一宅地、

一、面積、一千百三十八坪八合、

一、使用目的、大日本勸業博覽會敷地、

一、使用方法、博覽會用諸建築物ヲ設ケ會期終了ノ上ハ原形ニ復シ返却ス、但シ必部ノ要分ニ植樹スルコトアルベシ、

一、使用期間、自昭和二年十月一日至昭和三年六月三十日、

一、使用料、無料

貴社所有ニ係ル前記土地、市ニ於テ明年開會ノ大日本勸業博覽會

場敷地トシテ借用致度ニ付御承諾相成度此段及照會候也、

發第三六〇號
昭和二年十一月十日

岡山電氣軌道株式會社支配人　妹尾敦

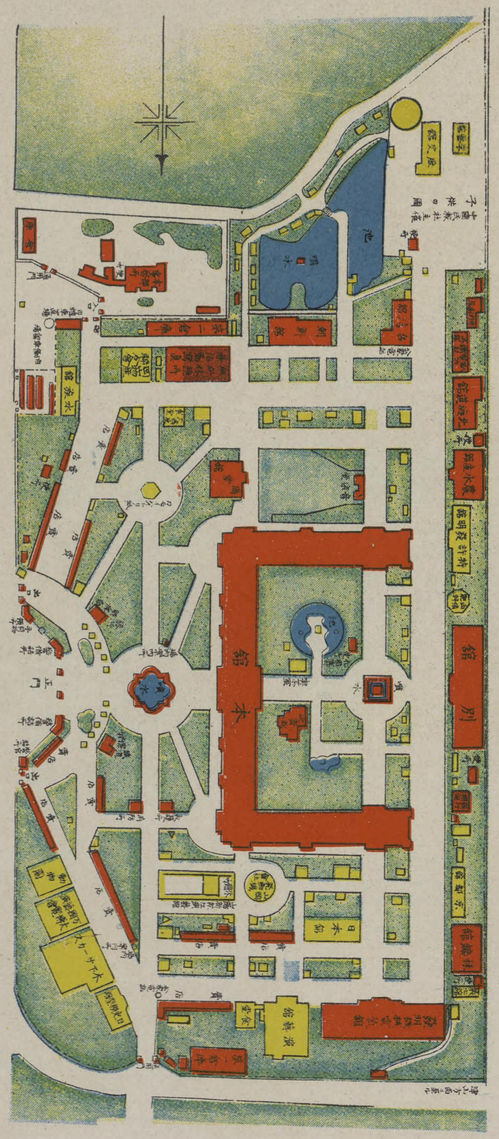
岡山市長筧谷逸次郎殿

當會社所有地御使用ノ件

首標ノ件本年八月二十二日付勸博第二〇五號ヲ以テ御來命相成候間、貴土木課及勸業課ニ對シ申述置候通リ、土地ノ御使用ニ就キテハ異議無之御諾可致候（下略）

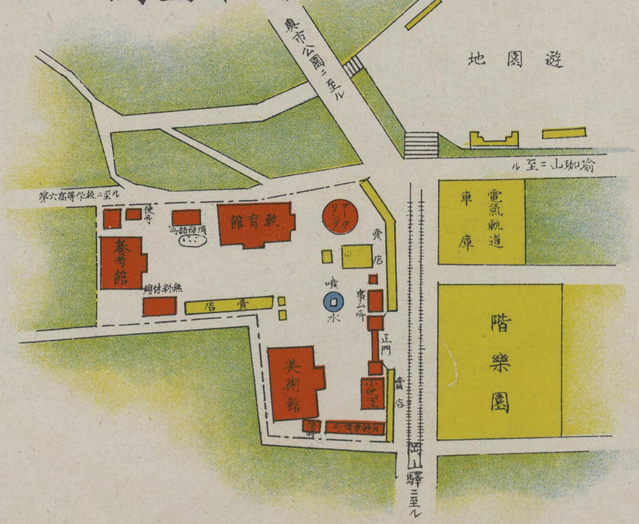
斯くの如くにして會場の位置及面積共決定を見るに至れるが、敷地總面積は四万七千七百二十坪にしてその內譯は左の如し。

第一會場　岡山練兵場東端一部借地四万一千六百二十坪、
第二會場　東山公園地市有及借地二千坪、
第三會場　舊鹿田驛跡大供東古松地內市有地四千百坪、

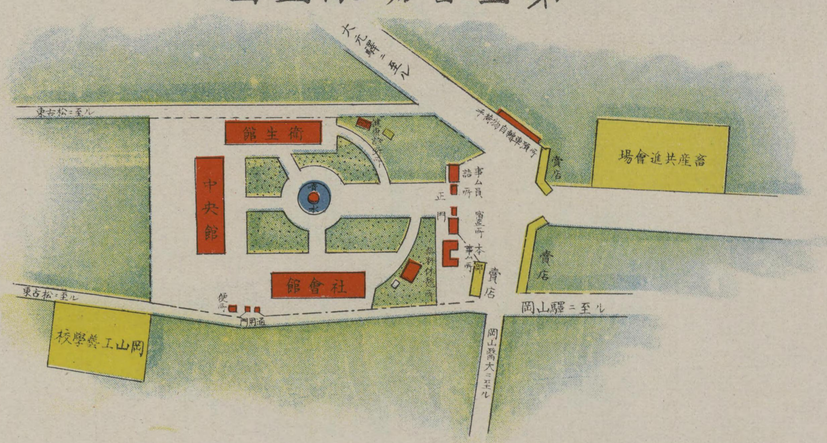


圖置配場會一第

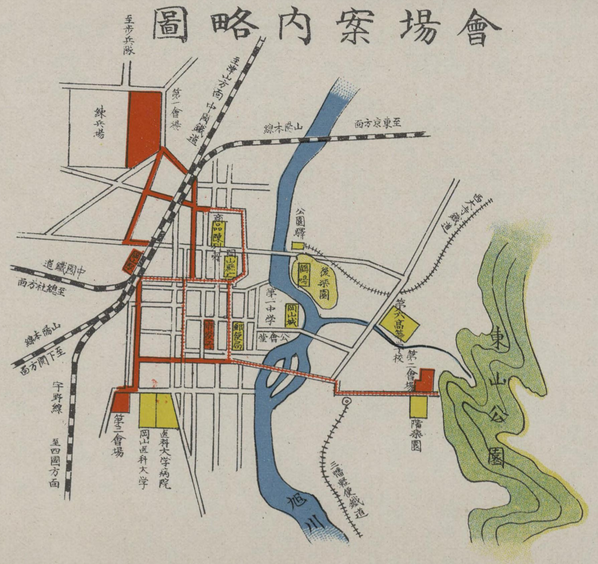
第二會場配置圖



第三會場配置圖



會場案内略圖


陸水場
第一會場
第二會場
第三會場
第四會場
第五會場
第六會場
第七會場
第八會場
第九會場
第十會場
第十一會場
第十二會場
第十三會場
第十四會場
第十五會場
第十六會場
第十七會場
第十八會場
第十九會場
第二十會場
第二十一會場
第二十二會場
第二十三會場
第二十四會場
第二十五會場
第二十六會場
第二十七會場
第二十八會場
第二十九會場
第三十會場
第三十一會場
第三十二會場
第三十三會場
第三十四會場
第三十五會場
第三十六會場
第三十七會場
第三十八會場
第三十九會場
第四十會場
第四十一會場
第四十二會場
第四十三會場
第四十四會場
第四十五會場
第四十六會場
第四十七會場
第四十八會場
第四十九會場
第五十會場
第五十一會場
第五十二會場
第五十三會場
第五十四會場
第五十五會場
第五十六會場
第五十七會場
第五十八會場
第五十九會場
第六十會場
第六十一會場
第六十二會場
第六十三會場
第六十四會場
第六十五會場
第六十六會場
第六十七會場
第六十八會場
第六十九會場
第七十會場
第七十一會場
第七十二會場
第七十三會場
第七十四會場
第七十五會場
第七十六會場
第七十七會場
第七十八會場
第七十九會場
第八十會場
第八十一會場
第八十二會場
第八十三會場
第八十四會場
第八十五會場
第八十六會場
第八十七會場
第八十八會場
第八十九會場
第九十會場
第九十一會場
第九十二會場
第九十三會場
第九十四會場
第九十五會場
第九十六會場
第九十七會場
第九十八會場
第九十九會場
第一百會場
第一百一會場
第一百二會場
第一百三會場
第一百四會場
第一百五會場
第一百六會場
第一百七會場
第一百八會場
第一百九會場
第一百十會場
第一百十一會場
第一百十二會場
第一百十三會場
第一百十四會場
第一百十五會場
第一百十六會場
第一百十七會場
第一百十八會場
第一百十九會場
第一百二十會場
第一百二十一會場
第一百二十二會場
第一百二十三會場
第一百二十四會場
第一百二十五會場
第一百二十六會場
第一百二十七會場
第一百二十八會場
第一百二十九會場
第一百三十會場
第一百三十一會場
第一百三十二會場
第一百三十三會場
第一百三十四會場
第一百三十五會場
第一百三十六會場
第一百三十七會場
第一百三十八會場
第一百三十九會場
第一百四十會場
第一百四十一會場
第一百四十二會場
第一百四十三會場
第一百四十四會場
第一百四十五會場
第一百四十六會場
第一百四十七會場
第一百四十八會場
第一百四十九會場
第一百五十會場
第一百五十一會場
第一百五十二會場
第一百五十三會場
第一百五十四會場
第一百五十五會場
第一百五十六會場
第一百五十七會場
第一百五十八會場
第一百五十九會場
第一百六十會場
第一百六十一會場
第一百六十二會場
第一百六十三會場
第一百六十四會場
第一百六十五會場
第一百六十六會場
第一百六十七會場
第一百六十八會場
第一百六十九會場
第一百七十會場
第一百七十一會場
第一百七十二會場
第一百七十三會場
第一百七十四會場
第一百七十五會場
第一百七十六會場
第一百七十七會場
第一百七十八會場
第一百七十九會場
第一百八十會場
第一百八十一會場
第一百八十二會場
第一百八十三會場
第一百八十四會場
第一百八十五會場
第一百八十六會場
第一百八十七會場
第一百八十八會場
第一百八十九會場
第一百九十會場
第一百九十一會場
第一百九十二會場
第一百九十三會場
第一百九十四會場
第一百九十五會場
第一百九十六會場
第一百九十七會場
第一百九十八會場
第一百九十九會場
第二百會場
第二百一會場
第二百二會場
第二百三會場
第二百四會場
第二百五會場
第二百六會場
第二百七會場
第二百八會場
第二百九會場
第二百十會場
第二百十一會場
第二百十二會場
第二百十三會場
第二百十四會場
第二百十五會場
第二百十六會場
第二百十七會場
第二百十八會場
第二百十九會場
第二百二十會場
第二百二十一會場
第二百二十二會場
第二百二十三會場
第二百二十四會場
第二百二十五會場
第二百二十六會場
第二百二十七會場
第二百二十八會場
第二百二十九會場
第二百三十會場
第二百三十一會場
第二百三十二會場
第二百三十三會場
第二百三十四會場
第二百三十五會場
第二百三十六會場
第二百三十七會場
第二百三十八會場
第二百三十九會場
第二百四十會場
第二百四十一會場
第二百四十二會場
第二百四十三會場
第二百四十四會場
第二百四十五會場
第二百四十六會場
第二百四十七會場
第二百四十八會場
第二百四十九會場
第二百五十會場
第二百五十一會場
第二百五十二會場
第二百五十三會場
第二百五十四會場
第二百五十五會場
第二百五十六會場
第二百五十七會場
第二百五十八會場
第二百五十九會場
第二百六十會場
第二百六十一會場
第二百六十二會場
第二百六十三會場
第二百六十四會場
第二百六十五會場
第二百六十六會場
第二百六十七會場
第二百六十八會場
第二百六十九會場
第二百七十會場
第二百七十一會場
第二百七十二會場
第二百七十三會場
第二百七十四會場
第二百七十五會場
第二百七十六會場
第二百七十七會場
第二百七十八會場
第二百七十九會場
第二百八十會場
第二百八十一會場
第二百八十二會場
第二百八十三會場
第二百八十四會場
第二百八十五會場
第二百八十六會場
第二百八十七會場
第二百八十八會場
第二百八十九會場
第二百九十會場
第二百九十一會場
第二百九十二會場
第二百九十三會場
第二百九十四會場
第二百九十五會場
第二百九十六會場
第二百九十七會場
第二百九十八會場
第二百九十九會場
第三百會場
第三百一會場
第三百二會場
第三百三會場
第三百四會場
第三百五會場
第三百六會場
第三百七會場
第三百八會場
第三百九會場
第三百十會場
第三百十一會場
第三百十二會場
第三百十三會場
第三百十四會場
第三百十五會場
第三百十六會場
第三百十七會場
第三百十八會場
第三百十九會場
第三百二十會場
第三百二十一會場
第三百二十二會場
第三百二十三會場
第三百二十四會場
第三百二十五會場
第三百二十六會場
第三百二十七會場
第三百二十八會場
第三百二十九會場
第三百三十會場
第三百三十一會場
第三百三十二會場
第三百三十三會場
第三百三十四會場
第三百三十五會場
第三百三十六會場
第三百三十七會場
第三百三十八會場
第三百三十九會場
第三百四十會場
第三百四十一會場
第三百四十二會場
第三百四十三會場
第三百四十四會場
第三百四十五會場
第三百四十六會場
第三百四十七會場
第三百四十八會場
第三百四十九會場
第三百五十會場
第三百五十一會場
第三百五十二會場
第三百五十三會場
第三百五十四會場
第三百五十五會場
第三百五十六會場
第三百五十七會場
第三百五十八會場
第三百五十九會場
第三百六十會場
第三百六十一會場
第三百六十二會場
第三百六十三會場
第三百六十四會場
第三百六十五會場
第三百六十六會場
第三百六十七會場
第三百六十八會場
第三百六十九會場
第三百七十會場
第三百七十一會場
第三百七十二會場
第三百七十三會場
第三百七十四會場
第三百七十五會場
第三百七十六會場
第三百七十七會場
第三百七十八會場
第三百七十九會場
第三百八十會場
第三百八十一會場
第三百八十二會場
第三百八十三會場
第三百八十四會場
第三百八十五會場
第三百八十六會場
第三百八十七會場
第三百八十八會場
第三百八十九會場
第三百九十會場
第三百九十一會場
第三百九十二會場
第三百九十三會場
第三百九十四會場
第三百九十五會場
第三百九十六會場
第三百九十七會場
第三百九十八會場
第三百九十九會場
第四百會場
第四百一會場
第四百二會場
第四百三會場
第四百四會場
第四百五會場
第四百六會場
第四百七會場
第四百八會場
第四百九會場
第四百十會場
第四百十一會場
第四百十二會場
第四百十三會場
第四百十四會場
第四百十五會場
第四百十六會場
第四百十七會場
第四百十八會場
第四百十九會場
第四百二十會場
第四百二十一會場
第四百二十二會場
第四百二十三會場
第四百二十四會場
第四百二十五會場
第四百二十六會場
第四百二十七會場
第四百二十八會場
第四百二十九會場
第四百三十會場
第四百三十一會場
第四百三十二會場
第四百三十三會場
第四百三十四會場
第四百三十五會場
第四百三十六會場
第四百三十七會場
第四百三十八會場
第四百三十九會場
第四百四十會場
第四百四十一會場
第四百四十二會場
第四百四十三會場
第四百四十四會場
第四百四十五會場
第四百四十六會場
第四百四十七會場
第四百四十八會場
第四百四十九會場
第四百五十會場
第四百五十一會場
第四百五十二會場
第四百五十三會場
第四百五十四會場
第四百五十五會場
第四百五十六會場
第四百五十七會場
第四百五十八會場
第四百五十九會場
第四百六十會場
第四百六十一會場
第四百六十二會場
第四百六十三會場
第四百六十四會場
第四百六十五會場
第四百六十六會場
第四百六十七會場
第四百六十八會場
第四百六十九會場
第四百七十會場
第四百七十一會場
第四百七十二會場
第四百七十三會場
第四百七十四會場
第四百七十五會場
第四百七十六會場
第四百七十七會場
第四百七十八會場
第四百七十九會場
第四百八十會場
第四百八十一會場
第四百八十二會場
第四百八十三會場
第四百八十四會場
第四百八十五會場
第四百八十六會場
第四百八十七會場
第四百八十八會場
第四百八十九會場
第四百九十會場
第四百九十一會場
第四百九十二會場
第四百九十三會場
第四百九十四會場
第四百九十五會場
第四百九十六會場
第四百九十七會場
第四百九十八會場
第四百九十九會場
第五百會場
第五百一會場
第五百二會場
第五百三會場
第五百四會場
第五百五會場
第五百六會場
第五百七會場
第五百八會場
第五百九會場
第五百十會場
第五百十一會場
第五百十二會場
第五百十三會場
第五百十四會場
第五百十五會場
第五百十六會場
第五百十七會場
第五百十八會場
第五百十九會場
第五百二十會場
第五百二十一會場
第五百二十二會場
第五百二十三會場
第五百二十四會場
第五百二十五會場
第五百二十六會場
第五百二十七會場
第五百二十八會場
第五百二十九會場
第五百三十會場
第五百三十一會場
第五百三十二會場
第五百三十三會場
第五百三十四會場
第五百三十五會場
第五百三十六會場
第五百三十七會場
第五百三十八會場
第五百三十九會場
第五百四十會場
第五百四十一會場
第五百四十二會場
第五百四十三會場
第五百四十四會場
第五百四十五會場
第五百四十六會場
第五百四十七會場
第五百四十八會場
第五百四十九會場
第五百五十會場
第五百五十一會場
第五百五十二會場
第五百五十三會場
第五百五十四會場
第五百五十五會場
第五百五十六會場
第五百五十七會場
第五百五十八會場
第五百五十九會場
第五百六十會場
第五百六十一會場
第五百六十二會場
第五百六十三會場
第五百六十四會場
第五百六十五會場
第五百六十六會場
第五百六十七會場
第五百六十八會場
第五百六十九會場
第五百七十會場
第五百七十一會場
第五百七十二會場
第五百七十三會場
第五百七十四會場
第五百七十五會場
第五百七十六會場
第五百七十七會場
第五百七十八會場
第五百七十九會場
第五百八十會場
第五百八十一會場
第五百八十二會場
第五百八十三會場
第五百八十四會場
第五百八十五會場
第五百八十六會場
第五百八十七會場
第五百八十八會場
第五百八十九會場
第五百九十會場
第五百九十一會場
第五百九十二會場
第五百九十三會場
第五百九十四會場
第五百九十五會場
第五百九十六會場
第五百九十七會場
第五百九十八會場
第五百九十九會場
第六百會場
第六百一會場
第六百二會場
第六百三會場
第六百四會場
第六百五會場
第六百六會場
第六百七會場
第六百八會場
第六百九會場
第六百十會場
第六百十一會場
第六百十二會場
第六百十三會場
第六百十四會場
第六百十五會場
第六百十六會場
第六百十七會場
第六百十八會場
第六百十九會場
第六百二十會場
第六百二十一會場
第六百二十二會場
第六百二十三會場
第六百二十四會場
第六百二十五會場
第六百二十六會場
第六百二十七會場
第六百二十八會場
第六百二十九會場
第六百三十會場
第六百三十一會場
第六百三十二會場
第六百三十三會場
第六百三十四會場
第六百三十五會場
第六百三十六會場
第六百三十七會場
第六百三十八會場
第六百三十九會場
第六百四十會場
第六百四十一會場
第六百四十二會場
第六百四十三會場
第六百四十四會場
第六百四十五會場
第六百四十六會場
第六百四十七會場
第六百四十八會場
第六百四十九會場
第六百五十會場
第六百五十一會場
第六百五十二會場
第六百五十三會場
第六百五十四會場
第六百五十五會場
第六百五十六會場
第六百五十七會場
第六百五十八會場
第六百五十九會場
第六百六十會場
第六百六十一會場
第六百六十二會場
第六百六十三會場
第六百六十四會場
第六百六十五會場
第六百六十六會場
第六百六十七會場
第六百六十八會場
第六百六十九會場
第六百七十會場
第六百七十一會場
第六百七十二會場
第六百七十三會場
第六百七十四會場
第六百七十五會場
第六百七十六會場
第六百七十七會場
第六百七十八會場
第六百七十九會場
第六百八十會場
第六百八十一會場
第六百八十二會場
第六百八十三會場
第六百八十四會場
第六百八十五會場
第六百八十六會場
第六百八十七會場
第六百八十八會場
第六百八十九會場
第六百九十會場
第六百九十一會場
第六百九十二會場
第六百九十三會場
第六百九十四會場
第六百九十五會場
第六百九十六會場
第六百九十七會場
第六百九十八會場
第六百九十九會場
第七百會場
第七百一會場
第七百二會場
第七百三會場
第七百四會場
第七百五會場
第七百六會場
第七百七會場
第七百八會場
第七百九會場
第七百十會場
第七百十一會場
第七百十二會場
第七百十三會場
第七百十四會場
第七百十五會場
第七百十六會場
第七百十七會場
第七百十八會場
第七百十九會場
第七百二十會場
第七百二十一會場
第七百二十二會場
第七百二十三會場
第七百二十四會場
第七百二十五會場
第七百二十六會場
第七百二十七會場
第七百二十八會場
第七百二十九會場
第七百三十會場
第七百三十一會場
第七百三十二會場
第七百三十三會場
第七百三十四會場
第七百三十五會場
第七百三十六會場
第七百三十七會場
第七百三十八會場
第七百三十九會場
第七百四十會場
第七百四十一會場
第七百四十二會場
第七百四十三會場
第七百四十四會場
第七百四十五會場
第七百四十六會場
第七百四十七會場
第七百四十八會場
第七百四十九會場
第七百五十會場
第七百五十一會場
第七百五十二會場
第七百五十三會場
第七百五十四會場
第七百五十五會場
第七百五十六會場
第七百五十七會場
第七百五十八會場
第七百五十九會場
第七百六十會場
第七百六十一會場
第七百六十二會場
第七百六十三會場
第七百六十四會場
第七百六十五會場
第七百六十六會場
第七百六十七會場
第七百六十八會場
第七百六十九會場
第七百七十會場
第七百七十一會場
第七百七十二會場
第七百七十三會場
第七百七十四會場
第七百七十五會場
第七百七十六會場
第七百七十七會場
第七百七十八會場
第七百七十九會場
第七百八十會場
第七百八十一會場
第七百八十二會場
第七百八十三會場
第七百八十四會場
第七百八十五會場
第七百八十六會場
第七百八十七會場
第七百八十八會場
第七百八十九會場
第七百九十會場
第七百九十一會場
第七百九十二會場
第七百九十三會場
第七百九十四會場
第七百九十五會場
第七百九十六會場
第七百九十七會場
第七百九十八會場
第七百九十九會場
第八百會場
第八百一會場
第八百二會場
第八百三會場
第八百四會場
第八百五會場
第八百六會場
第八百七會場
第八百八會場
第八百九會場
第八百十會場
第八百十一會場
第八百十二會場
第八百十三會場
第八百十四會場
第八百十五會場
第八百十六會場
第八百十七會場
第八百十八會場
第八百十九會場
第八百二十會場
第八百二十一會場
第八百二十二會場
第八百二十三會場
第八百二十四會場
第八百二十五會場
第八百二十六會場
第八百二十七會場
第八百二十八會場
第八百二十九會場
第八百三十會場
第八百三十一會場
第八百三十二會場
第八百三十三會場
第八百三十四會場
第八百三十五會場
第八百三十六會場
第八百三十七會場
第八百三十八會場
第八百三十九會場
第八百四十會場
第八百四十一會場
第八百四十二會場
第八百四十三會場
第八百四十四會場
第八百四十五會場
第八百四十六會場
第八百四十七會場
第八百四十八會場
第八百四十九會場
第八百五十會場
第八百五十一會場
第八百五十二會場
第八百五十三會場
第八百五十四會場
第八百五十五會場
第八百五十六會場
第八百五十七會場
第八百五十八會場
第八百五十九會場
第八百六十會場
第八百六十一會場
第八百六十二會場
第八百六十三會場
第八百六十四會場
第八百六十五會場
第八百六十六會場
第八百六十七會場
第八百六十八會場
第八百六十九會場
第八百七十會場
第八百七十一會場
第八百七十二會場
第八百七十三會場
第八百七十四會場
第八百七十五會場
第八百七十六會場
第八百七十七會場
第八百七十八會場
第八百七十九會場
第八百八十會場
第八百八十一會場
第八百八十二會場
第八百八十三會場
第八百八十四會場
第八百八十五會場
第八百八十六會場
第八百八十七會場
第八百八十八會場
第八百八十九會場
第八百九十會場
第八百九十一會場
第八百九十二會場
第八百九十三會場
第八百九十四會場
第八百九十五會場
第八百九十六會場
第八百九十七會場
第八百九十八會場
第八百九十九會場
第九百會場
第九百一會場
第九百二會場
第九百三會場
第九百四會場
第九百五會場
第九百六會場
第九百七會場
第九百八會場
第九百九會場
第九百十會場
第九百十一會場
第九百十二會場
第九百十三會場
第九百十四會場
第九百十五會場
第九百十六會場
第九百十七會場
第九百十八會場
第九百十九會場
第九百二十會場
第九百二十一會場
第九百二十二會場
第九百二十三會場
第九百二十四會場
第九百二十五會場
第九百二十六會場
第九百二十七會場
第九百二十八會場
第九百二十九會場
第九百三十會場
第九百三十一會場
第九百三十二會場
第九百三十三會場
第九百三十四會場
第九百三十五會場
第九百三十六會場
第九百三十七會場
第九百三十八會場
第九百三十九會場
第九百四十會場
第九百四十一會場
第九百四十二會場
第九百四十三會場
第九百四十四會場
第九百四十五會場
第九百四十六會場
第九百四十七會場
第九百四十八會場
第九百四十九會場
第九百五十會場
第九百五十一會場
第九百五十二會場
第九百五十三會場
第九百五十四會場
第九百五十五會場
第九百五十六會場
第九百五十七會場
第九百五十八會場
第九百五十九會場
第九百六十會場
第九百六十一會場
第九百六十二會場
第九百六十三會場
第九百六十四會場
第九百六十五會場
第九百六十六會場
第九百六十七會場
第九百六十八會場
第九百六十九會場
第九百七十會場
第九百七十一會場
第九百七十二會場
第九百七十三會場
第九百七十四會場
第九百七十五會場
第九百七十六會場
第九百七十七會場
第九百七十八會場
第九百七十九會場
第九百八十會場
第九百八十一會場
第九百八十二會場
第九百八十三會場
第九百八十四會場
第九百八十五會場
第九百八十六會場
第九百八十七會場
第九百八十八會場
第九百八十九會場
第九百九十會場
第九百九十一會場
第九百九十二會場
第九百九十三會場
第九百九十四會場
第九百九十五會場
第九百九十六會場
第九百九十七會場
第九百九十八會場
第九百九十九會場
第一千會場
第一千一會場
第一千二會場
第一千三會場
第一千四會場
第一千五會場
第一千六會場
第一千七會場
第一千八會場
第一千九會場
第一千十會場
第一千十一會場
第一千十二會場
第一千十三會場
第一千十四會場
第一千十五會場
第一千十六會場
第一千十七會場
第一千十八會場
第一千十九會場
第一千二十會場
第一千二十一會場
第一千二十二會場
第一千二十三會場
第一千二十四會場
第一千二十五會場
第一千二十六會場
第一千二十七會場
第一千二十八會場
第一千二十九會場
第一千三十會場
第一千三十一會場
第一千三十二會場
第一千三十三會場
第一千三十四會場
第一千三十五會場
第一千三十六會場
第一千三十七會場
第一千三十八會場
第一千三十九會場
第一千四十會場
第一千四十一會場
第一千四十二會場
第一千四十三會場
第一千四十四會場
第一千四十五會場
第一千四十六會場
第一千四十七會場
第一千四十八會場
第一千四十九會場
第一千五十會場
第一千五十一會場
第一千五十二會場
第一千五十三會場
第一千五十四會場
第一千五十五會場
第一千五十六會場
第一千五十七會場
第一千五十八會場
第一千五十九會場
第一千六十會場
第一千六十一會場
第一千六十二會場
第一千六十三會場
第一千六十四會場
第一千六十五會場
第一千六十六會場
第一千六十七會場
第一千六十八會場
第一千六十九會場
第一千七十會場
第一千七十一會場
第一千七十二會場
第一千七十三會場
第一千七十四會場
第一千七十五會場
第一千七十六會場
第一千七十七會場
第一千七十八會場
第一千七十九會場
第一千八十會場
第一千八十一會場
第一千八十二會場
第一千八十三會場
第一千八十四會場
第一千八十五會場
第一千八十六會場
第一千八十七會場
第一千八十八會場
第一千八十九會場
第一千九十會場
第一千九十一會場
第一千九十二會場
第一千九十三會場
第一千九十四會場
第一千九十五會場
第一千九十六會場
第一千九十七會場
第一千九十八會場
第一千九十九會場
第一千一百會場
第一千一百一會場
第一千一百二會場
第一千一百三會場
第一千一百四會場
第一千一百五會場
第一千一百六會場
第一千一百七會場
第一千一百八會場
第一千一百九會場
第一千一百十會場
第一千一百十一會場
第一千一百十二會場
第一千一百十三會場
第一千一百十四會場
第一千一百十五會場
第一千一百十六會場
第一千一百十七會場
第一千一百十八會場
第一千一百十九會場
第一千一百二十會場
第一千一百二十一會場
第一千一百二十二會場
第一千一百二十三會場
第一千一百二十四會場
第一千一百二十五會場
第一千一百二十六會場
第一千一百二十七會場
第一千一百二十八會場
第一千一百二十九會場
第一千一百三十會場
第一千一百三十一會場
第一千一百三十二會場
第一千一百三十三會場
第一千一百三十四會場
第一千一百三十五會場
第一千一百三十六會場
第一千一百三十七會場
第一千一百三十八會場
第一千一百三十九會場
第一千一百四十會場
第一千一百四十一會場
第一千一百四十二會場
第一千一百四十三會場
第一千一百四十四會場
第一千一百四十五會場
第一千一百四十六會場
第一千一百四十七會場
第一千一百四十八會場
第一千一百四十九會場
第一千一百五十會場
第一千一百五十一會場
第一千一百五十二會場
第一千一百五十三會場
第一千一百五十四會場
第一千一百五十五會場
第一千一百五十六會場
第一千一百五十七會場
第一千一百五十八會場
第一千一百五十九會場
第一千一百六十會場
第一千一百六十一會場
第一千一百六十二會場
第一千一百六十三會場
第一千一百六十四會場
第一千一百六十五會場
第一千一百六十六會場
第一千一百六十七會場
第一千一百六十八會場
第一千一百六十九會場
第一千一百七十會場
第一千一百七十一會場
第一千一百七十二會場
第一千一百七十三會場
第一千一百七十四會場
第一千一百七十五會場
第一千一百七十六會場
第一千一百七十七會場
第一千一百七十八會場
第一千一百七十九會場
第一千一百八十會場
第一千一百八十一會場
第一千一百八十二會場
第一千一百八十三會場
第一千一百八十四會場
第一千一百八十五會場
第一千一百八十六會場
第一千一百八十七會場
第一千一百八十八會場
第一千一百八十九會場
第一千一百九十會場
第一千一百九十一會場
第一千一百九十二會場
第一千一百九十三會場
第一千一百九十四會場
第一千一百九十五會場
第一千一百九十六會場
第一千一百九十七會場
第一千一百九十八會場
第一千一百九十九會場
第一千二百會場
第一千二百一會場
第一千二百二會場
第一千二百三會場
第一千二百四會場
第一千二百五會場
第一千二百六會場
第一千二百七會場
第一千二百八會場
第一千二百九會場
第一千二百十會場
第一千二百十一會場
第一千二百十二會場
第一千二百十三會場
第一千二百十四會場
第一千二百十五會場
第一千二百十六會場
第一千二百十七會場
第一千二百十八會場
第一千二百十九會場
第一千二百二十會場
第一千二百二十一會場
第一千二百二十二會場
第一千二百二十三會場
第一千二百二十四會場
第一千二百二十五會場
第一千二百二十六會場
第一千二百二十七會場
第一千二百二十八會場
第一千二百二十九會場
第一千二百三十會場
第一千二百三十一會場
第一千二百三十二會場
第一千二百三十三會場
第一千二百三十四會場
第一千二百三十五會場
第一千二百三十六會場
第一千二百三十七會場
第一千二百三十八會場
第一千二百三十九會場
第一千二百四十會場
第一千二百四十一會場
第一千二百四十二會場
第一千二百四十三會場
第一千二百四十四會場
第一千二百四十五會場
第一千二百四十六會場
第一千二百四十七會場
第一千二百四十八會場
第一千二百四十九會場
第一千二百五十會場
第一千二百五十一會場
第一千二百五十二會場
第一千二百五十三會場
第一千二百五十四會場
第一千二百五十五會場
第一千二百五十六會場
第一千二百五十七會場
第一千二百五十八會場
第一千二百五十九會場
第一千二百六十會場
第一千二百六十一會場
第一千二百六十二會場
第一千二百六十三會場
第一千二百六十四會場
第一千二百六十五會場
第一千二百六十六會場
第一千二百六十七會場
第一千二百六十八會場
第一千二百六十九會場
第一千二百七十會場
第一千二百七十一會場
第一千二百七十二會場
第一千二百七十三會場
第一千二百七十四會場
第一千二百七十五會場
第一千二百七十六會場
第一千二百七十七會場
第一千二百七十八會場
第一千二百七十九會場
第一千二百八十會場
第一千二百八十一會場
第一千二百八十二會場
第一千二百八十三會場
第一千二百八十四會場
第一千二百八十五會場
第一千二百八十六會場
第一千二百八十七會場
第一千二百八十八會場
第一千二百八十九會場
第一千二百九十會場
第一千二百九十一會場
第一千二百九十二會場
第一千二百九十三會場
第一千二百九十四會場
第一千二百九十五會場
第一千二百九十六會場
第一千二百九十七會場
第一千二百九十八會場
第一千二百九十九會場
第一千三百會場
第一千三百一會場
第一千三百二會場
第一千三百三會場
第一千三百四會場
第一千三百五會場
第一千三百六會場
第一千三百七會場
第一千三百八會場
第一千三百九會場
第一千三百十會場
第一千三百十一會場
第一千三百十二會場
第一千三百十三會場
第一千三百十四會場
第一千三百十五會場
第一千三百十六會場
第一千三百十七會場
第一千三百十八會場
第一千三百十九會場
第一千三百二十會場
第一千三百二十一會場
第一千三百二十二會場
第一千三百二十三會場
第一千三百二十四會場
第一千三百二十五會場
第一千三百二十六會場
第一千三百二十七會場
第一千三百二十八會場
第一千三百二十九會場
第一千三百三十會場
第一千三百三十一會場
第一千三百三十二會場
第一千三百三十三會場
第一千三百三十四會場
第一千三百三十五會場
第一千三百三十六會場
第一千三百三十七會場
第一千三百三十八會場
第一千三百三十九會場
第一千三百四十會場
第一千三百四十一會場
第一千三百四十二會場
第一千三百四十三會場
第一千三百四十四會場
第一千三百四十五會場
第一千三百四十六會場
第一千三百四十七會場
第一千三百四十八會場
第一千三百四十九會場
第一千三百五十會場
第一千三百五十一會場
第一千三百五十二會場
第一千三百五十三會場
第一千三百五十四會場
第一千三百五十五會場
第一千三百五十六會場
第一千三百五十七會場
第一千三百五十八會場
第一千三百五十九會場
第一千三百六十會場
第一千三百六十一會場
第一千三百六十二會場
第一千三百六十三會場
第一千三百六十四會場
第一千三百六十五會場
第一千三百六十六會場
第一千三百六十七會場
第一千三百六十八會場
第一千三百六十九會場
第一千三百七十會場
第一千三百七十一會場
第一千三百七十二會場
第一千三百七十三會場
第一千三百七十四會場
第一千三百七十五會場
第一千三百七十六會場
第一千三百七十七會場
第一千三百七十八會場
第一千三百七十九會場
第一千三百八十會場
第一千三百八十一會場
第一千三百八十二會場
第一千三百八十三會場
第一千三百八十四會場
第一千三百八十五會場
第一千三百八十六會場
第一千三百八十七會場
第一千三百八十八會場
第一千三百八十九會場
第一千三百九十會場
第一千三百九十一會場
第一千三百九十二會場
第一千三百九十三會場
第一千三百九十四會場
第一千三百九十五會場
第一千三百九十六會場
第一千三百九十七會場
第一千三百九十八會場
第一千三百九十九會場
第一千四百會場
第一千四百一會場
第一千四百二會場
第一千四百三會場
第一千四百四會場
第一千四百五會場
第一千四百六會場
第一千四百七會場
第一千四百八會場
第一千四百九會場
第一千四百十會場
第一千四百十一會場
第一千四百十二會場
第一千四百十三會場
第一千四百十四會場
第一千四百十五會場
第一千四百十六會場
第一千四百十七會場
第一千四百十八會場
第一千四百十九會場
第一千四百二十會場
第一千四百二十一會場
第一千四百二十二會場
第一千四百二十三會場
第一千四百二十四會場
第一千四百二十五會場
第一千四百二十六會場
第一千四百二十七會場
第一千四百二十八會場
第一千四百二十九會場
第一千四百三十會場
第一千四百三十一會場
第一千四百三十二會場
第一千四百三十三會場
第一千四百三十四會場
第一千四百三十五會場
第一千四百三十六會場
第一千四百三十七會場
第一千四百三十八會場
第一千四百三十九會場
第一千四百四十會場
第一千四百四十一會場
第一千四百四十二會場
第一千四百四十三會場
第一千四百四十四會場
第一千四百四十五會場
第一千四百四十六會場
第一千四百四十七會場
第一千四百四十八會場
第一千四百四十九會場
第一千四百五十會場
第一千四百五十一會場
第一千四百五十二會場
第一千四百五十三會場
第一千四百五十四會場
第一千四百五十五會場
第一千四百五十六會場
第一千四百五十七會場
第一千四百五十八會場
第一千四百五十九會場
第一千四百六十會場
第一千四百六十一會場
第一千四百六十二會場
第一千四百六十三會場
第一千四百六十四會場
第一千四百六十五會場
第一千四百六十六會場
第一千四百六十七會場
第一千四百六十八會場
第一千四百六十九會場
第一千四百七十會場
第一千四百七十一會場
第一千四百七十二會場
第一千四百七十三會場
第一千四百七十四會場
第一千四百七十五會場
第一千四百七十六會場
第一千四百七十七會場
第一千四百七十八會場
第一千四百七十九會場
第一千四百八十會場
第一千四百八十一會場
第一千四百八十二會場
第一千四百八十三會場
第一千四百八十四會場
第一千四百八十五會場
第一千四百八十六會場
第一千四百八十七會場
第一千四百八十八會場
第一千四百八十九會場
第一千四百九十會場
第一千四百九十一會場
第一千四百九十二會場
第一千四百九十三會場
第一千四百九十四會場
第一千四百九十五會場
第一千四百九十六會場
第一千四百九十七會場
第一千四百九十八會場
第一千四百九十九會場
第一千五百會場
第一千五百一會場
第一千五百二會場
第一千五百三會場
第一千五百四會場
第一千五百五會場
第一千五百六會場
第一千五百七會場
第一千五百八會場
第一千五百九會場
第一千五百十會場
第一千五百十一會場
第一千五百十二會場
第一千五百十三會場
第一千五百十四會場
第一千五百十五會場
第一千五百十六會場
第一千五百十七會場
第一千五百十八會場
第一千五百十九會場
第一千五百二十會場
第一千五百二十一會場
第一千五百二十二會場
第一千五百二十三會場
第一千五百二十四會場
第一千五百二十五會場
第一千五百二十六會場
第一千五百二十七會場
第一千五百二十八會場
第一千五百二十九會場
第一千五百三十會場
第一千五百三十一會場
第一千五百三十二會場
第一千五百三十三會場
第一千五百三十四會場
第一千五百三十五會場
第一千五百三十六會場
第一千五百三十七會場
第一千五百三十八會場
第一千五百三十九會場
第一千五百四十會場
第一千五百四十一會場
第一千五百四十二會場
第一千五百四十三會場
第一千五百四十四會場
第一千五百四十五會場
第一千五百四十六會場
第一千五百四十七會場
第一千五百四十八會場
第一千五百四十九會場
第一千五百五十會場
第一千五百五十一會場
第一千五百五十二會場
第一千五百五十三會場
第一千五百五十四會場
第一千五百五十五會場
第一千五百五十六會場
第一千五百五十七會場
第一千五百五十八會場
第一千五百五十九會場
第一千五百六十會場
第一千五百六十一會場
第一千五百六十二會場
第一千五百六十三會場
第一千五百六十四會場
第一千五百六十五會場
第一千五百六十六會場
第一千五百六十七會場
第一千五百六十八會場
第一千五百六十九會場
第一千五百七十會場
第一千五百七十一會場
第一千五百七十二會場
第一千五百七十三會場
第一千五百七十四會場
第一千五百七十五會場
第一千五百七十六會場
第一千五百七十七會場
第一千五百七十八會場
第一千五百七十九會場
第一千五百八十會場
第一千五百八十一會場
第一千五百八十二會場
第一千五百八十三會場
第一千五百八十四會場
第一千五百八十五會場
第一千五百八十六會場
第一千五百八十七會場
第一千五百八十八會場
第一千五百八十九會場
第一千五百九十會場
第一千五百九十一會場
第一千五百九十二會場
第一千五百九十三會場
第一千五百九十四會場
第一千五百九十五會場
第一千五百九十六會場
第一千五百九十七會場
第一千五百九十八會場
第一千五百九十九會場
第一千六百會場
第一千六百一會場
第一千六百二會場
第一千六百三會場
第一千六百四會場
第一千六百五會場
第一千六百六會場
第一千六百七會場
第一千六百八會場
第一千六百九會場
第一千六百十會場
第一千六百十一會場
第一千六百十二會場
第一千六百十三會場
第一千六百十四會場
第一千六百十五會場
第一千六百十六會場
第一千六百十七會場
第一千六百十八會場
第一千六百十九會場
第一千六百二十會場
第一千六百二十一會場
第一千六百二十二會場
第一千六百二十三會場
第一千六百二十四會場
第一千六百二十五會場
第一千六百二十六會場
第一千六百二十七會場
第一千六百二十八會場
第一千六百二十九會場
第一千六百三十會場
第一千六百三十一會場
第一千六百三十二會場
第一千六百三十三會場
第一千六百三十四會場
第一千六百三十五會場
第一千六百三十六會場
第一千六百三十七會場
第一千六百三十八會場
第一千六百三十九會場
第一千六百四十會場
第一千六百四十一會場
第一千六百四十二會場
第一千六百四十三會場
第一千六百四十四會場
第一千六百四十五會場
第一千六百四十六會場
第一千六百四十七會場
第一千六百四十八會場
第一千六百四十九會場
第一千六百五十會場
第一千六百五十一會場
第一千六百五十二會場
第一千六百五十三會場
第一千六百五十四會場
第一千六百五十五會場
第一千六百五十六會場
第一千六百五十七會場
第一千六百五十八會場
第一千六百五十九會場
第一千六百六十會場
第一千六百六十一會場
第一千六百六十二會場
第一千六百六十三會場
第一千六百六十四會場
第一千六百六十五會場
第一千六百六十六會場
第一千六百六十七會場
第一千六百六十八會場
第一千六百六十九會場
第一千六百七十會場
第一千六百七十一會場
第一千六百七十二會場
第一千六百七十三會場
第一千六百七十四會場
第一千六百七十五會場
第一千六百七十六會場
第一千六百七十七會場
第一千六百七十八會場
第一千六百七十九會場
第一千六百八十會場
第一千六百八十一會場
第一千六百八十二會場
第一千六百八十三會場
第一千六百八十四會場
第一千六百八十五會場
第一千六百八十六會場
第一千六百八十七會場
第一千六百八十八會場
第一千六百八十九會場
第一千六百九十會場
第一千六百九十一會場
第一千六百九十二會場
第一千六百九十三會場
第一千六百九十四會場
第一千六百九十五會場
第一千六百九十六會場
第一千六百九十七會場
第一千六百九十八會場
第一千六百九十九會場
第一千七百會場
第一千七百一會場
第一千七百二會場
第一千七百三會場
第一千七百四會場
第一千七百五會場
第一千七百六會場
第一千七百七會場
第一千七百八會場
第一千七百九會場
第一千七百十會場
第一千七百十一會場
第一千七百十二會場
第一千七百十三會場
第一千七百十四會場
第一千七百十五會場
第一千七百十六會場
第一千七百十七會場
第一千七百十八會場
第一千七百十九會場
第一千七百二十會場
第一千七百二十一會場
第一千七百二十二會場
第一千七百二十三會場
第一千七百二十四會場
第一千七百二十五會場
第一千七百二十六會場
第一千七百二十七會場
第一千七百二十八會場
第一千七百二十九會場
第一千七百三十會場
第一千七百三十

第九章　工營

第一節　工事設計

各會場の位置決定に次ぎ、工營部員の任命と共に部員湯淺藤四郎大野信巳、部主任大森多三郎の諸氏は相前後して、當時福岡市に於て開催中の東亞勸業博覽會を視察し、四月二十日歸所以來建築の配置並に計畫等に没頭し、六月四日、その決定を告げ、同月三十日主要建築物の構圖も亦完成したるが、更に内容の整備、外觀の意匠等につき完璧を期せんがため、委員大野信巳、主任大森多三郎の兩氏は七月二十日上京、本會の名譽顧問にして我が國建築意匠界の權威たる東京帝國大學工學部長工學博士伊東忠太氏に面接、設計の査閲を經、七月三十日歸所、愈々本設計を急ぎ八月十七日主要諸建築全部の製圖、設計を完り、こゝに會館配置建築構成に關し大體の決定を見るに至れり。

これより先き建築工事費を最も經濟的に行使せんがために、或る程度迄は古材使用の計畫を樹て、之れが實現については一般公入札に依る能はざるにより特に事情あるものに限り隨意契約方、市會に提案、遂に其の可決を見たるは昭和二年六月二十七日なり。

第九十一號議案

昭和二年度繼續事業トシテ開催スル大日本勸業博覽會建設工事ニシテ古材ヲ利用スルモノハ競爭入札ニ附セズ隨意契約ヲナスコトヲ得ルモノトス、

理　由

經濟的ニ工事ヲ施行セントスルニ因ル、

之れと相前後して博覽會諸施設の實現準備として、國縣市道の一時占用方關係方面へ出願せり。

國縣市道一時占用又工作物施設

種別	位置	工事又ハ行爲ノ種類	出願	許可
市道	岡山市西古松	廣サ板塀長九尺巾一尺高三十尺杉丸太亞鉛板張彩色	昭和二年十月廿六日	昭和二年十一月八日
國道	岡山市北方地内第十九號國道	第一會場正門並ニ通用門出入ノタメ橋梁架設幅員一間五分ノモノ四十五間同幅員ノモノ二十三間平百二坪	昭和二年三月廿一日	昭和三年一月十一日
縣道	岡山市門田自八十五ノ一至九十一ノ一	第二會場表門及賣店ヲ建築シ道路沿ヒ排水溝ヲ設ク	昭和三年一月十二日	昭和三年一月三十日
鐵道局前面	岡山驛前庭	廣告塔建設、廣告塔地上ヨリ十三、二米突底大サ一、八米突角一基	昭和二年五月十六日	昭和二年八月廿七日
	岡山驛前	勸迎門建設ノタメ八平方坪	昭和三年三月九日	昭和三年二月十四日

第二節　地鎭祭並起工式

會場各館の工事請負人決定するや、本會前途の福祉を天神地祇に

祈るべく、昭和二年九月廿八日を期し第一會場に於て、次いで十一月十四日第二會場に於て、十一月三十日第三會場に於てそれ〳〵地鎭祭並に起工式を擧行せり。

これより先き式場の周圍には齋竹を建て、七五三繩を張り幔幕を繞らし、神座の中央正面には神饌臺を設け、神座前の左右には樂舍職員席、工事請負者等の席を設けたり。午前十時三發の煙火、中空に磐聲を擧げて熾烈するや、各員着席最も嚴に式典は開始せられたり。

地鎭祭及起工式順序

一、參列者着席　各所定ノ席ニ着ク

一、齋主以下齋員着席　各所定ノ席ニ着ク

先修祓　祓詞ヲ白ス

大麻行事

塩水行事

次、齋主降神行事、警蹕、管絃、一同起立

次、神饌ヲ供ス　（此間奏樂）

次、齋主祝詞ヲ奏ス　（一同起立）

次、齋主玉串ヲ奉リテ拜禮、齋員坐後列拜　（此間奏樂）

次、名譽總裁玉串ヲ奉リテ拜禮

次、總裁玉串ヲ奉リテ拜禮

次、會長玉串ヲ奉リテ拜禮　（職員列拜）

次、來賓各總代玉串ヲ奉リテ拜禮　（來賓列拜）

次、工事請負人玉串ヲ奉リテ拜禮

次、會長鍬初

次、隅柏ニテ四方ヲ祓フ

次、神饌ヲ撤ス

次、齋主昇神行事、警蹕、菅奏、（此間奏樂）（一同起立）

一、各退出、閉宴、

本式典に於ける齋主は第一會場は尾針神社々掌富山銀一郎氏、第二會場は玉井、東照兩宮社司佐々木寥氏、第三會場は石門別神社々掌高須常孝氏にして、神前に奉りたる祝詞は左の如し。

第一會場地鎭祭祝詞

吉備乃道口奈留三枝草乃岡山市練兵場乃眞廣伎是乃所乎拂比清米氐忌竹爾注連引廻志眞榊爾木綿取垂天招齋比令坐奉留掛卷久母畏伎大地主大神、埴山姫大神、産土大神等乃大前爾此乃里乎領座須尾針神社々掌富山銀一郎嚴鉾乃中採持天畏美畏美母曰左久今般此乃所乎朝日乃直射寸所夕日乃日係留所止撰比定米弖大日本勸業博覽會乃家居乃家造築建武止忌鋤忌鍬取持麁草苅退介石切開伎土曳平均志弖種々乃物乎机代爾置足波志滿並天大御祭仕奉久乎皇神等乃御心毛平爾聞食志天築建武家床乃下津磐根乃極美下津綱根昆蟲乃禍無久衝建留柱戸窓乃錯比動伎鳴留事無久地震香久土乃禍無久常磐爾堅奠爾守惠美幸閉給閉止玉串採々爾捧奉里天畏美畏美毛白寸

第二會場地鎭祭祝詞

是乃地乎祭時止注連引回志神籬立氐招奉里齋奉留掛卷麻久毛畏伎產土八神大地主大神等乃神靈乃大前爾縣社玉井東照兩宮乃社司佐々木寥恐美恐美毛白佐久此度此乃岡山乃東乃直區奈留此乃地乎朝風乃清伎所夕露乃佐夜氣伎所人澤爾寄里來牟便利乃伊止與伎所止撰定米弖大日本勸業博覽會第二會場乎建弖設介武止爲弖吉伎例乃住爾忌鍬以知弖荒草刈拂比忌鍬以知弖木根墾開伎右切平均志士曳平均志被比清米美志在處根止齋比定米弖今日乃生日乃足日爾吉日止撰毘弖大神等乃宇豆乃大前爾齋回里清回里弖種々乃御食都物乎棒奉里齋比奉里弖乞祈奉良久波今志祭鎭奉留此乃會場波底津岩根乃極搖來牟地震爾動伎傾久克無久吹荒備降瀨留雨風爾崩毀布支無堅石爾常石爾宇麻伎所乃善伎所止守里幸閉給閉止畏美畏美毛彌辭竟奉良久止白須

第三會場地鎭祭祝詞

日本國岡山縣岡山市大日本勸業博覽會第三會場代乃地乎荒草乎苅里取里地堅爲忌竹爾神繩引回良志厳乃神籬指立天厳乃齋場止祓清米氐奉招令座奉類掛卷毛綾仁畏伎伊邪那岐神伊邪那美神乃埴山彦神埴山姫神產土神五柱神乃大前爾此地乎領座須產土神乃神社乃神職愼美拜美畏美畏美毛白左久天地初發之時此乃大地乃久羅下那洲多陀用幣琉時天御中主神高御產靈神神產靈神諸命以知伊氐邪那岐命伊邪那美命爾是乃多陀用幣琉國乎修理固成世止天沼矛乎賜比氐言依賜比志其久御言乃隨爾修理固米給比國土乎造成志賜比氐築爾皇御孫命乃御食國止成禮里然加有里氐今會場造營流爾先地堅爲奈流波多陀用幣琉國乎修理固成志給比志爾依里其乃上爾柱立爲奈流波國土爾天沼矛衝支立氐給比氐國之御柱止定米給比志貴支幽支御由緒乃例爾依禮流業爾氐有禮婆此乃二柱大神乃守護里給比埴山彦神埴山姫神相資計成志給比氐大地彌堅久彌締里爾締氐下動美無久築立留柱乃動支傾久事無久會場造乃業爾津々美無久速爾合成畢米給比氐其會場乃成里奈牟後波堅磐常爾常磐爾守給比幸閉給閉止今日乃生日乃足爾日地鎭御祭仕奉留乃受氐御食和稻荒稻御酒波奢上高知奢腹並弖鰭乃廣物鰭乃狹物奥津藻菜自淸淺藻菜甘菜辛菜木實取加反種々乃物乎机代爾置足波志氐弖此乃岡山市與里宇豆乃幣帛捧奉良久乎所聞食宇豆那比給閉止恐美恐美止神壽豐譯稱言竟奉良久登白須

第三節　會舘建設

博覽會建設工事隨意契約の件可決に次ぎ、本舘及び主要建築物は至急請負締結の要あるを以て、八月二十二日工營部理事會の承認を經、同月二十四日金澤市高岡町八日市屋清太郎氏に對し、本舘建築工事の契約を指命したり。

大日本勸業博覽會新築工事設計仕樣書（抄）

一、本工事ハ岡山市請負竇買規則ニ依リ施工スルモノトス、

一、本工事ハ別紙設計圖面並ニ本仕樣書ニ依リ係員ノ指揮ヲ受ケ施工スルモノトス、

一、本工事ノ竣工期限ハ昭和三年二月十日限トス、但シ内部ノ竣工ハ仝年三月五日限トス、

一、本工事竣工檢査後ト雖モ萬一雨漏ヲ生ジタル時或ハ工事施工上ノ不完全ニヨル破損又ハ故障等ノ起リタル場合ハ係員ノ指揮ニ從ヒ即時完全ニ修理ヲ行フベシ、此費用ハ請負人ノ負擔トス、

一、工事完成後昭和三年六月二十日迄使用シ該建物ハ仝部無償ニテ本工事請負人ニ交付スルモノトス、

一、請負人ハ建物ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ一ケ月以内ニ自己ノ費用ヲ以テ建物ヲ撤去シ敷地ヲ原形ニ復スベシ、

若シ期限内ニナサザル時ハ他ノ者ヲシテナサシメ、之レガ經費ハ保證金中ヨリ控除シ尙不足スル時ハ追徵ス、

一、本工事竣工前ト雖モ電燈電話電鈴陳列裝飾、其他ノ工事ヲ施行スル場合ハ請負人ニ於テ異議ヲ申立ツルヲ得ズ、又足場其他ノ便宜ヲ與フベシ、

一、本工事ハ柱、軸部材、小屋組材、窓、入口、建具、壁下地材料等スベテ東亞勸業博覽會本館建物古材ヲ使用スルモノトス

但シ係員ニ於テ使用ニ耐エザルモノト認メタル物ハ使用スルコトヲ得ズ、

一、材料ハ一々係員ノ檢査ヲ受ケ檢査濟ノ物ヲ使用スベシ、補足材ハ新材又ハ耐久力アル古材ヲ使用スベシ、

一、力材ニシテ特ニ大ナル壓力ヲ受クベキ物ハ新材又ハ之レ以上ノ耐力ヲ有スル古材ヲ使用スベシ、

一、本館塔屋其他高四十尺以上ノ箇處ニ使用スル柱ハ新材ヲ使用シ其他ノ材料ハ相當耐力アル古材ヲ使用スルコトヲ得、

一、本工事施工ニ當リテハ飾物其他構造等總テ主要部ニシテ別紙圖面ニナキ箇處ハ現場ニ於テ係員ノ提出スル現寸圖詳細圖ニ依リ指揮ノ通リ請負人ハ之レヲ施工スルモノトス、

一、本工事ハ別紙設計圖面及本仕樣書ニ依リ施工スト雖モ施工手續上當然ナサザル箇處ハ本設計ニナキモノト雖モ、請負費用ニテ指揮ノ通リ施工スベシ、

一、本設計ハ施工ノ大要ヲ示シタルニヨリ設計圖ト仕樣書トニ相違ノ箇處ヲ生ズルカ、或ハ誤記脫落ノ箇處又ハ施工上ニ當リ疑問ヲ生ジタル時ハ監督技師ノ指揮ニ依ルベシ、

第一會場本館の工事契約締結したるにより委員湯淺藤四郎、事務囑託國安新次郎の兩氏は九月二十日、陸軍側の立會の下に第一會場敷地境界線の決定杭入れを行ふと共に、建物配置並に道路、溝渠の測定、溶溜惡水の排除等場內一般の掃除に當り、九月二十八日をトし第一會場地鎭祭並に起工式を擧行したるが、第二、第三會場も亦會場の整地工事に着手したり。

會場整地工事

會場	起工	竣工	概要
第二會場	昭和二年六月十五日	昭和二年七月十四日	市有地五百三十四坪三合ヲ平均六勺三歩埋立工事
第三會場	昭和二年七月十一日	昭和二年十月廿四日	切取一千七百十九坪五合、盛土一千六百六十三坪四合

第三會場敷地工事に關連し、岡山市大供地內第二號國道第二十二號線の一部、元鐵道宇野線の橫斷のため勾配急に、車馬の通行に支障勘からざるにより、國道の一部を切り下げ交通に便するの必要を認め、九月十四日岡山縣知事に對し國道市費修繕許可方申請の處、十月十四日許可の指令に接したるにより工事に着手、十一月三十日竣工、交通上一新生面を拓きたり。

第一會場

九月廿八日發明機械電氣館、農水產館、林鑛館等の建築工事を契約し、爾來設計の完成につれ隨意契約に或は指名競爭入札を以て逐次工事の契約を締結したるが、昭和三年一月以降建築工事現場監督を附し只管施工上遺憾無きを期したり。

斯くの如くして諸般の工事着々進捗し、開會期日に完成を告げたるは天候の順調なりしと、一に當事担任者の熱心努力の然らしむる處にして、今主なる會館を列記すれば左の如し。

館名	起工	竣工	建坪	構造及樣式一斑	經費	建築請負人
正門	昭和二年十一月二十日	昭和三年三月十日		正門奥行四尺幅百二十尺兩面庇付入口柵取付、地盤ヨリパラペット尖端迄三十二尺、木造リパラペット天端及庇亞鉛鍍鐵板葺キ、外部總体大壁仕上、出入口柵及屋根ペンキ塗、壁コンクリート塗料塗パラペット上旗及彫刻文字配列、	五、五六〇〇	西崎馬次
（內譯）正門入口	〃	〃	三ケ所八、四〇坪	大入口三ケ所ヲ設ケ、之レニ高六十尺ノ塔一對ヲ對照式ニ配置シ、之レヲ大パラペットヲ以テ連絡セシメ、細部ハ總テ直線式ヲ以テ豐富ナル幾何畫的立體模樣ノ持送、其ニ窓上下其他ニ應ジ之レニ赤線ノ色彩ヲ帶バシメ、壁ノ黃色ト調和ヲ計リ豐艷ナル美觀ヲ表ハス樣式ハモダンセセッション式ニ「アラビヤ」藝術ヲ加味ス、		
切符賣場	〃	〃	二ケ所			
警備員詰所	〃	〃	二ケ所			
手荷物預所	〃	〃	三、三三			
警官詰所	〃	〃	七、三五			
出口門	〃	〃	二ケ所			
塀	〃	〃	延長一二〇尺〇	警備員詰所梁行平均二間、桁行平均七間、此建坪十四坪、地盤ヨリ塔屋天端迄六十尺、木柱木造リ塔及小屋組ニ屋根塔上端亞		

別館	本館	
昭和二年九月二十八日	昭和二年八月廿九日	
昭和三年三月十二日	昭和三年三月十二日	
四二五坪五〇	二、三三六坪	
	梁行十間餘、桁行二百間餘、此建坪二千百二十二坪六合六勺、木造塗屋平屋建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤線ヨリ軒桁天迄二十二尺、屋根勾配四寸五分天窓勾配七寸	鉛錢鐵波板及平板葺キ、ペンキ塗リ及外部壁コンクリート塗料仕上壁内外大壁天井布張リ、塔上施彫刻
	中央大玄關ニ直經一間高二十尺ノ柱列四本テ、建テ玄關上ニハ高百五十尺ノ高塔テ建ツ、塔ノ根部四角形ヨリ十二菱形ニ變化セシメ最上部ニ至リ圓形ノモノトス	手荷物預所梁行二間餘、桁行六間半餘、建坪十三坪一合二勺、軒高地盤ヨリパラペット天端迄十八尺、木柱木造リ陸屋根及パラペット裏面亞鉛鍍鐵板葺内外大壁、荷物置棚取付
	本館ノ配置ハ凹字形左右均等式トナシ、各隅部並ニ兩端部ハ何レモ高六十尺ノ高塔四箇テ排シ、此下部ニ大入口テ設ケ經四尺以上ノ大柱列テ配置セリ	警官詰所、梁行二間、桁行三間半、建坪七坪二合五勺、地盤ヨリパラペット天端迄十八尺、木柱木造リ小屋組屋根パラペット裏亞鉛鍍鐵板葺内外大壁仕上ペンキ塗及水性塗料塗
二、三三六坪	ライト式テ加味シタル近世式建築ニシテ細部ハ表現式浮出模様テ以テ裝飾シ新味テ表現シ、窓ハ桃形窓トシ「マッシブ」モノトシ、建築物全體ノ表現チシテ宏壯雄大ナラシム	出口門木柵作二ケ所、門柱高サ地盤ヨリ二十二尺、木造リ組合外部漆喰塗リ仕上格好及彫刻、木柵ペンキ塗水性塗料塗
	梁行十間餘、桁行四十間餘、本造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸	塀延長百四十尺、高地盤ヨリ十尺、兩側出入口、門脇ナシ、木製外部總體漆喰仕上、腰二尺通リ、モルタル塗、水性塗料仕上
四二五坪五〇	インデリツシゴシック式建築ニシテ裝飾ハ尖頭形ノ窓、ローツウンドー其他ゴチツク特有ノホニーサックル唐草模様テ畫キ、色彩ハオリーブ、グリーンチ用ヒ優雅高尚ノ觀チ呈ス	梁行十間餘、桁行二百間餘、此建坪二千百二十二坪六合六勺、木造塗屋平屋建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤線ヨリ軒桁天迄二十二尺、屋根勾配四寸五分天窓勾配七寸
一、三三六坪	梁行十間餘、桁行二十五間餘木造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸	梁行十間餘、桁行四十間餘、本造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸
昭和二年九月廿八日	建築樣式セセツシヨン式ニシテ裝飾ハ直線式、中央ニ大ペデメント以上ノ大柱列テ配置セリ	建築樣式セセツシヨン式ニシテ裝飾ハ直線式、中央ニ大ペデメントテ附ケ幾何畫模樣テ施シ、各細部ハ色彩テ以テシ高尚優雅ノ美觀テ與フ
昭和三年三月十二日	梁行十間餘、桁行二十五間餘木造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸	梁行十間餘、桁行十五間餘、木造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸
四二五坪五〇	建築樣式セセツシヨン式ニシテ裝飾ハ直線式、中央支關ニ高七十尺ノ高塔テ設ケ幾何畫模樣ヲ施ン、瀟洒ニシテ雄大ノ觀チ與フ	梁行十間餘、桁行十五間餘、木造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸
一〇、八九九円五五	八日市屋清太郎	八日市屋清太郎
昭和二年十一月二十日	銀行郵便局出張所	
昭和三年三月十日		
一七、三五坪		
四、一八四円九〇	八日市屋清太郎	
昭和二年九月二十八日	農水産館	
昭和三年三月十二日		
一七、三五坪		
五五円〇〇	西崎馬次	
昭和二年九月廿八日	發明機械電氣館	
昭和三年三月十二日		
四八、三〇坪		
梁行十間餘、桁行二十間餘木造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸		
建築樣式セセツシヨン式ニシテ裝飾ハ直線式、中央支關ニ高七十尺ノ高塔テ設ケ幾何畫模樣ヲ施シ、各細部ハ色彩ヲ以テシ高尚優雅ノ觀チ與フ		
昭和二年九月廿八日	林鑛館	
昭和三年三月十二日		
一四〇坪〇〇		
梁行十間餘、桁行二十五間餘木造塗家平家建、亞鉛引波形鐵板葺、軒高地盤ヨリ軒桁上端迄二十二尺屋根勾配四寸五分、天窓勾配七寸		
インデリツシゴシック式建築ニシテ裝飾ハ尖頭形ノ窓、ローツウンドー其他ゴチツク特有ノホニーサックル唐草模樣テ畫キ、色彩ハオリーブ、グリーンチ用ヒ優雅高尚ノ觀チ呈ス		
四四五、六八	八日市屋清太郎	

消防詰所	昭和二年十一月二十日	昭和三年三月十日	坪二五、五〇	ベツト裏面及塔屋根平屋葺、内外大壁仕上ペンキ及水性塗料塗外ニ咖筒上家三坪、建築様式ライト式	四五五円	西崎馬次
救護所	昭和二年十一月二十日	昭和三年三月十日	坪七、〇〇	折曲三間、五間餘、木造平屋建、地盤ヨリパラペツト天端迄十二尺、木柱木造リ、陸屋根及パラペツト裏亞鉛引鐵板葺キ、内外漆喰仕上、ペンキ及水性塗料塗、仕上彫刻文字、ライト式建築	五一〇円	西崎馬次
無料休憩所	昭和二年十一月二十日	昭和三年三月十日	坪三三、三三	梁行七十尺、桁行百二十尺木造平屋建、軒高地盤ヨリ桁天端迄十五尺、木柱木造小屋組、屋根亞鉛鍍金波形鐵板葺、腰三尺通リ羽目板張リ、屋根ペンキ塗仕上外廻リニ天幕二百十六坪チ張ル	三、八四〇円	西崎馬次
第一倉庫	昭和二年十一月四日	昭和三年三月五日	坪三三、〇〇	梁行十六間半、桁行八間、木造平家建、軒高地盤ヨリ桁上端迄十六尺、小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺、外部壁亞鉛引リブプレー張	二、二三〇円	西崎馬次
通用門見張所	昭和二年十二月五日	昭和三年三月一日	坪三、八七	梁行一間、桁行一間半、木造平家建、軒高地盤ヨリ桁天端迄十一尺五寸、木柱木造小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺、壁内外大壁仕上ペンキ及水性塗料塗	一〇一円	井上藤五郎
場内案内所	昭和二年十二月五日	昭和三年三月一日	坪（二棟）二一、〇〇	梁行二間、桁行一間半、十棟木造平家建、百三十一戸、軒高地盤ヨリ軒天端迄八尺六寸、木柱木造、小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺、内外大壁漆食塗リペンキ及水性塗料塗	四一〇円	井上藤五郎
賣店	昭和二年十二月五日	昭和三年三月一日	坪三九、〇〇	梁行一間、桁行一間、木造平屋建、軒高地盤ヨリ桁天端迄八尺、木柱木造、小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺、内外大壁漆食塗リペンキ及水性塗料塗	四一〇円	井上藤五郎
自動車置場	昭和二年十二月五日	昭和三年三月一日	坪三五、五〇	梁行二間半、桁行八間、木造平屋建、軒高地盤ヨリ桁天端迄八尺六寸、木柱木造、小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺、内外大壁漆食塗リペンキ及水性塗料塗	四一〇円	井上藤五郎

公衆便所	昭和二年十二月五日	昭和三年三月一日	坪三一、五〇	梁行一間半、桁行三間、手洗所附、木造平屋建七棟、軒高地盤ヨリ軒桁天端迄七尺七寸、木柱木造、小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺壁内外間仕切共亞鉛板片面張リ屋根及壁内外共総体ペンキ塗リ仕上、床盛土ニ和土叩キ仕上	一、二七〇円	井上藤五郎
化粧付便所	昭和二年十二月五日	昭和三年三月一日	坪七、五〇	梁行二間半、桁行三間、木造平屋建、軒高地盤ヨリパラペツト天端迄十三尺五寸、木造木造リ小屋組ミ屋根亞鉛鍍鐵板葺、壁内外大壁漆喰塗、腰二尺五寸通リモルタル仕上、内部各室床モルタル仕上、腰タイル張リ彫刻文字	三五〇円	井上藤五郎
北側通用門	昭和二年十二月廿八日	昭和三年三月五日	一ケ所	奥行五尺二寸、巾二十七尺ニ付附屬切符賣場一坪、地盤ヨリ柱型天端迄十四尺六寸、木造リ組合七屋根、亞鉛鍍金鐵板葺、外部総体大壁仕上、出入口棚及出入口扉屋根ペンキ塗、壁コンクリート塗料塗	三八〇円	伊丹勇三郎
自轉車預所	昭和三年一月十七日	昭和三年三月十日	坪六一、五〇	梁行二間、桁行十間二棟、梁行一間桁行十間餘二棟、木造平家建、木造リ木柱小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺、各棟妻上部並ニ會場ニ面セル外廻リ全部下見板張リ屋根及外部見ヘ掛リ総体ペンキ塗仕上	九三〇円	松本吉平
第二倉庫	昭和三年一月十七日	昭和三年三月十五日	坪一〇〇、〇〇	梁行四間、桁行二十五間、木造平家建、屋根亞鉛引鐵板張リ、周圍腰リブプレート張リ上部壁塗リ、窓硝子戸建チ入口戸木枠亞鉛引鐵板張リ	一、四〇〇円	八日市屋清太郎
電氣開閉所	昭和二年十二月五日	昭和三年三月一日	坪三、〇〇	梁行一間五分、桁行二間、木柱堀リ建、外部壁塗リ屋根亞鉛引鐵板張リ内部桁下六分板張一部土間、一部疊張	一四五円	西崎馬次
飛行機格納庫	昭和三年三月十一日	昭和三年三月十五日	坪三五、五	梁行五間五分、桁行七間五分、方形軒高十尺、勾配五寸以上、帆布十オンスノモノヲ使用、外ニ飛行機物置七坪、外棚十二間	三五五円	分島年

第二會場

館名	起工竣工	建坪	構造及樣式一斑	經費	建築請負人
迎賓館	昭和三年二月廿三日 昭和三年三月十八日	五八、五坪	梁行四間半、桁行六間、梁行二間半、桁行三間、梁行一間半、桁行三間、梁行二間半、桁行二間半、木造平家建、屋根下地ハ板張リコケラ二寸足葺、茶色ペンキ塗、建築樣式表顯的フレンチカツテーヂ式、裝飾ハ直線式表顯樣ナリ	二、一五四円〇〇	伊丹勇三郎
鐵道案內所	昭和三年二月廿二日 昭和三年三月十五日	三、五坪	梁行三間、桁行四間、附屋便所、木造平家建、亞鉛鍍鐵板葺、軒高十尺パラペツト天端迄十八尺	四三〇〇円	西崎馬次
通用門井塀	昭和三年一月十七日 昭和三年二月十五日	塀間七五、五尺	通用門巾九尺、高七尺兩開キ戸車付二ケ所、倘自轉車置場通用門二ケ所塀高地盤ヨリ天端迄七尺五寸、木造亞鉛鍍板張	二四五、五〇円	八日市屋清太郎

第二會場

館名	起工竣工	建坪	構造及樣式一斑	經費	建築請負人
參考館	昭和二年十一月十日 昭和三年三月十日	二五、五坪	梁行十二間半、桁行八間、木造平家建塔付、軒高地盤ヨリ桁天迄、十二尺、木柱木造リ小屋組、屋根亞鉛引鐵板葺、一部天窓付、內外大壁仕上建具建込ニペンキ及水性塗料塗仕上建築樣式ゴウックチ加味シタルセセシヨン式、裝飾ハ直線式ニシテ落着タル偉觀ヲ覺ヘシム	七、二三〇、八〇円（教育館共合算）	井上藤五郎
教育館	昭和二年十一月十日 昭和三年三月十日	一三、五坪	梁行八間、桁行十三間、木造リ平家建、軒高サ地盤ヨリ桁天迄二十二尺、木造リ小屋組屋根亞鉛鍍鐵板葺、一部天窓付內外大壁仕上、建具建込ペンキ及水性塗料塗仕上建築樣式ゴシック式裝飾ハ現的ゴシック式裝飾ハ垂直線ヲ以テシ色彩線彫ヲ施シテ落着タル偉觀ヲ覺ヘシム	七、二三〇、八〇円（參考館共合算）	井上藤五郎
			梁行十間、桁行十四間半、木造リ平家建、軒高サ地盤ヨリ桁天迄二十二尺、木柱木造リ小屋組ミ、屋根亞鉛引鐵板葺、一部天	三、九六八、七五円	八日市屋清太郎

館名	起工竣工	建坪	構造及樣式一斑	經費	建築請負人
美術館	昭和二年十二月二日 昭和三年三月三日	一四七、五坪	窓付內外大壁仕上、建具建込ミペンキ及壁塗料塗建築樣式モダンレネツサンス式、裝飾自由ナル手法ヲ取リ圓形ノパラペツトヲ廻シ色彩ヲ附シタル彫刻ヲ付シ、清新ノ氣ヲ喚起セシム	三、九六八、七五円	八日市屋清太郎
正門及切符賣場警備員詰所	昭和二年十二月廿五日 昭和三年三月十日	八、九四坪	梁行十尺、桁行十尺、建築樣式分離派式、裝飾入口圓形細部ハ彫刻直線ヲ以テナシ色彩ヲ施シ豪快ノ感ヲ與フ	五四〇円〇〇	井上藤五郎
宿直室	昭和二年十二月廿五日 昭和三年三月十日	一四、三五坪	梁行二間半、桁行三間、木造平家建、切妻造リ外部漆喰塗リ、屋根亞鉛鍍鐵板葺、各建具建込ミ小使室宿直室トス	六五〇円〇〇	井上藤五郎
公衆便所	昭和二年十二月廿五日 昭和三年三月十日	三、〇〇坪	梁行一間半、桁行二間、木造平家建柱堀建、外部漆喰塗、屋根亞鉛鍍鐵葺各建具建込ミ、內部床コンクリート叩キ厚三寸	一三〇円〇〇	井上藤五郎
警官詰所	昭和三年一月十七日 昭和三年三月十八日	一、〇〇坪	梁行一間、桁行一間、亞鉛引鐵板葺	三五円〇〇	井上藤五郎
手荷物及自轉車置場	昭和三年三月二日 昭和三年三月十五日	六、〇〇坪	梁行一間、桁行六間、木造屋根亞鉛引鐵板葺、柱堀建、荷物棚及自轉車立チ設ク	二八〇円〇〇	井上藤五郎
消火ポンプ格納庫兼物置	昭和三年三月二日 昭和三年三月十五日	五、〇〇坪	梁行二間、桁行二間半、木造柱堀建、屋根亞鉛鍍鐵板葺	四五〇円〇〇	井上藤五郎
境界塀	昭和二年十二月廿五日 昭和三年三月十日	延長一四四、一七坪	地盤ヨリ笠木天端迄七尺、通用門幅九尺一ケ所	三五二、八〇円	井上藤五郎

第三會場

館名	起工竣工	建坪	構造及樣式一斑	經費	建築請負人
正門及警備員詰所切符賣場	昭和二年十二月廿五日 昭和三年三月十日	二三、六坪	梁行二間、桁行三間、木造平家建、柱堀建外部漆喰塗リ、屋根亞鉛鍍鐵板葺キ、各建具建込ミ內部床板張正門建築樣式ヌーボー式裝飾自由ナル曲線ノパラペツトヲ附ケ	八四〇円〇〇	西崎馬次

	入口ニ基ノ女人裸像ノ浮出彫刻チナシ細部ハ色彩チ以テ華麗ナル異彩チ放ツ					
社會館	梁行五間、桁行二十間、木造平家建、軒高地盤ヨリ桁天迄十八尺木柱木造リ小屋組ミ、屋根亞鉛引鐵板葺、一部天窓付内外大壁仕上、建具建込ミ、ペンキ及水性塗料塗 建築様式ハ分離派式ニシテ直線式ノ裝飾チ施シ簡素ナル觀チ與フ	昭和二年十一月二十日	昭和三年三月十日	一〇六坪	西崎馬次	七、八〇〇、〇〇円（衛生中央館ト合算）
衛生館	梁行五間、桁行二十間、木造平家建、軒高廿地盤ヨリ桁天迄十八尺、木柱木造リ小屋組ミ、屋根亞鉛鍍鐵板葺、一部天窓付、内外大壁仕上、建具建込ミ、ペンキ及ビ水性塗料塗 建築様式フレンチネツサンス式及ビセセツシヨン式トノ折衷式ニシテ裝飾ハ中央ニ尖圓形ノ大バラペツトチ設ケ之レニ美術的影刻チ施シ豐麗優雅ノ觀チ與フ	昭和二年十一月二十日	昭和三年三月十日	一〇七、六坪	西崎馬次	七、八〇〇、〇〇円（社會中央館ト合算）
中央館	梁行五間、桁行二十間、木造平家建、軒高廿地盤ヨリ桁天迄十八尺、木造リ木柱組ミ屋根亞鉛引鐵板葺キ一部天窓付内外大壁仕上、建具建込ミ、ペンキ及水性塗料塗 建築様式分離派式ニシテ裝飾トシテ中央ニ高六十尺ノ高塔チ建テ、之レニセセツシヨン式ノ彫刻チ施シ雄大ナル感ヲ與フ	昭和二年十一月二十日	昭和三年三月十日	一〇三、〇〇坪	西崎馬次	七、八〇〇、〇〇円（社會衛生館ト合算）
宿直室	梁行二間半、桁行三間、木造平家建切妻造リ、外部漆喰塗リ屋根亞鉛鍍鐵板葺、建具建込ミ小使室宿直室トス	昭和二年十二月廿五日	昭和三年三月十日	二四坪	西崎馬次	六五、〇〇円
公衆便所	梁行一間半、桁行二間、木造平家建、柱堀建外部漆喰塗リ、屋根亞鉛鍍鐵板葺キ、各建具建込ミ、内部床コンクリート叩キ厚三寸	昭和二年十二月廿五日	昭和三年三月十日	三、〇〇坪	西崎馬次	一二、〇〇〇円
手荷物及自轉車預所	梁行一間、桁行十間、木造平家建、屋根亞鉛鍍鐵板葺	昭和三年二月廿四日	昭和三年三月十八日	一〇坪	伊丹勇三郎	二八〇〇円

會場外建設

名稱	建設位置	起工	竣工	構造及樣式一斑	經費	建築請負人
健康保險相談所		昭和三年三月十二日	昭和三年三月十九日	梁行二間、桁行四間、木造平家建、屋根亞鉛引鐵板葺、小屋西洋小屋ニ組合セ外部外壁ハ板張リニクレオソード塗	二九〇円	西崎馬次
案内所		昭和三年一月十七日	昭和三年三月十八日	梁行一間、桁行一間、木造平家、亞鉛引平板葺	五円	西崎馬次
境界塀	堺	昭和二年十二月廿五日	昭和三年三月十日	延長間塀高地盤ヨリ笠木天端迄七尺、通用門巾九尺	三七、二〇円	西崎馬次
廣告塔	岡山驛前	昭和二年九月廿一日	昭和二年十月十二日	宣傳振作、廣告塔參照	六五、三〇円	井上藤五郎
歡迎門	岡山驛前	昭和三年三月十一日	昭和三年三月十九日	高四十尺、幅二十二間、木造鐵板張リ及ビ木造布張ハ表面ペンキ塗、門柱兩面ニハ岡山市並ニ協賛會ノ文字チ、上部アーチニハ「大日本勸業博覽會岡山市主催及ビ各會場、會期」等チ表示セリ。夜間昭明ニ要シタル電飾ハ十燭光六百六十八、五十燭光二十二燈ナリ	四、三四八、七六円	神田傳吉

第四節　道路、溝渠、橋梁

本會第一會場に於ける道路は正門入口に設置せる日本生命保險株式會社の噴水塔を中心として放射狀に六條の通路と南北二條の大道路とを設く、北は興業地帶より南無料休憩所に通ずるもの及林鐵館前より別館前を通じて、小供の國に至るもの、更に東西二條の大道路は、林鐵館前より發明機械電氣館演藝館前を通りて興業地帶に至り北賣店前より出口に至るもの、及び水族館前より八幡製鐵館前に至るもの等を緯とし、外に東西南北數條の道路を經として連絡せり、路面勾配二十分の一とし、路面には砂利を敷均し、其の他修繕用

としては豫備砂利を各所に準備し、常傭夫をして路面に撒布し常に凸凹切均し等に従事せしめたり。

第一會場に於ける道路延長二千百五十間八合にして、総面積一万九百八十九坪に達せるが、其の内譯を表示すれば、

第一會場道路

幅員	延長	面積
二間	七〇、〇	一四〇、〇〇坪
三、〇	一八五、〇	五五五、〇〇
四、〇	一四三、〇	五六八、〇〇
五、〇	三九八、八	一、九九、〇〇
六、〇	八五六、〇	五、一三六、〇〇
七、五	一五、〇	一〇五、〇〇
八、〇	二五〇、〇	一、九五〇、〇〇
九、〇	一八一、〇	一、四四八、〇〇
一〇、〇	一三、〇	一〇八、〇〇
一二、〇	四〇、〇	四八〇、〇〇
一七、〇	三五、〇	五九五、〇〇
一五	八〇、〇	一一〇、〇〇
合計	二、一五〇、八	三、七四四、〇〇

第二會場の道路は諸建築、噴水池、庭園を除く総べてにして総面積五百七十坪、第三會場は幅員三間のもの六十間、幅員四間のもの百間、幅員八間のもの二十間、総延長百八十間なり。

道路設置材料

會場	名稱	數量
第一會場	盛土	六三、五立坪
	上置豆砂利	一五三、〇
第二會場	盛土	三〇、七五
第三會場	上置豆砂利	五五、〇〇

道路の兩側には排水溝を設け、雨水の排除に便したるが、排水路は開渠式及び暗渠式（木樋式）とし、通路其の他危險の慮ある箇所には多く木樋を用ゐ、橋梁は土橋、板橋等其の通路の狀態に應じて架設し、特に會場全體の美觀を損せざるやう考慮を拂ひたり。

排水溝渠

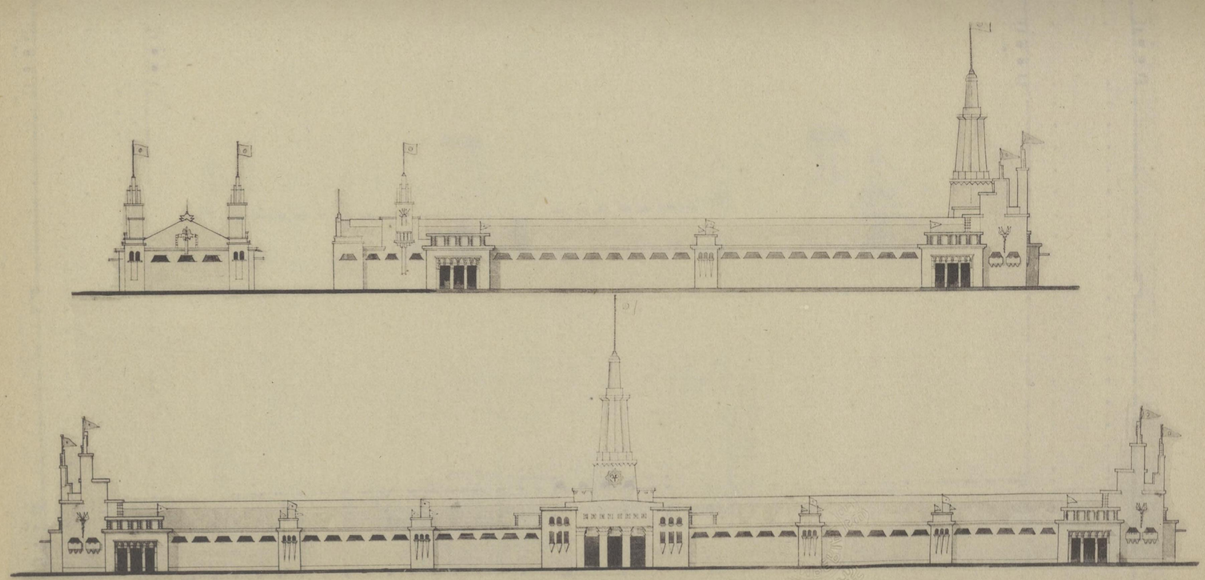
	第一會場	第二會場	第三會場	合計
排水溝渠	二、七八〇間	一九四、二	五四、〇	三、五六八、八

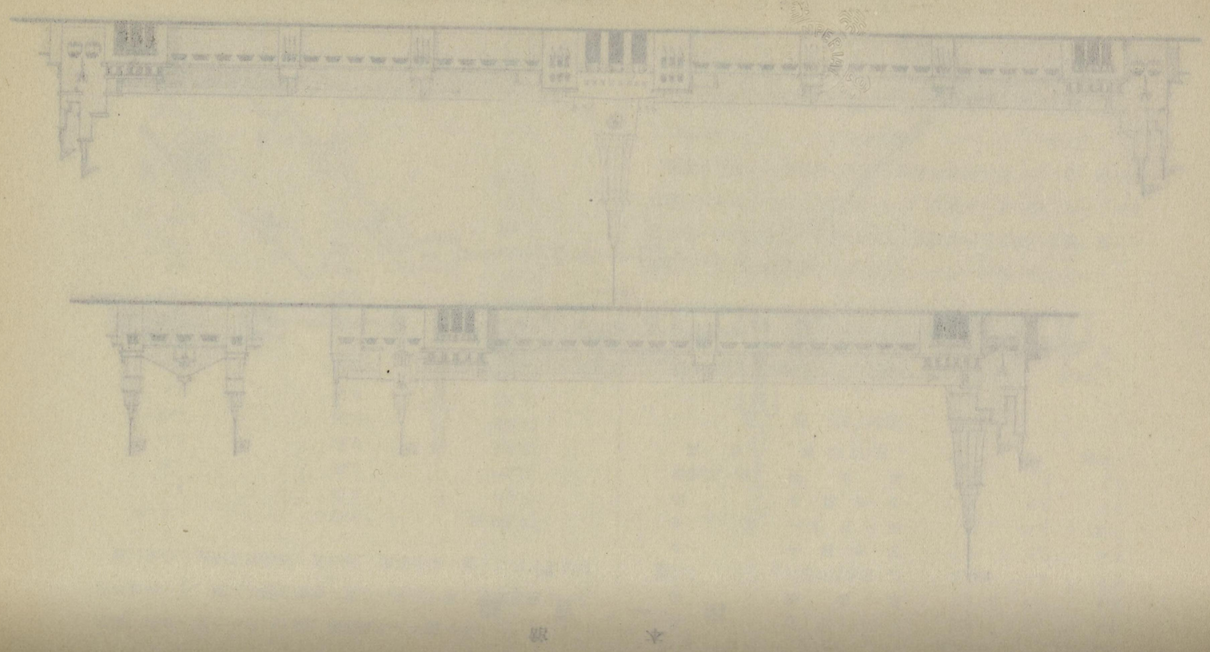
橋梁（第一會場）

種類	架設位置	長	巾	面積
板橋（反り橋）	南池畔	五、三	一、五	八、〇坪
仝	南通用門	〇、五	三、〇	二、五
土橋	正門出入道	一、五	六、〇	一〇、〇
仝	北通用門	一、五	三、〇	四、五
仝	自轉車置場出入口	三、〇	一、五	四、五
仝	南池畔	二、一	三、〇	六、三
仝		〇、五	三、〇	一、五
合計		一二、五		二六、三

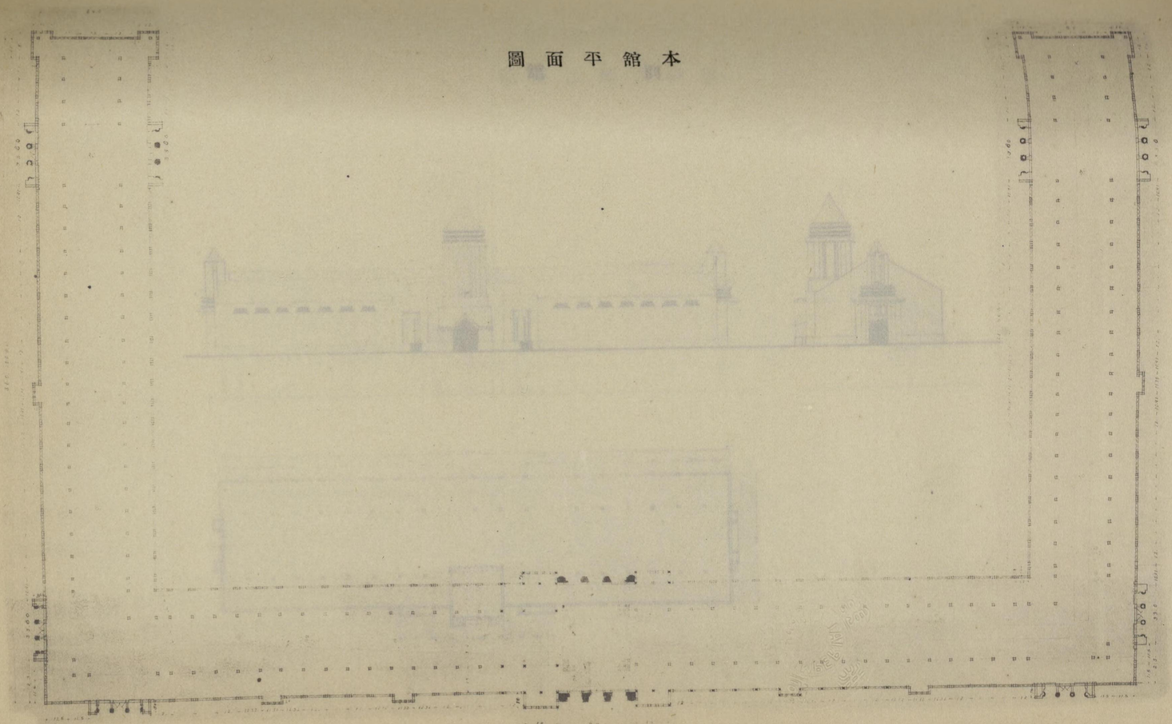
第一會場正門

館本

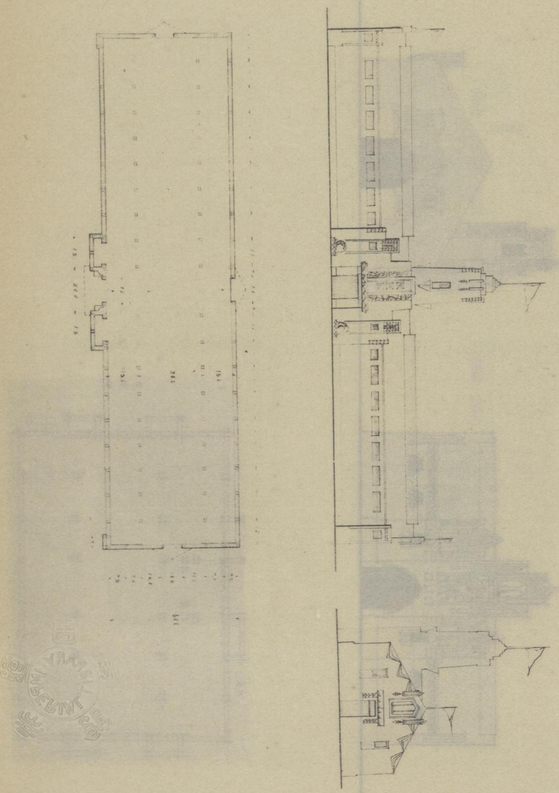




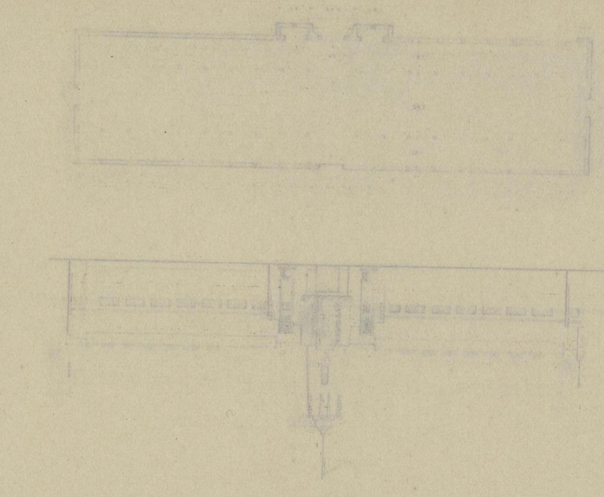
本館平面圖



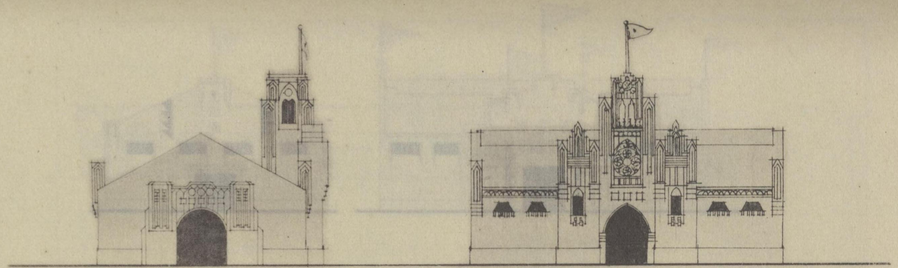
別館

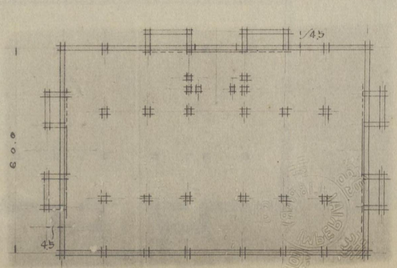


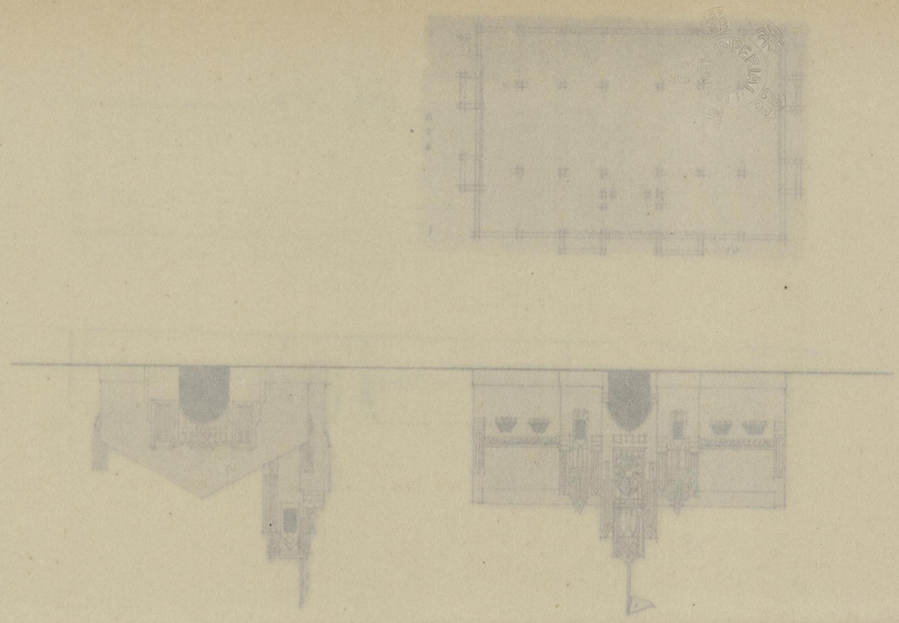
館氣電械機明發

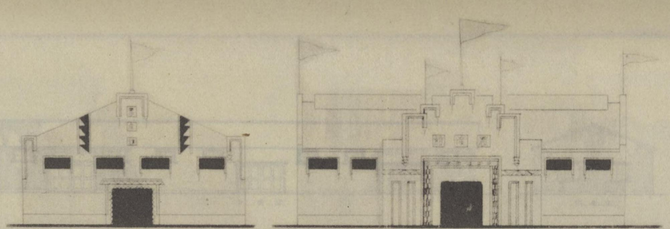


館 鎭 林

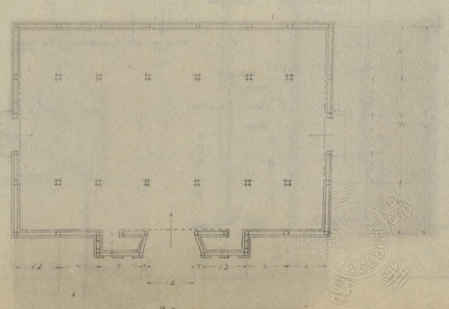




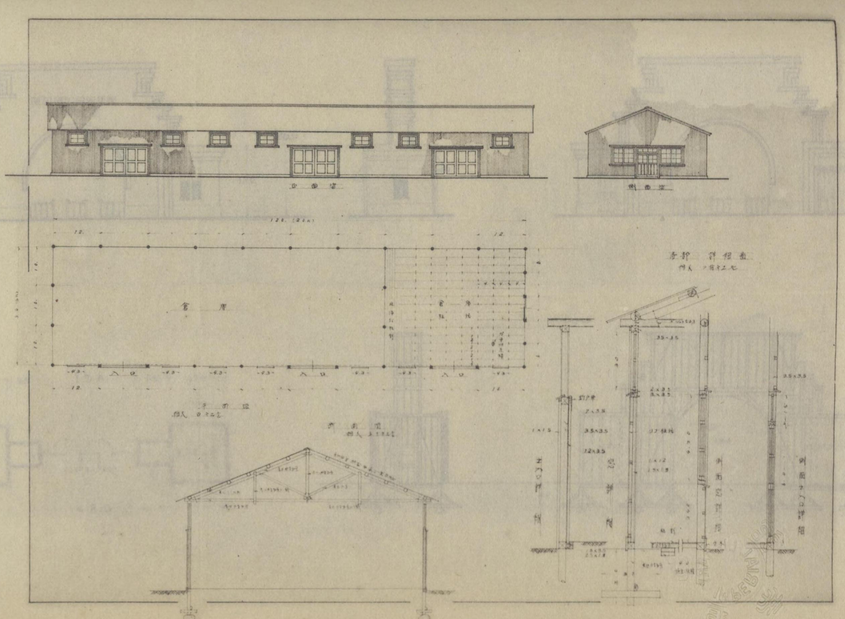


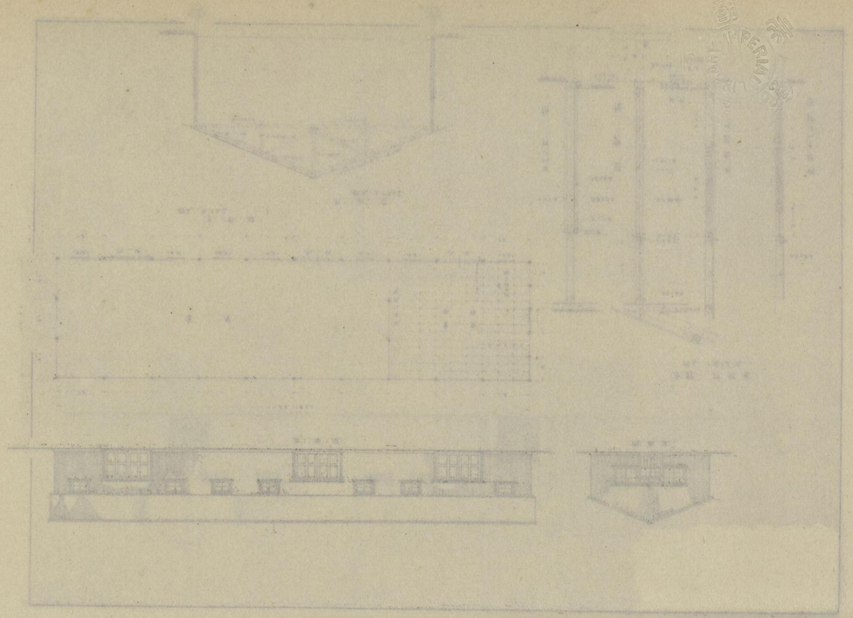


農水產館



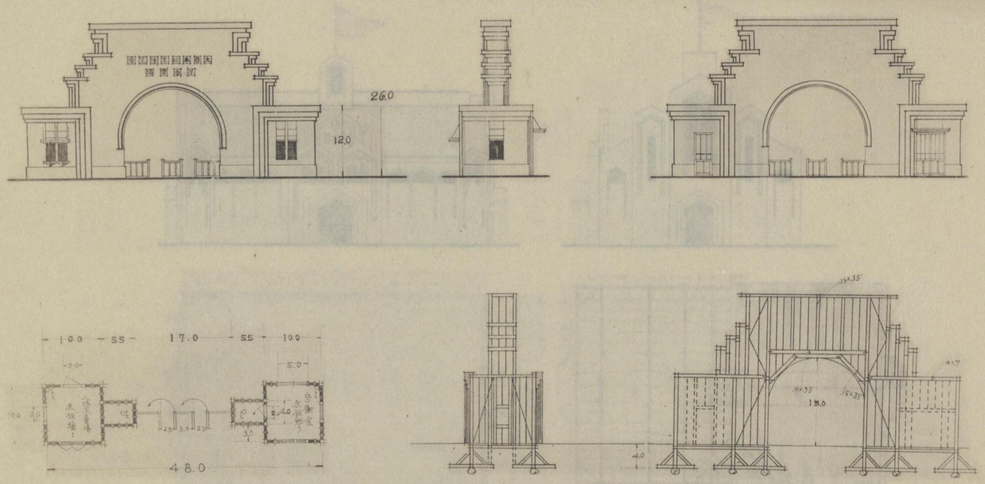
倉庫



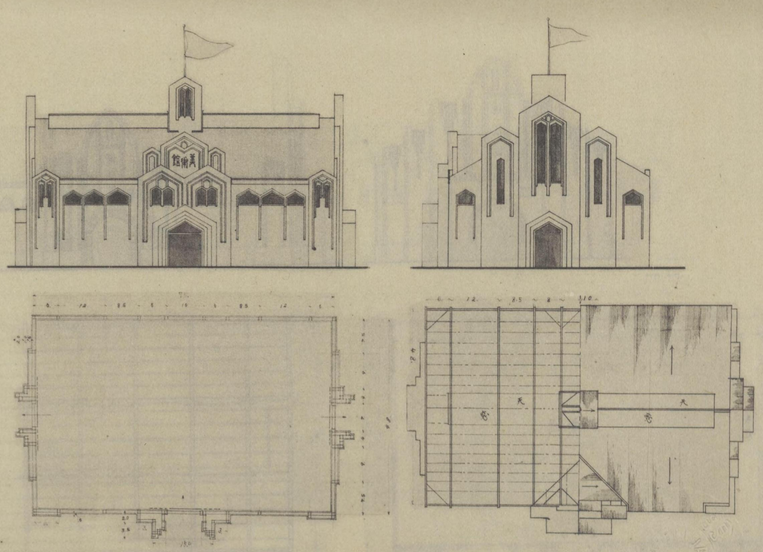


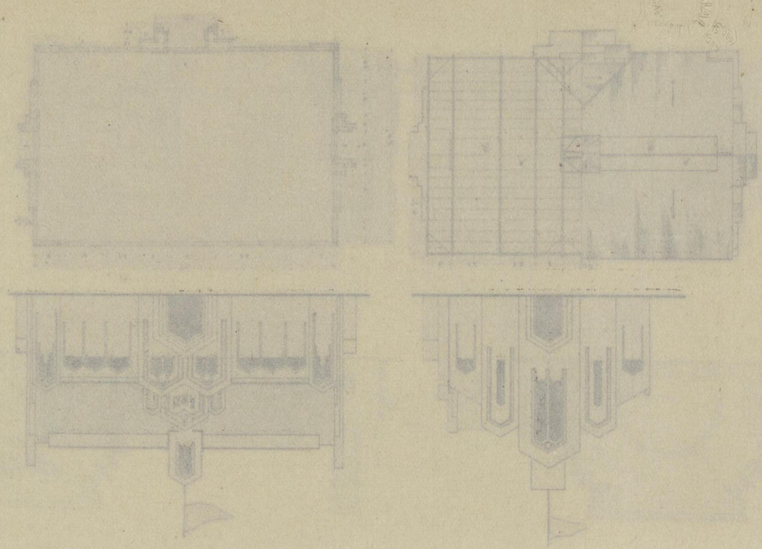
第二會場

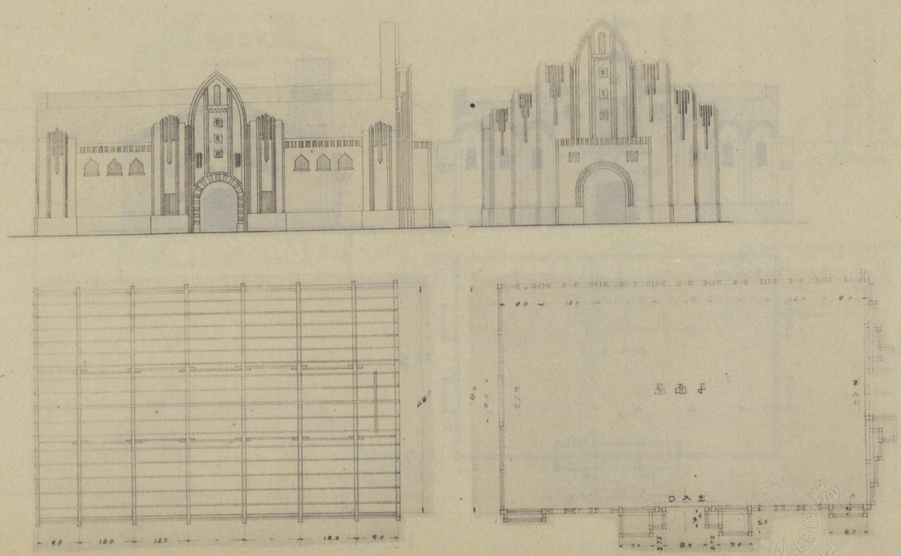
正門



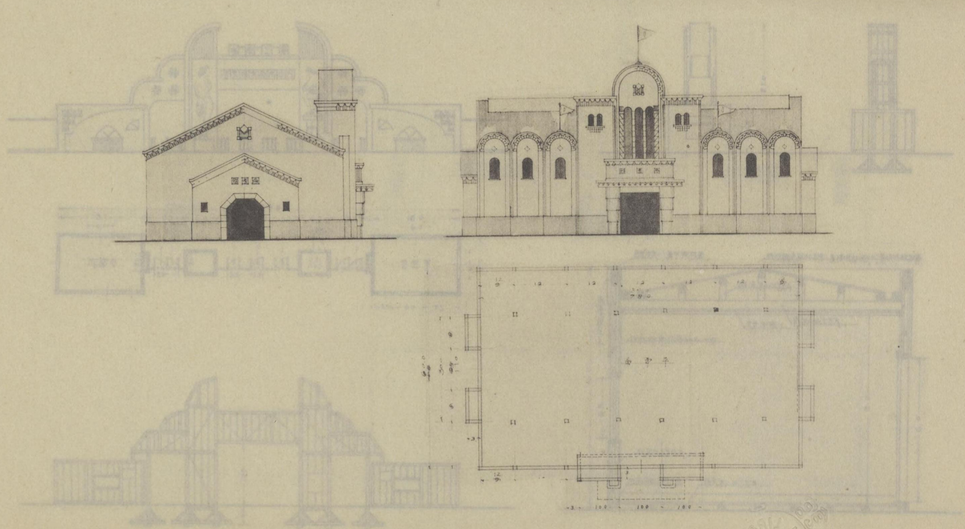
館　術　美

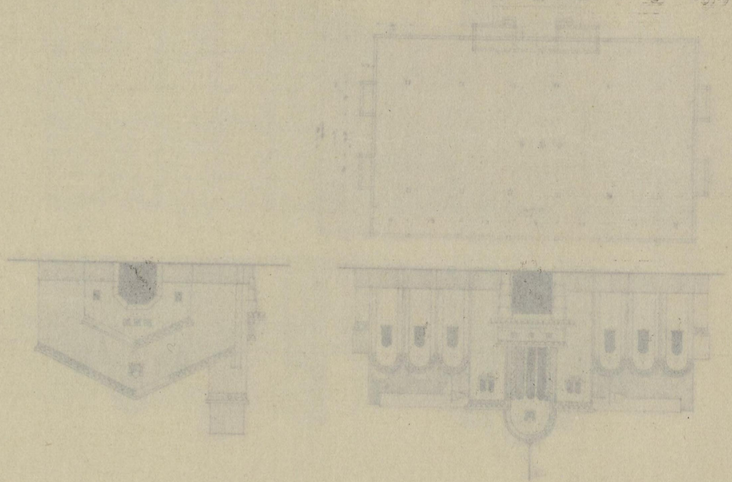






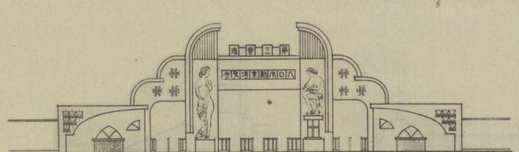
參考館

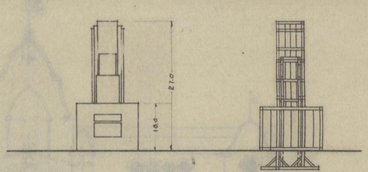


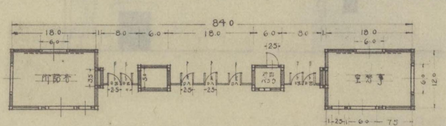


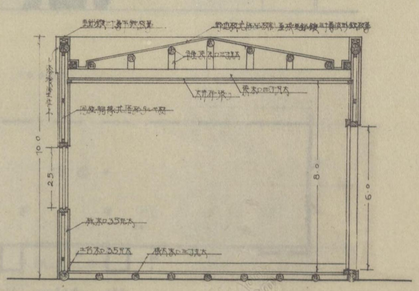
第三會場

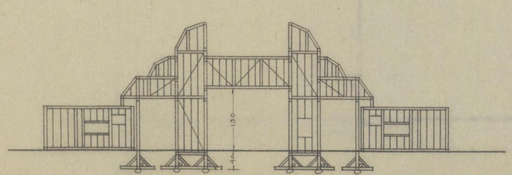
正門



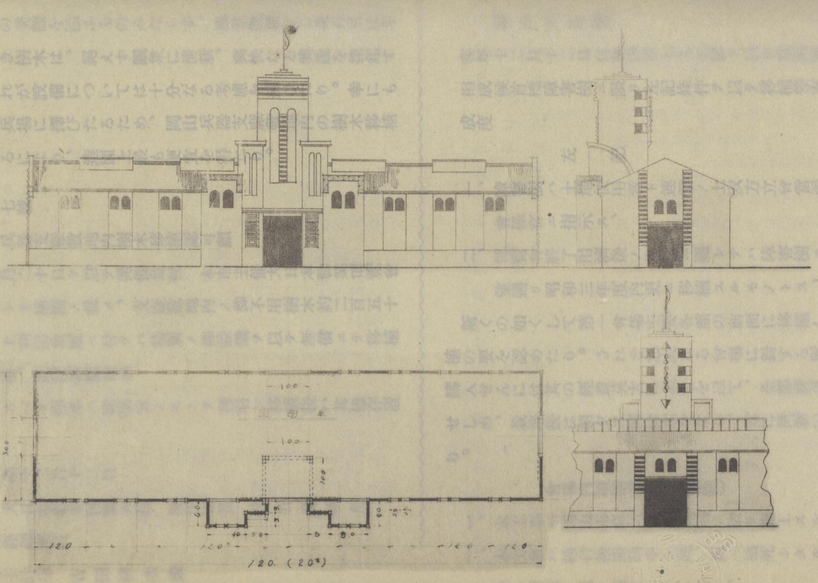








會社館



第五節　花壇及造園

博覽會場に於ける花壇及び庭園の要は、單に各種建築物との調和を保ち、一層の美觀を添ふるのみならず、清楚艶麗なる花卉又は翠綠滴るがごとき樹木は、絕えず觀衆に清新、爽快なる興趣を換起するを以て、之れが設備については十分なる考慮を拂ひたり。幸にも第一會場を練兵場に擇びたるため、岡山兵器支廠敷地内の樹木移植を認められたるにより、造園上最も便宜を得たり。

勸博第七九七號

岡山兵器支廠敷地内樹木移植認可願

昭和三年三月二十日ヲ以テ開催致候、本市主催大日本勸業博覽會造園設備トシテ植樹ノ爲メ、支廠敷地内ノ御不用樹木約二百五十本ヲ移植ノ上利用致度ニ付テハ特別ノ御詮議ヲ以テ無償ニテ移植御認可被下度、此段相願候也

追テ移植スベキ樹木ハ御指定ノモノヲ利用シ移植後ハ其儘存置致度候

昭和二年十二月十二日

大日本勸業博覽會長　岡山市長　窪谷逸次郎

第十師團經理部長

陸軍一等主計生　吉田辨次殿

十經　岡派第一號

兵器本廠岡山出張所内樹木移植ニ關スル件回答

昭和三年一月六日

第十師團經理部岡山派出所

岡山市長殿

客年十二月十二日付勸博第七九七號ヲ以テ當師團經理部長宛願出相成候首標障害樹ニ限リ左記條件ヲ以テ移植差支無之候條承知相成度

左記

一、障害樹ハ土地使用者ト連繫ノ上双方立會當派出所係官ヨリ貴會係官ニ指示ス、

二、博覽會終了用濟後ノ復舊ニ關シテハ障害樹ニ限リ陸軍側ノ希望通リ昭和三年度内更ニ移植スルモノトス、

斯くの如くして第一會場主要各館の前面に移植したるも、尚ほ增植の要を認めたり。されど尨大なる會場に對する所要樹木、花卉を購入せんには其の經費莫大に上るを以て、全部請負契約により移植せしめ、栽培後は朝夕二回給水をなし、常に清新の氣を漲らしめたり。

會場内植樹設計書（抄錄）

一、本工事ハ岡山市請負賣買規則ニ依リ施工スルモノトス、

一、本工事ハ植付後開期中ト雖、萬一枯死シタル場合ハ新品ト取替ヘ指揮ノ通リ植付ヲナスベシ、

一、本工事ノ植木ハ昭和三年五月二十日迄、博覽會ノ造園ニ使用シ其後ハ全部無償ニテ本請負人ニ交付スルモノトス、

一、請負人ハ該全部ノ植木ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ一ケ月以内ニ自己ノ費用ヲ以テ他ヘ撤去スベシ、若シ期限内ニナサヾル時ハ他ノ者ヲシテ爲サシメ、之ガ費用ハ保證金中ヨリ控除シ、尚不足スルトキハ追徴ス、

一、竣工期限ハ昭和三年三月十五日限リトス、

庭園は各種建築物及び道路、其の他施設物を除く地面を以て之れに充てたるが、第一會場に於ける總面積二千八百八十四坪、花壇二百二十五坪（中庭六十坪、日本館西部十五坪、林檎館東部百坪、農水産館前五十坪）、築山二十坪、池一千百三十坪、（中庭六十坪、池中に中之島及び突出島を設け植樹をなしベンチを配置す、中庭二十坪、會場南端一千五十坪、中央を兩斷して南北に通ずる道路を設け、南端に大鼓橋を架設す、東側中央に噴水塔を設け、なほ自營貸ボートをも浮べたり）なり。

第二會場庭園百三坪、第三會場八百坪にして此等に配植せる樹木花卉を表示すれば左の如し。

樹木及花卉

種目	本數 兵器支廠ヨリ移植	第一會場	第二會場	第三會場	合計
松	一七七				一七七
モミ	五				五
松	二六	一			二七
貝塚	三〇				三〇
姫杉	五				五
杏	一				一
竹桃	六				六
檜	二				二
檜姿	六				六
縦木	一〇				一〇
鼠ナシ	七				七
口	一四				一四
欅	一				一
アクラ	一				一
高野槇	六				六
桜	一				一
柳	五				五
楓	一	一			二
桜	一三				一三
山茶花	一〇〇				一〇〇
椿	一四〇				一四〇
紅平戸	一				一
倫蝶	七〇〇				七〇〇
吉野杉	二〇〇				二〇〇
馬目樫	四〇				四〇
サツマ杉	五				五
金木犀	二〇〇				二〇〇
サツキ	二五〇				二五〇
アテ	六〇				六〇
霧島	一三五				一三五
梅	一〇〇				一〇〇
ヒバ	一三				一三
合計	一〇九〇	一〇四	三	八	一二〇五

第六節　水道及噴水

一、水　道

本會々場敷地内の水道敷設は飲用、撒水の外消防用として之れが計畫を樹て、工事は岡山市水道課に委托せり。三吋乃至六吋の鐵管を以て公道より會場内に引込み、更に三吋鐵管を以て幹線となし、適當の地点に布設し之れより分岐し鉛管又は亞鉛引鐵管により、それ〳〵給水せり。

この外一般入場者用として洗面所、水呑所、手洗所等に開放栓を配置し、警備用としては防火栓を配置したるか、なほ特設舘並に一般營業者の申込によりて屋内引込栓を設置したるものも尠からざりき、而して何れも市所定の布設經費より二割減にて實施したり。

水道敷設

會場	柱 防火	噴水	其外	合計	經費
第一會場	六	二	四〇	四八	六、六〇七、六三二
第二會場	一	一	五	七	五、四四、四七八
第三會場	一	一	五	七	六、五五、八九七
合計	八	四	五〇	六二	七、八八、七〇一

二、噴　水

噴水は會場裝飾として美觀を添うるのみならず、ともすれば疲勞に倦かんとする觀衆の心氣を甦生せしむるに力あるは言ふ迄も無し建設五基中直營四基にして私設は日本生命保險株式會社施設のものゝみなり。

噴水狀況

會場名稱	棟數	概要
第一會場 正面噴水塔	一	敷地正面長六十尺、巾四十七尺五寸、總坪數不整形七十坪、噴水池長三十七尺五寸、巾二十五尺、噴水塔五坪、中央ニハ高六尺ノ福祿壽ヲ表現セル女神像ヲ安置セリ。（日本生命保險株式會社建設）
第一會場 中庭噴水塔	一	噴水池巾四十尺角、噴水塔高二十尺五寸、巾八尺ニシテ塔ノ正面パネル四面共高五尺、巾二尺二寸ノ硝子板ヲ嵌込ミ、塔ノ四面ニ水盤ヲ設ケ噴水セシム。
第一會場 池中噴水塔	一	噴水塔高水上七尺五寸、巾六尺角、木骨ラス地三段セメントモルタル塗仕上、下段四面中央ニ人面浮彫リヲ施シ、塔ノ中央各段四方ヨリ噴水セシム。
第二會場噴水塔	一	噴水池外經十三尺二寸圓形ニシテ、噴水塔高七尺但シ地盤ヨリ立像ベース上端迄、塔上ノ女身塑像ハ高六尺ニシテ等身大ナリ。
第三會場噴水塔	一	噴水池外經二十二尺四寸、噴水塔高十九尺五寸台方七尺簡素ナル裝飾ヲ施セリ。

第七節　電氣及瓦斯

一、電　氣

博覽會に於ける電氣施設は、各會館及び正門に要するイルミネーション及び照明、出品諸器機模型等の實演又は運轉に要するもの、出品者の自己裝飾及び照明点燈に要するもの等にして、之れが設備並に供給に關しては岡山電燈株式會社をして第一會場に對し最大電力三百五十「キロワット」の送電線を特設せしむること、定めたり。

第一會場電氣設備並ニ電力供給請負條件（抄）

一、本請負者ハ大日本勸業博覽會第一會場ニ於テ昭和三年三月二十日ヨリ、仝年五月十八日迄六十日間晝夜電力ノ供給ヲ爲スモノトス、

一、本請負者ハ前條ノ供給ヲ爲ス最大電力三百五十「キロワット」ノ送電線ヲ特設シ（中略）博覽會期中送電スベシ、

但シ第一會場内開閉所ノ建築物ハ博覽會ニ於テ爲スモノトス、

一、電燈料金ハ從量制トシ、本博覽會ノ建設スル開閉所内ニ設備スル本請負者ノ配電盤上高壓側積算電力計ニヨリ一「キロワット」時ヲ金六錢トシ、開期中ノ仝使用量ニ對シ計算シ、本請負者ニ支拂フモノトス、

但シ期開中六十日間ノ最低責任料ヲ十萬「キロワット」時ト定メ、若シ使用電量此ノ最低量ニ達セザルトキト雖モ、最低責任料金トシテ金六千圓ヲ本請負者ニ支拂フモノトス、

但シ事由ノ如何ヲ問ハス、停電ノタメ最低使用責任電力量ニ達セザルトキハ停電期間中ノ電力料ヲ協定シ、前記單價ニ依リ最低責任料金ヨリ控除スルモノトス、

一、本請負者ハ博覽會第一會場内ノ電氣施設ニ關シ本博覽會ノ指示ニヨラザレバ總テ工事並ニ送電ヲ爲スコトヲ得ズ、

但シ特別ノ事由ニ依リ豫メ本會ノ承認ヲ經タル場内ハ、出品人其他ト直接交涉ノ上別途供給ヲ爲スコトヲ得、

如上の條件に基き請負會社は、會場内に設置したる電氣開閉所に送電し、こゝより場内に配電したるが、本會は主として諸建築外部の照明に意を須ひ、就中主要建物に對しては强烈なる投光器によりて終夜点燈し、道路庭園等には適當の間隔にポールヘツトを配列して建物の照明と相俟ちて夜の會場を彩り、建物内部は一定の照明に止め、特設館並に自營建物及び各出品者の需要に對する引込設備は本會の承認の下に直接取扱はしめたり。

電燈電力供給案内

昭和三年三月二十日ヨリ同年五月十八日迄大日本勸業博覽會開會中館内館外ニ於ケル電氣使用ノ要項

一、本會ハ本會場内ノ電氣使用者ニ對シ電氣設備ノ檢査ヲ行ヒ安全ト認メタル上ニテ電氣ヲ供給ス、

二、本會場内ニ於テ電氣ヲ使用セムトスルモノハ別ニ定ムル書式ニヨリ電氣使用申込書ヲ提出シ本會ノ承認ヲ受クルコト、

三、本會場内ニ於ケル電氣工事ハ混雜ヲ避ケ危險ヲ防止スル目的ヲ以テ本會ニ於テ電氣工事ノ申込ヲ受理シ之ヲ處理ス、

四、電燈電力料金ハ開會日ヨリ五月十八日迄ノ料金トス、

五、引込線工事及内線工事費ハ使用者ノ負擔トシ本會ノ指定スル會社ニ施行セシムルモノトス、

六、使用者ニ於テ電鈴其他特種ノ電氣設備ヲナサムトスルトキハ其ノ設計仕樣書等ニツキ豫メ本會ノ承認ヲ受クベシ、

七、前項ニ使用スル電線電動機其他ノ電氣器具材料ハ使用ニ先ダチ本會ノ檢査ヲ受クルモノトス、

八、電球ハ本會規定ノ「マーク入」電球ヲ使用スルモノトシ需用者ニ於テ其費用ヲ負担スルモノトス、

九、電氣使用料金ハ別表ノ如シ但シ自働點滅裝置ヲ施シタル電飾燈其他之ニ類スルモノ、計算ハ其最大ワット數ヲ測定シ二十ワット毎ニ十六燭光トシテ該料金ヲ適用スルモノトス、

十、電力裝置ニ關スル料金ハ凡テ電動機當該容量ニ換算シ電動力料金ト見做シ算定スルモノトス、

十一、電氣使用者ハ全會期間ニ對シ料金ヲ前納スルモノトス、

但シ自己ノ都合ニヨリ其使用ヲ休止シ又ハ廢止スルコトアルモ之ニ對シテハ料金ヲ返戻セズ、

十二、使用電力又ハ容量ヲ增加スル場合ハ其增加容量ヲ開會當時ヨリ使用シタルモノトシテ不足額ヲ徵收スルモノトス

十三、電氣供給ヲ開始シタル後ト雖モ本會ニ於テ保安上電氣設備ノ變更ヲ必要トスル場合ニハ直ニ申込人ノ負担ニテ之ヲ施行スルモノトス且ツ危險ト認メタル場合ニハ一時電氣供給ヲ停止スルコトアルベシ、

十四、器具其他檢査ヲ要スルモノハ別ニ定ムル所ノ檢査料ヲ申受クベシ、

大日本勸業博覽會期間臨時燈點火料金

燭光別	夜間一燈ニ付	燭光別	夜間一燈ニ付
十燭光	貳圓	二百ワット	拾五圓
十六燭光	貳圓七拾錢	二百五十ワット	拾八圓五拾錢
二十四燭光	參圓參拾五錢	三百ワット	貳拾壹圓九拾錢
三十二燭光	四圓	四百ワット	貳拾八圓六拾錢
五十燭光	五圓四拾錢	五百ワット	參拾五圓
八圓四拾錢	七百五十ワット	五拾貳圓	
一百ワット	拾壹圓八拾錢	一千ワット	六拾九圓

右ハ自三月二十日至五月十八日期間特定料金ニシテ日割計算ナサヾルモノトス

晝夜間料金ハ五割增シトス、

期間以上引續キ点火シ又ハ期間以前点火ノ場合ハ日數ニ應ジ左ノ如ク規定臨時点火料金ヲ加算スルモノトス、

燭光別	夜間点火料價格	燭光別	夜間点火料價格
十燭光參錢	一夜ニ付 二百ワット 貳拾參錢	一夜ニ付	
十六燭光四錢	仝 二百五十ワット 貳拾八錢	仝	
二十四燭光五錢	仝 三百ワット 參拾參錢	仝	
三十二燭光六錢	仝 四百ワット 四拾參錢	仝	
五十燭光八錢	仝 五百ワット 五拾參錢	仝	
一百ワット拾參錢	仝 七百五十ワット 七拾八錢	仝	
一百五十ワット拾八錢	仝 一千ワット 壹圓參錢	仝	

但シ晝夜間料金ハ五割増トス

動力特定料金（六十日間晝間定額）

四分一馬力	電力料 六圓	五馬力	電力料 九拾六圓		
二分一馬力	仝 拾壹圓	七馬力半	仝 百四拾六圓		
一馬力	仝 貳拾圓	十馬力	仝 百七拾圓		
二馬力	仝 參拾九圓	十五馬力	仝 貳百四拾圓		
三馬力	仝 五拾八圓				

晝夜間使用ハ電力料金ノミ五割増

電熱特定料金（六十日間晝間定額）

五〇〇ワット	電力料 拾圓	一、五キロワット	電力料 參拾圓		
一、キロワット	仝 貳拾圓	二、キロワット	仝 四拾圓		

以上「一キロワット」テ増ス毎ニ電力料貳拾圓

晝夜間使用ハ電力料ノミ五割増

右規定以外ノ事項ハ其都度本會ニ於テ協定スルモノトス

以上

（博）

No.

電氣使用申込書

岡山電燈株式會社御中

昭和三年 月 日 申込人

博覽會工營部
部
町村 番地

代人

下記之通り使用申込ニツキ點灯施工相成度候也

使用場所 第一會場内

使用期間 自 月 日 至 月 日 日間

種別	燈数 夜間	燈数 晝夜間	電力 夜間	電力 晝夜間	電熱 夜間	電熱 晝夜間	摘要

備考

係員印

No.

點燈傭票

昭和三年 月 日

岡山電燈株式會社 御中

大日本勸業博覽會
責任者印

下記之通り 月 日ヨリ點燈スベシ

點燈場所	第一會場内		
種別	燈数 夜間	燈数 晝夜間	摘要

なほ第一會場には電力による十五馬力モーターサイレンを取付け報時に資したが、各會場に於ける電氣設備並に電力供給請負經費は第一會場壹萬九千八百九拾壹圓八拾七錢、第二會場四百參拾四圓第三會場參百貳拾六圓九拾七錢、合計貳萬六百五拾貳圓八拾四錢なり。

二、瓦斯

瓦斯の設備も亦博覽會場設備中主要なるもの、一なるを以て、岡山瓦斯株式會社と契約の下に、第一會場に敷設し一般使用者の需要に應じたり、瓦斯導管敷設親線百六拾七間支線百七間、總延長二百七十四間なり。

博覽會場内瓦斯使用ニ關スル件

一、博覽會場内ニ於テ瓦斯ヲ引用セラルヽ場合ニハ左ノ通リ承諾ノ上取引場所使用目的等ヲ指定シテ申込マレタシ、

一、瓦斯引用ノ工事費ハ工事補助料トシテ左ノ通リ申受クルモノトス、

(一)新設及増設

鐵管一尺ニ付金參拾錢
鉛管一尺ニ付金貳拾錢
} 十尺未滿金參圓

(二)供給管孔口及計量器位置變更

鐵管一尺ニ付金參拾五錢、四尺未滿金壹圓五拾錢、
鉛管一尺ニ付金貳拾五錢六尺未滿金壹圓五拾錢、

(三)特ニ屋外管ノ延長ヲ要スル場合又ハ特種ノ工事ヲ要スル場合ハ其都度別途協定、

一、前項工事費ハ申込ノ際前金ニテ申込マルモノトス、

一、瓦斯引用保証金トシテ取付孔口一個ニ付金五圓ノ割ニテ豫納ヲ受ケ最後ノ瓦斯代其他ノ計算ノ際精算スルモノトス、

但シ使用多量ト認ムル裝置ニ對シテハ其都度別途協定スルモノトス、

一、瓦斯代ハ一百立方呎ニ付金參拾錢トシ三月三十一日、四月十日、四月二十日、五月一日、五月十日、五月十八日、ノ六回ニ計量器指針調査ノ上即時申受クルモノトス、

一、瓦斯計量器及器具ハ會期中、左ノ損料ヲ以テ賃貸ス、

但シ三十日未滿ノ場合ハ半額

計量器二灯用		金五拾錢
仝	三灯用	金五拾錢
仝	五灯用	金七拾錢
仝	十灯用	金壹圓
仝	二十灯用	金壹圓五拾錢
常用並七輪金枠付		金六拾錢
仝	大七輪金枠付	金壹圓
仝	特大金枠付	金壹圓五拾錢
輕便竈七輪付		金壹圓
二升竈		金壹圓五拾錢
三升竈		金貳圓
四升竈		金貳圓五拾錢
五升竈		金參圓
六升挿込分線		金貳圓
八升挿込分線		金參圓
一斗挿込分線		金四圓

但シ護謨管螺旋管其他ノ附屬品及特種器具ハ凡テ賣渡スルモノトス、

一、前項損料ハ二回ニ分チ瓦斯代計算ノ際隨時申受クルモノトス

一、貸付品ハ勿論瓦斯引用設備ヲ毀損セラレタル時ハ指定ノ價格ニヨリ辨償ヲ受クルモノトス、

一、瓦斯引用者ハ會期中最低一千五百立方呎ノ瓦斯使用ノ責任ヲ有シ、若シ之ニ充タザル場合ト雖モ責任量ニ對スル瓦斯代金四圓五拾錢ヲ支拂フモノトス、

但シ使用開始ガ中途タリトモ前記最低責任額ヲ申受ク、

一、瓦斯ノ漏洩ヨリ生ズル損害ニ對シテハ其責ニ任ゼズ、又天災地變其他止ムヲ得ザル理由ニヨリ瓦斯ヲ供給シ得ザル時或ハ一時供給ヲ遮斷スルコトアルモ異議ナキコト從テ之ニ伴フ損害ニ對シテハ其責ニ任ゼザルモノトス、

第二編　開會以後

第二編　開會以後

第一章　會場

第一節　開會式

岡山市民が其の產業文化を天下に紹介せんとする熱意の凝化にして、帝國產業界の發展伸暢を圖らんとする心意の具現たる大日本勸業博覽會は、昭和三年三月二十日午前十時より第一會場内無料休憩所に於て其の開會式を擧けたり。

前夜までは極度に焦燥したりし會場も、朝來頓に面目を改め朝暾麗らかに、これ迄の寒さも名殘なく去り、目覺むるばかりの場内の壯觀、林立せる高塔旭日旗は風に翩り、最新の樣式を誇る各館を點綴せる樹々の綠、池水の激灑、噴水の雪沫、新たに地盛されたる道路の小砂利、いづれも春光に映えて壯絶、麗絶さながら杉大なる錦繪を展開したるにも較べつべし。

式場の周圍には紅白の幔幕を張り繞らし、柱には悉く紅白の布を繼ひ、天井は萬國々旗を引き交へて目まぐるしき計りの新裝、正面高壇には、名譽總裁、總裁　副總裁、大臣、會長、協賛會長等の座席を設け、一般には椅子を並列して座席こなせり。

午前八時頃より來賓の參集するもの漸く多きを加ふ。此日、吳鎭守府よりの飛行機二機は雁行して博覽會第一會場、第二會場、第三會場と岡山市の空低く旋回飛行したるに對し、第一會場飛行機館に備えられたる飛行機は淺川飛行士操縱のもとに爆音高く式場の上空を飛翔して尠からざる感興を添へたり。

午前十時三發の煙火空中に炸裂するを合圖に名譽總裁侯爵池田宣政、總裁岡山縣知事岸本正雄、副總裁岡山市助役寺阪賴甫、事務總長岡山市長岡山市長窪谷逸次郎、副會長岡山市助役齋藤威郎、博覽會協賛會長山上岩二の諸氏をはじめ來賓宇垣陸軍大將、花房子爵、鄕田第三十三旅團長、岡山縣選出貴衆兩議員各府縣知事、市長並に代理、全國商工會議所會頭、岡山縣會議員、縣下各種團體組合長、郡農會長、町村長、岡山縣出身有力者等四千五百名著席、さしもに廣き式場をも立錐の餘地なからしむるの盛觀を呈したり。定刻一同起立の裡に嘹喨たる國歌の奏樂あり、次いで寺阪副會長の開會の辭、齋藤事務總長の事務報告、窪谷會長の式辭、池田名譽總裁の告辭より來賓祝辭に移り中橋商工大臣の祝辭は村井商工書記官代讀、山本農林大臣の祝電は寺阪副會長代讀、岸本岡山縣知事、山上博覽會協賛會長、黑瀨神戶市長（代讀）川澁廣島市長（代讀）及び熊平廣島商工會議所會頭、岡崎岡山縣町村長會長、國富岡山市會議長の祝辭の後博覽會當務部松島主任より祝電の報告終るや、更井出品人總代の祝辭、齋藤事務總長の閉會の辭にて式を閉ぢたるは午前十一時三十分、この時大阪每日新聞社の大每十號機は大

阪より飛來し、各會場の上空二百米突の鮮かなる低空旋回飛行を試みて、意義ある式典を祝福したり。

本社飛行機大毎第十號を飛ばして岡山市の上空より大日本勸業博覽會の開會を祝す

昭和三年三月二十日　　大阪毎日新聞社

正午より開宴、隨意會場を觀覽したるが、協贊會主催の演藝館は吉備踊の第一日にて、すべての緊張は觀覽者に大なる興味と滿足とを與へたり。

事務報告

輓近我が國に於ける產業界の趨勢は、歷然として舊套を脫却したるものありと雖も、之れ世界の大勢に徵せんか、未だ一籌を輸すものあり、此時に方り產業界の覺醒を促し斯業の振興に寄與せんがため、我が岡山市の主催を以て大日本勸業博覽會を開催せんことを決したるは大正十五年九月十九日なり。以來職員を設けて專心其の衝に當ると共に、役員二百有餘名を嘱託して目的の達成を圖り、一面に於て商工大臣及び岡山縣知事に補助奬勵金の下付を請願し、第十師團司令部に會場敷地として練兵場使用の許可を得、之れを第一會場に充て第二會場を東山公園に、第三會場を鹿田驛跡に撰定し部署漸く其の緒に着くに至れり。

而して熱誠なる出品勸誘者の奔走と徹底せる宣傳の普及とは、克く內外の激勵的贊助を博し、鐵道省は出品人及び出品物に對し多大の便宜を附與せられ、陸軍省海軍省は貴重なる參考品を出陳せられ、更に岡山縣廳、岡山商工會議所、岡山市內各新聞社並に全國各新聞社各種團體及び全國に亘れる岡山縣出身諸氏が、東西相呼應して力を本會に傾注せられたる熱誠は、洵に深甚なるものありと云ふべし。

如上三ケ會場に於ける敷地總面積四萬七千餘坪、總豫算七拾四萬參千圓を以て會館工事に着手したるは昭和二年八月二十九日にして、其の竣工は昭和三年三月十九日なり。今之れが建築坪數を擧ぐれば第一會場五千坪、第二會場六百坪、第三會場五百坪總計六千一百坪に達したるが、更に之れを本館、別館、發明機械電氣館、農水產館、林鑛館、美術館、敎育館、參考館、社會館、衞生館、中央館の十一館に分つ。外に朝鮮、臺灣、北海道、滿蒙及び八幡製鐵所の各特設館と野外劇場、音樂堂、小供の國、演藝館、水族館の諸館數を並べ、出品區域も亦一道一廳四十縣に及び出品點數實に八萬數千點に達したるは之れ全く公私各位が深甚なる援助の然らしむるところにして、本會を始めて有終の美を收めしむるを得たるは、之れ偏に各位の深厚なる謝意を表す、

昭和三年三月二十日

大日本勸業博覽會事務總長　齋藤威郎

岡山市助役從六位勳六等

式辭

我が岡山市は市制實施四十年を記念し更に產業の覺醒を促し國家の隆昌に寄與せむが爲め、茲に大日本勸業博覽會を開催するに至れり。而して今や諸般の設備完成を告げ本日を以て開會の式典を擧行するに當り貴賓各位の賁臨を辱ふしたるは本會の最も光榮とするところなり。

抑も本會は本市主催の下に之を開設せるものにして、實に我が岡山市に於ける此種嚆矢の事業なり。此擧一度び社會に發表せらるゝや內外の人心翕然として集り、出品の範圍も亦日本內地は素より遠く南洋、臺灣、滿蒙、朝鮮の各地に及び遂に規模の狹隘にして其の擴張を要するの盛況を呈するに至りしと、一面協贊會の深甚なる援助と相俟ちて本會をして一段の光彩を添へたる所以にして洵に感謝措く能はざる所なり。

惟ふに產業の振否が國家の隆替に至大の關係を有するは言を俟たず。然るに比年我が國の產業界は萎靡として未だ不振の境を脫せず、積年の輸入超過は延いて經濟界の沈滯を來せり、產業の發展は實に刻下の急務なりと謂はざるべからず。本會の開催により幸にして產業界の覺醒を促し國家の隆昌に資するところあらば本會の使命を全ふするに庶幾らんか、一言を叙して式辭とす。

昭和三年三月二十日

大日本勸業博覽會長

岡山市長正五位勳四等　窪谷逸次郎

告辭

大日本勸業博覽會開會に當り拮据勉勵の事に從ひたる各位の勞苦を多謝す。冀くは本會關係職員並に出品者諸君、本會開設の趣旨に鑑み、協心戮力能く有終の美を濟されんことを望む。一言を叙して告辭とす、

昭和三年三月二十日

大日本勸業博覽會名譽總裁

侯爵　池田宣政

祝辭

岡山市主催大日本勸業博覽會は、設備成り本日開會の式典を擧行せらるゝに當りまして、祝辭を陳ぶるの事を得ますのは私の大いに欣幸とする所であります。

惟ふに產業の向上發展は、國運伸張の基本であるの事は、茲に贅言する迄もないことであつて、今や世界各國は擧つて力を產業の振興に傾注しつゝあるの情勢にあるのであります。我邦の產業は近年著しき發達を遂げ、產業、能率、製造、技術等實に目醒ましき改善進歩の跡を示しつゝあるのであります、內外の情勢に鑑

ミ更ニ官民一段ノ努力ヲ爲シ、産業立國ノ實ヲ擧ゲ國力ノ增進ヲ圖ラネバナラヌト信ズルノデアリマス。

今回岡山市ハ本博覽會ヲ開催シ全國各地ノ物産ヲ一堂ノ下ニ集メ比較研究ノ機會ヲ與ヘ、且嚴密ナル審査ニ依ッテ優劣ヲ表示シ以テ生産者ニ對シ將來ノ進ムベキ途ヲ指示スルニ努メラレタコトハ國産ノ振興貿易ノ發展ニ資スル所尠カラザルベク邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘマセヌ。關係者諸君、克ク本博覽會開催ノ趣旨ヲ體シ本會所期ノ目的ヲ達成スルニ努力セラレンコトヲ希望シテ已マヌ次第デアリマス。一言ヲ陳ベテ祝辭ト致シマス。

昭和三年三月二十日

商工大臣　中橋德五郎

祝辭

岡山市主催大日本勸業博覽會準備成リ、玆ニ開會式ヲ擧行セラルヽニ方リ、一言祝意ヲ表スルコトヲ得ルハ余ノ最モ欣快トスル所ナリ。

惟フニ地方多年ノ翹望タル伯備南北線ノ開通モ本伙ニ定マリ、宇野開港ノ議漸ク熟シ之ガ實現モ亦近キニ迫ル。之等交通機關ノ完成ハ岡山市ノ歷史ニ一時期ヲ劃スルモノニシテ、本市モ亦不惑ノ齡ヲ重ネ、方ニ圓熟ノ時期ニ達セリト云フベク、之ヲ記念スルハ即チ將來ノ雄飛ヲ聲明スル所以ニ外ナラズ。而シテ之ガ事業トシテ勸業博覽會ヲ選ミ、將來ノ大方針ヲ產業ノ進展興隆ニ置キタルハ本市ノ實情ト世運ノ趨向トニ剴切シ最モ時宜ニ適シタル企劃ナリト信ズ。今之ヲ概觀スルニ其ノ出品區域ハ全國各府縣ニ亘リ、更ニ遠ク朝鮮、臺灣、滿洲等ニ及ビ其ノ規模大ニシテ、其ノ出品ノ豐富ナルコト一市ノ事業トシテ從來多クノ類例ヲ見ズ。主催者ノ苦心努力眞ニ多トスベキナリ。由來本縣ハ產業上ノ地位決シテ他ニ優越セリト言フ能ハズ、特ニ工藝品ニ至リテハ殆ド見ルベキモノ無キヲ遺憾トス、然ルニ本會場ニ蒐集陳列スル所ハ本邦各地ノ特產品ヲ網羅シ、之ヲ觀覽スル多數縣民ハ克ク大觀シテ、比較研究ニ便シ、長短得失ヲ明ニシ參考ノ資料トナルベキモノ不尠、從ッテ將來縣下產業ノ發達ニ貢獻スル所多大ナルベキヲ信ジテ疑ハズ、是レ啻ニ本市ノ幸福タルニ止ラズ、又實ニ本縣一般產業界ノ爲慶賀ニ堪ヘザル所ナリ。

今ヤ世界列强ハ全力ヲ經濟戰ニ傾注シ、銳意產業ノ振興ニ努メ其ノ製品ハ貿易市場ニ於テ常ニ我ガ輸出品ヲ壓倒スルノ狀況ニシテ帝國ノ販路ハ年ヲ逐フテ萎縮シ、產業爲ニ不振ヲ來シ、貿易亦連年逆調ノ悲運ニ遭遇シ經濟界ハ實ニ沈衰ノ極ニ達セムトス、之上下共勵、振作更張ヲ期スベキノ秋ナリ、此時ニ際シ玆ニ本會ノ開設ヲ見ル、其ノ意眞ニ深淵ナリト謂フベシ。冀クハ當業者諸子克ク之ヲ利用シテ產業ノ發展ヲ圖リ、國力ノ增進ニ寄與シ以テ本會開設ノ趣旨ヲ全カラシムルニ於テ遺憾ナキヲ期セラレムコトヲ、

聊カ所懷ヲ述テ祝辭トス。

昭和三年三月二十日

岡山縣知事　岸本正雄

祝辭

文化ノ進展產業ノ振興ヲ圖ルハ各方面ノ技術製品ヲ一堂ニ蒐集シ其ノ優劣ヲ比較考量シ其鵠ヲ所ヲ一般ニ示スニ如クハナシ。文物ハ進展シテ息マズ產業ノ振興ハ息ムベカラズ、今回岡山市ガ大日本勸業博覽會ヲ開催セラレ、本縣ノ產業文化ニ一大刺激ヲ與ヘラルヽハ我等ノ慶賀ニ堪ヘザル處ナリ。吾等協贊會ハ博覽會ノ趣旨ヲ體シ、斯業ノ翼贊ニ任ゼントスルモノ爰ニ本日ノ盛典ヲ祝シ、更ニ精勵以テ協贊ノ實ヲ擧ゲントス。一言蕪辭ヲ述ベテ祝辭トス。

昭和三年三月二十日

大日本勸業博覽會協贊會長　山上岩二

祝辭

岡山市主催大日本勸業博覽會今ヤ諸般ノ設備成リ本日玆ニ開會式ヲ擧行セラルヽニ當リ、祝辭ヲ呈スルハ最モ光榮トスル所ナリ。抑々國運ノ興隆ハ產業ノ發達ヲ基礎トス、而シテ產業ノ發達ハ全國ノ物產ヲ蒐集シテ之ヲ一場ノ裡ニ羅列シ、各種生產品ノ精粗巧拙ヲ審議シ、優劣相競ヒ以テ改善進步ニ資スルヲ根本ト。

惟フニ我國現下ノ產業界ハ世界大戰ノ反動ニ次グニ關東震災以來年々輸入超過ニ壓迫セラレ、其ノ振興ヲ最モ急務トスルノ實狀ニアリ。本市深ク玆ニ鑑ミル所アリ、我國財界未曾有ノ動亂直後ノ此機ニ於テ今回ノ企畫ヲセラル、其經營ニ幾多困難アリシハ想察スルニ餘アリ、而モ關係各位其ノ責務ヲ重ンジ、何レモ寢食ヲ忘レテ勵精努力以テ此ノ空前ノ事業ヲ能ク成功セラレタルハ、特ニ吾人ノ慶賀ニ堪ヘザル所ナリ。冀クハ關係各位ノ和衷協力ニ依リ今後諸般ノ施設圓滿ニ進行シ益々博覽會ノ盛況ヲ見以テ遺憾ナク所期ノ目的ヲ達成セラレンコトヲ。聊カ所感ヲ陳ベテ祝辭トス。

昭和三年三月二十日

神戶市長　黑瀨弘志

祝辭

一國ノ隆昌ハ懸ッテ產業ノ盛衰ニアリ、而シテ產業ノ發達ハ都市ニ負フ所最モ多シ、今ヤ我國ノ產業界ハ漸ク好轉ノ兆候ヲ示シツヽアリト雖モ、是僅ニ積年ノ類勢ヲ挽回スル可ク一步ヲ進メタルニ過ギズ、國運ノ現狀、產業ノ大局ヨリ見テ國民ノ奮起ニ俟ツ所頗ル大ナリ、此秋ニ當リ此地ニ一大博覽會ヲ開催セラルヽニ至リタルハ、眞ニ時宜ヲ得タリト云フ可ク、而シテ其ノ成果ガ市ノ發展ト邦家產業ノ開發ニ貢獻スル所甚大ナル可キハ信ジテ疑ハザル所

ナリ、誰カ此ノ壯擧ヲ祝福シ、其ノ成功ヲ祈ラザルモノアランヤ、況ヤ岡山廣島ノ兩市ガ地利的關係ニ於テ人情風俗ニ於テ將又其産業及經濟ノ狀態ニ於テ近似スルモノ多ク、實ニ脣齒輔車ノ關係アルニ於テヲヤ。冀クハ克ク帝國ノ現狀ニ鑑ミ、本會ノ趣旨ニ照シ一層ノ努力ヲ以テ有終ノ美ヲ濟シ邦家ノ爲其ノ功ヲ大成セシメラレンコトヲ、茲ニ大日本勸業博覽會ノ盛典ニ列スルノ光榮ニ浴シタルコトヲ深ク感謝シ、併セテ一言所懷ヲ述ベテ祝辭トス。

昭和三年三月二十日

廣島市長　川淵龍起

祝辭

國力ノ充實ト國運ノ進展ヲ期センニハ一ツニ産業ノ振興ニ侍タザル可カラズ。

歐洲大戰後ノ歐米外國ハ拮据精勵相競ツテ産業ノ復興改善ニ努メ、其恢復ノ速ニシテ而モ成果ノ顯著ナル實ニ賞嘆ニ値スルモノアリ。方今我國ニ於テモ産業立國ノ聲朝野ニ喧シキハ眞ニ故アリト云フベシ。

岡山市茲ニ見ル所アリ大日本勸業博覽會ヲ開催シ、廣ク全國ノ生産品ヲ一場ニ蒐集シテ、以テ邦家産業ノ改善進歩ニ資セラレントシ、本日之ガ盛大ナル開會式ヲ擧ゲラルヽニ當リ不肖之ニ參列スルヲ得タルハ大イニ欣快トスル所ナリ。

惟フニ産業ノ發達ハ各種ノ生産品ヲ比較對照シテ其精粗巧拙ヲ考査シ、以テ進歩改善ニ資スルヲ根本トス。博覽會ガ産業ノ發達國運ノ興隆ニ重大ナル意義ヲ有スル所以ハ實ニ茲ニ存スルモノニシテ、今回ノ此催シガ我國産業ノ發展ニ大ナル貢獻ヲ爲ス所アルハ深ク信ジテ疑ハズ、茲ニ關係各位ノ御盡力ニ對シ、衷心感謝ノ意ヲ表スルト共ニ有終ノ美ヲ收メラレン事ヲ祈リ聊カ所感ヲ述ベテ祝辭トナス。

昭和三年三月二十日

廣島商工會議所會頭　熊平源藏

祝辭

富國ノ根源ハ産業ノ振興ニアリ、殖産ノ基礎ハ國民ノ研精ニ存ス。

岡山市茲ニ鑑ル所アリ、銅貴ヲ致シテ大日本勸業博覽會ヲ開設シ具ニ邦家産業ノ進展ニ貢献セントス、寔ニ壯ナリト謂フベシ。

殊ニ今回ノ擧タルヤ出陳ノ品類ヲ廣ク全國ニ求メ、諸般ノ精良ヲ内外ニ擧ゲ、天産人造ノ粹悉ク森列セザルナシ、蓋シ地方空前ノ壯圖ニシテ國家民生ノ福利期シテ待ツベキナリ。

今ヤ積年財界ノ不況漸ク革マラントシテ産業勃興ノ機運ニ際會スル眞ニ國家ノ發展ニ投ズル一新動力ヲ與フルモノニシテ、深ク欣慶ノ情ニ堪ヘザルナリ。

時ハ之レヲ春陽暖光悠々トシテ、新生ノ氣溢フ、來ツテ開會ノ典ニ陪シ愉快禁ゼズ、諸賢ノ歡聲ニ和シ滿腔ノ赤誠ヲ披イテ本會ヲ讃美シ、前途ノ隆運ヲ祈ル。

昭和三年三月二十日

岡山縣町村長會長西大寺町長　岡崎勉

祝辭

我岡山市ハ文化ノ福區産業ノ中心トシテ其名夙ニ著ハレ、市制施行以來茲ニ四十年市運大ニ興リ商工頗ル賑ヒ、今ヤ都市計畫已ニ經始セラレ、旭川改修亦其緒ニ着キ陰陽聯絡ノ鐵道近ク將ニ貫通シテ、市ノ面目一新セントス。此時ニ際シ市運ノ發展ニ資センガタメ、大日本勸業博覽會ヲ開催セラレントスルヤ當局有司ノ多大ナル努力ト全國實業家ノ熱心ナル協贊トニ依リ、經營着々トシテ進捗シ豫定ノ如ク本日ヲ以テ、發會ノ式典ヲ擧行セラレタルハ誠ニ慶賀ノ情ニ堪ヘザルナリ、思フニ國富ノ增進ハ産業ノ振興ニ依リ、産業ノ振興ハ民衆ノ勸勉ト學藝ノ進歩トニ由ル、而シテ直接ニ民衆ヲ勸奬シテ、産業ノ振興ニ資スルハ勸業博覽會ヨリ適切ナルハナシ。然レバ此ノ擧當ニ我市ノ發展ニ利スルノミナラズ、又以テ全國ノ商工業ヲ促進スルコト極メテ大ナルモノアルベシ、是豈欣ンデ慶セザルベケンヤ。冀クハ市民ノ最善ナル協力ト當局ノ周密ナル處理トニ依リ以テ有終ノ美ヲ擧ゲラレンコトヲ、聊カ一言ヲ叙シテ祝辭トナス。

昭和三年三月二十日

岡山市會議長　國富友次郎

祝辭

岡山市主催大日本勸業博覽會ハ茲ニ本日ヲトシ、開會ノ式典ヲ擧行セラルヽニ當リ不肖其ノ席末ニ列スルヲ得タルハ最モ光榮トスル所ナリ。

惟フニ國家ノ隆昌ハ生産富饒ニ在リ、財界不況挽回策トシテ、此ノ美擧アルハ洵ニ機宜ニ適シタル企劃ニシテ、斯業促進上慶賀ニ堪ヘザルナリ。希クハ本會ノ目的ヲ盛大ニ遂行サレ、以テ本邦産業ノ發展ニ資シ併セテ國運ノ興隆ニ稗益スル所アランコトヲ聊カ所感ヲ述ベテ祝辭トス。

昭和三年三月二十日

出品人總代　更井久正

祝電

□

大日本勸業博覽會開會式擧行ニ當リ、祝意ヲ表シ併セテ所期ノ目的ヲ達成シ、光輝アル成果ヲ收メラレンコトヲ希望ス。

（農林大臣）

□

大日本勸業博覽會開會ノ盛典ヲ擧行セラルヽニ當リ、貴會ノ御

隆昌ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。（臺北州知事　三浦太郎）

□

貴博會ノ開會式ニ際シ、遙ニ祝意ヲ表シ、御成功ヲ祈ル。

（朝鮮總督）

□

盛大ナル開會式ヲ祝シ、衷心ヨリ御隆昌ヲ祈ル。

（滋賀縣知事　今村正美）

□

開會ヲ祝シ、併セテ盛大ナル貴會ノ御成功ヲ期待ス。

（松井平壤府　尹）

□

開會ヲ祝シ、併テ所期ノ御成功ヲ祈ル。（京城府　尹）

□

御盛典ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（愛媛縣知事）

□

貴會ノ開會ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。（廣島縣知事）

□

開會ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。（慶尙北道知事）

□

御盛典ヲ祝ス。

（米田京畿道知事）

□

開會ノ盛況ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（福井縣知事）

□

謹ンデ盛會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（群馬縣知事）

□

本日ノ盛典ニ當リ、遙ニ祝意ヲ表ス。（兵庫縣知事　長延連）

□

開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（新竹州知事）

□

開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（福岡縣知事）

□

開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（臭鎭守府司令長官）

□

開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（臺灣總督府總務長官）

□

開會ヲ祝ス、併セテ御成功ヲ祈ル。

（北海道長官）

□

開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（東京府知事　平塚廣義）

□

開會ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。

（平安南道知事）

□

御盛典ヲ祝ス。

（米田京畿道知事）

□

開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（岐阜市長）

□

御盛大ナル開館ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。（松山市長）

□

謹ミテ大日本博覽會ノ開館ヲ祝ス。

（鶴岡市長）

□

本日ノ盛典ヲ祝シ、併セテ貴會ノ御成功ヲ祈ル。（大分市長）

□

御開館ヲ祝ス。

（堺市長　森本仁平）

□

遙ニ開會ノ盛典ヲ祝ス。

（東京市長）

□

開會ヲ祝シ、產業奬勵ノ爲メ御成功ヲ祈ル。

大阪市長）

□

開會式ニ當リ御盛典ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。

（名古屋市長）

□

貴會開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（小樽市長）

□

盛大ナル開會式ヲ祝シ、併セテ貴會ノ御成功ヲ祈ル。

（京都市長）

□

開會ヲ祝ス。

（下關市長）

□

遙ニ開會ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。（大連市長杉野孝三郎）

□

御盛典ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（函館市長）

□

開會ヲ祝ス。

（松江市長）

□

岡山市主催大日本勸業博覽會開會ノ盛典ヲ祝シ、併セテ其ノ御成功ヲ祈ル。

（滿鐵社長　山本條太郎）

□

開會ノ盛典ヲ祝ス。

（京都出品協會）

□

開會ヲ祝ス。

（岐阜市商工會議所）

□

盛典ヲヲス。

（姬路市商工會議所會頭　濱本八次郎）

□

盛大ナル開會式ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。

（熊本縣出品協會長　阪本登）

□

御盛會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。

（京城商業會議所會頭　渡邊貞一郎、大村書記長）

□ 貴博覽會開會ノ盛典ヲ祝シ、併セテ所期ノ成果ヲ收メラレンコトヲ祈ル。（滿鐵商工課長）

□ 大日本勸業博覽會ノ開會ニ當リ、遙ニ祝意ヲ表ス。（兵庫縣實業協會長）

□ 貴博覽會開會ヲ祝シ、併セテ御成功ヲ祈ル。（大阪出品聯合會　鵜飼）

□ 開會ヲ祝シ、併セテ貴會ノ隆盛ヲ祈ル。（北海道商工會議所聯合會長　磯野進）

□ 貴博覽會ノ開會ヲ祝ス。（青森商工會議所）

□ 貴博覽會ノ御盛會ヲ祝ス。（札幌商工會議所會頭）

□ 盛大ナル開會ヲ祝シ、謹デ產業振興ノ爲益々御奮闘ヲ祈ル。（木浦商工會議所山野會頭）

□ 開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。（仁川商工會議所）

□ 盛大ナル開會ヲ祝ス。（函館商工會議所會頭　平出喜三郎）

□ 本日ノ盛典ヲ祝シ、貴會ノ御成功ヲ祈ル。（長岡商工會議所會頭）

□ 貴博覽會ノ開會ヲ祝シ、併セテ貴會ノ御成功ヲ祈ル。（敦賀商工會議所會頭　那須吉兵衛）

□ 御盛典ヲ祝ス。（大分商工會長　高田保）

□ 開會ヲ祝ス。（大分縣出品協會長）

□ 盛大ナル開會式ヲ祝シ、博覽會ノ御成功ヲ祈ル。（盛岡商工會議所會頭）

□ 御盛會ヲ祝ス。（赤澤香川縣善通寺町長）

□ 御盛典ヲ祝ス。（鳥取縣御來屋町長）

□ 御盛會ヲ祝ス。（吳市山田勸業課長）

□ 御盛會ヲ祝ス。（東京實業聯合會）

□ 遙ニ開會ノ盛況ヲ祝ス。（臺南商工會　佐々木紀綱）

□ 開會ヲ祝シ、成功ヲ祈ル。（富山商工會議所）

□ 開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。（大阪　中原謙藏）

□ 開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。（夕刊　大阪新聞社）

□ 開會ノ盛典ヲ祝ス。（共和會）

□ 謹デ貴會ノ御發會ヲ祝ス。（出張先ヨリ　猪瀨海軍大佐）

□ 開會ヲ祝ス。（京都　定方介石）

□ 開會ヲ祝ス、御成功ヲ祈ル。（大阪市電戶羽）

□ 御開會ヲ祝シ、併セテ公益ノタメ大々的御成功ヲ祈ル。（大阪朝日新聞社）

□ 開會ヲ祝ス。（松原三五郎）

□ 開會ヲ祝シ、市ノ發展ヲ祈ル。（衆議院議員　星島二郎）

□ 盛大ナル發會式ヲ祝ス。併セテ博覽會ノ成功ヲ祈ル。（大阪市　三笠屋百貨店）

□ 開會式ヲ祝ス。（東京商工會議所）

□ 大日本勸業博覽會ノ開會ヲ祝シ、御成功ヲ祈ル。（釜山府）

□ 博覽會開會ノ盛典ヲ祝ス。（チンコウサン）

因に開會式擧行については屢々準備打合會を開き、或は部署を定め遺憾なきを期したるが招待の範圍は道府縣知事、內務部長、商工課長、農務、山林課長、市長、助役、府縣商工會議所會頭、商品陳列所長、貴衆兩議員、縣會議員、縣下郡農會長、各町村長、各種組合、團體長、其他名士にして總數一萬一千八百八十九人の多きに達せり。

開會式役員割

△受付係（主任）守安郁二、谷口源藏
（係）大谷松二郎、浮田慧、村岡藤三郎、木野玉治、岡崎政惠、河合半太郎、藤原次四郎、大森逢二、中村房吉、福明斧吉、山本輝雄、武田康夫、宇高辨三、近藤攻、笠井幸三郎、佐藤博、
△式場案內係（主任）垣見秀男
（係）唐川銳郎、辻本茂、牧野豪傑、上田鹿太郎、清水正輔、
△接待係（主任）井上憲、五賀勘次、菊元品次郎、
（係）粟井慶四郎、木山淳一、花房信雄、森延太郎、中條都一郎、安藤千秋、和久井甚吉、浦田喜平、光石彌吉、鈴村嘉一、井上孝治、飯田正勝、宇野木長、室井龜三、赤木玖平、板野諠作、小原正造、中島重助、月山佐喜、

案內狀　用紙厚用紙金緣縱五寸八分橫三寸八分

謹啓時下春陽の候愈々御淸祥奉大賀候
陳ば大日本勸業博覽會開催に關しては、多大の御高配を忝ふし難有奉深謝候、以御蔭本會事業も豫期以上の成績を得候事は誠に欣幸に堪へざる次第に有之候、就ては來る三月二十日午前十時本會第二會場に於て、開會式擧行致候間、萬障御繰合せ御賁臨相仰ぎ度此段御案內申上候　敬具

追て御入場の際は本招待狀を受付係に御示し被下度、尙準備の都合有之候に付、御出席の有無別紙（通知書）を以て御一報相煩し度候

昭和三年三月八日

大日本勸業博覽會長
岡山市長　窪谷逸次郎

殿

開會式記念品

（一）、岡山市主催大日本勸業博覽會諸規程、（二）、岡山市勸業要覽、（三）、岡山、（四）、岡山名勝と名物、（五）、岡山市圖、（六）、岡山市主催大日本勸業博覽會場全景圖附岡山市を中心とせる交通圖繪、（七）、岡山市主催大日本勸業博覽會會場各館小間配置略圖、（八）、岡山市主催大日本勸業博覽會記念繪葉書（一組三枚）

第二節　會場事務

會期中本會事務員に對し各會場事務の分任を命じ、其の擔任各館に出場執務せしむると共に、常任理事及び委員に對し、各會場出場日割を定め、主として來賓の接待並に事務の補助に當らしめ以て遺憾なきを期したり。

一、事務分任

館名	擔任者氏名	館名	擔任者氏名
本館			
南洋廳、長崎縣			
沖繩縣、熊本縣	大森康雄	別館	清水万恭
大分縣、山口縣			
福岡縣、鹿兒島縣			
山形縣、岩手縣	松原武志		古川忠雄
福島縣、青森縣			
愛媛縣、千葉縣			
德島縣、高知縣	三宅三郎	發明機械電氣館	松田繁雄
福井縣、石川縣			小倉勇
香川縣、富山縣			
靜岡縣、東京市			
埼玉縣、栃木縣	武光太	教育館	岡田虎藏
和歌山縣、茨城縣			
滋賀縣、三重縣		林鑛館	中山義高
奈良縣、山梨縣	中島利德		
佐賀縣、神奈川縣			安田巖
岐阜縣、新潟縣		農水產館	龜山三七
長野縣、群馬縣	內藤昌一		
愛知縣			內藤壽夫
鳥取縣、大阪府	甲元與	社會館	山崎乙次郎
京都府、兵庫縣	太田智	中央館	河島光夫
廣島縣、島根縣	故倉竪太郎	衛生館	野崎稔
岡山縣	草野堅郎		

二、出場日割

月日	第一會場	第二會場	第三會場
三月廿一日	牧野靜吉	景山豊五郎	角道有太郎
	林泰八		
	中田彌作	平尾孟	森安豊次郎
	河合一二		
仝廿二日	梶谷福一	水田新五郎	松島榮造
	小倉金光		
	原貫一郎	片山良一	高須大憲
	尾關桂太郎		
仝廿三日	石田長九郎	寺岡樋三郎	山崎定太郎
	岩田竹三		
	伊藤好良	西原壽吉	霜山健一
	片山忠次		
仝廿四日	橫山昊太	有岡幹三郎	難波鐵太郎
	前田半十郎		
	岡田五三郎	赤木兵吉	黑太三二
	足利義見		
仝廿五日	龜山政三	吉田才次	近藤照一
	山田音次郎		
	岩越經次郎	西尾元治郎	柳澤憲二
	齋藤吉平		

景山豊五郎	牧野靜吉	中田彌作				
平尾孟						
角道有太郎	林泰八	河合一二				
森安豊次郎						
水田新五郎	梶谷福一	原貫一郎	松島榮造	尾關桂太郎		
片山良一	小合金光					
松島榮造	尾關桂太郎					
高須大憲						
寺岡槌三郎	石田長九郎	伊藤好良	片山忠次			
西原壽吉	岩田竹三					
山崎定太郎	横山昊太	岡田五三郎				
霜山健一						
有岡幹三郎	赤木兵吉	雜波鐵太郎				
黒太三二						
吉田才次	亀山政三	岩越經次郎	齋藤吉平			
西尾元治郎	山田音次郎					
近藤照一	柳澤憲二					
牧野靜吉	景山豊五郎	角道有太郎	森安豊次郎			
林泰八	平尾孟					
中田彌作	河合一二					
梶谷福一	水田新五郎	原貫一郎	尾關桂太郎			
小合金光						
片山良一	高須大憲					
石田長九郎	寺岡槌三郎	山崎定太郎				
岩田竹三	伊藤好良	霜山健一	木野玉治			
片山忠次	西原壽吉					
宇高辨三	木山淳一					

河合一二						
四月一日	梶谷福一	水田新五郎	松島榮造			
小合金光						
原貫一郎	片山良一	高須大憲				
尾關桂太郎						
石田長九郎	寺岡槌三郎	山崎定太郎	霜山健一			
岩田竹三	伊藤好良					
片山忠次	西原壽吉					
仝二日	横山昊太	前田牛十郎	岡田五三郎	赤木兵吉	黒太三二	
足利義見						
亀山政三	吉田才次	近藤照一	柳澤憲二			
山田音次郎						
岩越經次郎	西尾元治郎					
齋藤吉平						
仝三日	有岡幹三郎	赤木兵吉	雜波鐵太郎	黒太三二		
前田牛十郎						
岡田五三郎	足利義見					
赤木兵吉						
横山昊太	有岡幹三郎	雜波鐵太郎	黒太三二			
前田牛十郎						
岡田五三郎	片山忠次					
足利義見						
仝四日	亀山政三	吉田才次	近藤照一	柳澤憲二		
山田音次郎						
岩越經次郎	西尾元治郎					
齋藤吉平						
水田新五郎	梶谷福一	原貫一郎	尾關桂太郎			
片山良一	小合金光					
松島榮造	高須大憲					
仝五日	寺岡槌三郎	石田長九郎	伊藤好良			
西原壽吉						
仝七日						

山崎定太郎	岩田竹三	片山忠次				
霜山健一						
仝八日	有岡幹三郎	赤木兵吉	雜波鐵太郎	黒太三二		
横山昊太	岡田五三郎	前田牛十郎	足利義見			
吉田才次	亀山政三	岩越經次郎	齋藤吉平			
西尾元治郎	山田音次郎					
近藤照一	柳澤憲二					
牧野靜吉	景山豊五郎	角道有太郎	森安豊次郎			
林泰八	平尾孟					
中田彌作	河合一二					
梶谷福一	水田新五郎	原貫一郎	尾關桂太郎			
小合金光						
片山良一	高須大憲					
仝十日	石田長九郎	寺岡槌三郎	山崎定太郎	霜山健一		
岩田竹三	伊藤好良					
片山忠次	西原壽吉					
宇高辨三	木山淳一					
仝十一日	横山昊太	前田牛十郎	岡田五三郎	赤木兵吉	黒太三二	
足利義見						
亀山政三	吉田才次	近藤照一	柳澤憲二			
山田音次郎						
岩越經次郎	西尾元治郎					
齋藤吉平						
佐藤博	三田蕃義	清田登				
仝十二日	景山豊五郎	平尾孟	牧野靜吉			
角道有太郎	林泰八					
森安豊次郎	中田彌作					
栗井慶四郎	前原助次郎	宮部善明				
仝十三日	水田新五郎	片山良一	梶谷福一	原貫一郎	尾關桂太郎	
小合金光						
松島榮造	高須大憲					
仝十四日	寺岡槌三郎	石田長九郎	伊藤好良			
西原壽吉						
山崎定太郎	岩田竹三	片山忠次				
仝十五日	水田新五郎	片山良一	梶谷福一	原貫一郎	尾關桂太郎	
小合金光						
松島榮造	高須大憲					
仝十六日	寺岡槌三郎	石田長九郎	伊藤好良			
西原壽吉						
山崎定太郎	岩田竹三	片山忠次				
仝十七日						

	霜山健一	有岡幹三郎	横山昊太	岡田五三郎	岩越經次郎	亀山政三
	安藤千秋	赤木兵吉	前田半十郎	足利義見	齋藤吉平	山田音次郎
		難波鐵太郎	黒太三二	清田登	宮部善明	近藤照一
		中條都一郎	三田蕃義			柳澤憲二
						森延太郎
十七日	高須大憲	寺岡槌三郎	石田長九郎	西原壽吉	山崎定太郎	有岡幹三郎
	近藤攻	三田蕃義	木野玉治	伊藤好良	片山忠次	赤木兵吉
	垣見秀男			霜山健一	前原助次郎	難波鐵太郎
				佐藤千秋	清田登	黒太三二
						中條都一郎
十八日	有岡幹三郎	赤木兵吉	難波鐵太郎	黒太三二	近藤攻	中條都一郎
十九日	吉田才次	西尾元治郎	近藤照一	柳澤憲二	字高辨三	鈴村嘉一
	牧野靜吉	林泰八	中田彌作	河合一二	鈴村嘉一	梶谷福一
			平尾孟	三田蕃義	佐藤博	小合金光
			森安豊次郎		森延太郎	原貫一郎
二十日	梶谷福一	小合金光	水田新五郎	松島榮造	小合金光	片山良一
	小合金光	原貫一郎	片山良一	高須大憲	原貫一郎	尾關桂太郎
	原貫一郎	尾關桂太郎	尾關桂太郎	大森縫二	尾關桂太郎	栗井慶四郎
	尾關桂太郎	栗井慶四郎	栗井慶四郎		栗井慶四郎	
廿一日	石田長九郎	寺岡槌三郎	山崎定太郎	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一
	寺岡槌三郎	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	霜山健一	伊藤好良
	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	伊藤好良	片山忠次
	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	片山忠次	佐藤博		佐藤博	
	片山忠次	佐藤博				
	佐藤博					
廿二日	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	三田蕃義	清田登	片山忠次	佐藤博	
	片山忠次	清田登		佐藤博		
	佐藤博					
廿三日	横山昊太	有岡幹三郎	難波鐵太郎	黒太三二	宮部善明	
	前田半十郎	赤木兵吉	黒太三二	宮部善明		
	岡田五三郎	前原助次郎	宮部善明			
	足利義見	宮部善明				
	宇高辨三					
廿四日	亀山政三	吉田才次	近藤照一	木野玉治		
	山田音次郎	西尾元治郎	尾谷半三郎			
	齋藤吉平	木山淳一	木野玉治			
	佐藤博					
廿五日	景山豊五郎	牧野靜吉	中田彌作	河合一二	清田登	
	平尾孟	林泰八	河合一二	清田登		
	角道有太郎	小原正造	清田登			
	森安豊次郎					
	谷口源藏					
廿六日	水田新五郎	梶谷福一	原貫一郎			
	片山良一	小合金光	尾關桂太郎			
	松島榮造					

	高須大憲	寺岡槌三郎	石田長九郎	西原壽吉	山崎定太郎	有岡幹三郎
	近藤攻	三田蕃義	木野玉治	伊藤好良	片山忠次	赤木兵吉
	垣見秀男			霜山健一	前原助次郎	難波鐵太郎
				佐藤千秋	清田登	黒太三二
						中條都一郎
十七日						
十八日	有岡幹三郎	赤木兵吉	難波鐵太郎	黒太三二	近藤攻	中條都一郎
十九日	吉田才次	西尾元治郎	近藤照一	柳澤憲二	字高辨三	鈴村嘉一
	牧野靜吉	林泰八	中田彌作	河合一二	鈴村嘉一	梶谷福一
			平尾孟	三田蕃義	佐藤博	小合金光
			森安豊次郎		森延太郎	原貫一郎
二十日	梶谷福一	小合金光	水田新五郎	松島榮造	小合金光	片山良一
	小合金光	原貫一郎	片山良一	高須大憲	原貫一郎	尾關桂太郎
	原貫一郎	尾關桂太郎	尾關桂太郎	大森縫二	尾關桂太郎	栗井慶四郎
	尾關桂太郎	栗井慶四郎	栗井慶四郎		栗井慶四郎	
廿一日	石田長九郎	寺岡槌三郎	山崎定太郎	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一
	寺岡槌三郎	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	霜山健一	伊藤好良
	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	伊藤好良	片山忠次
	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	片山忠次	佐藤博		佐藤博	
	片山忠次	佐藤博				
	佐藤博					
廿二日	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	三田蕃義	清田登	片山忠次	佐藤博	
	片山忠次	清田登		佐藤博		
	佐藤博					
廿三日	横山昊太	有岡幹三郎	難波鐵太郎	黒太三二	宮部善明	
	前田半十郎	赤木兵吉	黒太三二	宮部善明		
	岡田五三郎	前原助次郎	宮部善明			
	足利義見	宮部善明				
	宇高辨三					
廿四日	亀山政三	吉田才次	近藤照一	木野玉治		
	山田音次郎	西尾元治郎	尾谷半三郎			
	齋藤吉平	木山淳一	木野玉治			
	佐藤博					
廿五日	景山豊五郎	牧野靜吉	中田彌作	河合一二	清田登	
	平尾孟	林泰八	河合一二	清田登		
	角道有太郎	小原正造	清田登			
	森安豊次郎					
	谷口源藏					
廿六日	水田新五郎	梶谷福一	原貫一郎			
	片山良一	小合金光	尾關桂太郎			
	松島榮造					

	霜山健一	有岡幹三郎	横山昊太	岡田五三郎	岩越經次郎	亀山政三
	安藤千秋	赤木兵吉	前田半十郎	足利義見	齋藤吉平	山田音次郎
		難波鐵太郎	黒太三二	清田登	宮部善明	近藤照一
		中條都一郎	三田蕃義			柳澤憲二
						森延太郎
十七日	高須大憲	寺岡槌三郎	石田長九郎	西原壽吉	山崎定太郎	有岡幹三郎
	近藤攻	三田蕃義	木野玉治	伊藤好良	片山忠次	赤木兵吉
	垣見秀男			霜山健一	前原助次郎	難波鐵太郎
				佐藤千秋	清田登	黒太三二
						中條都一郎
十八日	有岡幹三郎	赤木兵吉	難波鐵太郎	黒太三二	近藤攻	中條都一郎
十九日	吉田才次	西尾元治郎	近藤照一	柳澤憲二	字高辨三	鈴村嘉一
	牧野靜吉	林泰八	中田彌作	河合一二	鈴村嘉一	梶谷福一
			平尾孟	三田蕃義	佐藤博	小合金光
			森安豊次郎		森延太郎	原貫一郎
二十日	梶谷福一	小合金光	水田新五郎	松島榮造	小合金光	片山良一
	小合金光	原貫一郎	片山良一	高須大憲	原貫一郎	尾關桂太郎
	原貫一郎	尾關桂太郎	尾關桂太郎	大森縫二	尾關桂太郎	栗井慶四郎
	尾關桂太郎	栗井慶四郎	栗井慶四郎		栗井慶四郎	
廿一日	石田長九郎	寺岡槌三郎	山崎定太郎	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一
	寺岡槌三郎	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	霜山健一	伊藤好良
	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	伊藤好良	片山忠次
	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	片山忠次	佐藤博		佐藤博	
	片山忠次	佐藤博				
	佐藤博					
廿二日	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	三田蕃義	清田登	片山忠次	佐藤博	
	片山忠次	清田登		佐藤博		
	佐藤博					
廿三日	横山昊太	有岡幹三郎	難波鐵太郎	黒太三二	宮部善明	
	前田半十郎	赤木兵吉	黒太三二	宮部善明		
	岡田五三郎	前原助次郎	宮部善明			
	足利義見	宮部善明				
	宇高辨三					
廿四日	亀山政三	吉田才次	近藤照一	木野玉治		
	山田音次郎	西尾元治郎	尾谷半三郎			
	齋藤吉平	木山淳一	木野玉治			
	佐藤博					
廿五日	景山豊五郎	牧野靜吉	中田彌作	河合一二	清田登	
	平尾孟	林泰八	河合一二	清田登		
	角道有太郎	小原正造	清田登			
	森安豊次郎					
	谷口源藏					
廿六日	水田新五郎	梶谷福一	原貫一郎			
	片山良一	小合金光	尾關桂太郎			
	松島榮造					

	高須大憲	寺岡槌三郎	石田長九郎	西原壽吉	山崎定太郎	有岡幹三郎
	近藤攻	三田蕃義	木野玉治	伊藤好良	片山忠次	赤木兵吉
	垣見秀男			霜山健一	前原助次郎	難波鐵太郎
				佐藤千秋	清田登	黒太三二
						中條都一郎
十七日						
十八日	有岡幹三郎	赤木兵吉	難波鐵太郎	黒太三二	近藤攻	中條都一郎
十九日	吉田才次	西尾元治郎	近藤照一	柳澤憲二	字高辨三	鈴村嘉一
	牧野靜吉	林泰八	中田彌作	河合一二	鈴村嘉一	梶谷福一
			平尾孟	三田蕃義	佐藤博	小合金光
			森安豊次郎		森延太郎	原貫一郎
二十日	梶谷福一	小合金光	水田新五郎	松島榮造	小合金光	片山良一
	小合金光	原貫一郎	片山良一	高須大憲	原貫一郎	尾關桂太郎
	原貫一郎	尾關桂太郎	尾關桂太郎	大森縫二	尾關桂太郎	栗井慶四郎
	尾關桂太郎	栗井慶四郎	栗井慶四郎		栗井慶四郎	
廿一日	石田長九郎	寺岡槌三郎	山崎定太郎	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一
	寺岡槌三郎	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	霜山健一	伊藤好良
	山崎定太郎	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	伊藤好良	片山忠次
	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	片山忠次	佐藤博		佐藤博	
	片山忠次	佐藤博				
	佐藤博					
廿二日	岩田竹三	西原壽吉	霜山健一	伊藤好良	片山忠次	佐藤博
	伊藤好良	三田蕃義	清田登	片山忠次	佐藤博	
	片山忠次	清田登		佐藤博		
	佐藤博					
廿三日	横山昊太	有岡幹三郎	難波鐵太郎	黒太三二	宮部善明	
	前田半十郎	赤木兵吉	黒太三二	宮部善明		
	岡田五三郎	前原助次郎	宮部善明			
	足利義見	宮部善明				
	宇高辨三					
廿四日	亀山政三	吉田才次	近藤照一	木野玉治		
	山田音次郎	西尾元治郎	尾谷半三郎			
	齋藤吉平	木山淳一	木野玉治			
	佐藤博					
廿五日	景山豊五郎	牧野靜吉	中田彌作	河合一二	清田登	
	平尾孟	林泰八	河合一二	清田登		
	角道有太郎	小原正造	清田登			
	森安豊次郎					
	谷口源藏					
廿六日	水田新五郎	梶谷福一	原貫一郎			
	片山良一	小合金光	尾關桂太郎			
	松島榮造					

	全四日	全五日	全六日	全七日
亀山政三	山田音次郎	景山豊五郎	水田新五郎	寺岡槌三郎
岩越經次郎	吉田才次	平尾孟	片山良一	西原壽吉
齋藤吉平	西尾元次郎	角道有太郎	松島榮造	山崎定太郎
宇高辨三	柳澤憲二	森安豐次郎	高須大憲	霜山健一
近藤博	三田蕃義	佐藤博	唐川鋭郎	谷口源藏
近藤照一	牧野靜吉	梶谷福一	近藤攻	小原正造
柳澤憲二	林泰八	原貫一郎	木山淳一	清田登
三田蕃義	河合一二	伊藤好良	大森縫二	
木野玉治	光石彌吉	片山忠次		

	全八日	全九日	全十日	全十一日
近藤攻	有岡幹三郎	吉田才次	梶谷福一	小合金光
	赤木兵吉	西尾元治郎	牧野靜吉	水田新五郎
	雜波鐵太郎	近藤照一	林泰八	原貫一郎
	黒太三二	柳澤憲二	中田彌作	片山良一
	垣見秀男	安藤千秋	河合一二	
	宇高辨三	佐藤博	中條都一郎	
	横山昊太	亀山政三	近藤攻	
	前田半十郎	山田音次郎	景山豊五郎	
	足利義見	前原助次郎	平尾孟	
	三田蕃義	木野玉治	森安豐次郎	
	岡田五三郎	岩越經次郎	角道有太郎	
	宮部善明	齋藤吉平	松島榮造	
	岩越經次郎	宮部善明	高須大憲	

	全十二日	全十三日	全十四日	全十五日
森延太郎	石田長九郎	横山昊太	亀山政三	景山豊五郎
宇高辨三	岩田竹三	前田半十郎	山田音次郎	平尾孟
小原正造	伊藤好良	岡田五三郎	岩越經次郎	角道有太郎
	片山忠次	足利義見	齋藤吉平	
	鈴村嘉一	宇高辨三	栗井慶四郎	
大森縫二	佐藤博	近藤攻	宇高辨三	
	寺岡槌三郎	有岡幹三郎	吉田才次	牧野靜吉
	山崎定太郎	赤木兵吉	近藤照一	中田彌作
	霜山健一	黒太三二	西尾元治郎	林泰八
	三田蕃義	前原助次郎	柳澤憲二	河合一二
	清田登	光石彌吉	木山淳一	大森縫二

	全十六日	全十七日	全十九日
森安豐次郎	水田新五郎	寺岡槌三郎	吉田才次
唐川鋭郎	片山良一	西原壽吉	西尾元治郎
佐藤博	梶谷福一	石田長九郎	亀山政三
小原正造	松島榮造	山崎定太郎	岩越經次郎
	小合金光	岩田竹三	
	高須大憲	霜山健一	
	三田蕃義	前原助次郎	
宮部善明	宇高辨三	光石彌吉	
	原貫一郎	伊藤好良	有岡幹三郎
	尾關桂太郎	片山忠次	赤木兵吉
	大森縫二	大森縫二	雜波鐵太郎
	近藤攻	近藤攻	前田半十郎
	横山昊太	横山昊太	足利義見
	前田半十郎	前田半十郎	宮部善明
	足利義見	足利義見	岩越經次郎
	宮部善明	宮部善明	
	岩越經次郎	岩越經次郎	

	近藤照一	齋藤吉平
	柳澤憲二	山田音次郎
仝二十日	牧野靜吉	齋藤吉平
	林泰八	景山豊五郎
	中田彌作	平尾孟
	河合一二	森安豊次郎
仝廿一日	梶谷福一	角道有太郎
	小合金光	水田新五郎
	原貫一郎	松島榮造
	尾關桂太郎	片山良一
仝廿二日	石田長九郎	高須大憲
	岩田竹三	寺岡樋三郎
	伊藤好良	山崎定太郎
	片山忠次	霜山健一
仝廿三日	横山昊太	岡田五三郎
	前田半十郎	有岡幹三郎
	岡田五三郎	雜波鐵太郎
	足利義見	赤木兵吉
仝廿四日	亀山政三	岩越經次郎
	山田音次郎	吉田才次
	岩越經次郎	近藤照一
	齋藤吉平	西尾元治郎

	河合一二	
仝廿一日	梶谷福一	水田新五郎
	小合金光	松島榮造
	原貫一郎	片山良一
	尾關桂太郎	高須大憲

第三節　接待

本會開會式閉會式並に褒賞授與式をはじめ、會期中各道府縣郡市よりの賓客及び本會開設上盡瘁されたる特志者の優待については總て第一會場迎賓館に於てせり。

館の一部を貴賓室に、他を普通優待室に充て、給仕五名の外常に部員交代にて詰切り、入館者には演藝館入場券、記念繪葉書、會場案内圖、岡山市街圖、其の他博覽會に關するパンフレットを贈呈し、茶菓は素より中餐、晩餐等を饗したり。

協賛會も亦出來得る限り、本會と提携して、來賓優待の衝に當り尚岡山縣工場協會は重要物産實演即賣館内に喫茶室を設けたり。

一般觀覽者の接待としては、各會場内に數箇所の無料休憩所を設け、共同椅子を配列し、又會場内に於ける噴水池、噴水塔、花園附近に數十のベンチを配置して湯茶を備へ、觀覽人の休憩に便せり。なほ特志にて無料休憩所を設けたるもの或は廣告塔の内部を休憩所に充てたるもの多數なるを以て相當の人員を收容するも、尚且餘裕を示したり。

第四節　閉會式

岡山市が空前の大事業として誇り、規模の宏大を以て全國に驚異せられたりし、大日本勸業博覽會も、六旬の會期終了し五月十八日午後二時より、第一會場無料休憩所に於て閉會式を擧行せり。

初夏の風爽かに綠彌々濃かならんとす好季に集る朝野の名士約三千五百名、定刻三發の煙火を合圖に一同着席、君が代の奏樂に次いで寺阪副會長開會の辭を述べ、齋藤事務總長の事務報告、窪谷會長の式辭、池田名譽總裁（藤岡池田家事務所長代讀）、岸本總裁の告辭、國富岡山市會議長、山上博覽會協賛會長の祝辭、祝電披露、齋藤事務總長の閉會の辭にて午後三時滿堂感激の裡に閉式せり。

報告

岡山市制實施四十周年記念大日本勸業博覽會閉會ニ方リ會務ノ概要ヲ報告スルハ最モ欣快トスル所ナリ。

本會事務開始以來、當局ハ夙夜拮据經營其ノ及バザランコトヲ虞レシガ内外ノ激勵的賛助ノ下ニ諸般ノ設備完成ヲ告ゲ、豫定ノ三月二十日ヲ以テ開會スルニ至レリ。爾來出品物ニ對シテハ審査員各位ノ嚴正ナル審査ヲ經、五月十日褒賞授與式ヲ擧ゲタリシガ出品點數八萬七千六百九點ヲ算シ入賞者三千二百二十五名ヲ出シ

仝廿五日	景山豊五郎	中田彌作
	平尾孟	牧野靜吉
	角道有太郎	林泰八
	森安豊次郎	河合一二
仝廿六日	水田新五郎	原貫一郎
	片山良一	梶谷福一
	松島榮造	小合金光
	高須大憲	尾關桂太郎
仝廿七日	寺岡樋三郎	伊藤好良
	西原壽吉	石田長九郎
	山崎定太郎	岩田竹三
	霜山健一	片山忠次
仝廿八日	有岡幹三郎	岡田五三郎
	赤木兵吉	橫山昊太
	雜波鐵太郎	前田半十郎
	黒太三二	足利義見
仝廿九日	吉田才次	岩越經次郎
	西尾元治郎	亀山政三
	近藤照一	齋藤吉平
	柳澤憲二	山田音次郎
仝三十日	牧野靜吉	景山豊五郎
	林泰八	角道有太郎
	中田彌作	平尾孟
		森安豊次郎

タルハ出品ノ精選優良ヲ表明セルモノナリ。會期中晝間開場六十日、夜間開場二十四日、此間ニ於ケル入場者總數一百二十九萬ヲ超ヘタルノミナラズ、諸般ノ施設極メテ圓滿順調ニ進捗シタルハ一ニ天ノ時ト人ノ和ニ因ルモノニシテ洵ニ感激措ク能ハザル所ナリ。夫レ本會ガ多數入場者ノ智能ヲ啓發シ產業文化ノ將來ニ貢獻スルニ至リシハ蓋シ思料ノ外ニ在ルベク、玆ニ於テカ本會所期ノ目的ヲ達成セリト云フモ亦過言ニ非ザルベシ。會務經過ノ概要ヲ叙スルニ當リ謹デ關係諸賢ニ深厚ナル謝意ヲ表ス。

昭和三年五月十八日

大日本勸業博覽會事務總長

岡山市助役從六位勳六等　齋藤威郎

式辭

薰風萬里玆ニ貴賓各位ノ賁臨ヲ辱フシテ大日本勸業博覽會ノ閉會式ヲ擧グルハ本會ノ最モ光榮トスル所ナリ。

顧レバ本年三月二十日岡山市制實施四十周年ヲ記念シ更ニ產業ノ覺醒ヲ促シ國家ノ振興ニ一轉機ヲ劃センガ爲メニ本會ヲ開設シ、以來六旬ノ間事業ノ經過ハ豫期ノ下ニ盛況裡ニ今日ノ終局ヲ見ルニ至リシハ、蓋シ陸軍當局ガ會場敷地トシテ練兵場ノ使用ヲ許可サレタルコト、內外諸官廳、團體、會社及ビ當業者各位ガ深甚ナル援助ヲ與ヘラレタルコト、加フルニ精良ナル出品、嶄新ナル裝飾殊ニ協贊會ガ有力ナル活動ト關係職員ガ熱誠ナル奮鬪トニ依ラズンバアラズ。玆ニ感謝ノ誠意ヲ表スルト共ニ本會開設ノ効果ガ帝國產業ノ發展、文化ノ向上ニ寄與スル所鮮少ナラザリシヲ信ジ慶賀ニ堪ヘザルナリ。

然レドモ時代ハ駸々トシテ一日ノ偸安ヲ容ルサズ、冀クハ自今益々感奮興起以テ產業立國ノ實ヲ擧ゲ、本會開設ノ使命ヲ完カラシメラレンコトヲ敢テ一言ヲ叙シテ式辭トス。

昭和三年五月十八日

大日本勸業博覽會長

岡山市長正五位勳四等　窪谷逸次郎

告辭

本日ヲトシ大日本勸業博覽會閉會ノ式典ヲ擧グ、顧レバ開期六旬未曾有ノ盛觀ヲ呈シタリ、之レ一ニ關係職員ノ奮勵ト一般ノ贊助ニ依ルモノニシテ本會ガ帝國產業ノ進運ニ一大衝動ヲ與ヘタルヲ疑ハザルナリ。冀クハ益々此精神ヲ持續シ以テ本會開設ノ意義ヲ永久ナラシメンコトヲ一言ヲ叙シ告辭トス。

昭和三年五月十八日

大日本勸業博覽會

名譽總裁侯爵　池田宣政

告辭

大日本勸業博覽會開會以來日ヲ重ヌルコト正ニ六旬、玆ニ本日ヲ以テ閉會式ヲ擧行スルニ至レルハ余ノ最モ欣快トスル所ナリ、抑モ本會ノ開設ハ經濟界沈衰ノ時期ニ當リ、殊ニ今春博覽會ヲ開會スルモノ東京市外四ヶ所ノ多キニ及ビタルヲ以テ、他府縣ノ贊同及當業者ノ出陳ニ關シテハ頗ル憂慮セラレタリシト雖モ、關係各員ノ精勵ト協力トハ能ク財界ノ沈滯セル氣分ヲ一掃シ、且ツ叙上各地ノ競爭ニ堪ヘ以テ豫期以上ノ贊同出品ヲ得、加フルニ會期中何等ノ支障ナク、天候亦順ニシテ觀覽者常ニ場內ニ滿チ、稀ニ見ルノ盛況ヲ呈シタルハ洵ニ慶賀措ク能ハザル所ナリ。而シテ本會ノ開設ガ本縣產業上ニ一大敎訓ヲ與ヘタルハ勿論本邦產業ノ發達、文化ノ興隆ニ寄與シタルコト甚大ナルベキヲ信ジテ疑ハズ。冀クハ當業者諸士モ亦一新紀元ヲ劃スルノ意氣ヲ以テ益發奮努力以テ大成ヲ期セラレムコトヲ閉會ニ際シ聊カ所懷ヲ述ベテ告辭トス。

昭和三年五月十八日

大日本勸業博覽會總裁

岡山縣知事　岸本正雄

祝辭

大日本勸業博覽會開會六旬、今ヤ期滿チ本日ヲトシテ閉會ノ式典ヲ擧行セラルヽハ慶賀ニ堪ヘザル所ナリ。顧レバ本會ハ一市ノ開設ニ屬スト雖モ、其ノ出品點數ニ於テ、其ノ入場者數ニ於テ未曾有ノ盛觀ヲ呈シ、全國此種事業ノ白眉トシテ稱揚サルヽニ至リタルノ之レ全ク當局ノ奮闘的努力ト內外ノ白熱的援助トニ歸因スルコロナリ、如上ノ熱ト力トハ一般ノ熱ト力トヲ喚シ起、帝國產業ノ向上ト文化ノ進運トニ資スルコト甚大、玆ニ於テカ本會開設ノ使命達成セリト云フモ過言ニアラズ、一言ヲ叙シ祝辭トス。

昭和三年五月十八日

岡山市會議長　國富友次郎

祝辭

岡山市主催大日本勸業博覽會開期六十日玆ニ豫定ノ期間ヲ終リ、本日ヲ以テ目出度閉會ノ式ヲ擧行セラル。

顧フニ本會ハ名實共ニ全國的博覽會タルノ實ヲ示シ會期中實ニ百三十萬人ニ垂ントスル觀衆ヲ迎フルコトヲ得タルハ、本市未曾有ノ盛事ナリ。是レ偏ニ本會ノ企畫賛同セラレタル本縣及ビ各殖民地、各府縣、三府四十三縣ノ深甚ナル援助ト關係職員諸氏ノ熱誠ナル努力丼ニ全市民各位ノ協心戮力ノ結果ニシテ、吾等協贊ノ任ヲ勤メタルモノヽ歡喜ニ堪ヘザル處ナリ。冀クハ出品參加者ト一般觀覽者タルトヲ問ハズ、互ニ本博覽會ノ齎セル成果ヲ玩味シ、永遠ニ我縣市產業文化史上ノ精華タラシメンコトヲ今日本會ヲ終

了スルニ際シ、欣喜措ク所ヲ知ラズ、一言以テ祝辭トス。

昭和三年五月十八日

大日本勸業博覽會
協賛會長　山上岩二

祝電

貴會盛會裡ニ目出度閉會セラル、ニ當リ能ク產業奬勵ノ目的ヲ達セラレタルヲ欣ブ。（大阪市長）

□

御成功裡ニ閉會式ヲ擧グラル、ニ當リ遙ニ敬意ヲ表ス。（函館市長）

□

豫期以上ノ御成功ヲ祝ス。（北海道長官）

□

御成功閉會ヲ祝ス。（長崎市長）

□

盛會裡ニ御閉會ヲ祝ス。（福岡市長）

□

御盛況裡ニ閉會ヲ祝ス。（松山市長）

□

御成功裡ニ閉會ノ御盛典ヲ祝ス。（名古屋市長）

□

貴會ノ御成功ヲ祝ス。（小樽市長）

□

御盛會裡ニ閉會ヲ祝ス。（高松市長）

□

閉會式ニ際シ貴會ノ御盛況ヲ祝ス。（臭鎭守府司令長官）

□

御成功ヲ祝ス（愛媛縣知事）

□

賀詞盛會裡ニ閉會ヲ祝ス。（全羅南道知事）

□

開會中ノ御成功ヲ祝ス。（松井平壤府尹）

□

御成功裡ニ閉會式擧行ニ當リ祝意ヲ表ス。（臺灣總督府總務長官）

□

閉會ニ際シ盛大裡ニ御成功ヲ治メラレシヲ祝ス。（江原道知事）

□

貴博覽會閉會式ニ當リ御成功ヲ祝ス。（札幌商工會議所會頭　久保牟太郎）

□

閉會式ヲ祝ス。（富山　吉田榮吉）

□

盛大ナリシ本會ノ成功ヲ賀ス。（大阪市三笠屋吉貨店主　蜂谷經一）

この日は水族館の無料開放（五月十七日より）博覽會の福合せ、特設館の割引即賣等頗る興味を昂めたるに、岡山第三十三旅團にては陸軍省より第二會場參考館に出品せるルノー小型戰車を以て午前八時より午後四時まで鄉田旅團長統監の下に、練兵場（第一會場接續地）に於て壯快なる攻防演習を行ひたるにより觀戰と共に最終の博覽會に名殘を惜める入場者頗る多く、茲に掉尾の光彩を添へたり。

第二章　交通運輸

第一節　臨時列車

本博覽會ニ期ヲ同ふして、對岸高松市ニ全國產業博覽會ノ開催せらるゝあり、何れも全國的事業なるが故、鐵道當局に於ては激增する旅客の運輸について種々對策を講ぜられたり。岡山運輸事務所にては會期中臨時事務員の增員をなして旅客を快く誘導する一面に於て、外部的には第一會場内に鐵道案内所を設け、又岡山驛本館南側の廣場に四十二坪の臨時待合所及び姫路、笠岡兩驛間の三等乘車券臨時發賣所を新設して殺到する旅客を緩和し。なほ中國鐵道株式會社と協調の下に第一會場に至る岡山市南方、蔬ノ口第二踏切に對し看守を增置して保安設備を完全にし、列車による事故の防止に努められたり。

中國鐵道株式會社にては假驛を新設したるも、激增する旅客數は此等の施設にては緩和し得ざる狀況にして、岡山運轉事務所にては臨時列車の運轉方を鐵道省に申請せらるゝに至れり。

神達乙第七二三號（昭和三年三月三十日）

多客臨時列車運轉ノ件

會開催サルヽニ就テ多客ノ見込ニ付左記ニヨリ臨時列車ヲ運轉ス。

（一）臨時列車運轉期日及區間

一、運轉期日　自四月三日至五月十八日

但シ定期列車ハ四月三日ヨリ同末日迄毎日運轉シ、不定期列車ハ必要ニ應ジ運輸事務所ニ於テ運轉方手配スベシ、

山陽本線

上リ列車		下リ列車	
岡山發	姫路着	姫路發	岡山着
（不定期）午後 三、〇五分	午後 五、三分	午前 五、三〇分	午前 七、五分
（不定期）午後 四、三〇	午後 六、五九	（不定期）午前 六、五五	午前 九、三一
午後 六、〇〇	午後 八、三九	（不定期）午前 七、四七	午前 一〇、一八

伯備南線

上リ列車		下リ列車	
糸崎發	岡山着	岡山發	糸崎着
午前 五、四五分	午前 八、〇八分	（不定期）午前 六、一〇分	午前 八、四六分
（不定期）午前 六、三〇	午前 八、五七	午後 五、三四	午後 七、五七
午前 八、三分			

上リ列車		下リ列車	
備中川面發	岡山着	岡山發	備中川面着
（不定期）午前 六、三五分	午前 八、三分	（不定期）午後 六、三八分	午後 八、四五分

倉敷發	岡山着	岡山發	倉敷着
（不定期）午後 一、四二分	午後 二、一三分	（不定期）午後 一、一三分	午後 二、一五分

神達乙第七四七號（昭和三年三月三十一日）

多客臨時列車運轉ノ件

岡山及高松市ニ開催ノ博覽會ノタメ多客ノ見込ニ付左記ニ依リ臨時列車及汽船ヲ運轉ス。

但シ四月一日ヨリ同月末日迄ハ定期トシ五月一日ヨリ博覽會期中ハ不定期トス。

宇野線

下リ列車		上リ列車	
岡山發	宇野着	宇野發	岡山着
午前 五、〇六分	午前 五、三五分	午前 七、三分	午前 八、三六分
（不定期）午後 五、四七	午後 六、五四	（不定期）午後 六、五五	午後 七、五五

斯くの如く臨時列車の運轉、團體の取扱、車輛增結等により旅客の運輸に便したるも、四月に入り更に激增の趨勢を示したるにより四月二十二日、二十九日の兩日曜日に限り、岡山驛を起點として山陽線上りは姫路、下りは糸崎の兩驛間、宇野線は岡山、茶屋町兩驛間の臨時列車を增發せらるゝに至れり。

山陽本線

上リ列車		下リ列車	
岡山發	姫路着	姫路發	岡山着
午後 四、三〇分		午前 五、一〇分	午前 七、三五分
午後 六、五九分		午前 七、三五分	午後 八、四六分

宇野線

上リ列車		下リ列車	
茶屋町發	岡山着	岡山發	茶屋町着
午前 五、一三分	午前 六、〇三分	午後 四、四〇分	午後 五、〇九分
午前 七、一八	午前 七、四九	午後 六、一〇	午後 六、四九
午後 七、四三	午後 八、一〇	午後 六、四五	午後 七、一四

如上の施設に對し中國鐵道株式會社にても亦左の如く列車の運轉回數を增加せられたり。

運轉區間	列車種類	一日運轉往復回數	增加期間及其他
岡山、津山間	通常列車	三	三月二十日ヨリ五月十八日マデ
岡山、福渡間	通常列車	一	仝
岡山、玉柏間	通常列車汽動車	三	仝期間中、土曜日ノ夜及祭日ノ前夜
		九	

岡山博覽會場前間	汽動車	七	三月二十日ヨリ五月十八日マデ
岡山西總社間	通常列車	一	全
岡山、稻荷間	通常列車 汽動車	三九	全期間中、土曜日ノ夜及祭日ノ前夜
稻荷稻荷山間	通常列車	六九	三月二十日ヨリ五月十八日マデ期間中、土曜日ノ夜及祭日ノ前夜

前記の外四月二十日より第一會場の夜間開場に關し、其の開場前ヨリ終了後ヨの時間、特に岡山及會場驛前ヨの區間に臨時汽動車を運轉せり。

三幡鐵道も亦會期中、列車往復回數三十二回を四十四回に增加し、極力旅客の運輸を圓滑ならしめられたり。

自三月二十日
至五月十八日　六十日間汽車乘降客人員比較表

驛名	乘客數		降客數	
	昭和二年	昭和三年	昭和二年	昭和三年
山陽線岡山驛	二四、九二七人	四五、三五六人	二二、三七九人	四二、三九九人
宇野線岡山驛	七七、四八九	九五、六二三	七九、三〇九	一〇五、一〇九
宇野線大元驛	二四、四四一	三一、〇九七	七〇、五四八	六六、四六八
中國線法界院驛	七、〇四一	二一、〇九四	七、〇五五	一〇、二五三
中國線博覽會場前驛	—	二六、三五四	—	三〇、七六六
西大寺鐵道後樂園驛	四一、二一七	四六、〇四三	三一、〇七七	四五、六八九
西大寺鐵道森下驛	三四、七二三	三六、二二三	三一、九五八	四三、七六二
三幡鐵道國清寺驛	二六、六八六	三一、一四五	二〇、三五五	二八、一二四

第二節　假驛新設

中國鐵道株式會社にては、特に會期中旅客輸送の圓滑を圖られたるのみならず、鐵道による觀客をして岡山驛に下車の煩を避けしむるは勿論、岡山市内より第一會場に至る徒歩觀覽者のために岡山市南方蕪ノ口（中國線北方踏切西側を線路に沿ひ南へ蕪ノ口踏切迄、線路用地の外民有地九十七坪を借入）を下し長九十間幅三間一尺の乘降場及び事務、待合、出札所を特設し博覽會場前驛（岡山驛及び法界院驛より距離〇哩七分）と呼稱し、博覽會期中旅客、手荷物、小荷物を取扱はれたるが、それがため有蓋車を臨時客車に改造したるもの十八輛、なほ不足のため鐵道省より機關車二輛、客車七輛、郵便緩急車三輛を借り入れ、臨時備員五十一名を增加して事に當らしめられたり。

因に會期中博覽會場前乘車人員は二萬六千五百三十四人にして、降車人員は三萬七百六十六人を算せり。

三幡鐵道國清寺驛、本年乘降人員前年ニ比シ減少セルハ、前年ハ、團體乘降客多カリシニ依ル。

合計	一日平均	昭和二年ニ比シ增加歩合
五六、五四四	八、四四一	—
七三、二五四	三、〇五四	四八
五三、八五一	八、八九七	—
七五八、五四九	三、六四三	四三

第三節　乘車賃割引

岡山運輸事務所にては、博覽會觀覽者の便宜を圖るため、四月二十三日より同月末日まで乘客運賃の割引を實施せられたるが、其の割引率は團體五十名以上二割五分、二百名以上三割、五百名以上四割なり。

中國鐵道株式會社にても亦會期中、左記區間の乘客に對し特に運賃の割引を行はれたり。

一、總社驛より岡山驛博覽會場前驛行二三等往復、

二、野々口驛並に金川驛より岡山驛、法界院驛、博覽會場前驛行二三等往復、

三、伯備南線各驛より社線經由岡山驛又は博覽會場前驛行、二三等片道、（省線内は普通運賃）

第四節　軌道延長

岡山電氣軌道株式會社にては、激增する博覽會觀衆の輸送を敏活ならしめんがため、西大寺町方面の電車線路を複線に擴張したるのみならず、岡山市中央の交通動脈たる城下、岡山驛前停留所間の線路、柳川停留所を基點として南に分岐し、大雲寺町に至る五十一鎖の複線柳川線を新設して第三會場への交通に便し、或は番町線終點に延長一鎖二十九節の臨時待避線を新設したる等交通上の施設を改善したるもの尠からず。會期中の乘客人員は百四十九萬百十七人にして前年同期間中に於けるものに較ぶれば、實に百十六萬二千六百八十四人の增加を來せり。

因に新設柳川線の工事着手は昭和二年七月一日にして、翌三年二月二十五日竣工、運轉開始は三月十八日、軌道延長による所要總經費は參拾五萬參千六百拾四圓拾四錢に上れり。

第五節　道路開通

交通緩和の一策として岡山市都市計畫課にては、都市計畫第一期事業中第一着手豫定路線たる天瀨、二日市線の一部を北方、番町線及び岡山驛前原尾島線の一部（南方日本銀行社宅を起點とし、六番町二十六番地の二十六より南折し、番町電車終點に至るもの）延長二百七十五間（内幅員十二間もの二百二十五間、八間のもの五十間）の施工變更に決し、昭和二年十月六日該路線の關係地主及び借家人と協定し、昭和三年一月四日工事に着手し、三月十八日竣工を告げたるが、工費總額貳拾參萬七百拾五圓七拾貳錢にして、其の内譯は左の如し。

土地買收坪數　三千四坪五合二勺、金高拾五萬七拾圓貳拾錢、
物件移轉其他一切の補償金高五萬參千參百四拾四圓九拾壹錢、
工事費　貳萬七千參百圓六拾壹錢

因に道路敷設關係土地所有者は二十五人、物件所有者二十七人、

借屋人四十二人、營業人二十人を算せり。

第六節　自動車

近代的交通機關として自動車の活躍は日に著しきものあり。博覽會場が練兵場（第一會場）東山（第二會場）鹿田（第三會場）と岡山市の東、南、北に鼎立し、加かも岡山驛より各會場及び後樂園、相互間を連絡するために、岡山市内を縱橫に疾驅する自動車の輛數夥しく、剩へ多數の乘客を運ばんがために、規定の時速十二哩を超過せるものもあり、從つて事故の頻發を慮り、岡山縣保安課にては岡山市内に於ける自動車の通行道路を指定し、極力危險防止、行通の安全を企圖せられたり。

いま岡山縣保安課の調査によれば、博覽會開會期たる三月以降、四月二十日迄に運轉を許可したる自動車數は、貨物自動車十七臺、乘合自動車十六臺、貸切自動車四十四臺、合計七十七臺に達せり。而して岡山市内の貨物、定期乘用並に自家用自動車を除きたる所謂圓タク及び貸自動車にして、會期中一日一臺の運轉平均二十五回、日曜祭日の如きは四十回以上に上り、其の乘客も亦一萬二千人を超過すべく、日曜祭日以外に於ても少くとも七千五百人と見做さるゝの狀態なり。因に會期中に於ける乘合自動車の運賃、並に區間は左の如くに定められたり。

乘合區間	乘合運賃
岡山驛……第一會場	一〇錢
第一會場……後樂園	一〇
第一會場……第二會場	二〇
第一會場……第三會場	二〇
第二會場……第三會場	二〇

第七節　自動車通路

岡山縣にては博覽會々期中交通危險豫防及び整理の方法として、昭和三年三月十二日付を以て三ケ會場並に岡山驛、後樂園間に於ける岡山市内自動車の通行道路を限定指示せられたり。

一、岡山驛ヨリ第一會場へ

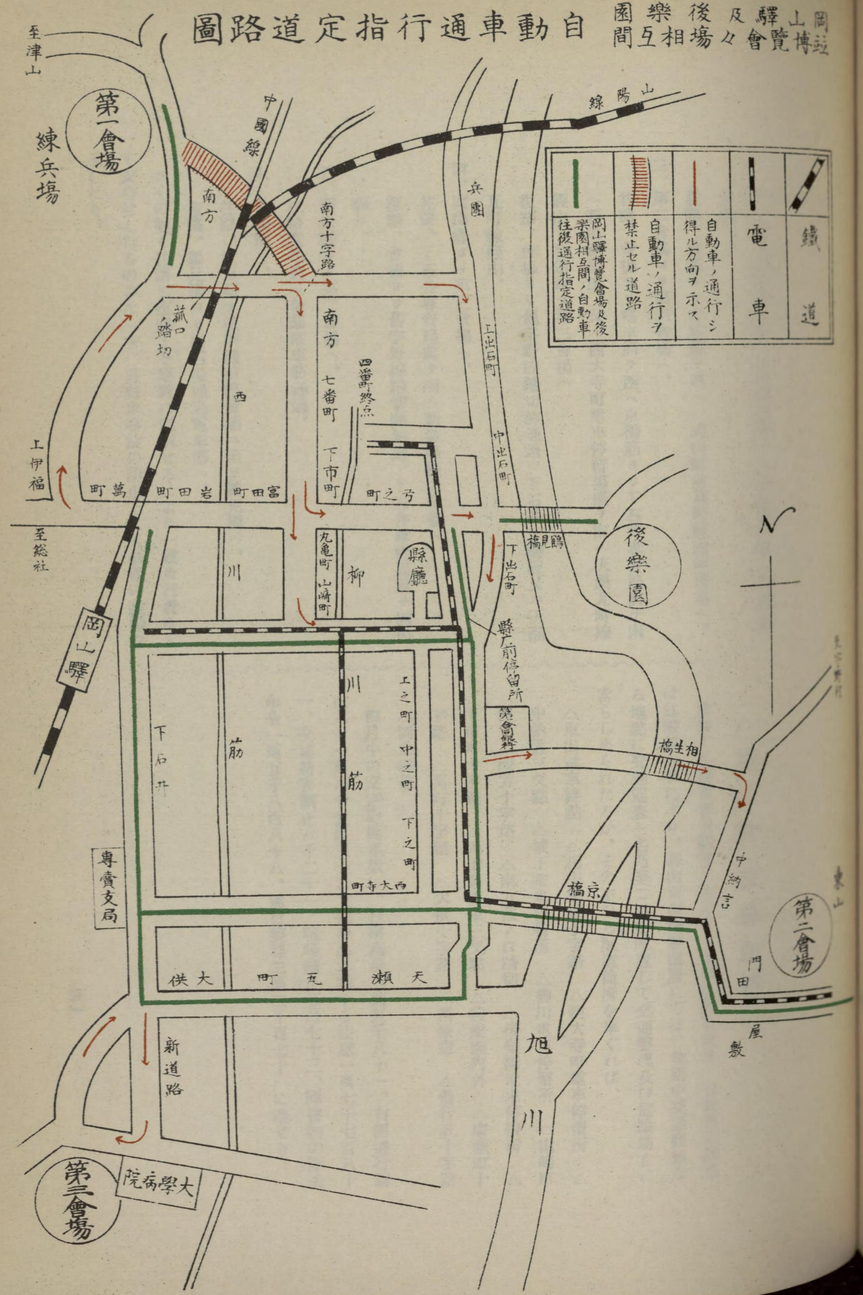
往路、萬町踏切通過師團道ヲ會場へ（自動車操車ハ偕行社前廣場ニ於テナスコト）。

復路、師團道ヨリ新道路ヲ東へ南方十字路ヲ南へ電車筋へ、又ハ富田町、岩田町筋へ、

二、第一會場ヨリ第二會場へ、

往路(イ)、師團道ヨリ新道路經由南方十字路ヲ東へ、上出石町經由電車筋へ、

(ロ)、南方十字路ヲ南へ電車筋へ又ハ中途丸龜町分岐、弓之町電車筋へ、



(八)、電車筋内山下第一合同銀行横ヨリ相生橋經由、小橋町電車筋へ、

復路、會場ヨリ電車筋ヲ西へ、岡山驛前萬町經由師團道へ、

三、第二會場ヨリ第三會場へ、

往路、會場ヨリ電車筋ヲ西へ京橋筋ヨリ下石井專賣局前ヲ南へ新道路經由、又ハ西大寺町電車停留場横ヲ南へ天瀬瓦町線經由、新道路ヲ第三會場へ、

復路、會場ヨリ舊宇野線踏切跡通過、下石井京橋線又ハ天瀬瓦町線經由、

四、岡山驛ヨリ第三會場へ、

往路、下石井專賣局前ヲ南へ新道路經由會場へ、

復路、會場ヨリ舊宇野線踏切跡通過、下石井專賣局前ヲ岡山驛へ、

五、岡山驛ヨリ第二會場へ、

往路復路共ニ全部電車筋通過、

六、後樂園へ、

往路、電車筋ヲ後樂園前停留場ニ至リ鶴見橋へ、

復路、鶴見橋ヨリ出石堤通過電車筋へ、

かくの如く往路ニ復路ニを絶對に區別せるにより一般歩行者をして安心せしむるのみならず、自動車事故の防止上にも最善の成績を示したり。

第八節　交通整理

殺到する博覽會の觀衆、雜沓する民衆に對し電車、自動車の馳走は危險甚しきにより、岡山東西兩警察署にては、會期中交通頻繁なる地點に交通巡査一名乃至二名を配置して交通整理及び危險防止に當らしめられたるが、その主なる配置箇所を擧ぐれば、

△東山電車終點　△相生橋東丁字路　△西大寺町電車停留所　△中納言三叉點　△城下電車停留所　△柳川電車停留所　△山崎町角　△南方十字路　△後樂園電車停留所　△下市町十字路　△岡山縣廳東三叉點　△後樂園内外　△廣瀬町十字路　△萬町十字路　△大供十字路　△西原道　△僧行社十字路　△岡山驛前

四月中の交通取締事故は、行路指示七萬五千八十一、右側通行制止六十一萬八千五百三十二、携帶品に關する注意一萬七千七百八十一、交通妨害制止八千二十一、喧嘩制止五百七十三、障害物の除去命令一萬五千八百八十八、通行整理三萬三千百七十一に達せり。

第三章　警備衛生

第一節　會場取締規則

會場内外の警備、消防、觀覽人の取締、一般衛生及び救護事務に關しては警備係を置くと共に警察官並に憲兵の派遣、消防組の出場を請ひ、各會場には警備詰所、警官詰所、消防詰所等を設け、警備上遺算なきを期したり。

會場取締規則

第一條　本會場ノ各門、各館ノ開閉ハ毎日左ノ時間ニ依ル、

晝　間

各門ノ開扉午前七時三十分、各館ノ開扉午前八時、各館閉鎖午後五時、各門ノ閉鎖午後五時三十分、

夜　間

各門ノ開扉午後六時、各門ノ閉鎖午後十時、

但シ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルベシ、

第二條　左ニ揭グル者ノ外ハ本會場ニ出入スルコトヲ得ズ、

一、本會ニ規定セル優待券、入場券ヲ所持スルモノ

二、本會ノ徽章ヲ佩用スル者

三、憲兵、警察官、郵便集配人、消防夫其他職務ノ爲出入スル者

四、門鑑ヲ所持スル者、

五、保護者アル年齡五歲未滿ノ者

六、前各項ノ外特ニ事務所ヨリ出入ヲ認メ通門證ヲ有スルモノ

第三條　徽章ハ見易キ所ニ佩用シ門鑑ハ必ズ之ヲ携帶スルコトヲ要ス、

第四條　觀覽人入場ノ際ハ入場券ヲ守衛ニ示シ、入鋏ヲ受ケ退場ノ際守衛ニ渡スモノトス、

優待券、門鑑、通門證ヲ所持スル者ハ出入ノ際守衛ニ示スコトヲ要ス、

第五條　館内ニ於テ喫煙スルコトヲ得ズ、

第六條　觀覽人出入ノ際ハ守衛ニ於テ其ノ携帶品ヲ閱覽スルコトアルベシ、

第七條　觀覽人ニシテ本會ノ規程ニ違背シ、又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ直ニ退場セシメ其他臨機ノ手續ヲ爲スコトアルベシ、

第八條　本會場内ニハ本會ノ許可ヲ受クルニアラザレバ車馬ヲ牽入スルコトヲ得ズ、

第九條　物品ヲ場外ニ搬出スルトキハ本會ノ交付シタル搬出證ヲ添付スルコトヲ要ス、

第十條　工事ノ施行ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スルコトヲ要ス、

一、材料ハ總テ他所ニ於テ切組タル上敷地内ニ搬入スベシ、

但シ特別ノ事由ニ依リ本會ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニアラズ、

二、會場内ニ於ケル作業時間ハ午前七時ヨリ午後六時迄トス、

三、工事中ハ責任者又ハ其ノ代理人ハ嚴重ニ職人、人夫ノ取締ヲナスベシ、

四、工事ノ場所ニ於テハ火氣ヲ用フルコトヲ堅ク禁ズ、

但シ工事上之ヲ必要トシ、若クハ發火ノ虞アル材料ヲ使用セントスルトキハ本會ノ許可ヲ受クベシ、

五、工事ノ場所ニ於テハ喫煙ヲ禁ズ、

六、工事施行上ヨリ生ズル木屑類ハ指定ノ場所ニ搬出シ、作業場ニ散亂又ハ堆積セシムベカラズ、

第十一條　會場内土地使用申込ニ對スル配置決定ニ付テハ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ、

第十二條　貸與ヲ受タル土地ハ之ヲ他人ニ轉貸使用セシムルコトヲ得ズ、

第十三條　會場内營業者ハ常ニ火氣ニ注意シ且ツ其通路及ビ周圍ハ清潔ニ掃除スベシ、

第十四條　會場内ニ於ケル營業者及自營建設物經營者ハ使用人ノ行爲ニ關シ、總テ其ノ責ニ任ズルモノトス、

第十五條　會場内ニ於テ物品ヲ遺失シ又ハ拾得シタルトキハ直ニ警察官吏又ハ守衛ニ申出ズルコトヲ要ス、

第二節　守　衛

本會場内の取締は專ら守衛を以て其の任に當らしむることゝし、左の如く服務規程を制定するこゝと共に、制服を交付せり。

守衛服務規程

第一條　會場ノ警衛ニ任ズル爲メ左ノ職員ヲ置ク、

一、守衛長　一名

一、守衛副長　三名

一、守衛部長　八名

一、守　衛　若干名、

第二條　守衛長ハ警備係主任ノ指揮ヲ承ケ部下ヲ監督シ會場内ノ取締ニ任ズベシ、

守衛副長ハ上司ノ指揮ヲ承ケ守衛長ヲ補佐シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス、

但シ第二、第三會場勤務ノ者ハ守衛ノ職務ヲ補行スベシ、

守衛部長ハ上司ノ指揮ヲ承ケ守衛ノ勤務ニ服スルト共ニ守衛ノ監督ニ從事スベシ、

守衛ハ上司ノ指揮ヲ承ケ左ノ職務ニ從事スベシ、

一、各門各館ノ開閉

二、會場出入者ノ取締並ニ觀覽者ノ保護
三、搬出入物品ノ取締
四、會場內ノ施設工作物並ニ立木等ノ保護
五、火災、警防、盜難ノ豫防
六、撒水便所下水芥溜其他掃除ノ監督
七、會場內一般ノ取締
八、前各號ノ外特ニ命ゼラレタル事項

第三條　勤務時間ハ開館三十分前ヨリ閉館後一時間トス、
但シ夜間開館其他必要ノ場合ハ勤務時間ヲ伸縮スルコトアルベシ、

第四條　出勤シタルトキハ卽時出勤簿ニ捺印シ名札ヲ墨書ノ方ニ（退場ノ際ハ朱書ノ方ニ）掛ケ直ニ上司ノ指示及服裝檢査ヲ受ケ各受持ノ位置ニ就クベシ、
疾病其他已ムヲ得ザル事故ノ爲メ缺勤セントスルトキハ當日出勤時刻前ニ屆出ヅベシ、
勤務中病氣其他已ムヲ得ザル事故ニ依リ勤務スルコト能ハザルトキハ其旨屆出許可ヲ得テ退場スベシ、

第五條　食事其他已ムヲ得ザル用事アルトキハ最寄ノ同僚ニ依賴シ三十分以內其受持場所ヲ離ルヽコトヲ得、
但シ三十分以上ヲ要スルトキハ守衛長ノ許可ヲ受クベシ、

第六條　勤務中ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ、

一、觀覽人ニ應接スルトキハ言辭ヲ愼ミ最モ懇切叮嚀タルベキコト
二、動作ヲ嚴肅ニスルコト
三、猥リニ受持場所ヲ離レザルコト
四、喧噪ノ行爲ヲナサザルコト
五、書籍、新聞ヲ讀ミ雜談私語ヲナサザルコト

第七條　守衛長ハ日誌ヲ備ヘ勤務上ニ關スル必要事項ヲ記載シ、且每日入場者ノ員數ヲ調査シ出品部ヲ經テ庶務部ニ報告スベシ、

第八條　盜難、其他變災ヲ發見シタルトキハ臨機ノ處置ヲ爲スト共ニ速ニ守衛長ニ報告シ上司ノ指揮ヲ俟ツベシ、

第九條　左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ穩ニ之ヲ制止シ又ハ保護スル等相當ノ手段ヲ採ルベシ、
一、館內ニ於テ喫煙スル者
二、陳列品ニ接觸シ若ハ之ヲ汚損スルノ虞アルトキ
三、會場內外ノ設備ヲ毀損セントスル者
四、泥醉セル者
五、飮食店等ニ於ヲ腐敗ニ傾キタル物品ヲ販賣スル者アルトキハ之ヲ制止シ上司ニ報告スベシ
六、其他觀覽人ノ妨害ヲナス者若クハ其行爲アリト認ムル者

第十條　觀覽人退出シタルトキハ出入口ハ勿論窓並ニ各受持ノ戶締ヲナシ特ニ火氣ヲ使用セシ場所ニ注意スベシ、

第十一條　守衛ハ入場者ニ對シ左ノ通取扱フベシ、
一、本會係員徽章、優待券、門鑑、通門證ヲ所持スル者ハ各門隨時出入セシムベシ
二、入場券ハ入口ニ於テ入鋏スベシ
三、本會員徽章、優待券、門鑑、通門證、入場券ヲ所持セザル者ハ如何ナル事由アルモ入場セシムベカラズ

第十二條　守衛ハ退場者ニ對シ左ノ通リ取扱フベシ、
一、觀覽人ヨリ入場券（入鋏セルモノ）ヲ受取ルベシ
二、優待券、徽章、門鑑、通門證ヲ所持スル者ハ之ヲ一覽スベシ
三、入場券ヲ有セズ又ハ紛失シタル者アルトキハ守衛長ニ報告シ其ノ指揮ヲ俟ツベシ

第十三條　出品人及構內營業者並ニ其使用人等ニシテ會場ヨリ物品ヲ搬出セムトスルモノハ本會ヨリ交付セル物品搬出證ヲ所持スルニ非ラザレバ其搬出ヲ許スベカラズ、

第十四條　入場券、優待券等ハ閉館後直ニ守衛長ヨリ出品部ヲ經テ庶務部ヘ引渡スベシ、

第十五條　傷病者アルヲ發見シタルトキハ速ニ之ヲ救護所ニ同行若クハ急報シ其ノ氏名及顚末ヲ守衛長ニ報告スベシ、

第十六條　遺失品ヲ拾得シ又ハ拾得シタルモノヨリ屆出アリタルトキハ現品ヲ添ヘ速ニ守衛長ニ報告スベシ、

守衛長ハ遺失物ニ關スル帳簿ヲ備ヘ相當處理スベシ

第十七條　迷兒アリタルトキハ之ヲ保護シ會場內警察官詰所ニ同行スベシ、

第十八條　火災ヲ發見シタルトキハ速ニ警察官及警備係ニ通知シ觀覽人ノ開放及盜難防禦ニ努メ尙餘力アル時ハ消防ニ從事スベシ、

第十九條　勤務時間外ニ於テ本會場ノ附近ニ火災アルコトヲ知リタルトキハ制服ヲ着用シ直ニ駈付ケ上司ノ指揮ヲ受クベシ、
火災其他事變ニ際シ見舞ノ爲メ來場スルモノハ門戶ニテ受付ケ入場セシムベカラズ、
但シ出品人若クハ其ノ使用人タル證明ヲ有スル者ハ此ノ限ニアラズ、

第二十條　勤務中窃盜犯人ヲ取押ヘタル時ハ警察官吏ニ引渡シ其ノ顚末ハ直ニ守衛長ニ報告スベシ、

第二十一條　前各條ノ外臨時事件ニ關シテハ上司ノ指揮ヲ受ケ且ツ臨機ノ措置ヲ誤ラザル樣注意ヲ怠ルベカラズ、

第二十二條　本規程ニ違犯シ又ハ上司ノ命令ニ背ク者ハ相當處分セラルベシ、

守則

一、防火ニ注意スルコト

一、消防精神ヲ涵養シ紀律ヲ嚴守スル事
一、敬禮ヲ重ジ風紀ヲ正シクスル事
一、勤務ヲ守リ濫リニ詰所ヲ離レザル事
一、詰所ヲ清潔ニ保持シ備品ノ破損ニ注意スル事

守衛服制

種別	守衛長	守衛副長	守衛部長	守衛
上衣 地質	黒羅紗	同	同	同
上衣 製式	立襟	同	同	同
上衣 袖章	幅三分、五分ノ金線平織三條	幅三分、五分ノ金線平織二條	幅五分ノ金線一條	幅五分ノ金線平織一條
上衣 襟章	博覽會徽章	同	同	同
袴 地質	黒羅紗	同	同	同
袴 製式	普通	同	同	同
帽子 地質	黒羅紗	同	同	同
帽子 製式	海軍形、幅分、五分ノ平織金線	同、幅二分、五分ノ平織金線	同	同、幅五分ノ平織金線
帽子 徽章	岡山市徽章	同	同	同

守衛四十六名を細別にすれば、守衛長一名、守衛副長三名、守衛部長八名、守衛三十四名にして、その會場配置數は、

會場別守衛配置數

會場名	守衛長	守衛副長	守衛部長	守衛	合計
第一會場	一	一	六	二四	三二
第二會場		一	一	七	九
第三會場		一	一	三	五
合計	一	三	八	三四	四六

如上は常態時配置にして動務は午前七時より午後五時迄なるが、天候、七曜等の關係より入場者の狀態を推測して配置人員の增減を壙梅する等、專ら臨機の處置を採りて警備上遺憾なきを期し夜間は宿直員をして監視時計を携帶して屢々館の内外を巡羅警戒せしめ、而かも會館内に備付けの時鍵により其の怠慢を防止したり。

守衛宿直員服務規程

第一條　宿直員ハ晝夜ニ分チ晝間ハ午前七時三十分ヨリ午後六時迄、夜間ハ午後六時ヨリ翌朝交代時間迄當務スルモノトス、

第二條　晝間ノ宿直員ハ各會場共ニ當日ノ控員二名ヲ以テ之ニ充テ、夜間ノ宿直員ハ第一會場四名、第二、第三會場ハ各二名逐次指示スル者ヲ以テ之ニ充ツ、

第三條　晝間ノ宿直員ハ一名宛交互ニ絶エズ警備詰所ニ在リテ應

接、電話其他臨時ノ用務ヲ處理シ他ノ一名ハ之ヲ補助シ又ハ臨時必要ナル用務ニ服スベシ、其交代ハ正午十二時トス、

第四條　夜間ノ宿直員ハ一名宛交互ニ絶エズ警備詰所ニ在リテ見張、應接、電話其他臨時ノ用務ヲ處理シ他ノ一名（第一會場ハ三名）ハ會場各館ノ内外ニ渉リ絶エズ巡回シ警察官吏及消防組員ト連絡シテ火災及盜難ノ警防其他諸般ノ取締ニ從事スベシ、但シ休憩時間ハ警備詰所内ニ於テ休憩スルコトヲ要ス、

第五條　會場内ハ勿論附近ニ於テ火災其他非常事故發生シタルトキハ宿直員ハ直ニ最寄係員等ニ急ヲ告ゲテ機宜ノ處置ヲ執ルト共ニ博覽會事務所及警備係長ニ報告スベシ、

第六條　宿直員ハ各日誌ニ署名捺印シ取扱ヒタル事務ノ要領ヲ記載シ次ノ宿直員ニ引渡シヲナスベシ、

夜警員心得事項

場内夜警ニ從事スル守衛ハ左ノ事項ヲ遵守スベキモノトス、

一、見張勤務中ハ濫リニ警備員詰所ヲ離レ又ハ絶對ニ睡眠セザルコト、

二、巡回中ハ必ズ正規ノ服裝ヲナスコト

三、場内ハ勿論、會場附近ニ於テ異樣ノ音聲アルトキハ直チニ調査シ臨機ノ方法ヲ講ズベシ、

四、巡回中ハ詩吟、放歌スル等大聲ヲ發セザルコト、

五、巡回中職務上必要以外ニ陳列品ニ手ヲ觸ル、等ノ事ナキコト

六、巡回中ハ絶對ニ喫煙セザルコト、

七、勤務中ハ飲酒セザルコト、

八、警羅時計ハ最モ大切ニ之ヲ取扱ヒ、萬一毀損スル等ノコトアル時ハ直チニ次ギニ巡回番ニ當リタル者ニ其旨ヲ通知シ他人ニ其責任ヲ轉化スル等ノコト無キ樣スルハ勿論翌日其顚末ヲ上司ニ報告スベシ、

九、巡回ノ際ハ場内全般ニ亘リ火氣ノ有無ニ付最モ細心ノ注意ヲ拂ヒ若シ殘火アルヲ認メタル時ハ充分消止メ尙當夜ノ夜警員全部ニ互報シ引繼ギ注意スベシ、

十、場内ニ無用ノ者徘徊シ居ルヲ認メタルトキハ直チニ退場セシムルコト。

十一、場内ノ物品ヲ場外ニ持出ス者アルヲ認メタル時ハ穩ニ其ノ理由ヲ聞糺スベシ、若シ擧動不審ノ者ト認メタルトキハ其ノ住所氏名ヲ問ヒ任意同行シテ場内詰所ノ警察官ニ引渡シ其ノ旨上司ニ報告スベシ、

十二　窃盜ノ現行ヲ認メタル時ハ直チニ犯人ヲ取押ヘ住所、氏名年齢ヲ問ヒ場内詰所ノ警察官ニ引渡シ其ノ旨上司ニ報告スベシ

十三　巡回中館内ニ出入スルニ付戸締ヲ開クニ際シテ夜警員以外ノ者ノ紛レ込マザル樣特ニ注意シテ戸締ハ長ク開放シ置カザルコト、

十四、巡回中警衛上參考トナルベキ事ヲ發見シタルトキハ必ズ次ノ巡回番ニ當リタル者ニ其旨通報シ置クコト、

十五、勤務中關係シタル事項ハ總テ日誌ニ記載シ重要ト認ムルトキハ更ニ口頭ヲ以テ上司ニ報告スベシ、

十六、守衛副長ハ守衛ヨリ報告ヲ受ケタル時ハ更ニ守衛長ニ報告スベシ、

採用當時に於ける日給額最高は貳圓貳拾錢、最低壹圓參拾錢平均壹圓四拾七錢七厘なるが、其の後會期中に於て增給したるものの數か らざりしのみならず一名の增員をなせり。

囚に拾得遺失品は遺失者の判明したるものには交付し、然らざるものは總べて會場内警察官詰所へ屆出て處理したるがその取扱件數左の如し。

拾得物種別表

品名	點數	品名	點數	品名	點數
財布	三六	衣類	三	柄拘	一
帽子	二八	煙草入	二	鋸	一
手提袋	一七	手袋	二	ハーモニカ	一
現金	一四	小供服	二	コーヒー	一
風呂敷	一〇	シース	二	辨當籠	一

第三節 警官派遣

會場内に於ける警備の萬全を期せんがため、各會場に警官詰所を設置し、岡山東西兩警察署に對して、會期中各會場に警察官の派遣方を申請、派遣せられたるが、第一會場に限り、特に岡山憲兵分隊より憲兵を特派せられたり。

派遣員は晝夜交代制にて主として不正入場者の防止、軍人軍屬に對する取締、會場内外に於ける火災盜難其の他犯罪の豫防、檢擧等に當られたるが、岡山縣刑事課にては、岡山東西兩警察署刑事と協力して、各會場を中心に、或は岡山市内の盛り場に潛行して、極力掏摸犯人の檢擧と被害防止とに努められたるのみならず、東警察署にては特別捜査隊を組織して一般の被害豫防警察に努められたり。

西警察署にては、會期中日々數十名の警官をして第一、第三會場の通路事故防止に當られたるがその事故件數は、

日傘及洋傘	九	水筒	二	簪	一
時計	五	羽織紐	二	下駄	一
首卷、肩掛	四	メタル	一	硝子フキ	一
帶、腰紐	四	ステッキ	一	帶〃	一
眼鏡	四	鍋	一	合計	一五八

種別	件數
自動車運轉手ノ業務上過失傷害	三
自動車無免許運轉	二
携帶品ノ注意ヲ怠リ警告サレタルモノ	四、三
迷兒ノ保護	三六

種別	件數
未成年者飲酒喫煙	四七
泥酔保護	三四
左側通行指示	二八三、三〇〇
合計	二六六、九六六

囚に岡山市伊島區濟生委員會にては、會期中第一會場附近に迷ひ兒預り所を設置し、迷ひ兒は勿論、怪我人、病人等について も斡旋せられたるが、特に迷ひ兒豫防マークを提供し、筆墨を用意して、小兒の胸部に附着せしめ、一般に多大の便宜を與へられたり。

第四節 防火施設

本會の建物は外觀甚だ壯美を極めたるも　其の大部分は木造にして、加ふるに引火性のペンキ塗り葭簀張に漆喰塗を施せるものなるを以て、一朝不幸にして火を失せむか、其及ぶところ實に戰慄すべきものあるにより、防火施設については細心の注意を拂ひ、通路の整理は素より館外の要所には水道消火栓を取付け。館内には噴水消火器及び紛末消火器を備付け、且つ晝夜守衛をして絶えず館内を巡邏警戒せしむるのみならず、館内には「火の用心」、「禁煙」、「煙草飲むべからず」等の警句を貼付し極力火災の防止に努めたり。

なほ消火機關として各會場に消防詰所を設け、昭和三年二月十七日、岡山東、西兩警察署に對し、其の所管消防組員の出場を請ひ、防火上萬全を期したり。

消防組出場表

會場	出場期間	日數	消防組	人員 晝	人員 夜
第一會場	自三月十八日至四月廿六日	四十日	岡山西消防組	一二人	一二人
	自四月廿七日至五月廿二日	二十六日	岡山東消防組	一二	一二
	自五月廿三日至五月廿六日	四日	岡山西消防組	一二	一二
第二會場	自三月十八日至五月廿六日	七十日	岡山東消防組	五	五
第三會場	自三月十八日至五月廿六日	七十日	岡山西消防組	五	五

其他消火施設表

會場名	噴水消火器	粉末消火器	防火栓	合計
第一會場 本館	八	九	七	四〇
別館	三	二		
農水産館	二	一		
林鑛館	一	二		
發明機械電氣館	三	二		

第二會場	三	三	一七
第三會場	三	一	七
合計	二三	九	五四

第五節　衛生施設

博覽會の觀衆に傳染性病症ありとせんか、幷を防止し蔓延せしめざると共に、主催地として傳染的諸病を發生せしめざるべく衛生施設について遺憾なからしめんがために、昭和三年一月二十三日岡山市衛生課長井上憲氏をして福岡市東亞博覽會に於ける衛生施設を調査せしめ、次いで二月廿三日本會常任理事會に於て左の如く實行事項を協定したり。

博覽會ニ關スル衛生施設大要

一、各町自發的ニ博覽會開會前大清潔法ヲ施行スルコト、

二、宿屋、料理屋、理髪店、飲食店、湯屋其他客ノ集來ヲ目的トスル場所ニ於テ從業スルモノヽ、健康診斷、糞便檢査、豫防注射等ヲ施行スルコト、

三、警察官署ト協議シテ同上營業者ノ衛生施設ヲ完全ナラシムルコト、

四、會場內ノ掃除及沿道各戸ノ糞尿汲取ハ午前八時マデニ、塵埃蒐集ハ午後十時ヨリ翌朝マデニ其作業ヲ終了セシムルコト、

五、會場內及沿道必要ナル場所ノ撒水ヲ勵行シ塵埃ノ飛散ヲ防止シ、旅人ニ不快ナカラシムルコト、

六、結核豫防ノ施設トシテ、會場內要所及陳列館內所々ニ唾壺ヲ備付クルコト、

七、各會場內適當ノ位置ニ救護所ヲ設置シ不時ノ傷病者ヲ急救處置スルコト、

なほ三月六日岡山市內各町總代衛生施設打合會を開催し、協定するところありたり。

一、河川溝渠及ビ下水溝等ニ塵芥其他ノ不潔物ヲ投棄セザルコト

一、溝渠下水溝ハ時々掃除ヲ行ヒ破損ノ箇所ヲ修理スルコト、

一、各戸ニ塵芥容器ヲ備付ケ破損ノモノハ之ヲ修理シ、完全ナル覆蓋ヲ施スコト、

一、衛生組合等ノ事業トシテ共同撒水ヲ勵行スルコト、

協定事項の具體化について三月五日より十九日迄醫師、看護婦、事務員各二名宛を二班に分ち、接客業者全部に對し腸チブスの豫防注射、糞便檢査を實施したるが、更に岡山縣衛生課及び東西兩警署察と提携して定期種痘、一般病者の戸口調査等をも勵行し公衆衛生の萬全を期したり。

注意事項

一、店頭店內ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト、

二、店內ニハ唾壺ヲ設備スルコト、

三、飲食物ハ常ニ新鮮ナルモノヲ用ヒ、變質又ハ腐敗ニ傾キタルモノヲ客ニ供セザルコト、

四、飲食物ニハ常ニ覆蓋ヲ用ユルコト、

五、食器類ノ洗滌水ハ時々取替ヘ常ニ清潔ナルモノヲ使用スルコト、

六、ラムネ、サイダー其他清涼飲料水ハ常ニ檢査シ、溷濁又ハ變敗シタルモノ等ヲ販賣セザルコト、

七、飲食物價格表ヲ作製シ店內客ノ見易キ場所ニ揭示スルコト、

八、飲食店營業者ニシテ料理店營業ノ行爲ヲナサヾルコト、

九、客ニ對シテハ常ニ叮嚀親切ニ取扱フコト、

十、使用人ノ取締ヲ嚴ニシ不都合ノ行爲ナカラシムルコト、

十一、店內ニ於テ急性患者ヲ發見シタルトキハ速ニ巡査派出所ヘ屆出ヅルコト、

十二、盜火難ニ特ニ留意スルコト、

昭和三年三月二十日

岡山西警察署

會期に入るや、益々其の徹底を期すべく掃除人夫を雇傭し、第一會場に二十名、第二、第三會場に二名づゝを配置し委員監督の下に便所、唾壺及び會場內の清掃撒水等に當らしめたり。便所總數十四ケ所（一會場十ケ所、二、三會場二ケ所宛）にして、會期中各會場の屎尿總量一千二百石、塵芥三萬八千貫、所要掃除夫延一千二百人、日給平均壹圓五拾錢、雇傭者には紺地に白地にて「大日本勸業博覽會」と染込みたる法被を交付せり。

岡山西警察署にては、四月十九日第一會場內及び其附近清涼飲料水の一齊檢査を行ひ、不良品の絕滅に努められたり。

清涼飲料水檢査成績

名稱	檢査數	廢棄數	名稱	檢査數	廢棄數
ラムネ	三、五八二本	一〇〇本	スター	一三二本	二本
アツプル	七〇三	五五	シトロン	一五〇	一
サイダー	三七六	六	レモン	一六〇	一
イチゴ水	二五二	一五	合計	六、〇三六	二〇二
蜜柑水	二八二	一二			

第六節　救護施設

殺到する觀覽者中には不意に負傷又は發病するものもあらん、之れが措置については第一會場正門內最も便利なる地點に二十坪半の救護所（診療室六坪、病室十坪半、土間四坪）を設置し、昭和二年二月二日日本赤十字社岡山支部に救護班の派遣方を申請したるに共に、岡山市醫師會長へも應援方を依頼せり。

勸博第二六八六號
昭和二年三月二日

大日本勸業博覽會長岡山市長　窪谷逸次郎
岡山市醫師會長　石本於義太殿

應急救護方ニ關スル件

來ル本月二十日以降開會ノ本市主催大日本勸業博覽會ニ就テハ多數ノ參觀者來集シ、其會期ノ長キト會場ノ分置等ニ依リ負傷疾病事故ノ誘發スルコト想像ニ難カラズ候條、其ノ爲メ常時ノ施設トシテハ去二月二日付ヲ以テ日本赤十字社岡山支部長宛救護班派遣方ヲ申請シ了諾ヲ經居候得共之ヲ以テ到底萬全ヲ期シ難ク殊ニ群集内ノ應急救護ハ一層迅速周到ヲ要スベクニ付、何時御應援相受候ヤモ難圖候間、御了諾ノ上何卒宜敷願上度茲ニ豫メ得貴意候

敬具

會期に入るや、赤十字社岡山支部にては、應急治療救護に必要なる藥品、寢臺等一切の設備を整へ、毎日午前八時より午後五時迄、醫員、事務員各一名及び看護婦二名を派遣し施療的に應急救護に努め、内山下赤十字療院と有機的連絡を執り、重患者は直ちに收容救護されたるに對し、第二會場に於ける發病者の救急は、會場附近の開業醫に依頼したり。

救護所病類別患者表

病類		合計	治療日數	治癒	死亡	未歸宅	赤十字療院轉送
外傷	男	一五一	三四	一		一四六	三
	女	三	三			三	二
神經系病	男	六一	四八	二七		三五	三
	女	四八	四八	一七		三一	一
呼吸器病	男	六	六	一		六	
	女	八	八			八	
循環器病	男	二	二			二	
	女	三	三	一		一	
營養器病	男	五四	五四	三		一	
	女	四〇	四〇	二		二	
眼病	男	一五	一五	一		一四	
	女	八	八	一		七	
其他	男	一六	一六	二		一四	一
	女	一〇	一〇	一		九	
合計	男	三〇六	三〇六	一四六		三五	五
	女	一六二	一六二	三五		三一	二
計	男	三〇六	三〇六	一四六		三五	五
	女	一六二	一六二	三五		三一	二
	男	四六七	四六七	一六二		一四九	七

第三會場には岡山簡易保險健康相談の經營にかゝる健康相談所博覽會場内出張所（平屋建八坪）を設け、會期中每日午前九時より午後四時迄、岡山醫科大學病院勤務の醫學士二名及び相談所所屬の看護婦一名を派遣し一般の健康相談及び急救處置に當られたり。

健康相談所取扱表

病類	取扱件數	病類	取扱件數
流行病地方病及傳染病	二八	傷疾	一〇
全身病	二一	健康診斷	三九

試驗檢查取扱狀況

試驗	檢查	計
尿	糞便	三二七
喀痰	血液	一七
胃液	母乳	三
其他	計	五
水賓	牛乳	〇
其他	計	六
		一
		二一
		六

神經系病	五二	合計	結核性	肺結核
血行器病	二五		疾患	其ノ他
呼吸器病	二二	再揭	花柳病	黴毒
消化器病	六四			其ノ他
尿器病及生殖器病	九		脚氣	
妊娠及産	六		癌	
皮膚及皮下組織ノ疾患	一〇		神經衰弱症	
骨及運動器ノ疾患	一		婦人病	
眼病	三〇			
耳鼻及口腔ノ疾患	一〇			

處置別表

種別	件數	種別	件數	備考
目的		目的		
洗眼	一九	傷疾手當	二	本票中十三名
結膜炎		手部外傷		
トラホーム	五	パントポン注射	一	ハ會場内ニ於
		腹痛		

温布	臥	三	繃帶交換	一	ケル急患者ニ對シ應急ノ處置ナシタルモノトス
同	腹痛	一	同	一	
足部外傷		七	計	四〇	

第四節　會場内設備

第一節　電話架設

博覽會の事務は頗る廣汎複雑に亘り、その處理は極めて敏捷を要するを以て、昭和二年七月十一日岡山市役所勸業課内大日本勸業博覽會事務所に工營部用（電二九九四番）庶務出品部用（電二九五番）の二線を架設したるが、更に當局に對し博覽會專用の短期特急電話架設方を要請する所ありたり。

勸博第二四二號
昭和二年九月二十二日　岡山市長　窪谷逸次郎
岡山郵便局長殿

短期特急電話架設方ノ件

明春本市ニ於テ開催致候大日本勸業博覽會會場ハ第一會場岡山練兵場、第二會場東山公園、第三會場鹿田驛跡ノ三會場ニシテ本市政務ハ隨テ各會場毎ニ於テ出張執務スル次第ニシテ、之レガ爲メ短期特急電話ノ必要有之候間特別ノ御詮議ヲ以テ無寄附ニテ架設方御取計相成度此段奉願候也

一、申請者名　岡山市長
二、特急架設ヲ必要トスル事由

博覽會開催ノ爲メ市政務ヲ複雑ナラシメ尚臨時各會場毎ニ出張執務スル爲メ、

三、機械設置場所及箇數
第一會場岡山市北方（偕行社内事務所）四個
第二會場岡山市門田、一個
第三會場岡山市大供、一個

四、主ナル通話先及通話見込數並ニ通話事項
通話先ハ岡山市内及ビ市外トス、
通話見込數一日約五百回、通話事項一般市政務事項並ニ博覽會事務ニ關スル事項、

五、一時的ナルトキハ其必要期間
昭和二年十月ヨリ三年六月末迄、

六、電話交換取扱局ト機械設置箇所トノ距離
岡山練兵場約二十町、東山公園約十八町、
鹿田驛跡約十五町、

七、加入ノ種類　單獨加入

岡話第九〇三號
昭和二年十一月十一日　岡山郵便局長
岡山市長殿

短期電話特急架設方ノ件

九月二十二日付勸博第二四二號ヲ以テ申請相成候標記ノ件ハ四個ヲ限リ無寄附短期特急架設トシテ承認相成リ他ハ特別開通ト同額ノ設備費（七百圓）ヲ納付スルニアラザレバ詮議相成ラザル旨其筋ヨリ通知越候條御了知相成度
追テ承認濟ノ四個ニ對シテハ加入申込書ノ御提出ヲ俟ッテ相當處理可致候

勸博第八三一號
昭和二年十二月十七日　岡山市長　窪谷逸次郎
遞信大臣　望月圭介殿

短期電話特急架設方ノ件

明年三月本市主催ニテ開催致候大日本勸業博覽會ハ本市未曾有ノ大事業ニシテ會場ノ如キモ、第一會場岡山練兵場、第二會場東山公園、第三會場鹿田驛跡ノ三會場ニシテ目下着々準備中ニ有之候然ルニ處會期中ハ本市事務ハ輻輳シ隨テ各會場ニ出張執務スルニ非ザレバ處理難爲短期特急電話ノ必要ヲ感ジ、本年九月二十二日岡山郵便局長宛第一會場用四個第二會場用一個第三會場用一個通計六個申請致候處十一月十一日付四個御承認ノ御通牒有之候ニ付右四個ハ第一會場ニ架設可致樣既ニ申請致候次第ニシテ第二、第三會場ニ是非トモ各一個宛架設ノ必要有之候ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ更ニ二個增設方御承認相成候樣御取計相願度此段申請候也

勸博第一、八七二號
昭和三年二月十日　岡山市長
岡山郵便局長殿

短期特急電話架設ニ關スル件

本春開催ノ博覽會モ愈々開期切迫シ會場諸般ノ準備モ進捗シ、目下各府縣並ニ殖民地關係者多數來岡シ、會場ハ大混雜ニテ四個ノ電話ニテハ到底十分ナル通話ヲナス能ハサルノミナラズ、第二、第三ノ會場ヲ施設セルニ依リ觀覽人員モ一層多キヲ加ヘ日々數萬ヲ算スル見込ニテ之レガ雜閙ハ想像ニ難カラザルベク、岡山運輸事務所ニ於テハ之等觀覽旅客ニ便宜ヲ計ル爲メ鐵道案内所ヲ特設シ一般旅客ニ便宜ヲ計ル計畫ニ相成リ本會トシテモ觀覽者案内所ヲ設ケ參觀者ニ便利ヲ計ルコトニ致居候、旁々電話ノ不足ヲ相生ジ候ニ付更ニ二個架設方御詮議相成樣御取計相煩シ度此段及御照會候也

岡話第一二三號
昭和三年二月二十二日　岡山郵便局長
岡山市長殿

電話特急架設ノ件

二月十日付勸博第一、八七二號ヲ以テ申請相成候大日本勸業博覽會第一會場内貴市出張所へ電話二個短期特急架設ノ件ハ鐵道案内所兼市内手引案内所ニ使用ノモノ一個ヲ限リ、無寄附架設方承認セラレタルニ付別紙申込書等御提出相成度候（別紙省畧）

追而他ノ一個ハ設備費（七百圓）ヲ寄附スルニアラザレバ詮議相成ラザル趣ニ有之爲念、

岡話第一七四號
昭和三年三月十五日　岡山郵便局長
岡山市長殿

電話開通ノ件

曩ニ御申込ニ依リ承認濟ノ大日本勸業博覽會場内ニ對スル臨時用特急架設電話ハ左記ノ通リ三月十五日ヨリ開通候條此段及通知候

（中畧）

電話番號　機械設置場所

三、〇〇九　岡山市北方大日本勸業博覽會第一會場内鐵道案内所、兼市内案内所

三、〇一〇　岡山市門田大日本勸業博覽會第二會場内岡山市役所出張所

三、〇一一　岡山市大供大日本勸業博覽會第三會場内岡山市役所出張所

斯くの如くにして、五個（第一會場電三、〇〇七番、三、〇〇八番、三、〇〇九番、第二會場電三、〇一〇番、第三會場電三、〇一一番）承認架設されたるを以て偕行社内博覽會事務所に五十回線單式交換機一臺を裝置し、交換手二名を採用して事務に當らしめたり。

交換臺ニ接續セル電話

電話番號	機械設置場所	電話番號	機械設置場所
第一番	勸業博覽會事務所市長室	第一六番	同　警備詰所
第二番	同　部長室	第一七番	同　經理課出張所
第三番	同　課長室	第一八番	同　鐵道案内所
第四番	同　事務室	第一九番	本館　一部
第五番	會場内工營部	第二〇番	同　本館　二部
第六番	事務所工營部	第二一番	同　本館　三部
第七番	同　工營部	第二二番	同　本館　四部
第八番	同　商工課	第二三番	同　天滿屋食堂部
第九番	會場内農水産館	第二四番	同　三好野出張店
第一〇番	同　林鑛館	第二五番	同　朝鮮館
第一二番	同　發明機械電氣館	第二六番	同　北海道館
第一二番	同	第二七番	同　寫眞組合
第一三番	同　迎賓館	第二八番	同　滿蒙館
第一四番	同　救護室	第二九番	同　演藝館
第一五番	同　警官詰所		

第二節　鐵道案内所

博覽會の觀衆中、鐵道によるもの〻員數莫大なるは言ふ迄もなし從つて岡山並に大元兩驛を始め岡山附近各驛の混雜は尋常一樣のものにあらざるべく、之等の混雜を緩和し、旅客に利便を與へんがために、第一會場正門内右側に間口四間、奥行三間の鐵道案内所を建設すると共に、鐵道當局に對し之が經營を申請したるに昭和三年三月十七日認可、翌十八日より岡山驛派出鐵道案内所と命名し、岡山運輸事務所より掛員三名を派出し乘車に關する個人及び團體の指導其他鐵道に關する一切の事務を取扱ひ多大の便益を與へられたり、而して開設中の利用狀況を示せば左の如し。

種別		三月	四月	五月	合計
案内一斑	列車時刻ニ關スルモノ	一、三四件	一、三八件	五三件	一、九二五件
	乘車券ニ關スルモノ	三八	二七二	一〇九	四一九
	運賃ニ關スルモノ	三	二三三	一四	三七九
	其他	三五	二九	七八	三三二
	計	三九九	一、九三三	八三	三、一二三
乘車券發賣數		四六枚	六九枚	二四八枚	九二三枚

中國鐵道株式會社も如上の施設ニ相呼應し第一會場附近に於て鐵道案内に努められたるが、その効果良好にして利便を受けたるもの

も亦尠からざりき。

第三節　郵便局臨時出張所

本會の開會につれ會務の敏活なる處理と、出品並に關係者及び觀覽者の利便を企劃せんがため、當局に對し第一會場内に、郵便取扱所設置方を申請したり。

勸博第九四四號
昭和二年十二月二十五日　大日本勸業博覽會長岡山市長
岡山郵便局長殿

第一會場内郵便取扱所設置申請

明春三月二十日ヨリ五月十八日ニ至ル六十日間當市主催ニ大博覽會ヲ開催可致會場諸般ノ準備モ着々進捗致居候就テハ開會ト共ニ入場人員モ日ニ數萬ニ達スベク、之レガ便宜ヲ計リ且ツ此ノ印象ヲ永久ニ保存スル意味ニ於テ記念消印押捺、繪葉書土産品ノ發賣希望者モ多數ニ達シ、發送個數並ニ郵便事務モ非常ノ繁忙ト可相成存候事ハ他ノ實例ニ徴スルモ明瞭ナル次第ニ御座候間會期中特ニ第一會場内ニ於テ郵便事務取扱方開始相願度、別紙當會施設局舍圖面相添ヘ此段申請候也、（圖面省畧）

昭和三年三月二日　　岡山郵便局長

大日本勸業博覽會長殿

臨時通信施設ニ關スル件

曩ニ御申出ニ相成候大日本勸業博覽會第一會場内ニ郵便局出張所設置方ノ件、大體左記ニ依リ開設スルコトニ相成候ニ付御了知相成度

尙記念日付使用法ノ件ニ就テハ、未ダ其筋ニ於テ審議中ト被認候ニ付判明次第何分ノ御通報可致右併セテ御了知相成度候

一、開設期間

三月二十日ヨリ五月十八日迄六十日間

但シ會期延長ノ場合ハ延伸ノ見込

二、取扱事務

(1)郵便物引受、

(2)郵便切手類ノ賣捌、

(3)郵便爲替、貯金、振替貯金ノ各受拂、

(4)電報ノ受付交付、

(5)電話通話、但シ呼出ヲ扱ハズ、

三、取扱時間

郵便爲替、郵便貯金、振替貯金ノ各受拂事務ハ本局ニ同ジ、

其他ノ事務ハ午前八時ヨリ午後五時迄

本出張所を岡山郵便局博覽會臨時出張所と名づけ、吏員四名をして事務に從事せしめられたるが、各種別取扱件數を擧ぐれば、

區分 / 取扱別		郵便爲替貯金	振替貯金	電報	電話	
		引受	振出	受入	發信	收入印紙及郵便切手賣捌
普通	配達	拂渡	拂渡	拂渡	着信	通話
普通	六、〇三三、三六五	通	日	日	日	通
特殊通常	四六二	一六三	三七九	六二	二〇八	三一六、四〇九
普通小包	一〇五	三九				七一〇
特殊小包	一五	一九四				六二三、〇九四枚

尙一般觀覽者並に場内關係者に便せしむるため、第一會場内に郵便柱函及び公衆電話各三個、第二、第三會場前に公衆電話各一個を設置したるが、その通話數は左の如し。

會場別 / 通話區別	市内通話	市外通話	合計
第一會場	四、五二六	一七二	四、六九八
第二會場	一、〇六五	六五	一、一三〇
第三會場	四三五	四五	四八〇
合計	六、〇二六	二八二	六、三〇八

第四節　銀行派出所

本博覽會は岡山市の經營にかゝり、從つて其の事務は市制法規の示すところに則らざるべからざるを以て、經理事務については市經理課員をして博覽會經理部委員に任命せり。

委員は會期中各會場に於ける經理事務所に駐在し、入場券の配分出札の監督、入場料、小間料、賣店使用料、館外土地使用料、荷物預料、電燈料等總べての收入事務を整理し、なほ各會場詰員は毎日午後六時（夜間開場の場合は午後十一時）第一會場經理事務所に集合し、終日の收支決算に當り、現金は岡山市金庫取扱銀行派出所に預入せり。

市金庫派出所は第一會場内に於ける岡山郵便局博覽會臨時出張所と同一建物内に在り、毎日岡山市金庫取扱銀行（岡山市金庫取扱銀行三月三十一日迄は第一合同銀行なりしが、四月一日より山陽銀行に變更）より事務員二名宛を派出し、市公金を取扱ふのみならず貯金、送金、爲替、兩替等一般の銀行事務を取扱ひ金融を圓滑ならしめたりしが、五月二十三日を期して閉所せり。

會長 市長	副會長	助役 事務總長	收入役	同月日	使用料金	摘要	使用者住所氏名	經理部主任	派出所事務員	令書發行 月日	令書納入 月日

第五節　入場者案内所

出品人及び觀覽者にして土地不案内又は宿泊の豫定なきものゝために、大日本勸業博覽會協贊會と協定して開會と同時に、岡山驛前に案内所を設け、毎日午前八時より午後四時迄、協贊會委員、及び本會事務員並に委員交代詰切にて會場の位置案内、旅館の斡旋、視察團の出迎接待等に從事せり。

なほ第一會場には案内所二ヶ所を設け、看守二人をして場内の順路、各道府縣出品陳列の個所等を説明せしめ、專ら遠地觀客の便宜を計りたり。

第六節　運送業出張所

第一會場正門に近く、岡山合同運送株式會社出張所（建坪五坪）を設置し、出品物の搬入出に係る業務は素より、賣店販賣品其の他荷貨物の保管並に岡山市内の配達並に各地への運送を取扱ひ、極力公衆の利便を圖りたり。

第七節　携帯品預所

携帯品は容積の大ならざるものに限り、その儘携帯入場を許可する方針なるが、自轉車、乳母車、其の他容量の大なる荷物を携帯せる觀覽人の便宜を圖らんがく、本會直營にて各會場に自轉車、乳母車預り所一ヶ所に手荷物預り所一ヶ所とを設け、一日の預り料金物件一個に付金五錢と定め實施したりしが、第二、第三會場のものは四月十三日限り閉鎖せり。

會期中の預托總數は左の如し。

會場別	預托品種別	自轉車	乳母車	手荷物	合計
第一會場		三、一六一	一〇	三、八五三	七、〇二四
第二會場		四八八	一二	一三三	六三三
第三會場		一、一三八	三七	一、二六八	二、四四三
合計		四、七八七	五九	五、一五四	八、九二五

第八節　寫眞撮影所

本會の會場並に各館内外の光景、其の他出品物搬入出等の撮影については、本會專任事務員をして之に當らしめたるが、出品人、新聞及雜誌、博覽會協贊會、諸官廳、道府縣市事務所等より本會の宣傳若くは紹介の目的を以て撮影せむと希望するものには何れもそれを許可したり。

なほ岡山市寫眞同業組合にては、第一會場内に特設寫眞撮影場を設置し、一般の價格より三割減にて需用に應じ、加かも撮影者には記念繪葉書を贈呈して氣勢の振作につとめたり。

第五章　宣傳振作

第一節　宣傳振作

本會は既に其の容姿を整へ豫定のごとく開會し、觀覽者を迎えたるが、更に博覽會の使命と目的とを宣傳して觀覽者を誘致するは、本會の盛況を援けるのみならず開設の目的を達成する所以なるを以て開會後に於ても、特に此方面に力を注ぎ、會期中は毎日晝は一時間毎に、夜間は適宜に煙火を打ち揚げたるがごとき、苟も宣傳振作を資くべきものについては犧牲を吝まず、各種の計劃を實行せるが一面岡山市民の熱心は目まぐるしきばかりの街路裝飾として現はれ宣傳振作を援けたりしこと尠からざりしなり。

一、飛行機飛翔

飛行機により空中宣傳を行ふべく開會に先ち、靜岡縣清水市根岸飛行場に交渉して、會期中ニューポール二十四型飛行機を借入れ、時に應じ岡山縣下は素より隣縣へも縱橫に旋回飛翔しながら博覽會及び各種の催しものについての宣傳ビラを撒布して氣勢を上げたり、飛行概數は、

△岡山市内一日二回乃至三回、△神戸まで（上道、邑久、和氣郡を經て）一回、△高松方面（都窪、淺口、小田、後月郡を經て）一回、△津山方面一回、△高梁方面一回、△旭東郡部方面一回、△都窪、兒島郡方面一回、△福山、笠岡、矢掛方面一回、

飛行せざる期間は第一會場飛行機館に於て一般の縱覽に供したり撒布したる宣傳ビラの大要はさのごとし。

善美を盡くし
盛裝を凝せる
主催 岡山市
大日本勸業博覽會
愈開會 二十日午前開會式の觀覽を歡迎す
第一會場 東練兵場
第二會場 第二公園場
第三會場 鹿田驛跡

色紙 横縦 二五寸九分寸

善美を盡くし
盛裝を凝せる
主催 岡山市
大日本勸業博覽會
愈開會 二十日午前開會式の觀覽を歡迎す
第一會場 東練兵場
第二會場 第二公園場
第三會場 鹿田驛跡

色紙 横縦 二五寸九分寸

善美を盡くし
盛裝を凝せる
主催 岡山市
大日本勸業博覽會
二十日午前開會式
午後一時より一般に開場

色紙 横縦 三五寸

（場兵練）　場會一第

水族館	八幡濱	蓄水鑛所	滿蒙館
北海道館	農業館	林業館	朝鮮館
臺灣館	別本館		
動物	日光	木下曲馬團	野外劇場
養子供の國	畜産館	機械館	電氣館
各種實業館	音樂堂		
其他各種	園藝館		

（鹿田驛跡）會第三場　（園公山東）會第二場

中央館	赤十字社會	衛生館	教育館
美術館	參考館		

色紙 横縦 四三五寸分

善美を盡くし
盛裝を凝せる
主催 岡山市
大日本勸業博覽會
春は酣にして
觀覽時刻
午前八時
午後五時

色紙 横縦 四三五寸分

善美を盡くし
盛裝を凝せる
主催 岡山市
大日本勸業博覽會
春は天地に滿ち
人は會場に溢る

（場兵練）　場會一第

水族館	八幡濱	蓄水鑛所	滿蒙館
北海道館	農業館	林業館	朝鮮館
臺灣館	別本館		
動物	日光	木下曲馬團	野外劇場
養子供の國	畜産館	機械館	電氣館
各種實業館	音樂堂		
其他各種	園藝館		

（鹿田驛跡）會第三場　（園公山東）會第二場

中央館	赤十字社會	衛生館	教育館
美術館	參考館		

大日本勧業博覽會

岡山市主催

會期　自三月二十日　至五月十八日

第一第二會場共通觀覽料	大人五十錢　小人半額

色紙　縦四寸ダ　横五寸ダ

大日本勧業博覽會

岡山市主催

會期　自三月二十日　至五月十八日

第一第二會場共通觀覽料	大人五十錢　小人半額

色紙　縦四寸ダ　横五寸ダ

御來觀のつゞきを

大日本勧業博覽會

岡山市主催

會期　自三月二十日　至五月十八日

第一第二會場共通觀覽料	大人五十錢　小人半額

色紙　縦四寸ダ　横五寸ダ

御來觀をまつ

大日本勧業博覽會

岡山市主催

會期　自三月二十日　至五月十八日

第一第二會場共通觀覽料	大人五十錢　小人半額

色紙　縦四寸ダ　横五寸ダ

近日八十月五り

大日本勧業博覽會

岡山市主催

會期　自三月二十日　至五月十八日

第一第二會場共通觀覽料	大人五十錢　小人半額

色紙　縦四寸ダ　横五寸ダ

近日廿月三期會

大日本勧業博覽會

岡山市主催

會期　自三月二十日　至五月十八日

第一第二會場共通觀覽料	大人五十錢　小人半額

色紙　縦四寸ダ　横五寸ダ

色紙　縦四寸三分　横三寸八分

夜の博覽會

市制四十年祝賀

二十六日
二十七日
二十八日
毎夜七時より

岡山全市各町各團體が意匠を凝らし妙技を揮ふ

仮裝行列と大演藝　仕掛大花火

夜の入場券　大人三十錢　小兒半額

御所持の方は幾十の假裝行列と大演藝を隨意見物出來ました上に場内左の興行物は自由に御覽ください

熟れも無料で開放いたします。享樂の夜歡樂の別天地は火の海不夜城現出

木下曲藝團　足立動物館　日光館
萬國演藝館　アイヌ館

二、自動車隊

博覽會宣傳部員十二名を以て自動車宣傳隊四班を組織し、四月十一日午前九時岡山市役所を發し、一齊に岡山市内各新聞社を歷訪したる後、左の行程により岡山縣下を中心に、東西近縣主要都市に宣傳するところありたり。

宣傳地方行程

第一班
兒島郡味野町、琴浦町、日比町、八濱町、天城町、都窪郡倉敷市
吉備郡總社町、上房郡高梁町、阿哲郡新見町、川上郡成羽町。

第二班
上道郡西大寺町、和氣郡香登町、伊部町、三石町、赤穗郡上郡町
揖保郡龍野町、姫路市、網干町、新宮町、英田郡江見町、林野町
勝田郡勝間田町。

第三班
御津郡金川町、久米郡福渡町、鶴田村、眞庭郡落合町、久世町、
勝山町、湯原村、久米郡坪井町、津山町、加美村龜甲、稻岡南村
誕生寺

第四班
吉備郡眞金村、川邊村、箭田村、小田郡矢掛町、小田町、後月郡
西江原町、井原町、高屋町、備後尾道市、福山市、小田郡笠岡町
淺口郡鴨方町、金光町、玉島町。

五月十五日第二次の宣傳隊を組織し、福山市、兒島郡、和氣郡、津山町の四方面に向つて宣傳に努めたり。

三、文書刊行

イ、博覽會案内記

博覽會を時間的に且つ經濟的に觀覽せしむる目的を以て、四月十八日「春のおかやま博覽會案内記」十萬枚を印刷し、「大日本勸業博覽會配置圖」と共に岡山縣下各小學校に配付せり。

春のおかやま
博覽會案内記
岡山市主催
大日本勸業博覽會

第一會場

岡山驛より會場前驛に至る汽車　金參　錢
同　乘合自動車　金拾　錢
入場料三會場共通　金五拾錢

第一會場は本館をはじめ、演藝館、發明機械電氣館、日本館、林鑛館、別館、農水產館、北海道館、八幡製鐵館、臺灣館、朝鮮館、滿蒙館、實演即賣館、水族館等幾多の別館特設館を抱擁し、百五十尺の高塔を始め近代建築の粹は、燦然一大城廓の異彩を放つてゐます。

本館　建坪二千坪モダンゴシック式の大建築で、全日本の出品數十萬點が網羅蒐集されてゐます。正面入口より右に廻ると東側が東京、西側が靜岡、つゞいて滋賀、栃木、埼玉、茨木、三重、和歌山、奈良、山梨、佐賀、神奈川、長野、岐阜、新潟等の陳列があり左に折れて愛知、群馬、石川、富山、福井、德島、香川、高知、愛媛、青森、山形、岩手、福岡、鹿兒島、山口、大分、熊本、長崎、南洋廳の順に陳列され、入口を左にとつて行くと、東側が大阪西側が京都府と兵庫縣續いて島根、烏取、廣島、次は全岡山縣の郡部からの出品で埋められてある。

日本館　特設館中の有數なもので色々の商人が百貨を陳列して即賣してゐます。

發明機械電氣館　モーター電動機、電氣應用器具等の陳列で總てのものが動いてゐるので興味も深く有益です。中でも中水、山陽、中央、岡電主催の電熱應用家庭の模型、福助足袋、岡山專賣局の實演等は興味の中心となつてゐます。また三井造船出品銀製の汽船模型がありますこれが製作には壹萬圓を要したと云ふ素晴らしいものです。

林鑛館　林業鑛業品一切の陳列で、柵原鑛山の模型が入口にあります。岡山縣の特產物備中美作一圓の木炭、木材三石の砥石、北木萬成の石材、津山の竹材、苫田の三極等が目につきます。

京都館　京都市を中心とする特設館で、京都人形、清水燒、京推木なぎ土產品として恰好なものを即賣してゐます。このあたりに飛行機の飛揚場があります發着を見物の方は飛行機の花（拾錢）をお

求めになれば見せてくれます。

別　館　本館に次ぐ大建築で坪數四百坪、岡山全市の出品がみんなこゝに集められてゐます。奥側北角の大毎新聞製作狀況と西南角の大朝の普選に關する陳列は共に興味をそゝります。中央岡山洋家具組合の文化室内裝飾、岡山菓友會の菓子類裝飾其他貴重な裝飾、陳列がどつさりあります。

肥料館　兩備肥料同業組合の出品館農業に關係ある方の是非見なければならないところです。

特許發明館　日本館と發明特許品その他百貨を聚集して各種商人の即賣場。

農水産館　精米機、籾摺機、貯藏機、製繩機、除草機、噴霧器等の農具や、農作物水産品等陳列してあります。

北海道館　北海道全島からの出品で、水産物、毛皮、鑵詰、農産物、木材、アイヌの製品、スキー用具まで綺麗に陳列し尚ほ特産物を即賣されてゐます。

八幡製鐵　各種製品の標本を陳列し又休憩所が設けてあります。工場の製作狀況を活動寫眞として書間にも映寫してゐます。

野外劇場　協賛會の施設で絶へず舞踊、萬歳その他輕い演藝を演つてゐる。

小供の國　中國民報社の主催で、明治大正歷史館を始めいろ〳〵の小供に對する施設をしてあります。こゝは入場料大人拾五錢、小人拾錢、小供園は自由開放であります。

臺灣館　正面入口のバナヽや甘蔗青竹などの熱帶植物園が、南國氣分をそゝります。籐製品、楠細工、ウーロン茶、熱帶果物鑵詰、生蕃の人形、支那人形等を即賣してゐます。

朝鮮館　建築の壯麗場内第一で宛ら王宮の如く聳え立つてゐます陳列、即賣に分れて、農産物、人參、水産物、毛皮、扇子及紙製品、莞草細工、藥細工等こゝも即賣所は賑つてをります。

滿蒙館　異彩を放つ支那式の建築美を見せて、本館の南手角に設けられてゐます。陳列品は絹、油、麻製品、豆粕、珪石及び種々な鑛石、硝子製品高粱等で小森陶磁器研究所出品の如意輪觀音、獅子香爐、美人齊花瓶、鞍山の鐵、撫順の油母頁石等觀賞するもの參考こなるものがたくさんあります。

無料休憩所　場内到る所に會社銀行商店の無料休憩所の設備がありますが、此處博覽會直營の休憩所で學校その他團體の休憩所として多數の人が收容されます。

實演即賣館　岡山縣重要物産同業組合聯合會の特設館で、蘭製品、菓子類の製造實演や、備前燒、眞田紐、木綿反物等が即賣されてゐます。

水族館　岡山縣水産會の出品で、子供さん達の喜ぶところ、正面に瀧の模型を造つて右側が貝類、左側が魚類の各數百の標本つきあたりに水槽があつて右が塩水、左が淡水、きれいな魚が岸陰や珊瑚の間を樂しそうに泳ぎまわつてゐます。入場料拾錢（子供軍人半額）

演藝館　岡山市の藝妓總がゝりで鄉土名物吉備踊りを出演いたしまして、博覽會の呼びものになつてゐます。入場料は一等壹圓、普通七拾錢、正午十二時、午後三時二回の開演いたします。

公開演藝場　山陽新報の主催にかゝる無料演藝館では各種の珍奇な舞踊、演藝等が毎日午後開演されます。

各種興行　四頭の象にラクダ、オットセイそのほか猛獸をそろへた木下サーカスの曲馬團や、怪力ブーシ！孃出演の萬國演藝館、その他日光館、動物館、アイヌ曲藝等興業物で賑つてゐます。午前より開演。

後樂園　第一會場から春色麥る天下の名園後樂園へは階行社前から南方番町道路を歩いて、番町電車終點、こゝから電車で三分、後樂園停留所で下車する。（賃錢錢）

天主閣　今回は山陽新報社の主催で城内に御大典展覽會が開かれてゐます。展覽會は階下に遺品遺墨、次に御大禮圖繪模型、五節の舞、明治大帝御使用の數々の品、二階は大典參考書誌、三階は紫宸殿御即位式、四階は大嘗祭、風俗舞、悠紀齋田、五階は高御座等の各嚴肅な模型が陳列してあります。（入場料は貳拾錢、小人軍人半額）

第二會場

後樂園　後樂園から電車にて七錢、岡山驛よりも電車賃七錢。

美術館　各府縣知名畫家文人の繪及び書を一堂に蒐めて觀賞せしめるもので、岡山さして未曾有の催しであるのみでなく、洋畫の如きは中央に於ても容易に見られない樣な傑作揃ひで、今回の勸博中一つの異彩とされてゐます。左り廻り第一室は神田周三氏の『髪』小林喜一郎氏の『馬小屋と道』二室三室は阿藤秀一郎、小早川篤四郎氏等をはじめ岡山の若い畫家の作品が多く、四室から吉川苞氏の『夏の日』阿以田治修氏の『畫房小閑』前田寬治氏の『横臥』等傑作が揃ひ、第五室はこの美術館中燦然と輝く大家の作て充たされ兒島虎次郎氏の『蘇州天平山』白瀧幾之助氏の『水蓮』鹿子木孟郎氏の『水鏡』を始め石川寅治、滿谷國四郎、中澤弘光、岡田三郎助、正宗得三郎、柚木久太諸氏の作品が妍を競うてゐます。六室からは日本畫で、小野竹喬、藤田松邊、池田遙村、東原方儕、高橋秋華諸氏の作品、七室八室九室は岡山在住者の出品が多く十室は書であります。

教育館　和氣清麿や木口小平等の忠臣勇士の像を始め種々の教育資料を陳列し、電氣應用で『兒童生活の一日』を模型で示したのなどは子供の爲に喜ばれてゐます。

參考館　陸軍のタンク左側の『科學戰』などは興味深いもの、飛行機製作の狀況や汽船の船體、解剖模型等有益な參考資料に富んでをります。

偕樂園　第二會場のつい前にあります。岡山軌道會社の經營になる遊覽舘で霞島の人形目も彩に飾られ、最後の演藝舘には絶えず新しい出し物がかゝつてゐます。（入場料參拾錢、子供半額）

東山公園　玉井宮、奥市公園、五百羅漢は此の附近にあります
周圍操山の松の翠滴らんばかりの風景掬すべく遊杖を曳く者四時絶へず。

第三會場

東山方面から第三會場へまゐりますには、終點から電車で西大寺町まで來て、そこから大學病院行の乘合自動車を利用されるが一番便利でせう。（電車五錢）（自動車貳拾錢）第三會場は醫科大學のすぐ西側で、衛生館、社會館、中央館の三つからなつてゐます。

衛生館　岡山醫科大學眼科、小兒科、病理科等の種々病狀の標本や、岡山縣結核豫防協會、縣衛生課等の保健衛生上の陳列が主になつてゐます。

中央館　岡山醫大婦人科の婦人病に關する標本、岡山齒科醫師會の口腔衛生上の模型標本、ポスター等で別に一方で活動寫眞等の演藝館が併設してあります。

社會館　倉敷勞働科學研究所出品のエネルギー代謝研究裝置、大朝、大毎の社會事業表生活改善同盟の改善模型等社會學研究家の參考品多く別に鄕土館を併設して臥龍松、神庭瀧、閑谷紅葉亭、下津井海岸、院庄舘跡、牟佐の大塚、菩提寺の公孫樹、豪溪等縣下名勝地のパノラマがあります。

ロ、博覽會配置圖

觀覽者への會場手引として四月八日第一、第二、第三各會場の配置一般を平面的に刷成したるものにして、各建築物中本會直營のものは赤色、其の他は黃色を以て區別し、なほ各會場の交通關係を表示したる附圖をも添えたり印刷數五萬部。

ハ、博覽會の歌

朝鮮國境節による博覽會の歌を作り（寺阪賴甫氏作）市井に宣傳せり。

大日本勸業博覽會
一、こゝは中國岡山の　その名も聞ゆる後樂園
仰げば高し天主閣
二、御幸を偲ぶ延養亭　千年の鶴は園に鳴き
萬代の龜池にすむ
三、國に文化の花咲けば　世に產業の實を結ぶ
花も實もある博覽會
四、半田の綠色映えて　光彩張る練兵場
並ぶ各館技を競ふ
五、人の目をひく朝鮮舘　滿蒙舘や臺灣舘
吉備の踊の演藝舘
六、春は花咲く東山　精華寃る美術舘
教育舘や參考舘
七、鹿田の驛の跡飾る　社會舘には衛生舘
いざや見に行け博覽會

二、新聞及通信

岡山市内に本社又は支局、通信部を有する各新聞社は、本會事業計劃以來終始、好意的援助の下に其の狀況を報導されたるが、開會と同時に第二會場迎賓舘の一部に新聞記者室を設け一面に於て本會事務員一名をして毎日數囘に亘りて、新聞記事の材料を蒐集提供せしめたるが、總べて迅速と精細とを旨としたり。中國民報社は三月二十日「クラビック」を、大日本勸業博覽會協賛會は「岡山市遊覽案内」及び「博覽會場案内圖」を中國鐵道株式會社は「岡山市勸業博覽會御案内圖」を岡山商工協會は名勝と名物及後樂園を、山陽新報社は四月十八日「大日本勸業博覽會記念講報」を、岡山日々新聞社は四月二十五日「勸博案内記」を、大阪毎日新聞社は五月一日「大日本勸業博覽會講報」を發行して、本會の盛況を傳へ觀覽者の誘致に大なる效果を擧げられたるは深く感謝するところなり。

第二節　各種デー

博覽會の會期切迫につれ、觀覽者に興趣を添え會勢を振作せんがために、各種の催を擧行したるが、之れに策應したる各種協賛的の催しと共に、何れも多大の人氣を博し、博覽會に一段の光彩を添えたり。

一、假裝と諸藝大會

四月二十六日より三日間岡山市制施行四十周年記念式の夜間、第一會場に於て假裝行列と、諸藝大會とを催したり。

市制施行四十周年記念祝賀假裝並ニ諸藝大會規程

一、出場御希望ノ方ハ四月二十三日マデニ大日本勸業博覽會内市制施行四十周年記念祝賀會宛御申込ヲ願ヒマス、申込ハ團體名統卒者　扮裝又ハ演藝種目、出場ノ日ヲ記入ノコト、

二、出場者ハ當日午後六時ヨリ午後八時マデノ間ニ博覽會第一會場南通用門ヨリ入場ノコト、但シ到着ト同時ニ受付係へ到着ノ御通告ヲ願ヒマス、

三、出場者ハ素人ト玄人トヲ問ハズ、縣ノ内外又ハ何人デモ差支アリマセンガ、個人出場ヲオ斷リシテ團體出場ヲ希望イタシマス、團體トハ假裝ノ一組又ハ演藝ニ於ケル合奏、或ハ舞踊ナゾノ地方ヲ含ンダモノヲ指シマス、從ツテ其人數ニ制限ハアリマセン、

四、假裝ト演藝ハ別箇ニ審査イタシマス、其優秀ナルモノニ對シテハ賞金並ニ褒狀ヲ贈呈イタシマス、

五、諸藝出演ノ方ハ演藝場ニ於テ、假裝ノ方ハ一定ノ區劃通行ノ際ニ於テ審査ヲ行ヒマス、

六、審査ハ到着順ニヨツテ順次行ヒマス、尙出場ハ三日間ニ渉ルコト差支アリマセンガ、審査ハ一團體一囘ト限リマス、

七、一團體ニシテ假裝ト演藝トノ審査ヲ併セテ希望セラルヽ事ハ差支アリマセンガ、豫メ申込ノ際其旨ヲ明記セラルヽコト、

八、假裝ハ時代行列、各國風俗、義士行列若クハ芝居ノ段モノナゾ、如何ナルモノデモ任意デスガ、苟モ風俗ヲ害スルモノ又ハ危險ヲ伴フモノ若クハ一見シテ醜惡ノ風ヲ生ゼシムルモノハ絶對ニオ斷リイタシマス、

九、賞金並ニ褒狀ハ左ノ如ク贈呈イタシマス、

假裝　演藝

一等　金百圓　一組　一等　金五拾圓　一組
二等　金五拾圓　二組　二等　金貳拾圓　二組
三等　金貳拾圓　三組　三等　金拾圓　三組
四等　金拾圓　四組　四等　金五圓　四組
五等　褒狀　五等　褒狀
各通二十組

十、當日若シ雨天ノ際ハ順延イタシマス、尙ホ申込多數ニシテ指定日ノ審査ニ間ニ合ハザルトキハ便宜會長ニ於テ、豫メ日ヲ定メ通告イタシマス

假裝行列

一等賞　名士行列及歷代市長行列　岡山市小畑町壯年會
二等賞　花魁行列　濱谷曠外百十五名
　岡山市西中山下番山町
　橫山孝史外十九名

十一、異樣ノ扮裝又ハ行列ヲ以テ行進スルモノハ總テ所轄警察署ノ許可ヲ受ケラルヽ樣注意ヲ望ミマス、

十二、本規程以外ノ事ニ於テ必要ト認ムルモノハ便宜　會長ニ於テ決定イタシマス、

審査申合

一、飛入ハ承認スルコト、但シ受付ニテ正式ノ手續ヲナシ審査員ヘ通告スルコト、

二、個人（一人）ノ變裝ハ審査セズ、

三、審査ハ採點法ニ依リ十點ヲ最高トス、

四、點數ハ三日目ノ最後ニ於テ審査委員ヨリ提出ノ上決定ス、

假裝行列ハ音樂堂前ノ廣場ニ於テ、諸藝大會ハ無料休憩所ニ於テ行ひたるが、熱心なる出場者が、研を凝らしたる趣向は、總べてに獨創的の新鮮味を漂はせたるのみならず、二十七日は萬國演藝團のサンニーマーク、二十八日は松旭齋天旭一行及び岡山市上之町仁科氏の臨時出演ありて盡きせぬ賑ひを呈したり。

二十九日審査の結果、左の如く入賞者の決定を見たり。

諸藝大會

一等賞　喜劇花見仇討一幕　岡山市六雲寺町
　宇野繁自外十四名
二等賞　阿波鳴門一幕　大日本勸業博覽會
　演藝館組十名

三等賞　時代風俗變遷行列　岡山市中出石町
　岡上偉佐衛外十二名
同　ロケーション變裝行列　岡山市西中山下
　房原利明外十四名
四等賞　昭和の大久保彦左衛門登城　岡山市奉還町
　杉山壽太外六名
同　濱花五人男　岡山市二日市
　西尾鹿太郎外四名
五等　褒狀　舊幕時代風俗　岡山市大雲寺町
　宇野繁自外十名
同　地獄の博覽會見物　岡山市柿屋町
　玉田德太郎外十二名
同　歷代市長行列及び米の生る木吉備團子奬勵のため百姓と桃太郎の變裝　岡山市上伊福
　有松順之助外百三十名

同　舞踊數種　岡山市西中山下
　村田昇一外九名
三等賞　舞踊でたらめ　岡山市西中山下
　山久二座二十一名
同　道頓堀行進曲ダンス獨唱　岡山市上之町　池田一公外八名
同　劍舞三場　岡山市桶屋町
　小坂福雄外一名
四等賞　祝市制四十周年歌筑前琵琶女流大合奏　岡山市弓之町　杉山旭燕外九名
同　錢太鼓、安來節　岡山市下石井　杭田源一外二名
同　氣合術　上道郡西大寺町　丸尾寶月外一名
同　劍舞　岡山市下石井　坂道兼吉外一名

二、學童デー

岡山市制施行四十周年祝賀記念の第一日たる四月二十六日午前九時より、岡山市各小學校三年以上の兒童一萬人は、岡山市のマークを染め拔きたる小旗を振り翳し、「岡山の歌」を高唱しながら第一會場に於て旗行列を行ひたるが、小旗の海、學童の世界またなく可愛ゆく賑ひたり。

岡山の歌

みなもと遠き旭川　流れのまゝに樂きたる
文化の光てりはえて　星霜こゝに四百年
世紀の潮こゞろけご　鳥城の姿今もなほ
十有二萬はらからの　高き理想をさし示す。
操のみごり深ければ　市に產業の花あかく
四季名園に人を呼ぶ　鶯の聲にも風情あり。
汽笛の音に生產の　いぶき鋭き朝ぼらけ
吾ら手をあけ高らかに　よばん「榮えよ岡山市」。

三、夜間福引

五月の散步季節に入り、不夜城現出の第一會場への入場者著しく增加したるにより、入場者を優待すべく煙火の打揚け、音樂隊の演

奏、各種興行の開放の外、前後三回九夜に亘り夜間福引デーを定め、先着入場者三千名乃至四千五百名に對し福引券を渡し所定の景品と引換へたり。

夜間福引デー		主要ナル景品				景品總數
		一等	二等	三等	四等	
第一回	五月五日	自轉車	金側腕時計	籐椅子	浴衣地	四、五〇〇
	同六日	同	同	同	同	三、五〇〇
	同七日	同	同	同	同	三、〇〇〇
第二回	同十日	同	同	同	支那鞄	三、〇〇〇
	同十一日	同	同	同	同	三、〇〇〇
	同十二日	同	同	同	同	三、〇〇〇
第三回	同十五日	同	同	同	浴衣地	三、〇〇〇
	同十六日	同	同	同	同	三、〇〇〇
	同十七日	同	同	同	同	三、〇〇〇

四、福引に福合せ

會期の切迫につれ博覽會氣分を一層濃厚ならしめ、一面成功を祝福する意味により、五月十一日を福引デーと定め、有料券による第一會場入場先着三萬人に限り、入場の際花券を渡し、其の符號により景品と引換えたるが、趣向を凝らしたる方法は、いやが上にも博覽會氣分を張らしたり。

主なる景品は一等國庫債券百圓券、二等自轉車、二等金側腕時計四等本銘仙其他三萬點に達するまで、總べて景品を交付したり。

次いで五月十七日、最後の喚興として福合せデーを定め、第一會場入場先着二萬人（イ、ロ、ハ、ニの四組とし一組五千人とす）に對し、福合せ番號券を渡し抽籤器による抽籤方法を以て等級を定め當選札に基き景品を交付したるが、日本館、京都御大禮館、特許發明館内の有志より副景品の提供ありたり。

イ、ロ、ハ、ニ各組に於ける主なる景品は一等國庫債券百圓券、桐重箪笥（副景品西陣丸帶地）二等自轉車、三等金側腕時計、四等本銘仙地、五等籐椅子、六等支那鞄、七等絹張洋傘、八等浴衣地、九等雨傘、十等バケツ等にして以下十八等までに分ち、洩れなく景品を交付したり。

福合抽籤取扱

一、五月十七日第一會場ニ於テ本會福合抽籤ヲ施行ス、

一、福合ハ入場者先着二萬人ヲ「い、ろ、は、に」ノ四組ニ分チ各一組ノ人員ヲ五千人トシ入場者一人ニ付各一枚ノ入場番號札ヲ正門内ニテ交付ス、

一、組ノ順序ハい組ろ組は組に組ノ順序ニ依リ其ノ組ノ番號札ノ盡キタルトキ、次ノ組ノ番號札ヲ交付スルコト、

一、番號札ニハ會名及札ノ上下ニ亞剌比亞數字ヲ以テ其番號ヲ示シ裏面ニ會名印ヲ押捺セリ、

一、番號札ヲ交付スルモノハ記名式優待券、一回限優待券及有料入場券所持者トス、

一、記名式優待券ニハ入場ノ際入鋏スルコト、
但入鋏優待券ニハ再ビ福合番號札ヲ交付セザルモ開期中ノ入場ハ其度數ニハ制限ナキハ勿論ナリ、

一、抽籤ハ本會無料休憩所ニテ施行シ當選番號ハ同所ニ之ヲ掲示ス、

一、抽籤ハ抽籤器ヲ以テ之ヲ行フ、

一、抽籤開始前自轉車ニ依ッテ會場内ニ抽籤開始ノ旨ヲ通報スルコト、

一、場内數ケ所ニ抽籤場所ノ掲示ヲ爲シ置クコト、

一、抽籤施行ノ際抽籤臺ノ側ニ抽籤等級及其個數ヲ表示ス、

一、入場者ノ所持セル番號札ノ番號ト抽籤番號ト符合シタル時、其抽籤等級相當ノ景品ヲ贈呈ス、

一、入場者ノ所持セル當リ番號札ノ表面ニ其當選等級印ヲ押捺シ取扱者認印ノ上之ヲ其所持者ニ交付スルモノトス、

一、當選番號御所持ノ方ニハ番號札ニ證印ヲ受ケ景品ヲ受ケ取ラルヽ樣見易キ場所ニ掲示スベシ、

一、景品ハ正門内北手ノ景品渡場ニテ受ケ渡スベシ、

一、景品掛ハ右當選等級記載ノ番號札ヲ携行シタルモノニ番號札ト引換ニ等級相當ノ景品ヲ贈呈スベシ、

一、當選等級ハ一等ヨリ十八等迄トシ其他ハ等外トス

一、等級五等迄ノ當選者ノ住所氏名ヲ取調ベ景品渡場ノ側ニ掲示スベシ、

一、西警察署及市内新聞社ヘ抽籤場ヘ立會方依頼スルコト、

一、各等級ニ依ル當選番號ヲ記入スベキ用紙ヲ準備スルコト、

一、本抽籤施行ニ當リ番號札交付掛、抽籤當選番號掲示掛及景品交付掛間ハ互ニ連絡ヲ保チ不都合ナキ樣特別ノ注意ヲ望ム、

第三節　各種大會

博覽會開期中に於て岡山縣下は素より全國に於ける各種團體は、其の會場を岡山市内に選び、教育、學藝、産業、宗教其の他公益の增進を圖るために大會を開催し、その使命と目的の達成に努め、傍ら本博覽會觀覽の機會を與えられ本會開設の趣旨を徹底する上に於て最も力强きものありたり。

昭和三年度岡山市勸業補助費として壹萬壹千圓（勸業施設補助費五千圓、勸業博覽會各種大會補助費六千圓）を計上し、その目的の下に支出せるが、補助金を交付したる各種大會は左の如し。

各種大會補助支出額

名稱	補助額	名稱	補助額
全國都市青年團大會	圓 200	全國少年野球大會	円 100

全國傷痍軍人大會	一〇〇	
全國料理屋業同盟大會	四〇〇	
中國四國六縣酒造家大會	二〇〇	
全國煙草小賣人協會定期大會	二〇〇	
內外商業教育博覽會	三五	
全國町村長大會	一、〇〇〇	
全國教育大會	八〇〇	
全國幼兒教育研究大會	二〇〇	
岡山縣產業組合大會	二〇〇	
全國自轉車競技大會	三五	
關西新聞記者大會	一〇〇	
岡山縣社會事業大會	三五〇	
岡山縣足袋同業組合大會	二〇〇	
關西市農會協議會	二〇〇	
岡山縣下消防組頭大會	三五〇	
關西聯合齒科醫師會	一〇〇	
近縣聯合柔道大會	一〇〇	
岡山縣下度量衡大會	一〇〇	
全國肥料組合聯合大會	一〇〇	
全國農村教育研究大會	一〇〇	

各種大會

開催月日	名稱	主催	會場	出席人員	大會概況
自三月廿八日至同廿九日	全國幼兒教育研究大會	吉備保育會	岡山市公會堂	三五〇	協議、研究發表、博覽會觀覽
自四月一日至同二日	關西新聞記者大會	關西各新聞社	岡山市公會堂	一〇〇	決議、博覽會觀覽
自四月六日至同七日	關西市農會協議會	岡山市農會	岡山市議事堂	三〇	協議、研究、博覽會觀覽
四月七日	岡山縣養蠶組合長會議	岡山縣養蠶組合聯合會	岡山市公會堂	三五〇	協議、表彰、講演
四月八日	聯合消防演習	岡山西署管內消防組	岡山練兵場	三、〇〇〇	放水演習、表彰
四月九日	岡山縣神職會總會	岡山縣神職會	後樂園鵜鳴館	二〇〇	表彰、協議、講演
自四月九日至同十三日	岡山縣畜產共進會	岡山縣畜產組合聯合會	博覽會第三會場	三三〇	十三日岡山縣畜產大會、十四日賞狀授與式
四月十日	全國果物同業及出荷組合聯合大會	岡山縣果物同業組合	第一合同銀行樓上	一〇〇	協議、決議、講演
四月十日	全國煙草小賣人協會定期總會	全國煙草小賣人協會	岡山市公會堂	一〇〇	協議、決議、博覽會觀覽
四月十一日	岡山縣町村長會總會	岡山縣町村長會	後樂園鵜鳴館	三五〇	表彰、役員改選、協議
四月十一日	岡山縣果物同業組合大會	岡山縣果物同業組合	第一合同銀行集會室	三五〇	協議、決議、講演
四月十二日	生果運輸協會創立總會	岡山縣生果運輸協會、生果卸扱聯盟	第一合同銀行樓上	一〇〇	協議、規約制定、博覽會觀覽
自四月十二日至同十三日	全國町村大會	全國町村長會	岡山市公會堂	一、三五〇	宣言、協議、講演
四月十三日	岡山縣獸醫師會總會	岡山縣獸醫師會	博覽會第三會場	一〇〇	會則變更、役員選舉
自四月十三日至同十五日	大日本米穀大會	大日本米穀會	岡山市公會堂第一合同銀行樓上	一、三五〇	協議、委員會、講演
四月十四日	岡山縣穀物事業廿五周年記念式及岡山縣俵米品評會	岡山縣穀物檢查所	岡山市公會堂	二、〇〇〇	記念式、褒賞授與式
四月十四日	西日本洋服店組合聯合大會	岡山縣洋服組合	後樂園鵜鳴館	一〇〇	報告、協議、博覽會觀覽
四月十五日	岡山縣女教員總會	岡山縣女教員會	深柢校講堂	三〇〇	協議、意見發表、大音樂會
四月十六日	岡山縣聯合女子青年團大會	岡山縣聯合女子青年團	岡山市公會堂	三〇〇	協議、意見發表、講演
四月十七日	岡山縣燐寸同業組合創立記念式	岡山縣燐寸同業組合	內山下清交軒	二五	祝賀式、表彰、博覽會觀覽
自四月十七日至同十八日	中國各市聯合協議會	岡山市	岡山市公會堂	四五	協議、博覽會觀覽
四月十八日	岡山縣醫師會總會	岡山縣醫師會	岡山市醫師會館	三〇〇	諮問審議、役員選舉
四月十八日	岡山縣足袋同業組合創立二十周年祝賀大會	岡山縣足袋同業組合	岡山市公會堂	三五〇	祝賀式、博覽會觀覽
自四月十八日至同廿七日	志士遺墨展覽會	岡山市溫古堂	岡山縣立圖書館	—	維新當時の志士遺墨、古伊部陳列

四月十九日	全國實業補習教育大會	岡山縣教育會、文部省實業補習教育研究會岡山縣支部	岡山市公會堂	五六〇	諮問審議、宣言、意見發表、講演
四月十九日	山陽朝日會總會	山陽道朝日新聞賣捌店	內山下清交軒	七二	研究案協議
自四月二十日至五月十日	內外商ニ教育博覽會	第一岡山商業學校	第一岡山商業學校	不明	廣告、產業、交通、學藝、記念、外國、特設の諸館に分類陳列
自四月二十日至同廿二日	全國教育大會	岡山縣市教育會	岡山市公會堂	三〇〇	諮問案答申、宣言、意見發表、協議、講演
四月廿二日	修養團岡山縣大會	修養團岡山縣聯合會	深柢校講堂	四、〇〇〇	講演
四月廿二日	岡山縣聯合婦人會	岡山縣聯合婦人會	岡山市公會堂	一五〇	議事、申合せ、講演
自四月廿三日至同廿四日	全國都市青年團大會	岡山市聯合青年團	岡山市公會堂	三〇〇	諮問案審議、天機奉伺決議、意見發表、講演、博覽會觀覽
自四月廿四日至同廿五日	岡山區管內戶籍寄留事務協議會	戶籍寄留事務協議會	岡山市議事堂	一四〇	訓示、協議
四月廿五日	岡山縣青年團大會	岡山縣聯合青年團	岡山市公會堂	八〇〇	訓示、協議
四月廿五日	二府八縣聯合刑事課長會	岡山縣	岡山縣會議事堂	一〇	協議
自四月廿五日至同廿六日	全國商業學校長中國豫讚區協議會	中國豫讚商業學校長	第一岡山商業學校	三	研究協議、博覽會觀覽
自四月廿六日至同廿七日	關西中學校長會	岡山縣中等學校協會	第一岡山中學校	八三	協議、博覽會觀覽、倉敷、藤田農場視察
四月廿七日	岡山市衛生組合大會	岡山市	岡山市公會堂	一、七〇〇	表彰、協議、指示、講演
四月廿八日	岡山縣石炭同業組合大會	岡山縣石炭同業組合	後樂園鵜鳴館	三〇〇	協議、懇親會
全國少年野球大會		上伊福野球場		一	尋常小學校在學生ヨリ選手選拔、一校正員九名、補員二名

四月廿八日	岡山市網稅組合大會	岡山市	岡山市公會堂	二三四	優良納稅組合表彰
四月廿九日	岡山縣產業組合大會	產業組合中央會岡山支會	後樂園鵜鳴館	一、二〇〇	表彰、宣言、講演
自四月廿九日至同三十日	廣島控訴院管內司法保護協議會	岡山縣司法保護聯合會	岡山縣會議事堂	三〇〇	講演、協議、懇談
自四月廿九日至同三十日	岡山縣下傷痍軍人大會	岡山縣傷痍軍人會	深柢校講堂	一八〇	協議、意見發表、招魂祭拜
四月三十日	岡山縣下消防組頭大會	岡山縣下消防組頭會	岡山市公會堂	三五〇	協議、意見發表
五月一日	岡山縣下度量衡大會	日本度量衡協會岡山支部	後樂園鵜鳴館	四〇〇	表彰、協議
五月一日	全國自轉車大會	全國自轉車大會	奧市公園	三五〇	自轉車競走
五月二日	岡山縣結核豫防協會總會	岡山縣結核豫防會	岡山市公會堂	六〇〇	議事、講演
五月二日	岡山醫科大學開校四十年記念式	岡山醫科大學	岡山醫科大學	二、三五〇	記念式、手術公開
自五月三日至同四日	岡山縣下三等郵便局長大會	岡山縣下三等郵便局長會	岡山市公會堂	二八〇	訓示、諮問案協議、講演
自五月三日至同四日	中國四國六縣酒造家大會	岡山縣酒造組合聯合會	岡山市公會堂後樂園鵜鳴館	三〇〇	協議、博覽會觀覽
五月五日	岡山縣疊表同業組合會	同業組合事務所	岡山市公會堂	三〇〇	優良從業員表彰
自五月五日至同六日	關西聯合齒科醫師會大會	岡山縣齒科醫師會	岡山市公會堂	二三〇	訓示、協議、講演、意見發表
五月六日	岡山縣產業組合從事員大會	岡山縣產業組合聯盟	岡山縣信用組合聯合會樓上	一八〇	協議、意見發表
五月六日	全國料理業同盟會	勸業博覽會演藝館		四〇〇	懇親會、吉備踊觀覽

五月七日	岡山縣水產大會	岡山縣水產會	一、三〇〇	表彰、協議、意見發表、講演
五月八日	岡山縣醫師大會	岡山縣醫師會	二〇〇	協議、講演
五月八日	全國茶業組合會頭會議	岡山縣茶業組合	一六	諮問審議、協議博覽會觀覽
自五月八日至同九日	全國肥料組合聯合大會	兩備肥料同業組合	一〇〇	協議、講演、博覽會觀覽
五月九日	岡山縣社會事業大會	岡山縣社會事業協會	七〇	諮問、協議、講演、活動寫眞映寫
自五月十日至同十二日	全國農村教育研究大會	岡山市外操南校	一、〇〇〇	研究發表、講演
自五月十日至同十二日	全國商工會議所事務協議會	岡山商工會議所	七〇	協議、備作製糸工場視察、博覽會觀覽
自五月十一日至同十二日	全國官立醫科大學圖書館長會議	岡山醫科大學	一〇	協議、
五月十三日	全國鐵道醫協會大會	大阪鐵道局	三五〇	協議、講演
五月十三日	近縣聯合柔道大會	岡山日々新聞社	一	個人及團體仕合
自五月十四日至同十五日	鐵道工場現業委員會	鐵道工場現業委員會	五〇	協議
自五月十七日至同十九日	中部農工銀行大會	岡山縣農工銀行	三	協議、講演、吉備津、豪溪、鋼網見物、博覽會觀覽

第六章出品

第一節出品点數

本會に對する各道府縣の翕然たる賛助は、僅かに秋田、宮城、宮崎三ケ縣の不參加を算するのみにして、其の出品申込点數の如きも豫想を超過し遂に總出品申込点數中より岡山縣下のものは約五割、他府縣のものは約三割の出品搬入を謝絶するの止むなきに至れり。

斯くの如くにして陳列したる數萬点の出品物は、盡く日本文化の表徴にして、昭和新時代を具體化したる一大繪卷物たるのみならず、日本產業界の縮圖と謂ふべし。

今第一會場に於ける各館別による出品點數及び出品人員を表示すれば左記の如くなるが、更に第二、第三會場のもの、外に朝鮮、臺灣、滿蒙、北海道等各特設館に於て直接取扱ひたるものを計上せんか、其の点數人員共蓋し思料の外に出でん。

第一會場出品点數幷出品人員部類別統計表

一、本館之部

府縣名	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	第七部	第八部	第九部	第十部	第十一部	第十二部	第十三部	第十四部	第十五部	合計
東京府	人		三一			八八四	三七五	六二	七二二	四七四	六五一					一、七五三
大阪府	人	二八二	一〇三	五六二	七三五	一、九七九	四八六	三七八	二、一七九	一九二七	四六二				五五六	五、三二九
京都府	人				一、九三五	一六	一五五	二三	一、九八七	七九二						
千葉縣	人															
兵庫縣	人	一六九五	三〇一	二六二	二九五五	一、〇〇六	一四	一五五	一、一三二	一、一五九	二六一				三一	四四九〇四
沖繩縣	人	六六二			二〇五	七六四	一七									一九八三六
岩手縣	人					二一四			一六三	二二一						一七三

府縣	人	點
靜岡縣	一三三	一四七、一九六
愛知縣	二五一	六三、一九六
奈良縣		
山梨縣	一三	一、八六
群馬縣		
新潟縣	一一八	六三、一〇一
滋賀縣	一四三	一、四六二
神奈川縣	一五	一、四六
和歌山縣	一三	三〇七
岐阜縣	一〇	一二
栃木縣	一七二	二五九、二四三
埼玉縣		
茨城縣	一五四	九六〇、一二五
三重縣	一九二	七、二九六
福島縣	九五	五九、二四三
山形縣	四九	二四、一二五
青森縣	三三	一、二六六
石川縣	一二	九四、二四六
長野縣	一四	一、八六九

府縣	人	點
富山縣	一四	七四
福井縣	一三	七三
香川縣	一一	一、一七〇、一二五
高知縣	一一	一、一七〇、一二五
德島縣	一八	一、一七〇、一二五
佐賀縣	一一	一、一七〇、一二五
愛媛縣	一一	一、一七〇、一二五
島取縣	二六八	九、〇四七、一〇四六
島根縣	一二	一、〇四六、一五九
岡山縣	二一五	一、六八二、一四三
廣島縣	二一五	一、六八二、一四三
山口縣	一四	一、一七〇、一二五
福岡縣	一四	一、一七〇、一二五
熊本縣	一三	一、一七〇、一二五
長崎縣	一八	一、一七〇、一二五
大分縣		
鹿兒島縣	三九六	一、四三七、一九六
南洋廳		
合計	二九六	一、四三七、一九六

府縣名	第一部		第二部		第三部		第四部		第五部		第六部		第七部		第八部		第九部		第十部		第十一部		第十二部		第十三部		第十四部		第十五部		合計	
	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点
大阪府											二九	二五					六八	一〇七	一〇八	六一〇									一、〇五七	二七
兵庫縣	二																一三	一一	一三	一一	一一	一一	一一	一一					四三	一六
廣島縣	一五										一六						一三	一一	一三	一一	一一	一一	一一	一一					四四	一六
神奈川縣																														
愛知縣																			一〇	一一	一一	一一							一二	一一
岐阜縣											一二	一一																	一二	一一
香川縣																	一四	一二											一四	一二
大分縣											八〇	一一																	八〇	一一
福岡縣																														
東京府																			一三	一一									一三	一一
靜岡縣																														
岡山縣	三五	三									一三	一一					四二	一四	一三	一一	一一	一一	一一	一一					四五	一四
合計	二六	二									三六〇	二九五	一一	一一			六八三	一〇八七	六一〇	二									一、〇五七	二七

府縣名	第一部		第二部		第三部		第四部		第五部		第六部		第七部		第八部		第九部		第十部		第十一部		第十二部		第十三部		第十四部		第十五部		合計	
	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点	人	点
岡山縣	一、一〇四	八九七	四六五	二三					八六	六	八一	六〇			八五	一	一一四	一〇	二〇〇	四四							天八	三	一、九一六	一、三五六	一、一九四	八六五
長崎縣											八五	五	四四	三			四四	三											一七四	一四二	六六	五四
兵庫縣	八三	六〇																											八三	六〇	四六五	三三
熊本縣	四九四	四七																											四九四	四七	二二五	一六
東京府	九七	七九																											九七	七九	四四	三二
三重縣	三三	二〇																											三三	二〇	一二	八
福岡縣	二〇	一六																											二〇	一六	一一	八
香川縣	三三	二三																											三三	二三	一二	八
鳥取縣	三三	二三																											三三	二三	一二	八
廣島縣	一一																												一一		一一	
合計	一、一九四	八五六	四六五	二三					八六	六	八一	六〇	四四	三	八五	一	一一四	一〇	二〇〇	四四							天八	三	一、九一六	一、三五六	一、一九四	八六五

一、林鑛館之部

府縣名	大分縣	岡山縣	合計
	人點	人點	人點
第一部			
第二部			
第三部	一四	二、九八八	二、八三二
第四部		六五	六五
第五部			
第六部			
第七部		六	六
第八部			
第九部		二	二
第十部			
第十一部			
第十二部			
第十三部			
第十四部			
第十五部			
合計	一四	三、〇〇二	三、〇一六

一、別館之部

府縣名	岡山縣	兵庫縣	大阪府	合計
	人點	人點	人點	人點
第一部	六八			六八
第二部				
第三部	三五一			三五一
第四部	六五二	一一		六六三
第五部				
第六部	四九三			四九三
第七部	一、七四二			一、七四二
第八部	五二七			五二七
第九部	八三五			八三五
第十部	一、四六八			一、四六八
第十一部	一〇八			一〇八
第十二部	八二			八二
第十三部	一六二			一六二
第十四部	一三二			一三二
第十五部	五、六一六	五六		五、六七二
合計	六、九六二	四八三		七、四四五

第二節 出品目錄

一、第一會場

本館、別館、發明機械電氣館、林鑛館、農水產館

◇東京府

品名	出品者住所氏名
精米麥機製餅機	東京市淺草區南元町　常見盛二
鑛業用器具機械	仝　本鄉區臺町　重松僊造
菓子	仝　下谷區仲瀨德町　竹內義一
罐詰	仝　麴町區永樂町丸ビル七　日本蟹罐詰業水產組合聯合會
仝	仝　神田區美土代町　吉村政次郎
仝	東京府南足立郡千住町　河合欣三郎
寫眞用藥品及材料	仝　落合町葛ヶ谷　オリエンタル寫眞工業株式會社
製油	仝　下伊豆大島元村　阿部森之丈
油類	東京市麴町區有樂町　日本石油株式會社
化粧品	仝　小石川區西原町　磯野化學研究所
糸類	仝　京橋區中橋廣小路町　多崎由太郎
絹織物	仝　八王寺市　八王寺織物同業組合
レーヨン見本	仝　日本橋區本町　東洋レーヨン株式會社
人造絹糸	仝　淺草區黑船町　東京人造絹糸株式會社
謄寫器及附屬品	仝　神田區鍛冶町　堀井新治郎
玩具	仝　東京市芝區田町　森永製菓株式會社
仝	仝　淺草區藏前片町　八木兄弟商會
文房具	仝　日本橋通　丸善株式會社
仝	仝　百本橋區小舟町　南川章次
仝	東京府北豐島郡巢鴨町　株式會社並木製作所
仝	東京市淺草區今戶町　伊藤農夫雄
筆筒	仝　四谷區麴町　畔上憲一
仝	仝　赤坂區青山北町　松本朝之助
仝	東京府下日暮里町　北條時介
運動椅子	仝　赤坂區青山北町　北條鋼三
下駄	東京市日本橋區左內町　東京木工製作所
仝	仝　麻布網代町　大北商店
仝	深川區海邊町　宮內恒五郎
仝	仝　本所區相生町　小林粂太郎
仝	仝　區藁町　佐藤朝吉
仝	仝　麻布今井町　岡野喜平次
仝	仝　赤坂區青山南町　吉田殿
仝	仝　小石川區柳町　小泉平八
仝	仝　鈴木彌三郎
仝	仝　遠藤範次
仝	岡山　靜

下駄　東京市本所區吉田町　山田錄三郎
〃　本鄉區動坂町　市原艷藏
〃　淺草區鷲越町　深澤勘次郎
〃　本鄉區春木町　府川一雄
〃　四谷區新宿三丁目三二　和田信太郎
〃　牛込區神樂町　石井要
〃　神田區台所町　朝田基一
〃　小石川區向山前町　村山三之助
〃　麹町區三番町　東京履物商同業組合
〃　淺草區芝崎町　水村平三郎
〃　神田區鍛治町　小島松五郎
〃　麹町區三番町　橫田藤三郎
〃　日本橋區南茅馬町　鵜殿音次郎
〃　四谷區傳馬町　田中豐次郎
自轉車　本所區菊川町　宮田製作所
電氣工業品　京橋區松屋町　川崎文左衞門
精米機　神田區五軒町　清水廣吉

◇京都府

茶　京都市三條通新町東入ル衣棚町　秋山覺治郎
〃　柳馬場綾小路南　美濃部茶舖
〃　紀伊郡伏見桃山字最上　京都府茶組合聯合會議所
〃　紀伊郡向島村　玉井源次郎
〃　伏見町　辻龜吉
〃　久世郡宇治町　中村藤吉
〃　入江宗太郎
〃　岩井勘造
〃　北川半兵衞
〃　久津川村上津屋　菊岡助一郎
〃　綴喜郡青谷村　中島源四郎
〃　堀井憲之輔
〃　島本熊次郎
〃　山城園製茶場
〃　田原村　村田喜久次郎
〃　草內村　內田孝之助
〃　古川武夫
煎豆　京都市夷川通堺町東入　角田政次郎
〃　千本通り出水上ル　永井與三
〃　三條通り大橋西詰　辻宗太郎
〃　大和大路松原下ル　沖野峯造
〃　上京區蘆雪野通り夷川上ル　井上重三
〃　大和大路通五條下ル三丁目上　田文市郎
〃　大宮通り四條角　福井榮次郎

煎豆　京都市松原通油小路西入ル　戶田圓香堂
〃　三條通油小路東入ル　池端與三
〃　東山通丸田町北入ル　井口彌三郎
〃　古川町三條南入ル　多田幸太郎
〃　高野川原出町橋上ル三丁目　山口末吉
〃　大宮通り上立賣北入ル　山中音松
〃　廣道通丸田町上ル　稻田安太郎
〃　壺小路高倉東入ル　富永泰藏
帶　五條通間之町　下原治太郎
〃　室町六角下ル　湯淺壽太郎
〃　六角東洞院東入ル　三宅清治郎
〃　鳥丸通六角南入ル　瀧川忠三郎
〃　東洞院六角　渡邊部二商店
〃　東洞院佛光寺上ル　丸丹合名會社
染色物及加工布　油小路万壽寺　棚橋太三郎
〃　高辻通千本東入ル　田中庄次郎
〃　東洞院六角下ル　株式會社平松商店
〃　六角通鳥丸西入ル　吉居佐助商店
〃　四條烏丸西　小泉新七
セル　六角通室町西入ル　株式會社美濃利商店
絹織物及毛織物　柳馬場三條上ル　外村與左衞門

絹織物　京都市五條通室町　大橋彌一郎
〃　烏丸通三條南　升定合名會社
〃　東洞院高辻上ル　株式會社安藤商店
〃　東洞院三條上ル　株式會社市田商店
〃　室町通四條上ル　株式會社吉田忠商店
〃　室町通四條南入ル　合資會社羽田商店
〃　烏丸通四條上ル　下村株式會社京都店
〃　烏丸通佛光寺北入ル　塚喜商店株式會社丸紅商店京都支店
〃　室町通四條下ル
〃　室町通六角南　株式會社鍵直商店
〃　不明門通松原南　株式會社上田勘商店
屏風　柳馬場通佛光寺南入ル　谷川巳之助
〃　下京區松原通高倉西入ル　合資會社岩坪商店
〃　高倉通五條北入ル　鈴村兄弟商會
〃　松原通富小路西入ル　中塚佐久次
〃　間之町通五條南入ル　可兒彥治郎
〃　松原通室町西入ル下寺町五條南入ル東塩竈町　福田重助
〃　松原通高倉東入ル　今村幸八
琴　東洞院五條　龜井半七
珠數　夷川富小路東入ル　櫻井安之助
佛檀

唐木細工　京都市松原通寺町西入ル　赤井富次郎
〃　三條通り油小路西入ル　西村喜三郎
欄間　〃　丸太町通り府廳前角　井川子綠
〃　下京區堀川通り万壽寺東入ル　和田源七
漆器　〃　上京區岡崎最勝寺　西村彦兵衛
〃　三條通柳馬場東入ル　西村吉藏
〃　高辻通柳馬場西入ル　三上治三郎
〃　御幸町松原南入ル　山下漆器店
〃　鳥丸通下立賣下ル　庄林表利
〃　御幸町通夷川南入ル　多田清治郎
〃　夷川通り東洞東入ル　岡村與三吉
〃　建仁寺町松原北入ル　中川勝之助
〃　上京區烏丸通り三條上ル湯ノ町　高野宗源
佛檀　〃　萬壽寺通り高倉東入ル　高橋友治郎
〃　萬壽寺通り富小路角　中村熊吉
〃　松原通り宮町西入ル　佐野重太郎
〃　萬壽寺通り高倉西入ル　加茂定次郎
〃　不明門通り五條下ル　森脇康朝
〃　東洞院上珠數屋町南入ル　小堀岩吉
〃　七條通り新町東入ル　若林卯兵衛
〃　油小路御前通り角　片山長兵衛

扇子　京都市寺町通り高辻北入ル　濱風清商店
〃　五條通堺町角　坂田文助商店
〃　本町八丁目　林芳次郎
小間物　〃　下京區寺町通松原南本領順三郎
〃　六波羅多門町　石川由之助
〃　五條町東洞院東入ル　玉谷信太郎
〃　建仁寺町四條下ル　三上金治
〃　高辻通烏丸西入ル　中川寅次郎
〃　五條通柳馬場東入ル　谷川幸助
〃　松原通柳馬場東入ル　山口忠兵衛
〃　三條通り寺町東入ル　福井勝秀
〃　碁屋町四條上ル　小嶋源之助
札入　〃　新京極六角　久村清一
櫛　〃　五條通堺町東　合資會社菱和久
針　〃　岩上通り蛸藥師下ル　北村安永
文庫　〃　室町通高辻上ル　井崎新太郎
〃　五條通り室町西入ル　山崎善助
消毒食料品包裝皮　〃　下京區泉涌寺五葉辻町　人造竹皮株式會社
水引　〃　中立賣通堀川　源田善右衛門

◇大阪府

半自動噴霧器　大阪市西區長堀北路加商會

農用器具機械　大阪市浪速區東美須町　乾營業部
殺虫劑　〃　西區信濃橋　アアレン製藥所
蠶系藥用器具機械　〃　北區梅田町　片倉營業所
ベニヤ板　〃　浪速區櫻川　新田ベニヤ製造所
菊炭　〃　豊能郡池田町　池田木炭株式會社
栗おこし　〃　西區あみだ池　小林林之助
菓子　〃　堺市安井町　小野辰製菓部
〃　寺地町　淺井保吉
スツポン鍋　大阪市東區谷町　檜尾虎三
ソース　〃　北區堂島　木村幸次郎
藥品　〃　東區備後町　藤井製藥株式會社
蠅取殺虫劑　〃　東淀川區三國本町　今津化學研究所
染料　〃　南區瓢箪町　株式會社桐山商店
辨柄　〃　西成區長橋　合資會社大平工業所
リノリユーム　〃　東區瓦町　東洋リノリューム株式會社營業所
フライ油　〃　港區高尾町　辻利三郎
石鹸　〃　南區六條通り　吉原油脂工業所
化粧品　〃　港區市岡元町　桃谷順一
塗料　〃　西成區今地町　川上塗料製造所
靴クリーム　〃　港區市岡元町　臼田榮太郎
帶芯　豊能郡細河村　武田傳之帶芯株式會社

硝子瓶　大阪市北區與力町　德永硝子製造所
硝子　〃　北區中之島　日米板硝子株式會社
〃　西淀川區海老江町　島田硝子製造所
調革　〃　浪速區久保吉町　新田帶革製造所
硝子器具　〃　北區梅田町　今井百太郎
辨柄　〃　南區安堂寺　高木坂次郎
人造絹糸　〃　北區中之島　帝國人造絹糸株式會社
〃　東區平野町　日本カタン糸株式會社
カタン糸　〃　安土町　株式會社田村駒商會
モスリン友禪　〃　淡路町　近江帆布株式會社
帆布　〃　本町　丸紅商店
風呂敷　〃　南區日本橋　梅本合資會社
旛旗　〃　東區平野町　吉田鹿之助
窓掛卓子掛　〃　北久寶寺町　浪速紡績株式會社營業所
タオル　〃　西淀川區浦江町　日本メリヤス株式會社
メリヤス製糸　〃　東區南本町　山本定次郎
蚊帳　〃　北區堂島中町　淺沼商會
常盤帶　〃　東區北久寶寺町　服部慶吉
洋服　〃　西區江戸堀南通　河成利兵衛商店
富士絹小供服　〃　東區備後町　旭絹織物株式會社
人造絹糸　〃　日本レーヨン株式會社

防水布　大阪市北久太郎町　井上兼商店
食器　仝　西區靱上通リ　日本硬質陶器株式會社大阪販賣所
錫製品　仝　東區南久寶寺　中村半兵衛
屏風　仝　南久太郎町　田村庄本店
仝　南新町　中山利三郎
紐立玩具　仝　浪速區水崎町　池田製作所
玩具　仝　南區長堀橋筋　株式會社三宅商店
庖丁　堺市九間町　福井杢次郎
アルミニユーム製鍋釜　大阪市北區天滿橋筋　朝日アルミニユーム製造所
仝　港區泉尾上通　浪速アルミニユーム工業株式會社
懐爐　仝　西區靱中通　矢滿登商會
刃物　堺市大町　酒井包義
アルミニユーム釜　仝　花田口町　石井幸次郎
刃物　大阪市天王寺區夕陽丘町　二和商會
鑢　仝　此花區龜甲町　大川愼吉
金庫　仝　港區泉尾濱通　三好信太郎
カーボンペーパー　仝　西淀川區浦江町　カーボンペーパー株式會社
寫眞台紙　仝　西區新町　西井市松
封筒　仝　東區石町　清水義寛商店
地圖　仝　舟越町　吉川秋秀
インキ　堺市柳之町　日本ポプラ會

インキ　大阪市東區瓦町　大阪印刷インキ製造株式會社
ゼニアイキ　仝　平野町　伊藤喜十郎
蓄音機　仝　南區順慶町　安井友三郎
自轉車　仝　東淀川區十三東之町　片山自轉車製作所
自轉車部分品　堺市三國丘町　万代芳太郎
自轉車　大阪區東淀川區本庄町　岡崎久次郎
厨爐　仝　南區道頓堀東櫓町　服部廣
ブラツシユ　仝　北區浪花町　株式會社阪部商會
厨爐　仝　東區北渡邊町　島田屋菊地幾次郎
パツキングケース　博勞町　聯合紙器株式會社大阪營業所
自轉車　仝　南區南岩屋町　宇田辰藏
白金瓦斯コンロ　仝　南區東櫓町　服部廣
製粉機　仝　港區吾妻町　山内工業所
織機其他　仝　東淀川區豐崎西通リ　株式會社大阪機械工作所
花莚力織機　仝　港區泉尾松之町　岩永秀三郎
製繩機　仝　北區茶屋町　田所清次
タクマ式汽罐斷面模型　仝　此花區島屋町　汽車製造株式會社
稻扱機其他　仝　此花區吉野町　盛農社
製粉機　仝　天王寺區北河堀町　西條工業所
粉碎機其他復筒型入クランク其他　仝　東區穴堀通リ　久保田英太郎
仝　此花區西九條　出射盛太

製粉機　大阪市西區靱下通　甲南工業所
消防喞筒　仝　港區八雲町　株式會社森田製作所
噴霧器　仝　西區西長堀北通リ　古川薫
製粉機　仝　住吉區平野流町　中尾末吉商會
電球　仝　東淀川區長柄濱通　三平株式會社
ラヂオ部分品　仝　北區堂島濱通　石川商會
クーガン擴聲機　仝　南區堺筋順慶町　シ、エル無電商會
電熱器其他　仝　浪速區河原町　久保製作所
ラヂオ受信機其他　仝　北區梅田町　岸川國太郎
仝　仝　此花區福島　水川剛
電熱器　堺市向陽町　山本修一郎
テストラン其他　大阪市北區曾根崎　田邊商店大阪出張所
ラヂオ用ラツクセット　仝　西區靱中通　早川德次
眞空管　仝　南區大寶寺町　宮田製作所
擴聲機　仝　北區曾根崎　伊藤宇之吉
點滅器　仝　西區新町　第一電氣商會　辻井太仲
ラヂオセット其他　仝　堺筋清水町　日本ニワトロン株式會社
リフレツクス受信機　仝　東區博勞町　日本放送協會關西支部
ホームアイロン　仝　南區順慶町　中村理一郎
電熱器其他　仝　浪速區阿原町　久保俊顯
足袋製作實演　大阪府堺市安井町　福助足袋株式會社

◇神奈川縣

稻扱器　橘樹郡生田村　箕輪亥作
座布團地　横濱市中區中村町　栗田吉藏
玩具　足柄下郡小田原町　箱根物産同業組合
純薄荷腦　横濱市　小林植物商店
電球　川崎市堀川町　東京電氣株式會社

◇兵庫縣

稻扱機、製繩機　飾磨郡余部村　三德万石製造所
養鷄飼料　仝　高濱村　堺農具製作所
農具　三原郡加茂村　河部農具製作所
仝　赤穗郡上郡町　神瀬惣吉郎
春　揖保郡勝原村　倉本吉右衛門
碎土機　印南郡上莊村　柴田商會
日竹、根付二重筒　神戸市下山手通　丁春同業組合
釣道具　姫路市朝日町　稻田久太郎
組節漁網　明石市大明石町　嘉納久太郎
素麺　揖保郡巻田村　難波吾一
仝　伊勢村　山本明德
仝　神岡村　白井梅吉
玉越政治
橋本繁太郎

素麺	揖保郡神岡村	森本新太郎
全	伊勢村	神塚定治
全	神岡村	田口捨治
全	石海村	桑田勝治
全	太田村	山本四一
全	勝原村	小西信三
全		小西卯之助
全	旭陽村	松田吉次
全	石海村	圓尾光治
全	揖保村	井上與三治
全	大津村	三木貞次郎
全		松本卯之助
全	神岡村	井定粂次郎
全	林田村	中島貞治
全	余部村	小松清治
全	勝原村	三木蕩
全	揖保郡網干町	稻田岩治
全	香島村	山口助太郎
全	班鳩村	長谷川清治
全	勝原村	井上千之助

素麺	揖保郡石海村	村瀬仙之助
全	姫路市南町	中播素麺同業組合
全	印南郡上荘村	畑昌愷
全	飾磨郡八幡村	松本利吉
		ネツスル及アンアロスヰス練乳會社
全	神戸市京町	花木三二郎
全	榮町	西川竹次
全	姫路市西魚町	赤穗林藏
全	一丁目	福井龜吉
全	西紺屋町	伊勢屋本店
全	西二階町	小形清七
全	鍛冶町	平田景祐
全	中吳服町	山本房信
全	東魚町	田中恒之進
全	新身町	飯塚万次
全	福澤町	宮川清
飾磨郡城南村		高島マツチ姫路工場
姫路市外今宿		台灣製糖株式會社 神戸製糖所
神戸市兵庫東尻池		播州素麺同業組合
揖保郡小宅村		鹽谷政夫
全	東粟栖村	中田正太郎
全	林田村	

素麺	揖保郡越部村	衣笠種二
全	御津村	黒田正義
全	卷田村	三田三二
姫路市驛前町		山陽醬油株式會社
神戸市八雲通リ		株式會社後藤デシン本舗
全	明石町	鈴木薄荷合資會社
全	脇濱町	日本香料藥品會社
全	磯上通	米國礦油株式會社
全	上庄通	デリス製劑株式會社
全	兵庫川崎町	日本セメント防水劑製造會社營業部
全	塚本通	綿製調帶株式會社
全	播磨町	大同マツチ株式會社
全	北長狹通	中澤潔
姫路市壹丁町		愛知硝子店
全	中二階町	姫路靴商組合
全	堅町	堅木忠太郎
全	中二階町	小野安商店
全	福中町	浦上卯七郎
神戸市磯上通		長岡商店
川邊郡小田村		關西ペイント株式會社
赤穗郡坂越村		株式會社木村製藥所

毛織物	神戸市兵庫西出町	日本毛織株式會社
ワイシヤツ	姫路市東魚町	姫路染色業組合 岩佐政
印袢天	全 西堰町	全林米次郎
全		全村上治兵衛
中形染衣地	全	全吉田廣吉
姫路絞り	全	全桑原勘三郎
花折染	全	全岸本仙次
姫路絞り	全	全寺島仙吉
紺木綿	全	全高部岩吉
タオル	印南郡西志方村	稻岡商店
綿織物	多可郡西脇町	播州織同業組合 和泉長太郎
全	全	全佐藤茂久治
綾織物	全	全丸山貞一
ネル	全	全來住眞一郎
全	全	全高瀨源之介
全	全	全高瀨平吉
全	全	全丸山万右衛門
綿織物	全	全丸山第三工場
全	全	全中川廣一郎
全	全	全岡崎竹治
全	全	全宇野榮藏

綿織物　多可郡西脇町
〃　〃
〃　〃
〃　〃
玩具　姫路市東魚町
鯉幟　〃　米田町
漆器　〃　本町
佛壇　〃
陶器　朝來郡生野町
佛檀　赤穗郡有年驛前
漆器　加西郡在田村
欄間　宍粟郡三河村
屏風　揖保郡越部村
モールフレンヂ　神戸市八幡通リ
盆　〃　神若通リ
掛軸　赤穗郡上郡町
自轉車　神戸市榮町
額縁　神戸市八幡通
自轉車　〃　東雲通
〃　東尻池
算盤　姫路市元塩町

播州織同業組合　篠原佐太郎
〃　比留田忠太郎
〃　藤井常治
〃　藤井三之助
河島安次郎
川島虎之助
梶善次郎
姫路市佛壇商組合
飯塚三樂
谷本熊吉
辻文六
安東輝夫
川島順治
南信吉
中村世外
大浦鹿治
株式會社林屋商店
末積額縁製造所
帝國鉄工株式會社
川村自轉車株式會社
東京堂商店

木工器　姫路市五軒町
靴底　〃　惠美酒町
火箸　〃　栃ヶ枝町
支那鞄　〃　福中町
水晶筆　〃　東魚町
ゴム靴　〃　東二階町
運動靴　〃　總社遊園地
裝身具　武庫郡御影町
手提袋　明石市東季町
算盤　赤穗郡船坂村
自轉車タイヤー　加東郡市場村
〃　西宮市産取町
靴底附機　神戸市筒井町
精米機其他　明石市一番町
發動機部分品　佐用郡佐用村
製粉品　神戸市北長狹通
電球　〃　西須磨
ラヂオ用ローラー高聲機　姫路市大藏前町
◇長崎縣　神戸市野崎通
石製水盤　佐世保市福石町

杉原兵才
野中善五郎
明珍宗之
武田喜一
復興堂製作所
福田ゴム工業所
高木彌三次
上地次郎
日本工具製作株式會社
澁谷豊室
國井周治
攝津ゴム株式會社
日英自轉車ダンロップゴム極東株式會社
山名茂一
大坪傳七
川越喜太郎
杉本幾藏
姫路電球株式會社
渡部重夫
松浦竹治郎

平和ノ友　佐世保市松浦町
カステーラ　長崎市本大工町
〃　〃
賣藥　〃　江戸町
椿油　〃　本籠町
鼈甲細工　〃　東中町
〃　〃　船大工町
〃　〃　東濱町
〃　〃　本籠町
〃　〃　愛宕町
〃　〃　東濱町
珊瑚細工　南松浦郡富江町
冷藏戸棚　長崎市水ノ浦町
菓子型板類　佐世保市鹽見町
蘇鐵實細末　〃　榮町
味噌　〃　八幡町
椿油　〃　松浦町
〃　〃　上京町
靴下　〃　宮地町
計算定規　〃　太田町

◇新潟縣

今泉直七
山口貞次郎
平坂元佑
永松與作
中古賀民男
松本芳次郎
川口榮藏
龜山清太郎
坂田榮太郎
松尾彌左雄
二枝貞治郎
無限責任五島珊瑚信用購買販賣利用組合
龍春三
岸川松次
佐藤秀喜
古賀卯吉
石橋權八
野田藤吉
鈴木勝
山本伊太郎

油類　新潟市關屋大川前
縮緬　長岡市坂ノ上町
明石絣　中魚沼郡十日町
〃　〃
〃　〃
〃　〃

經倫　中魚沼郡十日町　阿部喜作　秩父
絹羽織　〃　上村哲太郎　〃　高篠村
〃　〃　宮入茂壽　〃　横瀬村
漆器　〃　本町　中山長次郎　〃　大野德治　〃　横瀬村
〃　新潟市西堀前通り　川上吉藏　〃　淺見萬太郎　〃　秩父町
〃　〃　古町　仁木茂平　〃　根岸太助　〃　秩父町
大黑天　長岡市表町　藤井定治　〃　關野良次郎　〃　關根憲治
机　〃　大工町　長岡唐木細工組合　〃　宮前光重　〃　國神村
〃　〃　渡里町　荒木武七　〃　小林秀　〃　野上村
簞笥　〃　東千年町　諸橋吉藏　〃　北堀覺三　〃　高篠村
〃　〃　千年町　發地長次郎　〃　赤岩富重　〃　横瀬村
火鉢　〃　東坂ノ上町　高田彌七郎　〃　新井仲吉　〃
傘　新潟市古町　有限責任新潟傘信用販賣購買組合　〃　飯野彌太郎　〃　高篠村
簞笥　〃　東堀通　水上伊三郎　〃　富田與乙　〃　尾田前村
〃　〃　安達子之吉　〃　井上喜一郎　〃　秩父町
衝立　長岡市吳服町　小山錄松　〃　田口彦作　〃　原谷村
◇埼玉縣　町田七十吉　〃　横瀬村
秩父　秩父郡高篠村　水野栂藏　〃　坂本宗太郎　〃
〃　〃　淺見實　〃　荒船清十郎　〃　高篠村
〃　〃　荒一工場　〃　堀口實之助　〃　野上村
〃　〃　荒船志免松　〃　黑澤万藏　〃　皆野村
〃　秩父町　秩父絹織物同業組合　〃

上布　入間郡所澤町　所澤織物同業組合　簞笥　川越市松卿六軒町　川越簞笥同業組合
〃　〃　細田兵助　◇群馬縣
〃　〃　平岡兼吉　簞笥　相生織物同業組合
〃　〃　牧野兵治郎　上布　伊勢崎織物同業組合
〃　〃　小川嘉吉　銘仙　邑樂機物同業組合　大川綾三郎
〃　〃　島田正太郎　白絣
〃　〃　湖月會　〃　小倉菊三郎
深山絣　〃　瀧澤專藏　〃　荒井市作
上布　〃　村田泰作　〃　石井水市
〃　〃　增田繁　〃　小林作太郎
縮　〃　水村清吉　〃　江原浪藏
〃　〃　內沼爲吉　明石絣　〃　茂木庄藏
節糸織　〃　井關丑五郎　白絣　〃　藤倉喜三郎
上布　所澤飛白同業組合　〃　清水留七
飛白　鴻巢雜玩具商組合　關口松五郎　〃　金子利一
人形類　北足立郡鴻巢町　關口桑吉　〃　横山矢十郎
〃　〃　秋元新太郎　〃　中里高司
〃　〃　松村夏五郎　〃　川島一郎
〃　〃　臼井常吉　珍絣　〃　岩崎房次
〃　〃　酒卷源藏　〃　茂木庄藏
〃　〃　島田忠三郎　〃　岡部丈吉
〃　〃　宮野林太郎　白絣　〃　原伊三郎

邑樂織物同業組合

大輪辰藏　珍絣　邑樂郡
全　小倉菊次郎　上布　全
全　佐藤森太郎　珍絣　全
全　長澤關一　白絣　全
全　松原直次郎　全　全
全　荒井常市　結城縮絣　全
全　長谷貞次　全　全
全　大島淺次郎　白絣　全
全　金澤末三郎　全　全
全　岡崎良助　全　全
全　江原信太郎　全　全
全　谷津秀三郎　全　全
全　鈴木峯吉　絣　全
全　野村和三郎　白絣　全
全　澁井甚作　全　全
全　半田政三郎　全　全
全　鈴木修二　全　全
全　延山常吉　全　全
全　永瀨林吉　全　全
全　櫻井伊三郎　全　全
全　内山銀四郎　全　全

邑樂織物同業組合

永倉源三郎　全　邑樂郡
全　茂木新次郎　全　全
全　茂木完三　全　全
全　谷津喜一郎　全　全
全　長谷川新太郎　全　全
全　大津信次　全　全
全　古屋安三郎　全　全
全　川田保二　全　全
全　穎崎廉七　全　全
全　金子明三郎　全　全
全　川島啓司　全　全
全　金子利一　全　全
全　小川文七　全　全
全　久保田常三郎　全　全
全　富田甚三郎　全　全
全　大川綾三郎　全　全
全　前橋定次郎　全　全
全　金子銀次　全　全
全　大塚清作　全　全
全　小林三藏　全　全
全　濱崎清四郎　全　全

邑樂織物同業組合

大胴茂平　全　邑樂郡
全　石川定吉　全　全
全　横山瀧藏　全　全
全　小島茂吉　全　全
全　田口太郎吉　全　全
全　小堀喜一郎　全　全
全　横山矢十郎　全　全
全　岩崎乙次　全　全
全　福島倉吉　全　全
全　谷津秀三郎　全　全
全　段島長次郎　全　全
渡邊惣藏　白絣　邑樂郡
服部七五三吉　全　高崎市田町
吉田新太郎　全　本町
池上清太郎　全　甘屋町
高崎下駄表同業組合　全　九藏町
前田駒次郎　全　若松町
全　太田嘉之助　全　全
全　山本元一郎　全　全
全　湯涉岡藏　全　龍見町
全　清塚久太郎　全　全
全　西村德次郎　全　若松町

邑樂織物同業組合

岩崎彌太郎　白絣　邑樂郡
全　原金四郎　上布　全
全　坂本勝太郎　全　全
全　茂木重助　白絣　全
全　根岸房次郎　全　全
全　小林益太郎　全　全
全　長谷川喜兵衛門　全　全
全　遠藤智雄　全　全
全　中村峯壽　全　全
全　鈴木三郎次　全　全
全　大手廣太郎　全　全
全　青山龜吉　全　全
全　山口石松　全　全
全　染宮清作　全　全
全　武井良郎　全　全
全　春山辰治　全　全
全　大竹宗右工門　全　全
全　岡田國市　全　全
全　宗川縫　全　全
全　永倉貞次　全　全
全　多田半三郎　全　全

高崎市若松町　高崎下駄表同業組合
〃　〃　湯浅忠次
〃　〃　湯浅久太郎
〃　〃　岡田彦太郎
〃　〃　小泉延吉

◇千葉縣

醬油　東葛飾郡野田町　野田醬油株式會社
〃　海上郡銚子町　濱口儀兵衛
〃　〃　銚子醬油株式會社

◇茨城縣

梅羊羹　水戸市上市南町　林爲吉
〃　上市水門町　井熊製菓株式會社
麵類　下市　今泉正次郎
酒類　〃　吉久保清三郎
漆器　〃　久保清吉
玩具　谷中　古田幸三郎

◇栃木縣

干瓢　下都賀郡石橋町　下野物産干瓢商同業組合
麻　栃木町　鈴木喜三郎
〃　〃　落合サダ
〃　〃　伊藤善次郎
〃　〃　大栗清作
〃　〃　懷爐灰

麻　下都賀郡栃木町　相良勝太郎
〃　〃　平岡仁平
〃　〃　卷島惣八
〃　〃　坂本千代三郎
〃　〃　田村金五郎
〃　上都賀郡鹿沼町　本田幸造
〃　〃　八木澤忠吉
〃　下都賀郡栃木町　大貫定衛
〃　〃　井岡孝一
〃　〃　井岡定治
〃　〃　野口商店
〃　〃　金山喜重
〃　〃　卷島惣八
〃　〃　鈴木文藏
〃　〃　坂木千代三郎
〃　〃　田熊謹三
〃　〃　木下岩吉
〃　〃　野尻松三郎
〃　〃　田村金五郎
〃　〃　黑川金次郎
〃　〃　栃木懷爐灰販賣所
〃　〃　懷爐灰

眞繩　下都賀郡栃木町　飯塚一郎
〃　〃　福田清三郎
造　〃　相良運造
疊床縫糸　鹿沼町　半田芳三郎
紬　絹村　秋澤源吉
上布　安蘇郡旗川村　小倉金四郎
格子織　佐野町　增淵善作
縮　〃　武澤益三
白絣　植野村　山木岩太郎
縮　犬伏町　增田藤次郎
絣　赤見村　日白軒代助
米澤琉球織　〃　日向野長太郎
絣縮　〃　關口清次
米澤琉球織　〃　岸錄郎
絣縮　福山村　近藤福一郎
米澤琉球織　栃木町　早乙女庄七
〃　〃　鈴木治作
〃　〃　寺內彌吉
大日本懷爐灰株式會社　〃　阿部長次
〃　〃　渡邊三藏
〃　〃　大貫定衛
〃　〃　須藤音吉
〃　〃　黑川金次郎
〃　〃　東洋麻工業株式會社
〃　〃　田中力造
〃　〃　船渡川彌市
〃　〃　北川勝次郎
〃　〃　奥澤商店
〃　〃　小泉利助
〃　〃　大野朝二郎
〃　〃　割田多助
〃　〃　內田利平
〃　〃　青木彦四郎
〃　〃　芝宮藤十郎
〃　〃　壇島安一郎
〃　〃　青木延三郎
〃　〃　小倉高造
〃　〃　關根米吉
〃　〃　小竹百太郎
〃　〃　神山太七
〃　〃　割田儀三郎

野島大吉	安蘇郡赤見村	絣縮
船渡川治郎吉	〃族川村	縮
永瀬惣吉	〃植野村	白絣
加藤由藏	下都賀郡藤田町	紺絣
福地弘	安蘇郡植野村	白絣
藤倉千代松	〃	上布
小林泰吉	〃	縮
河田仁平	〃赤見村	米澤琉球織
早川光三郎	〃	〃
大出友藏	〃	〃
廣瀬長太郎	〃族川村	絣
船渡川清藏	〃赤見村	米澤琉球織
須永幸一	〃	〃
島田勝一郎	〃植野村	結城縮
關口正芳	〃	米澤琉球織
湯澤英一	〃赤見村	〃
新井嘉一郎	〃	〃
島田茂三郎	〃	〃
戸室万次郎	〃	〃
川田又一郎	〃	絣
櫻井伊三郎	〃	結城縮

白絣	安蘇郡植野村	高田ナヲ
〃	〃族川村	關口多十郎
〃	〃赤見村	田村藤四郎
人絹	〃植野村	船渡川彌市
友染縮	佐野町	山上孫市
米澤琉球織	〃	佐野結練漂白株式會社
格子織	〃	新井倉吉
瓦斯クレツプ	〃植野村	吉田常治郎
白絣	〃	山中儀重
兵兒帶	足利市	小泉利助
上布	〃	足利織物同業組合 森下房次郎
お召	〃	〃近藤傳吉
兵兒帶	〃	〃峯岸善七
絣明石	〃	〃鈴木德太郎
兵兒帶	〃	〃永仙合名會社
縮	〃	イキホシ合名會社
上布	〃	〃河合菊太郎
絣明石	〃	〃小林竹次郎
結城縮	〃	〃清水寅吉
		〃北結管三郎
		〃武井藤太郎

九重銘仙	足利市	
上布	〃	
明石	〃	
〃	〃	
〃	〃	
〃	〃	
小紋上布	〃	
銘仙	〃	
〃	〃	
日ノ出織	〃	
銘仙	〃	
明石	〃	
絣	〃	
上布	〃	
銘仙	〃	
明石	〃	
上布	〃	
絣縮	〃	
〃	〃	
兵兒帶	〃	

足利織物同業組合

吉田鈴三郎	〃	銘仙
坂本義壽	〃	風通織
大島彌吉	〃	シヤルムーズ
平澤柳造	〃	友仙
澤彌市	〃	銘仙
大關平治郎	〃	結城縮絣
鈴木榮三郎	〃	結城紬
中島眞平	〃	本
小林喜一郎	〃	〃
相田茂三郎	〃	漆器
影山辨吉	〃	〃
茂木富二	〃	〃
永井仙太郎	〃	〃
眞尾新吉	〃	〃
松崎寅吉	〃	〃
砂川瀧藏	〃	〃
黑田要次郎	下都賀郡栃木町	箒
松崎元吉	〃	〃
近藤龜次郎	〃	〃
茂木秀吉	〃	〃
宮内角次郎	〃	〃

足利織物同業組合

南野工業株式會社		
天田佐助	〃	
川瀨久治良	〃	
山二商店	〃	
殿岡利助	〃	
柴山五郎	〃	
水川信吉	〃	
相澤靜	〃	
曾雌佐傳治	〃	
鈴木榮	〃	
鈴木島吉	〃	
阿久津金太郎	〃	
小島一晃	〃	
篠發三郎	〃	
根本試一郎	〃	
江田庄太郎	〃	
押山留四郎	〃	
石塚庄藏	〃	
清水友次郎	〃	
權田朝次	〃	
堀越勝次郎	〃	